

き　ど　い　ない  
**木戸井内IV遺跡**

－宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書－

2006.3

岩手県宮古市教育委員会



き ど い な  
**木戸井内IV遺跡**

－宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書－

2006.3

岩手県宮古市教育委員会



## 序 文

今回発掘調査が行われた場所には公共火葬場の建設が予定されております。木戸井内は小山田と松山の間にあって、閉伊川から八木沢、松山へ抜ける道の分岐点でもあります。今回の調査では、比較的新しい炭窯跡、江戸時代の建物跡や墓所、古代の住居跡や畠の跡、さらには縄文時代の住居跡まで見つかりました。このことから炭焼きが盛んに行われていた比較的記憶に新しい事実が確認されたばかりではなく、縄文時代の頃から単なる通り道としてだけでなく、棲家として生活を営む場所として利用されてきたことが明らかになりました。これらの貴重な資料が宮古の海と山の生活を探る上で充分に活用されることを願っております。

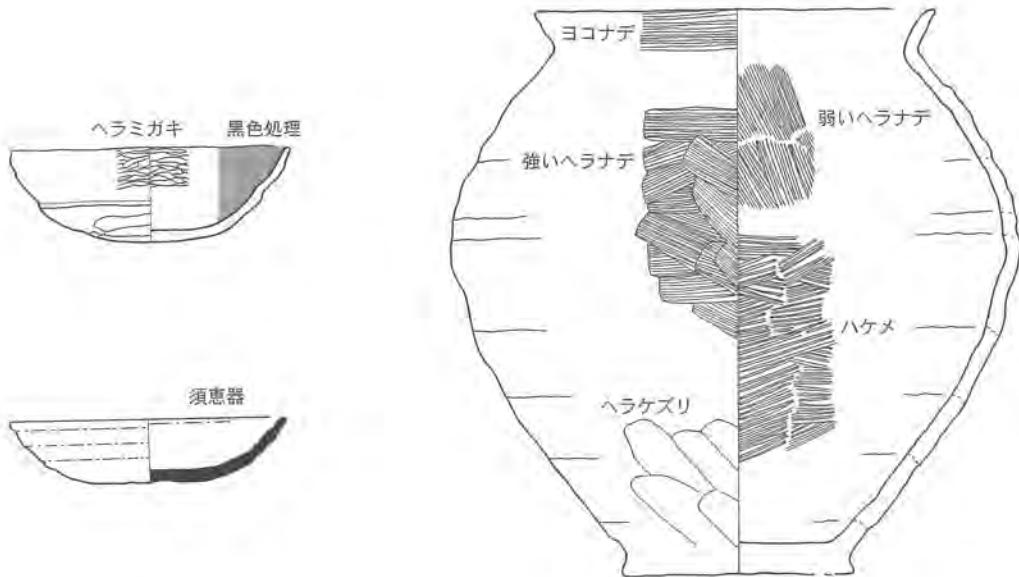
野外での調査、室内での整理など本書の刊行にいたるまで多くの方々からご協力を頂きました。深く感謝申し上げ序文といたします。

平成18年3月

宮古市教育委員会  
教育長 中屋定基

## 例　　言

1. 本報告書は、宮古市環境生活課の市営火葬場整備事業に伴って行った埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 調査の主体は宮古市教育委員会である。試掘調査は加納、工藤（平成12年退職）が担当し、本調査は加納、安原、阿部が担当した。本書の編集、執筆は阿部、安原が担当し、他の職員がこれを補佐した。
3. 遺構の平面位置は、平面直角座標第X系を座標変換したものを使用した。  
原点の座標は下記のとおりである。  
X -41545.000　Y 94250.000
4. 高さは標高値をそのまま使用した。
5. 遺物の表現については下記のとおりとした。



6. 土層観察に際しては、「新版標準土色帖」(1967、小山正忠、竹原秀雄)を参考とした。
7. 出土した遺物、実測図、写真など調査に關わる資料は、宮古市教育委員会が一括して保管している。

## 目 次

序文	
例言	
目次	
1 調査経過	1
1-1 調査に至る経過	1
1-2 調査体制	1
2 遺跡の立地環境	2
2-1 宮古市の地形	2
2-2 遺跡の位置と周辺の遺跡	2
3 調査結果	9
3-1 I 区	9
3-2 II 区	31
3-3 III 区	76
4 木戸井内、遺跡の自然科学分析	115
5 調査のまとめ	131
報告書抄録	152

## 図版目次

第1図	位置図	3
第2図	地形分類図	4
第3図	遺跡の周辺の地形	5
第4図	調査区と周辺の地形	6
第5図	調査区と遺構の配置	7
第6図	I区遺構配置とA区基本層序	8
第7図	1~4号墓坑跡	11
第8図	2~4号墓坑跡	12
第9図	1号墓坑跡出土遺物	13
第10図	墓石1	14
第11図	墓石2	15
第12図	2、4号墓坑出土遺物	16
第13図	3号墓坑出土遺物	17
第14図	5号建物跡	18
第15図	5号掘建柱建物跡(1)	19
第16図	5号掘建柱建物跡(2)	21
第17図	5号建物跡出土遺物	22
第18図	5号建物床面礫の集りと焼土	23
第19図	8号炭窯跡	23
第20図	6号竪穴跡	24
第21図	7号竪穴住居跡	26
第22図	7号竪穴住居カマド	27
第23図	7号住居跡出土遺物	28
第24図	I B区基本層序	29
第25図	I B区遺構配置	30
第26図	II区基本層序(1)	32
第27図	II区遺構配置	33
第28図	II区基本層序(2)	35
第29図	15号竪穴住居跡	37
第30図	16号竪穴住居跡	38
第31図	16号竪穴住居跡カマド	39
第32図	16号住居跡出土遺物	39
第33図	17号竪穴跡	41
第34図	17号竪穴炉I、II	42
第35図	17号竪穴跡出土遺物(1)	43
第36図	17号竪穴跡出土遺物(2)	44
第37図	18号竪穴住居跡	45
第38図	18号竪穴住居跡カマド	46
第39図	18号竪穴住居跡出土遺物(1)	47
第40図	18号竪穴住居跡出土遺物(2)	48
第41図	21号竪穴住居跡	50
第42図	21号住居跡カマド	51
第43図	21号住居跡出土遺物	51
第44図	31、32号畝跡	53
第45図	31号畝跡出土遺物	55
第46図	33号炭窯跡	57
第47図	34号炭窯跡	58
第48図	19、20、22号土坑跡	60
第49図	19号土坑出土遺物(1)	61
第50図	19号土坑出土遺物(2)	62
第51図	19号土坑出土遺物(3)	63
第52図	尾根斜面遺構群	64
第53図	25号溝跡	65

第 54 図	A 区遺構外出土遺物	68
第 55 図	C 区遺構外出土遺物 (1)	69
第 56 図	C 区遺構外出土遺物 (2)	70
第 57 図	C 区遺構外出土遺物 (3)	71
第 58 図	E 区遺構外出土遺物 (1)	72
第 59 図	E 区遺構外出土遺物 (2)	73
第 60 図	G 区遺構外出土遺物	74
第 61 図	B、D、F 区遺構外出土遺物	75
第 62 図	III 区遺構配置図	77
第 63 図	III 区基本層序	77
第 64 図	35号竪穴住居跡	79
第 65 図	35号竪穴住居跡出土遺物 (1)	80
第 66 図	35号竪穴住居跡焼土	81
第 67 図	35号竪穴住居跡出土遺物 (2)	81
第 68 図	38号竪穴住居跡 (1)	83
第 69 図	38号竪穴住居跡 (2)	84
第 70 図	38号竪穴住居出土遺物 (1)	85
第 71 図	38号竪穴住居出土遺物 (2)	86
第 72 図	36号竪穴住居跡	87
第 73 図	151、161、240号土坑跡 (1)	88
第 74 図	151、161、240号土坑跡 (2)	89
第 75 図	151、161、240号土坑出土遺物	90
第 76 図	39号陥穴 (1)	91
第 77 図	39号陥穴 (2)	92
第 78 図	101号土坑、106号掘建柱建物跡 (1)	93
第 79 図	101号土坑、106号掘建柱建物跡 (2)	94
第 80 図	106号掘建柱建物出土遺物	95
第 81 図	160号焼土、168号掘建柱建物跡 (1)	96
第 82 図	160号焼土遺構	96
第 83 図	160号焼土、168号掘建柱建物跡 (2)	97
第 84 図	103号土坑、241号溝、242号土坑跡 (1)	98
第 85 図	103号土坑、241号溝、242号土坑跡 (2)	99
第 86 図	103号土坑出土遺物	100
第 87 図	104号土坑跡 (1)	100
第 88 図	104号土坑跡 (2)	101
第 89 図	104号土坑跡出土遺物	101
第 90 図	105号溝跡	102
第 91 図	105号溝跡出土遺物	103
第 92 図	108号掘建柱建物跡 (1)	104
第 93 図	108号掘建柱建物跡 (1)	105
第 94 図	108号掘建柱建物跡出土遺物	105
第 95 図	102、100号土坑跡	106
第 96 図	37号溝跡出土遺物	110
第 97 図	37号溝跡	111
第 98 図	遺構外出土遺物 (1)	112
第 99 図	遺構外出土遺物 (2)	113
第100図	遺構外出土遺物 (3)	114
第101図	縄文時代の遺構	131
第102図	陥穴跡	131
第103図	古代の遺構	132
第104図	錫杖状鉄製品など	133
第105図	近世の遺構	134
第106図	近現代と時代不明の遺構	135

## 写 真 図 版 目 次

写真図版 1	調査区遠景	139
写真図版 2	7号竪穴住居跡、6号竪穴跡、1～3号墓坑跡	140
写真図版 3	5号掘建柱建物跡、8号炭窯跡、I B区全景	141
写真図版 4	15、16、21号住居跡、17号竪穴跡	142
写真図版 5	31、32号竪穴跡、33、34号炭窯跡、19号土坑跡、22号竪穴跡	143
写真図版 6	III区全景、35、35、36号竪穴跡、39号陥穴跡	144
写真図版 7	106号掘建柱建物跡、241号溝跡	145
写真図版 8	出土遺物（1）	146
写真図版 9	出土遺物（2）	147
写真図版 10	出土遺物（3）	148
写真図版 11	出土遺物（4）	149
写真図版 12	出土遺物（5）	150
写真図版 13	出土遺物（6）	151

## 1. 調査経過

### 1-1 調査に至る計画

平成10年5月宮古市環境保全課(当時)から市営火葬場建設予定地についての照会があり、宮古市教育委員会では現地に一部の踏査を行い試掘調査が必要である旨を回答した。平成10年7月に現地踏査の依頼を受けて、教育委員会では全面的な現地踏査を行い、試掘計画案を環境保全課に提示した。試掘調査は平成11年9月から10月にかけて行われた。試掘調査の結果、本調査が必要であることが判明し、本調査計画案を提示した。本調査へむけての協議を経て、本調査は平成12年4月から同年12月まで行われた。本調査では、試掘調査で予想した遺構数を大幅に超える遺構が検出し、年度内に調査が終了できなくなり、協議の結果調査の延長を決定した。平成12年9月に建設予定地が変更になり、平成13年度の調査は建設予定地内の遺構を対象として行うことになった。その際北側尾根の法面の位置がまだ決まっていなかったので後の協議の対象とした。平成13年度の調査は平成13年4月から7月まで行われた。平成15年の協議で北側尾根の法面の位置が遺構にかかることが判明した。平成16年4月から5月にかけての調査は北側の尾根を対象として行ったものである。

### 1-2 調査体制

宮古市は平成17年6月に田老町、新里村と合併し、その際文化係は生涯学習課から独立し文化課となった。職名は合併後のものである。

調査主体 宮古市教育委員会 教育長 中屋定基

調査総括

中洞 惣一 宮古市教育委員会生涯学習課長(平成10年度)  
沼崎 幸夫 (平成11年~平成12年度)  
伊藤 賢一 宮古市教育委員会生涯学習課長(平成13年~平成15年度)  
佐々木 剛 " (平成16年度~平成17年6月)  
関沢 敏 " 文化課長 (平成17年6月~)

事務担当

瀬川 康平 宮古市教育委員会生涯学習課課長補佐(~平成13年度)  
小本 完 " (平成14年度)  
佐藤慎一郎 " 文化課課長補佐兼文化係長  
竹下 将男 " 文化課文化財係長  
高橋憲太郎 " 文化課主査  
鎌田 祐二 " 文化課主任文化財調査員  
加納 由美 " "  
安原 誠 " "  
長谷川 真 " 文化課文化財調査員  
阿部 豊 " 文化課埋蔵文化財発掘調査員(主担当)  
江口 邦泰 " "  
工藤 剛司 " (H12退職)

調査の実施にあたり下記の方々から協力頂きました。記して感謝申し上げます。

在原正利、臼木狗、大沢裕明、小成裕信、佐々木力、島田義道、鈴木正広、鳥居義文、館崎禮子、中居磯雄、堀子勝雄、前川友宏、高橋とも子、川目嘉郎、佐々木英生、鈴木祥一、中澤ヒテ、西村敏光、山内勝雄、遠洞専藏、阿部登、大下義文、福士祐二、中嶋正裕、中村明子

## 2. 遺跡の立地環境

### 2-1 宮古市の地形

宮古市は、岩手県沿岸部のほぼ中央に位置する人口6万3千人ほどの町である。海岸線は宮古市を境にその景観を大きく異にし、すなわち北部海岸線は海岸段丘が続く隆起性海岸で断崖絶壁をなして海へ落ち込むのに対し、南部は沈降性の典型的なリアス式海岸の複雑に入り組んだ海岸線を形成し、貝塚などが多いことでも名高い。

市域は、696km<sup>2</sup>を有し、その大部分は中小起伏の山地帯が占める。宮古湾最深部に河口をもつ津軽石川より宮古湾西岸沿いに、北北東から南南西にのびる津軽石断層帯がある。その断層帯を境に西部の大起伏山地から続く中小起伏の山地帯およびその周辺部に形成された丘陵帯と東部の重茂半島と大きく二分される。さらに、西から東へ流れる閉伊川、北流する津軽石川およびその支流により開析されてできた谷底平野や河岸段丘、両河川の河口付近を中心とした沖積平野がわずかな平地を形成している。西部の大起伏山地は東部海岸線へむかって次第に標高を下げ、中小起伏産地となり、さらに標高100m前後の丘陵へと続く。

丘陵は、海岸線沿いには北部に小本丘陵、重茂半島に鰯ヶ崎丘陵、河川沿いには閉伊川河岸に千徳丘陵、八木沢川河岸に八木沢丘陵、津軽石川河岸に豊間根丘陵がそれぞれ形成されている。

### 2-2 遺跡の位置と周辺の遺跡

宮古市を東西に流れる閉伊川の南には八木沢丘陵、その背後に花輪山地が続き、いずれも遺跡が多く分布する地域である。木戸井内IV遺跡は、長沢川と閉伊川の合流するあたりから沢沿いに間道を南に1.2kmほど入った所に位置する。いくつかの沢が合流する水の豊富な所でもあり、松山、八木沢方面に至る間道の分岐点でもある。遺跡は沢を望む尾根と洞地の緩斜面上に展開している。

周辺の遺跡は、西には、閉伊川と長沢川の合流地点を望む松山館、沢を挟んで隣接する隠里遺跡群が並ぶ。隠里遺跡群は、縄文時代の遺物、土師器、須恵器などの古代の遺物のほかに羽口、鉄滓など製鉄関連の遺物も注目されている。また奈良、平安時代の遺跡の濃く分布する地域としても知られている。南には八木沢古館を中心とする八木沢地区北部の遺跡群が分布する。東には閉伊川を臨む小山田館をはじめ数箇所の遺跡が確認されている。

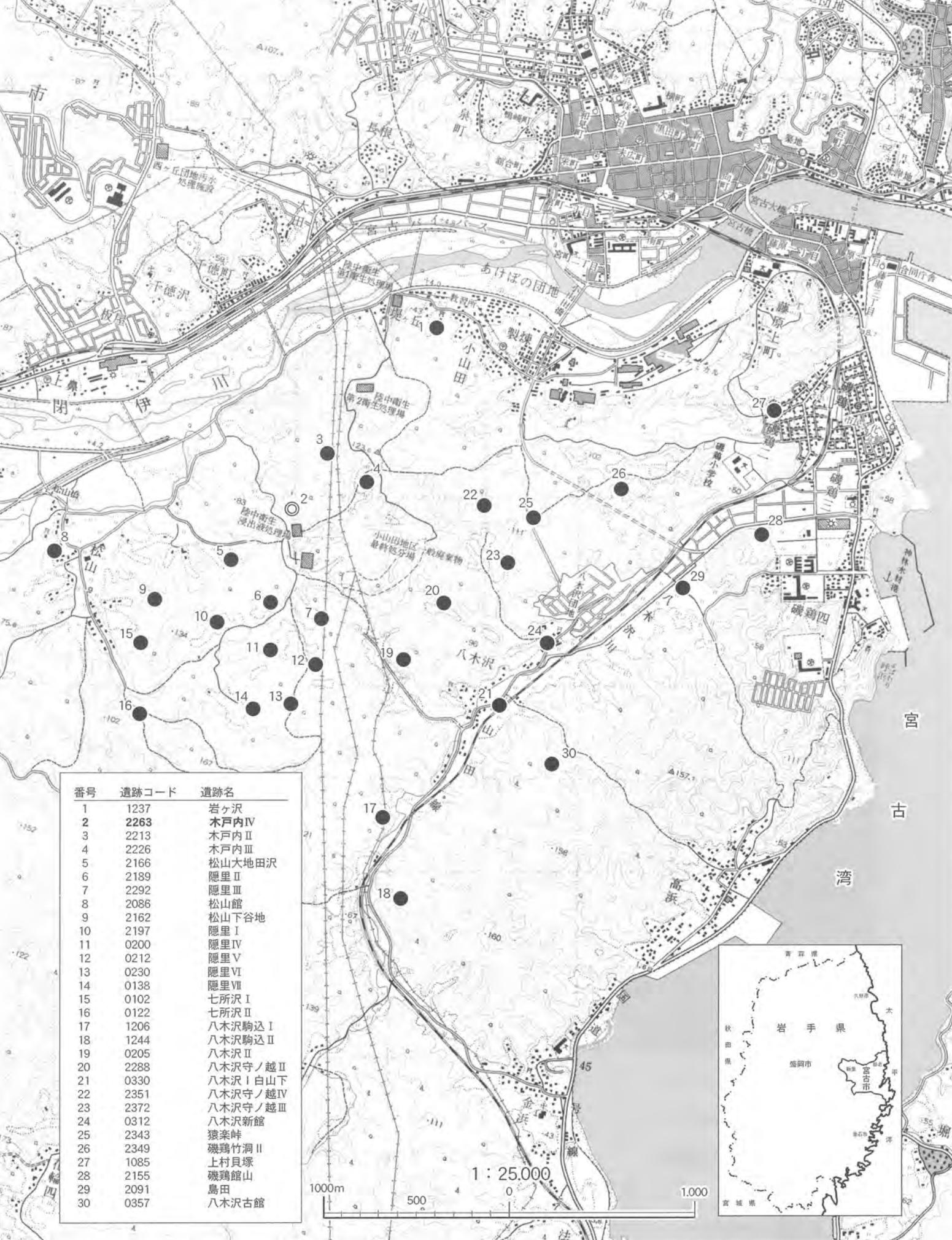
遺跡は縄文時代から古代にわたり、多量の遺物が見つかっている。

最近の調査例では、木戸井内II、III遺跡で古代のものと思われる木炭窯が出土している。

「宮古市遺跡分布調査報告書2」1984

「宮古市遺跡分布調査報告書4」1986

「木戸井内II遺跡・木戸井内III遺跡・上村III遺跡」2000



第1図 位置図



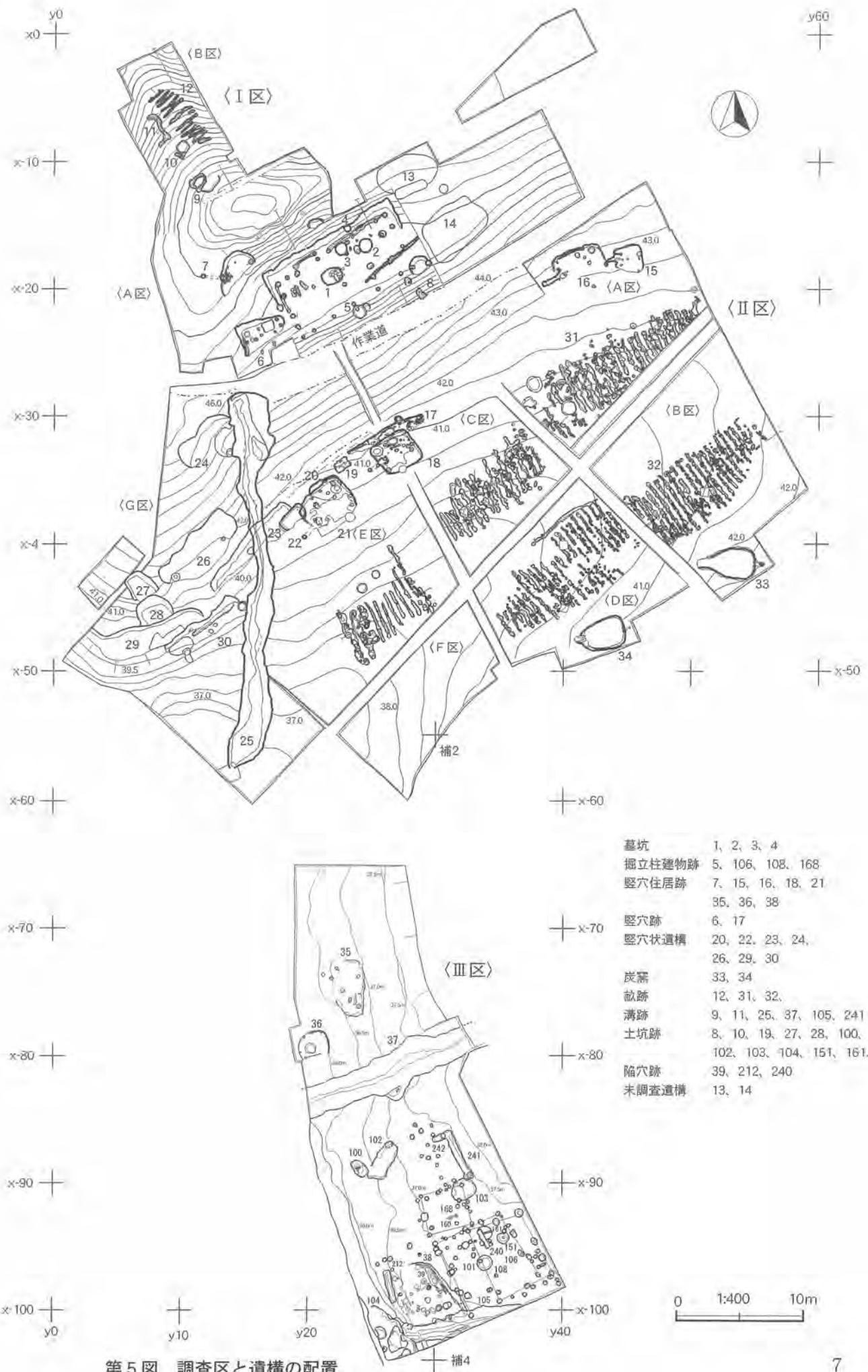
第2図 地形分類図



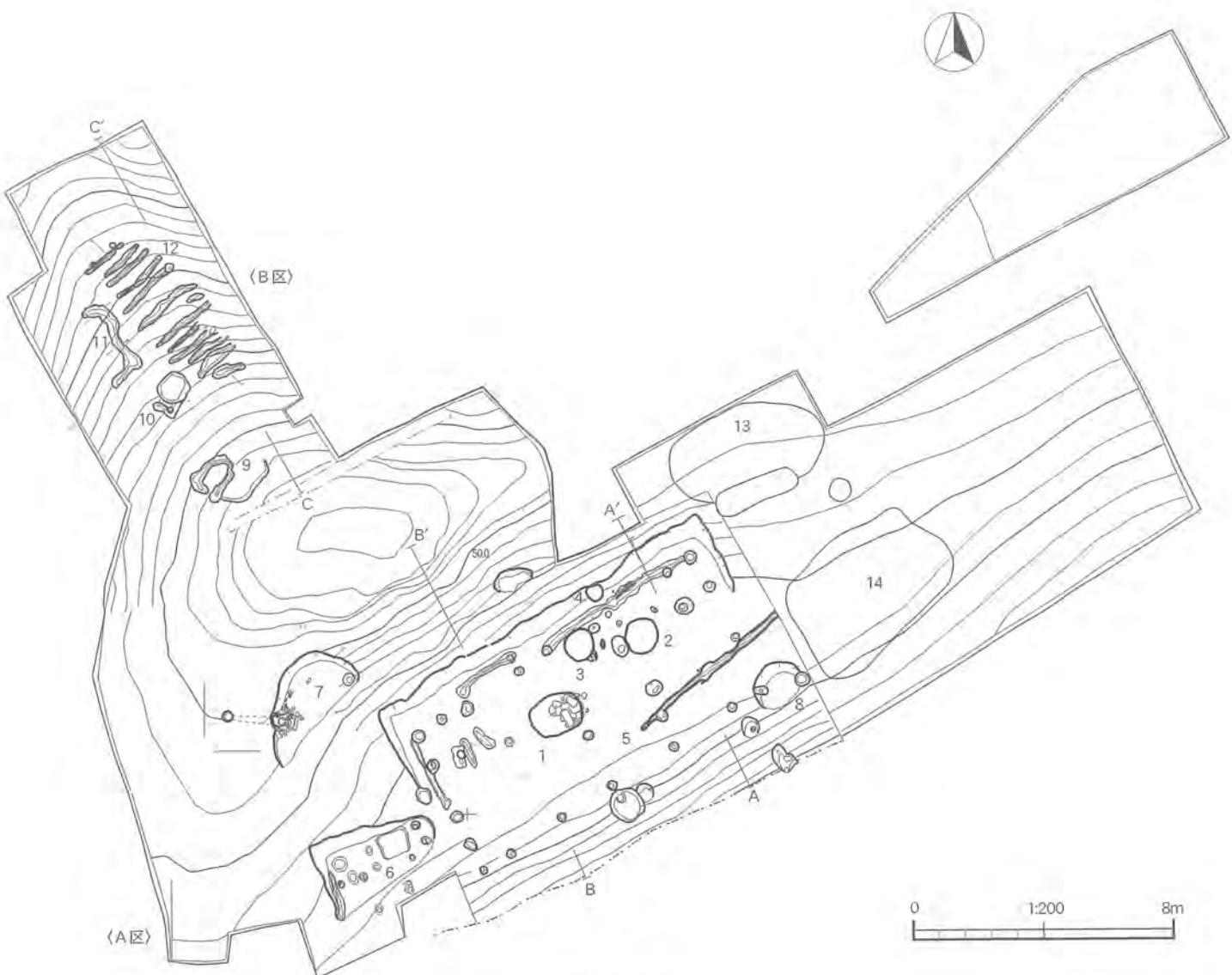
第3図 遺跡の周辺の地形



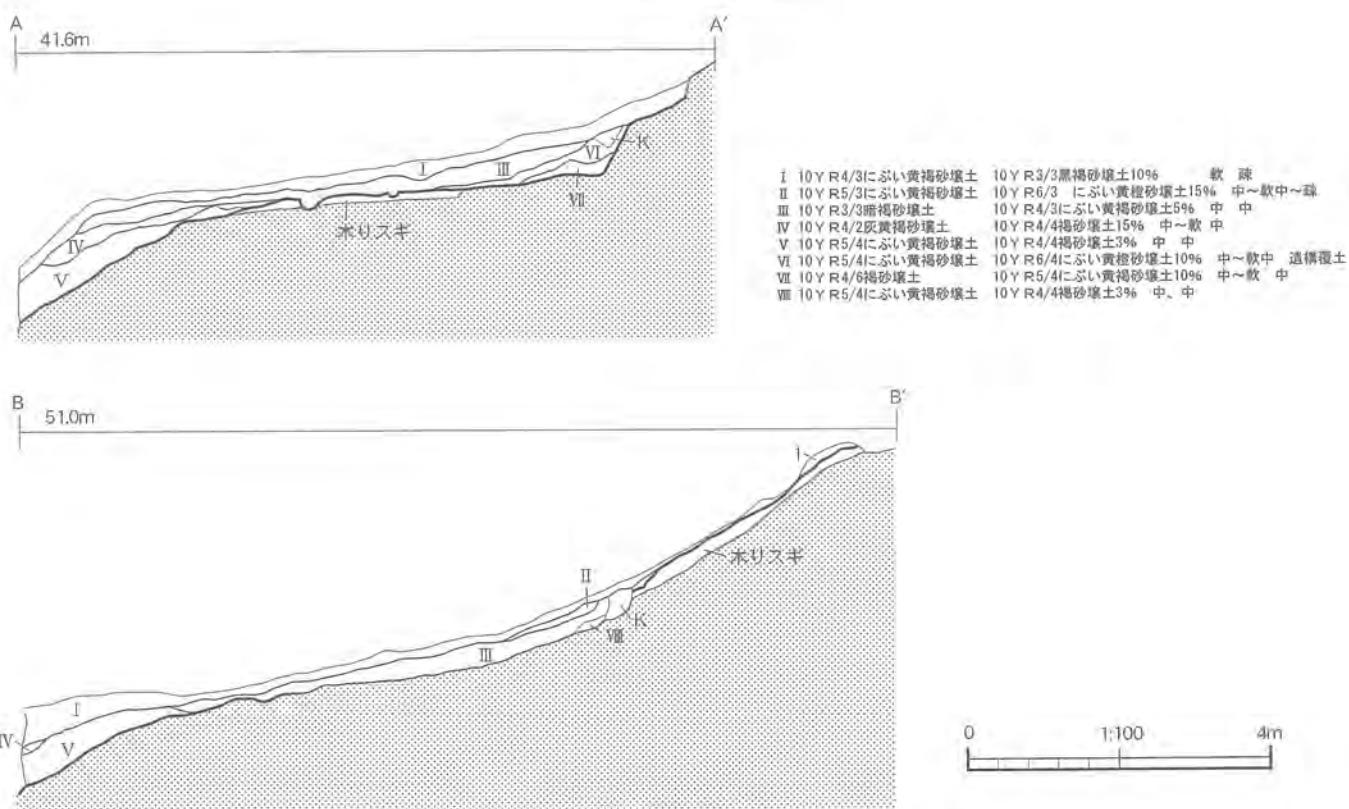
第4図 調査区と周辺の地形



第5図 調査区と遺構の配置



I区遺構配置図



第6図 I区遺構の配置とA区基本層序

### 3. 調査結果

調査地点は、閉伊川から沢沿いに間道を南に1.2kmほど入ったところにあり、八木沢、松山に通ずる道の分岐点にあたる。調査区の地形は、西に延びる二つの尾根とその尾根の間の洞地から形成される。

調査は、北側の尾根をⅠ区、洞をⅡ区、南側の尾根の先端部をⅢ区とし、さらにⅠ区をA、Bの2区、Ⅱ区をA～Gの7区に分けて行った。区域ごとに調査結果を記述していく。

#### 3-1 Ⅰ区（第6図）

A区とした尾根の鞍部の南斜面では竪穴住居跡、南側の削平地で墓坑跡掘立柱建物跡、土坑跡、溝跡などが検出している。〈B区〉とした北側斜面では畝跡、溝跡、土坑跡を検出している。

#### A区基本層序

尾根鞍部南側に堆積する。

I層 表土。軟質な暗褐色土である。

II層 西側に堆積する黄褐色土である。墓坑を掘る際に廃棄されたものと考えられる。

III層 上面から墓坑が掘り込まれており、墓所を構築した時期の生活面である。黄褐色土の混じる暗褐色土である。

IV層 南端部に堆積する盛土層である。黄褐色土である。

V層 4層と同じく南端部に堆積する盛土層である。黄褐色土の混じる黒褐色土である。

VI層 遺構の覆土である。真砂土の混じる黄褐色土である。

VII層 遺構の覆土である。細かい砂礫の混じる褐色土である。

VIII層 遺構の覆土である。褐色土の混じるにぶい黄褐色土である。

#### 墓坑跡

尾根南側の平坦面を利用して作られた墓地である。この平坦面は、後述する5号建物跡を建てる際に築かれた削平地が埋まってできたものである。4基の墓坑が検出した。

##### 1号墓坑跡（第7図写真第2図版）

西側の墓坑である。2基の墓石を伴う。検出面はⅢ層上面である。

平面形は隅丸の方形に近い。規模は1.6m×1.2m、深さは1.2mである。

人骨の残存状況はよくない。床面東側で頭骨が俯したかたちで出土し、西側で大腿骨を検出した。性別、年齢は不明である。遺物は、煙管、和銃、錢貨などの副葬品は検出したが、釘、木片などは出土していない。

##### 出土遺物（第9～11図）

1は煙管である。火皿はやや大きめで、脂返しは直線的である。

2は板状の鉄製品である。「く」の字に折れ、明瞭な折目をもつ。3号墓坑でも同様の製品が出土しており、柄の当金に使用されたものと思われる。3は鉄製品で、和銃である。長さ15cm、幅3cmである。

4～6は錢貨である。4、5は寛永通宝である。4は古寛永、5は新寛永である。6は錢銘は不明である。

7、8は墓石に伴って出土した石器である。いずれも砥石である。

9、10は墓石である。墓石は並んだ状態で出土し、台石を伴う。墓石には蓮華座の上に年号、戒名、月日が彫られている。年号はいずれも正徳五年（1715年）、月日も九月十五日であり、同年同日である。

時期は、墓石、副葬品などから18世紀後半に伴う。

#### 2号墓坑跡（第7、8図写真第2図版）

東側の墓坑である。検出面はⅢ層上面である。

平面形は円形である。規模は径1.0m、深さ1.0mである。

人骨は直立した大腿骨と脛骨の間に頭骨が挟まれるような形で出土している。性別は女性で、年齢は40-59歳との分析結果を得ている（巻末「自然科学分析」参照）。

和鉄、銭貨などの副葬品、棺桶の底板と思われる木片を伴う。

#### 出土遺物（第12図）

1は鉄製品の和鉄である。幅は18cm、残存部の長さは16cmである。

2~5は銭貨である。銭銘はいずれも寛永通宝である。2~4は古寛永、5は新寛永である。

時期は、古寛永、新寛永が混在していることから17世紀末以降に伴う。

#### 3号墓坑跡（第7、8図写真第2図版）

中央の墓坑である。検出面はⅢ層上面である。規模は径1.0m、深さ85cmである。

人骨は直立した大腿骨と脛骨の間に頭骨が挟まれるような形で出土している。性別は女性、年齢は20-39歳との分析結果を得ている（巻末「自然科学分析」参照）。

煙管、鉄製品、銭貨などの副葬品は出土したが、釘、木片などは検出していない。

#### 出土遺物（第13図）

1は煙管である。火皿は大きめで、補強帯がめぐる。脂返しの湾曲は少ない。

2は縫針である。長さ7cm、太さ2mmである。3は刃物の柄と思われる。中心部にやや厚い板状の鉄、両側を「く」の字に曲げられた鉄の板と板が囲み、それを細い竹の帯で締付けている。4は1号墓坑で出土した鉄製品と同様の「く」の字に曲げられた板状の製品である。前述した3の柄の当金と使用されたものと推定される。

5~9は銅銭である。5は「永楽通宝」である。6~9は「寛永通宝」である。6は古寛永、7~9は新寛永である。

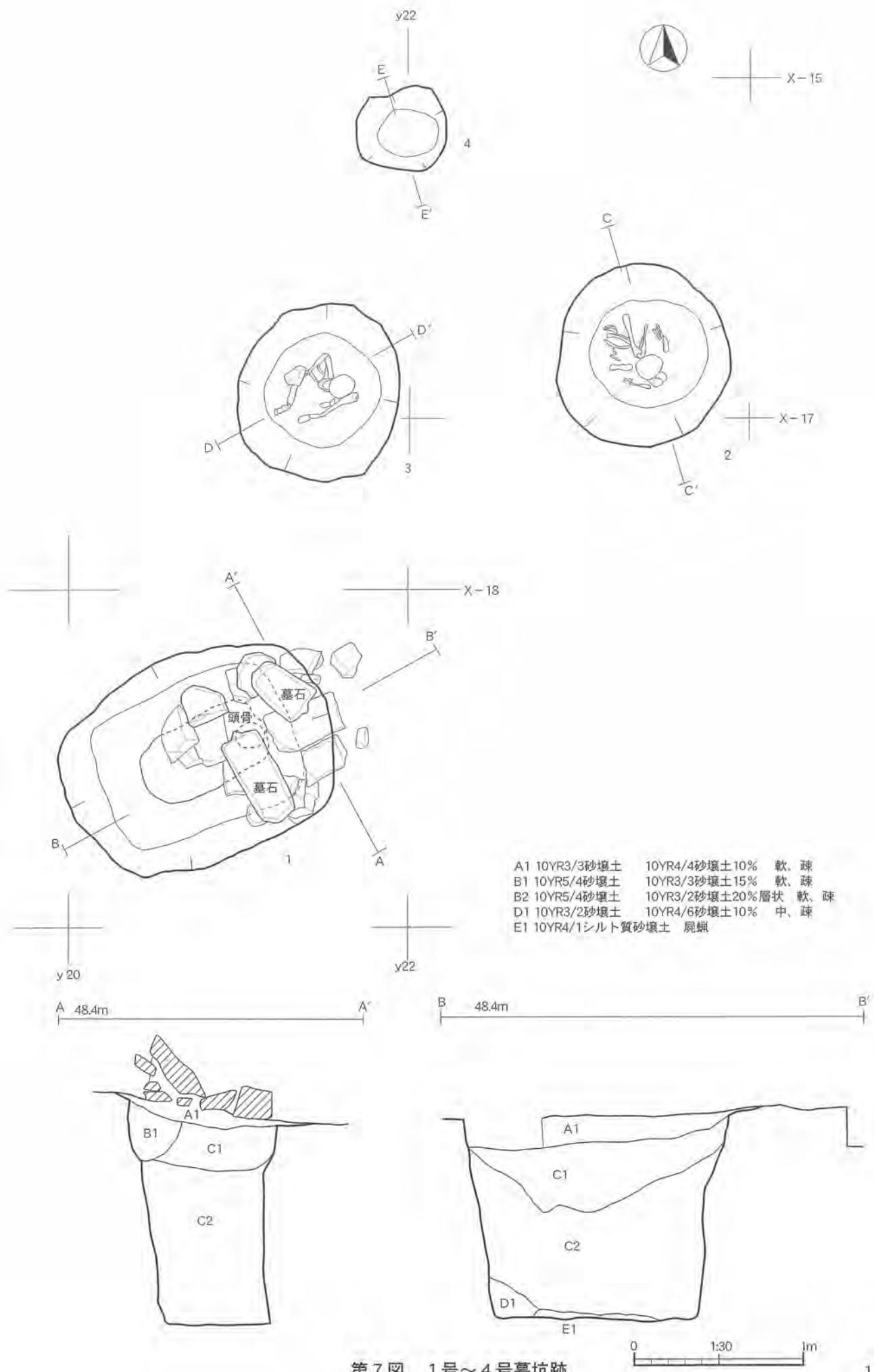
時期は、煙管、古寛永と新寛永が混在していることなどから17世紀末以降に伴う。

#### 4号墓坑跡（第7、8図）

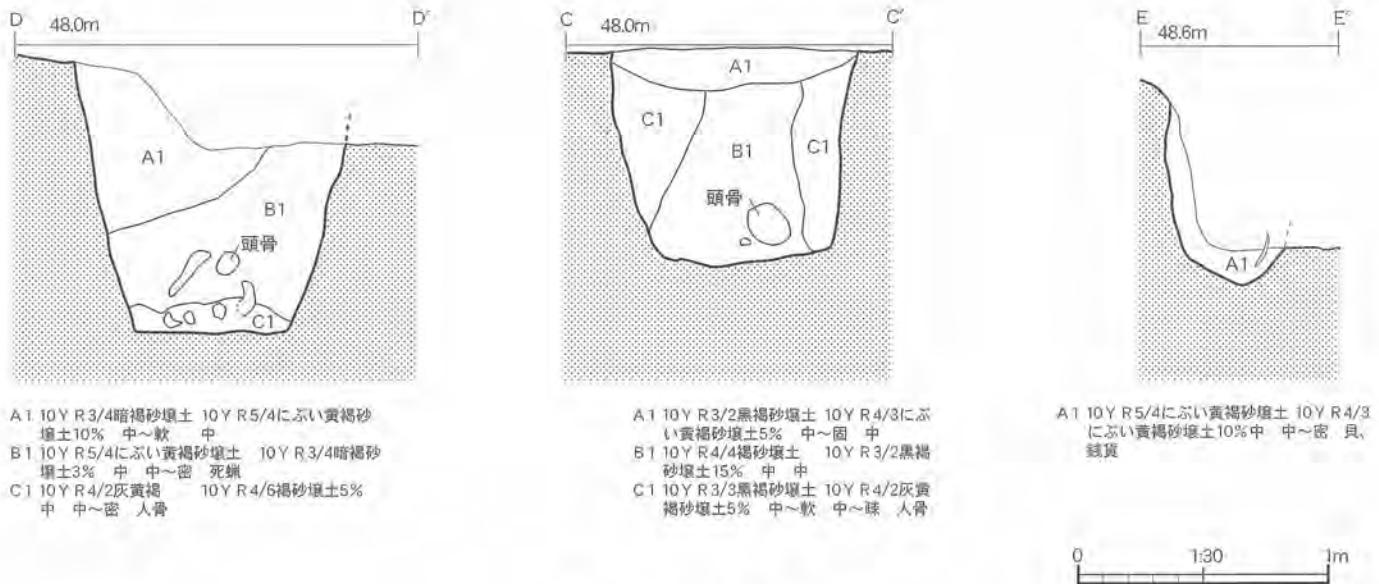
北側の小規模な土坑である。検出面はc1層上面である。

平面形は円形である。規模は、径50cm、深さ約70cmである。

銭貨と帆立貝（写真第9図版）が出土している。



第7図 1号～4号墓坑跡



第8図 2～4号墓坑跡

### 出土遺物 (第12図)

1～3は銅錢である。1は古寛永、2、3は新寛永である。

遺物から墓坑と判断した。小規模な土坑であり、埋葬の対象として小動物などが考えられるが、骨などの遺存体は検出していない。

時期は、古寛永、新寛永が混在していることなどから、17世紀末以降に伴う。

図no	造構	層位	器種	雁首			吸口		備考
				長さ(cm)	火皿径(mm)	肩部径(mm)	長さ(cm)	肩部径(mm)	
図9-1	1号墓坑	E1層	煙管	5.2	18.0	9.0	5.0	9.0	

図no	造構	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(mm)	備考		
							幅(cm)	厚さ(mm)	備考
図9-2	1号墓坑	E1層	板状銅製品	10.5	1.9	1.0	明瞭な折目をもつ		

図no	造構	層位	器種	長さ(cm)	振り幅(cm)	刃部幅(cm)	厚さ(mm)	備考		
								振り幅(cm)	刃部幅(cm)	厚さ(mm)
図9-3	1号墓坑	E1層	和銛	14.8	2.4	2.9	4.0			

図no	造構	層位	銭銘		外径(mm)	穿孔(mm)	外輪厚(mm)	外輪幅(mm)	重量(g)	初鑄年代	備考
			面	背							
図9-4	1号墓坑	E1層	寛永通宝	無背	24.0×23.6	5.2×5.7	1.3	18.8×19.3	3.7	1636	古寛永
図9-5	1号墓坑	E1層	寛永通宝	無背	24.8×24.5	5.7×5.7	1.3	19.5×19.2	3.5	1697	新寛永
図9-6	1号墓坑	E1層	不明	無背	24.3×24.2	6.5×6.1	1.4	—	3.7		

図no	造構	層位	器種	長さ(cm)	振り幅(cm)	刃部幅(cm)	厚さ(mm)	備考		
								長さ(cm)	振り幅(cm)	刃部幅(cm)
図12-1	1号墓坑	E1層	和銛	11.0	2.4	—	4~5			

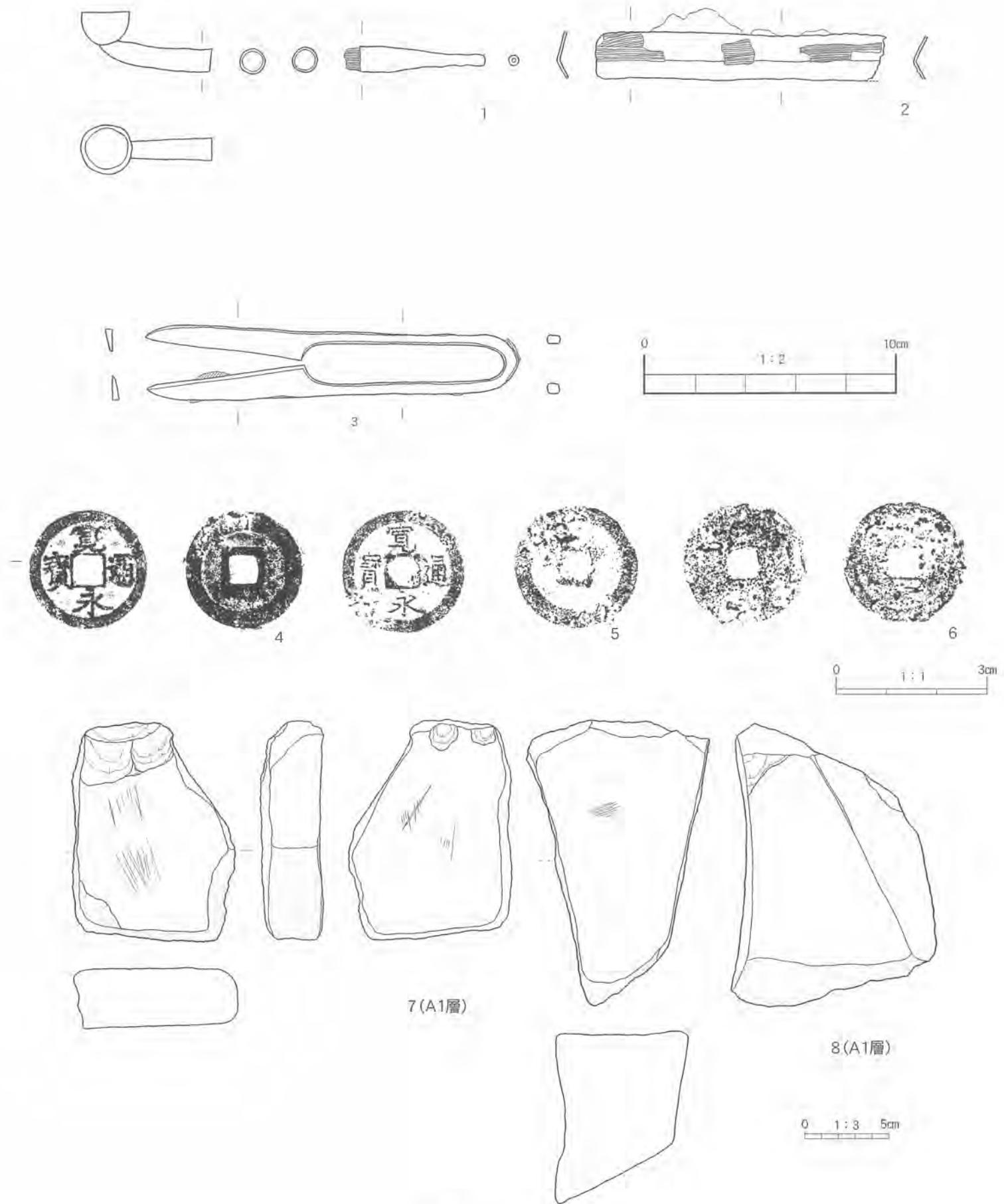
図no	造構	層位	銭銘		外径(mm)	穿孔(mm)	外輪厚(mm)	外輪幅(mm)	重量(g)	初鑄年代	備考
			面	背							
図12-2	2号墓坑	B1層	寛永通宝	無背	24.6	5.6×6.1	1.1	19.9×19.2	2.5	1636	古寛永
図12-3	2号墓坑	C1層	寛永通宝	無背	25.3×25.2	5.8×6.0	1.5	19.9	3.1	1636	古寛永
図12-4	2号墓坑	C1層	寛永通宝	無背	24.5	5.8	1.5	20.0×20.4	2.7	1636	古寛永
図12-5	2号墓坑	C1層	寛永通宝	無背	25.0×24.6	5.8×5.5	1.4	19.2×19.1	2.4	1697	新寛永
図12-6	4号墓坑	A1層	寛永通宝	無背	25.1×25.2	5.9	1.3	19.8×20.1	3.7	1636	古寛永
図12-7	4号墓坑	A1層	寛永通宝	無背	24.8×24.7	6.5×6.4	1.1	20.3×20.6	2.8	1697	新寛永
図12-8	4号墓坑	A1層	寛永通宝	無背	24.7	6.4	1.3	20.3×20.6	2.5	1697	新寛永

図no	造構	層位	器種	雁首			吸口		備考
				長さ(cm)	火皿径(mm)	肩部径(mm)	長さ(cm)	肩部径(mm)	
図13-1	3号墓坑	B1層	煙管	6.1	17.0	10.0	4.9	10.0	

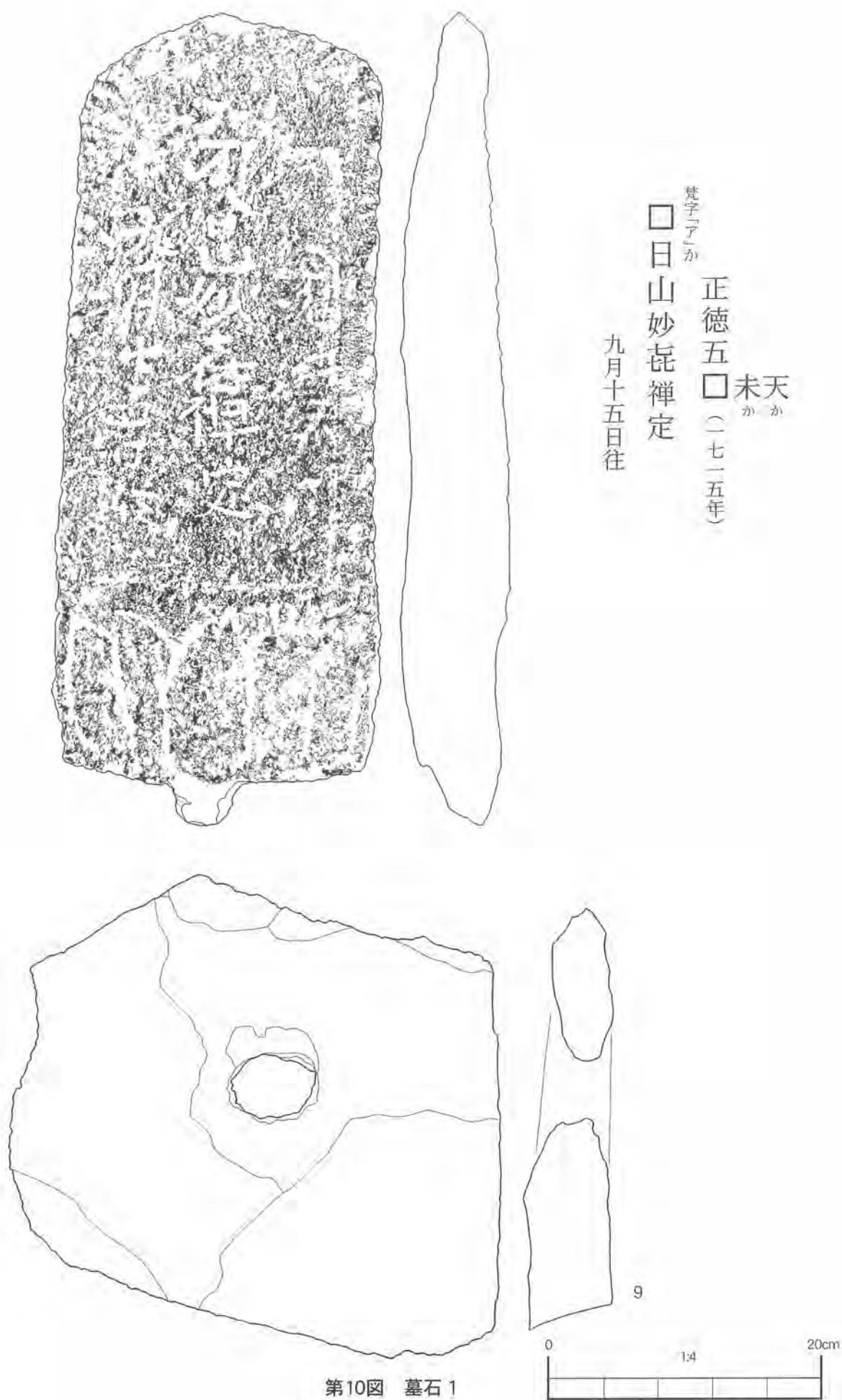
図no	造構	層位	器種	長さ(cm)	径(mm)	備考		
						径(mm)	備考	
図13-2	3号墓坑	B1層	鍔針	6.9	2.0	針穴を有す		

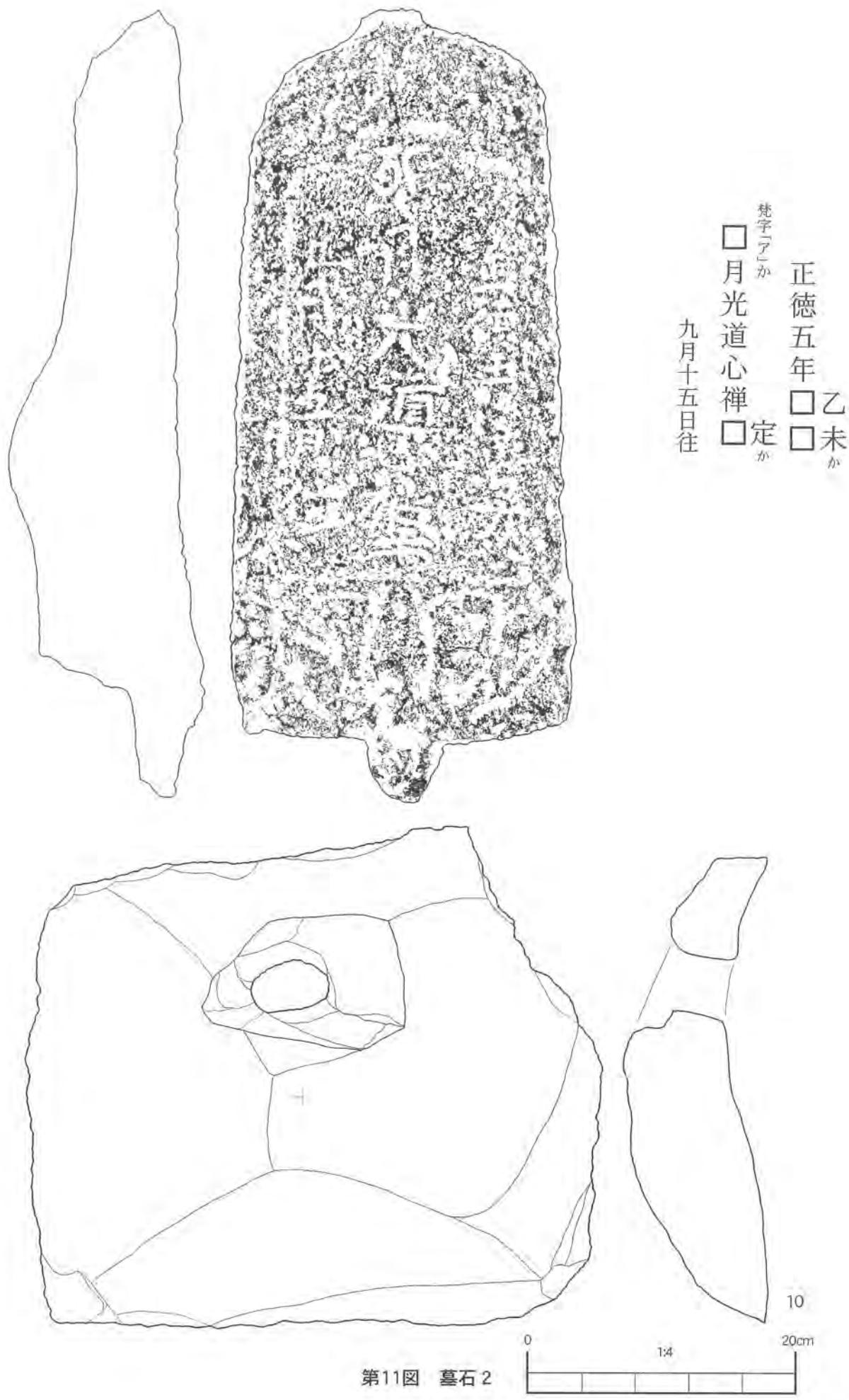
図no	造構	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(mm)	備考		
							幅(cm)	厚さ(mm)	備考
図13-3	3号墓坑	B1層	柄	7.0	1.9	9.0	薄い金具を当てる		
図13-4	3号墓坑	B1層	板状銅製品	10.0	1.8~2.4	2.0	明瞭な折目をもつ		

図no	造構	層位	銭銘		外径(mm)	穿孔(mm)	外輪厚(mm)	外輪幅(mm)	重量(g)	初鑄年代	備考
			面	背							
図13-5	3号墓坑	B1層	永樂通宝	無背	24.2×24.1	6.0×5.8	1.0	21.3	2.0	1408	明銭
図13-6	3号墓坑	B1層	寛永通宝	無背	23.7×23.8	6.3×5.5	1.0	19.5×19.8	2.9	1635	古寛永
図13-7	3号墓坑	B1層	寛永通宝	無背	24.6	6.6	1.0	20.4×20.3	2.9	1697	新寛永
図13-8	3号墓坑	B1層	寛永通宝	文	25.0	5.6	1.2	20.0×19.5	3.7	1668	文銭
図13-9	3号墓坑	B1層	寛永通宝	無背	22.3	7.0	1.0	18.6×18.2	2.2	1697	新寛永

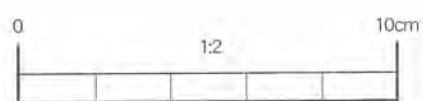
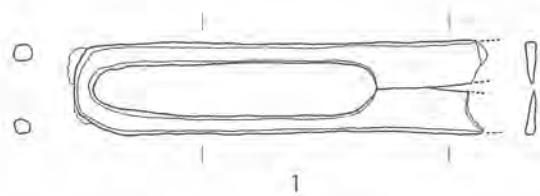


第9図 1号墓坑出土遺物





第11図 墓石 2



2

3

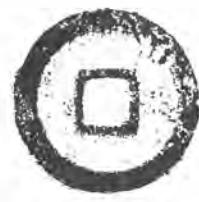
4



5



6



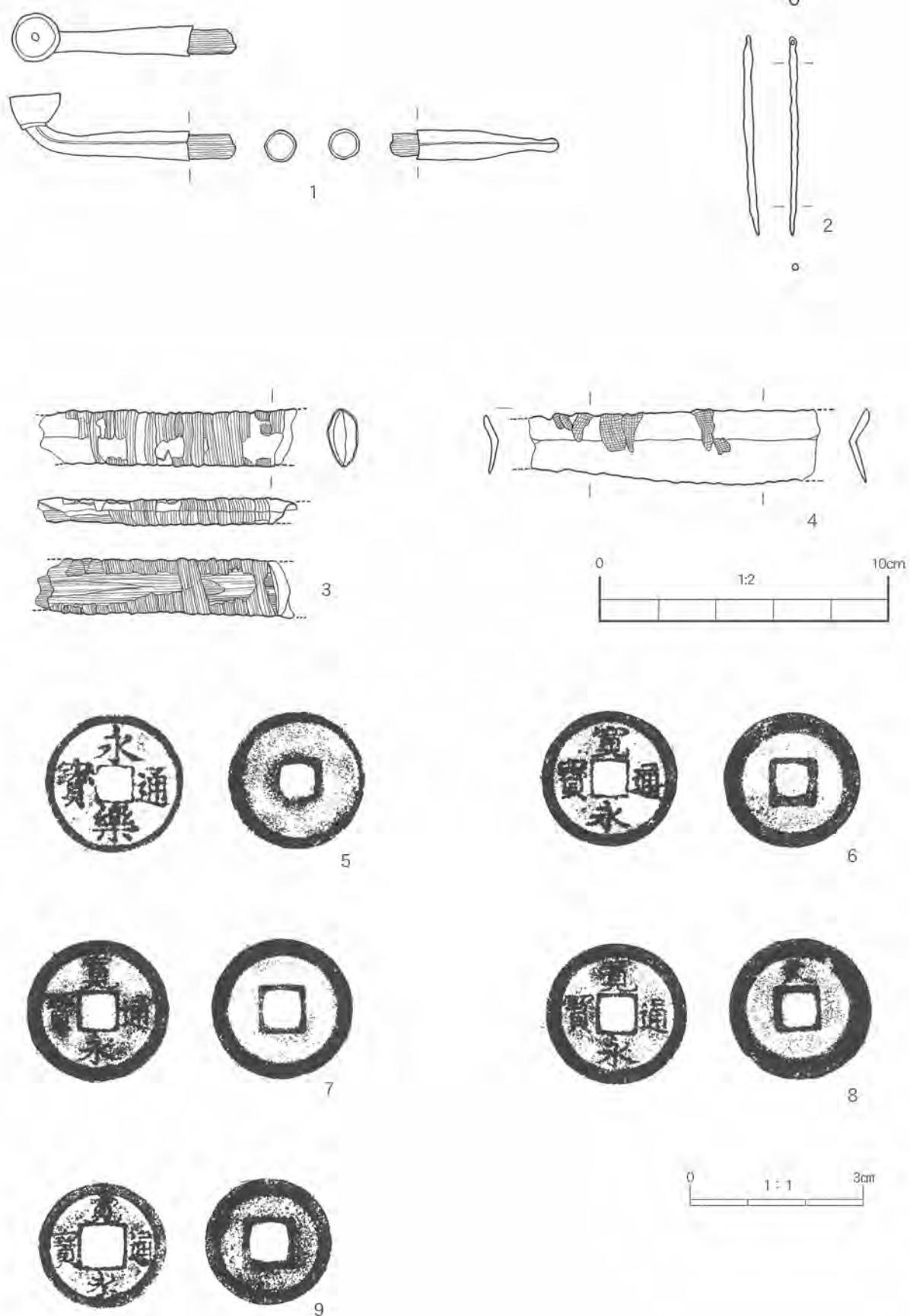
7



8



第12図 2、4号墓坑出土遺物



第13図 3号墓坑出土遺物

### 5号掘立柱建物跡（第14、15、16図写真第3図版）

尾根鞍部の中央南側の緩斜面に位置する。1~4号の墓坑群に切られている。

平面形は、桁行5間、梁行2.5間の長方形である。規模は桁行総延長10.0m、梁行総延長4.5mである。柱間寸法は、桁行は西から1.0m-1.9m-1.8m-2.2m-2.1m-0.9m、梁行は、南から1.8m-1.8m-1.0mである。桁方向は、N-57°-Eである。二間で東西と北側に半間の庇をもつ構造と思われる。

覆土は、上、中層（A1、B1）の黒褐色、灰黄褐色土が東側に偏して堆積し、中、下層（C1、F1、G1、H1）の真砂土混じりのにぶい黄褐色土、褐色土が西側の壁際に堆積しているのが特徴的である。自然堆積と思われる。

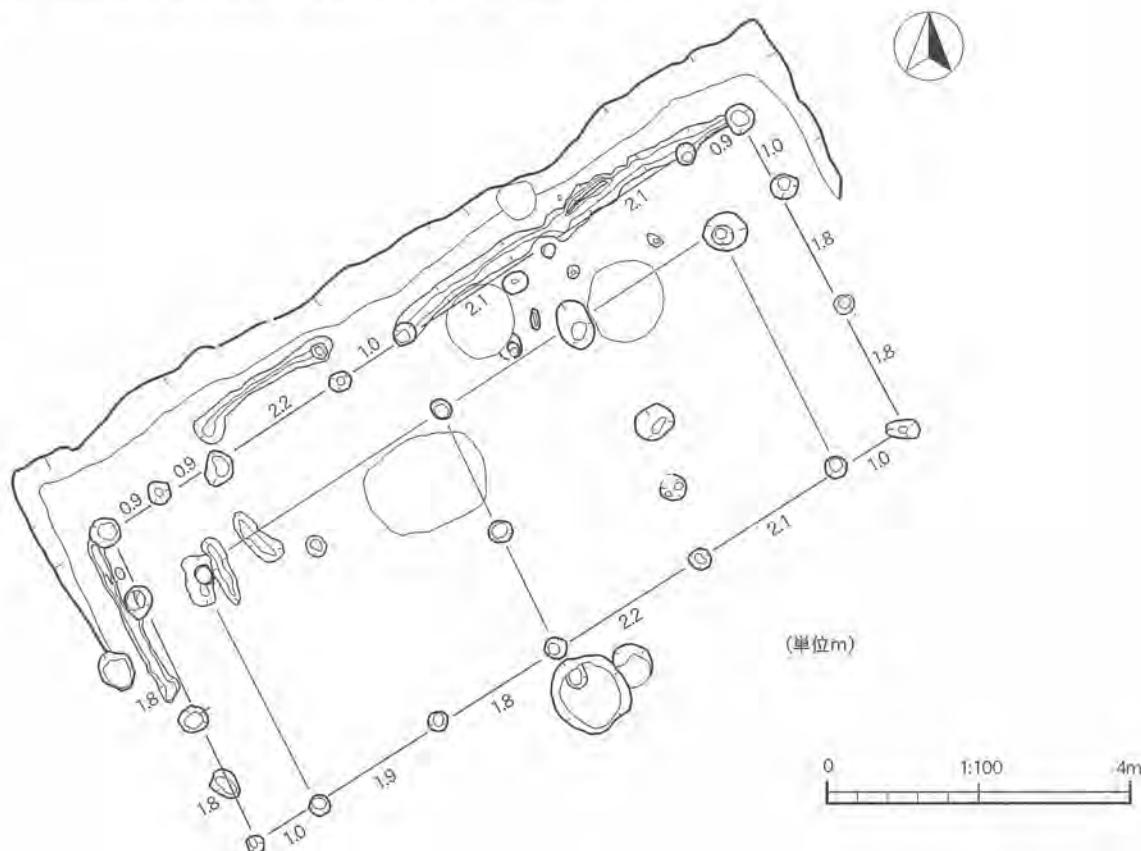
柱の掘り方は、北側の壁沿いの柱穴が径、深さとも大きく掘られている。床面から4基の溝跡を検出した。溝1、2、3は1号建物に伴うが、溝4は別遺構である。

床面から明瞭な焼土痕などは検出できなかったが、p10の中、その周辺に散乱する礫が焼け焦げていた。p10のb1層は固く締り、炭を含んでおり、柱穴が埋まった窓みを利用して火を使った可能性がある。

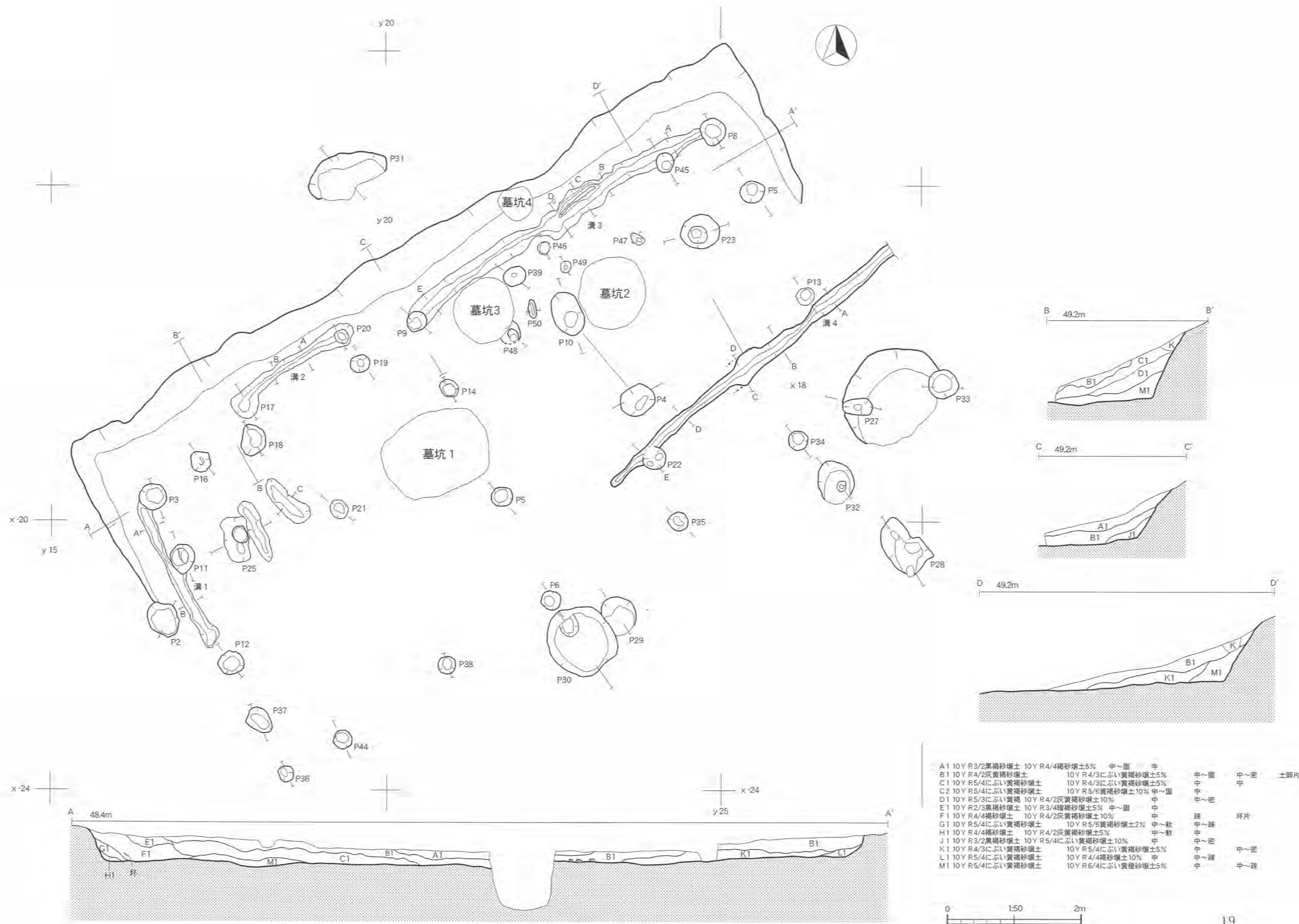
### 出土遺物（第17図）

1は土師器の壺である。覆土下層の7層から出土した。体部に沈線がめぐり、底部は丸みをもった平底で、外傾しながら直線的に立ち上がる。外面はナデとハケメ、内面はナデとミガキで調整する。8世紀中~後半に伴う。2は床面から出土した細い棒状の鉄製品である。端部の断面形は片方が方形、片方が円形である。

時期は、墓坑との切り合いから18世紀初頭以前に伴う。

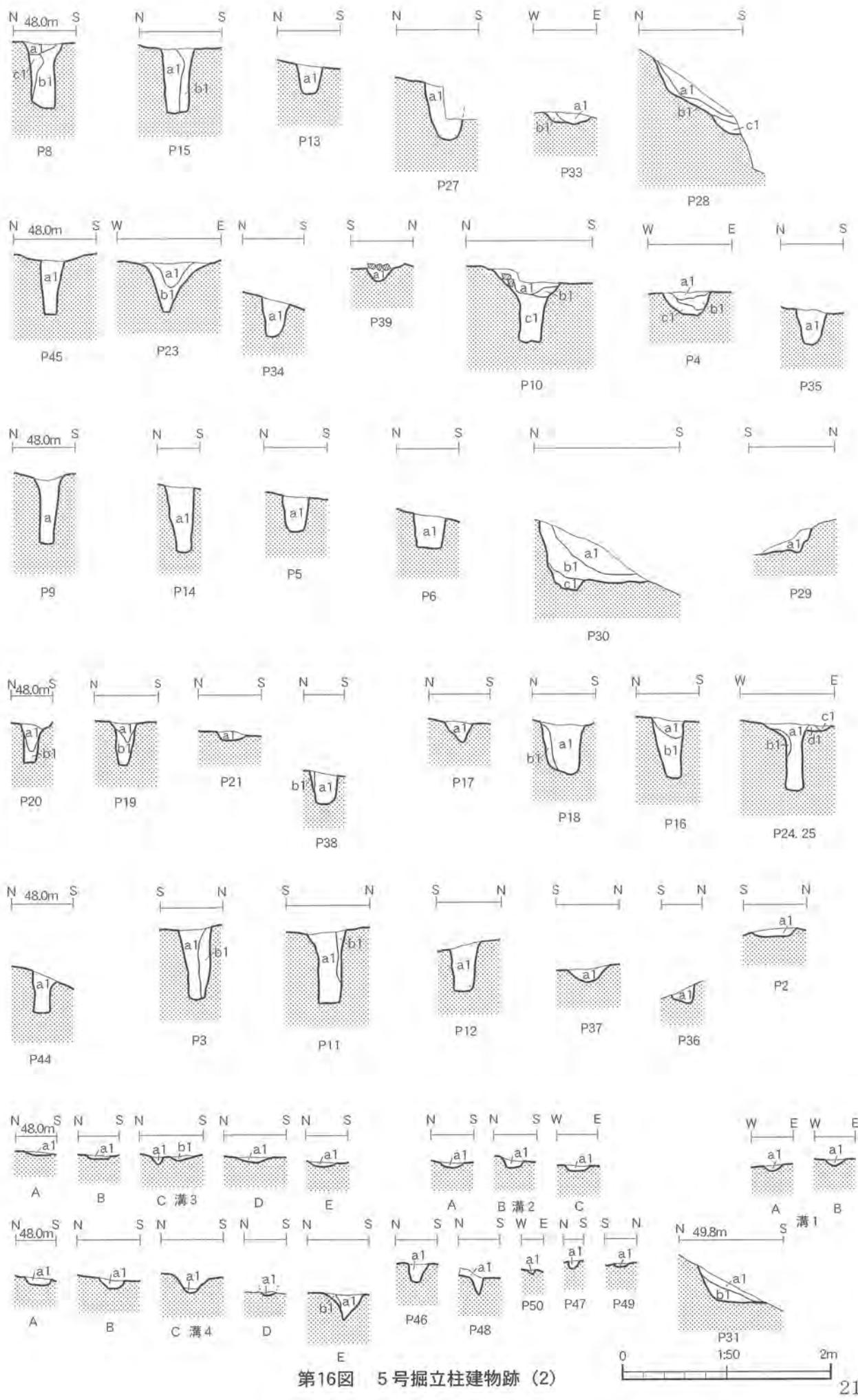


第14図 5号建物跡



第15図 5号掘立柱建物跡 (1)

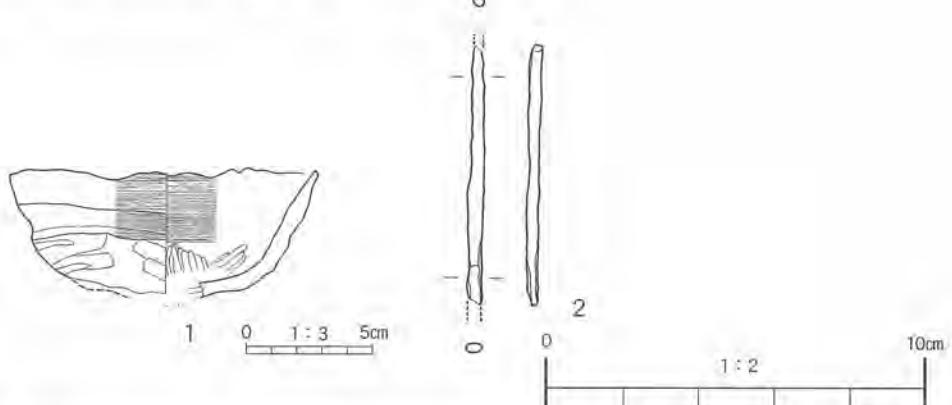




第16図 5号掘立柱建物跡 (2)

### 1号建物柱穴土層観察表

P 2	a 1 10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土	10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土5%	中～軟	中
P 3	a 1 10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土	10Y R 4/6褐砂壌土5%	中	中～硬
P 4	a 1 10Y R 3/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 4/4褐砂壌土5%	中	中～密
b 1 10Y R 4/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土10%	中～硬	中	
c 1 10Y R 4/6褐砂壌土	10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土2%	中～固	中～密	
P 5	a 1 10Y R 4/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土5%	中～固	中～密
P 6	a 1 10Y R 4/6褐砂壌土	10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土5%	中～固	中～密
P 7	a 1 10Y R 3/4褐砂壌土	10Y R 4/6褐砂壌土5%	中～固	中～密
b 1 10Y R 5/8黄褐砂壌土	10Y R 4/6褐砂壌土2%	中	中	
c 1 10Y R 4/6褐砂壌土	10Y R 4/6褐砂壌土2%	中	中	
P 8	a 1 10Y R 4/6褐砂壌土	10Y R 3/4褐砂壌土5%	中～固	中～密
b 1 10Y R 4/4褐砂壌土	10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土5%	中～固	中～密	
P 9	a 1 10Y R 3/4褐砂壌土	10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土5%	中	中
b 1 10Y R 4/4褐砂壌土	10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土10%	中	中	
P 10	a 1 10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土	10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土10%	中～固	中～密
b 1 10Y R 2/2黑褐砂壌土	10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土3%	中～固	中～密	
c 1 10Y R 4/4褐砂壌土	10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土1%	中	中	
P 11	a 1 10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土	10Y R 6/4にぶい黄褐砂壌土5%	中～固	中～密
b 1 10Y R 4/4褐砂壌土	10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土5%	中～固	中～密	
P 12	a 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 4/4褐砂壌土2%	中～固	中～密
P 13	a 1 10Y R 4/4褐砂壌土	10Y R 4/4褐砂壌土10%	中～固	中～密
P 14	a 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 6/4にぶい黄褐砂壌土1%	中	中
P 15	a 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 6/4にぶい黄褐砂壌土1%	中	中
P 16	a 1 10Y R 4/4褐砂壌土	10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土5%	中	中
b 1 10Y R 4/4褐砂壌土	10Y R 6/4にぶい黄褐砂壌土5%	中	中	
P 17	a 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 6/4にぶい黄褐砂壌土5%	中	中
b 1 黄砂土	10Y R 6/4にぶい黄褐砂壌土5%	中	中	
P 18	a 1 10Y R 4/4褐砂壌土	10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土10%	中	中～密
b 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 4/6褐砂壌土5%	中～固	中	
P 19	a 1 10Y R 5/3にぶい黄褐砂壌土	10Y R 5/6青褐砂壌土2%	中～固	中～密
a 2 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 6/4にぶい黄褐砂壌土5%	中～固	中～密	
P 20	a 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 6/4にぶい黄褐砂壌土10%	中～固	中～密
b 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 6/4にぶい黄褐砂壌土5%	中～固	中～密	
P 21	a 1 10Y R 4/4褐砂壌土	10Y R 6/4にぶい黄褐砂壌土5%	中～固	中～密
測1	A. B. a 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 4/6褐砂壌土5%	中～固	中
測2	A. B. a 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 4/6褐砂壌土3%	中～固	中～密
測3	A. B. C. a 1 10Y R 4/4褐砂壌土	10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土10%	中	中
C. a 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 6/4にぶい黄褐砂壌土5%	中	中	
E. a 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 6/4にぶい黄褐砂壌土5%	中	中	
E. a 1 10Y R 6/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 6/4にぶい黄褐砂壌土5%	中	中	
F. a 1 10Y R 3/4褐砂壌土	10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土3%	中～軟	中～密	
c 1 10Y R 4/4褐砂壌土	10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土3%	中～軟	中～密	
F. a 1 10Y R 3/4褐砂壌土	10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土3%	中～軟	中～密	
P 22	b 1 10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土	10Y R 4/6褐砂壌土10%	中～固	中～密
P 23	a 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 5/6青褐砂壌土10%	中～軟	中～密
P 24	a 1 10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土	10Y R 4/6褐砂壌土3%	中～固	中
b 1 10Y R 4/6褐砂壌土	10Y R 5/6青褐砂壌土10%	中～軟	中～密	
P 25	c 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 6/6明黄褐砂壌土10%	中	中～固
d 1 10Y R 6/6明黄褐砂壌土	10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土10%	中～固	中～密	
P 27	a 1 10Y R 4/4褐砂壌土	10Y R 3/2黑褐砂壌土10%	中	中～硬
P 28	a 1 10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土	10Y R 4/4褐砂壌土3%	中	中
黒色土	10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土	10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土3%	中	中
黒色土	10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土	10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土15%	中	中～密
P 29	a 1 10Y R 4/4褐砂壌土	10Y R 4/4褐砂壌土10%	中～軟	中
P 30	a 1 10Y R 2/2黑褐砂壌土	10Y R 3/4暗褐砂壌土10%	中～軟	中～密
b 1 10Y R 2/2灰黄褐	10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土10%	中	中	
P 31	a 1 10Y R 5/3にぶい黄褐砂壌土	10Y R 3/2黑褐砂壌土2%	中～軟	中～密
b 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 6/4にぶい黄褐真砂土5%	中～軟	中～密	
P 32	a 1 10Y R 4/3黑褐砂壌土	10Y R 4/4褐砂壌土15%	中～軟	中
c 1 10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土	10Y R 4/4褐砂壌土10%	中～軟	中	
c 1 10Y R 4/4褐砂壌土	10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土10%	中～軟	中	
P 33	a 1 10Y R 3/4暗褐砂壌土	10Y R 4/3暗褐砂壌土10%	中～軟	中
b 1 10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土	10Y R 5/6黄褐砂壌土15%	中～固	中	
P 34	a 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 6/4にぶい黄褐真砂土10%	中～固	中
P 35	a 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 6/4にぶい黄褐真砂土10%	中～固	中
P 36	a 1 10Y R 4/4褐砂壌土	10Y R 5/6にぶい黄褐砂壌土10%	中～固	中～密
P 37	a 1 10Y R 4/4褐砂壌土	10Y R 4/4褐砂壌土10%	中～固	中～密
P 38	a 1 10Y R 4/4褐砂壌土	10Y R 5/6黄褐砂壌土15%	中～固	中～密
b 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 4/4褐砂壌土3%	中～固	中	
b 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 4/4褐砂壌土2%	中～固	中	
P 44	a 1 10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土	10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土2%	中～固	中～密
b 1 10Y R 4/4褐砂壌土	10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土5%	中～固	中～密	
P 45	a 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 6/4にぶい黄褐真砂土10%	中～固	中～密
P 46	a 1 10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土	10Y R 5/6にぶい黄褐砂壌土2%	中～固	中～密
P 47	a 1 10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土	10Y R 5/6にぶい黄褐砂壌土3%	中～固	中～密
P 48	a 1 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土	10Y R 6/4にぶい黄褐真砂土10%	中～固	中～密
P 49	a 1 10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土	10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土2%	中～固	中～密
P 50	a 1 10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土	10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土2%	中～固	中～密



図no	遺構	層位	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胴部径(cm)	内	外	備考
図17-1	5号建物	F1	壺	12.3	6	4.9		内黒。ナデ、ミガキ	沈線。ナデ、ケズリ	
図no	遺構	層位	器種	長さ(cm)	径(mm)			備考		
図17-2	5号建物	床面	棒状鉄製品	7	3~4			断面図は円形と方形。両端部欠損		

第17図 5号建物出土遺物

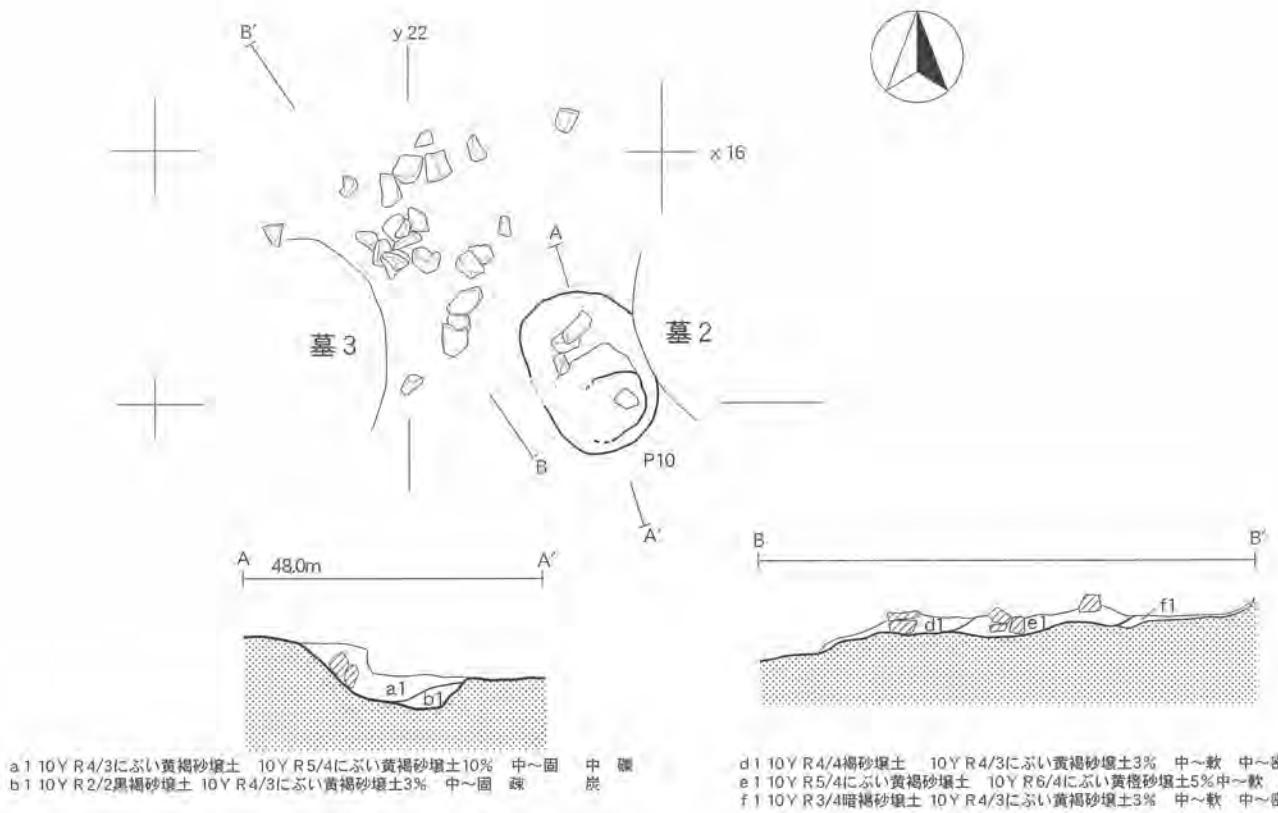
### 8号炭窯跡（第19図）

1号建物跡の南東の隅に位置する。1号建物p27、土坑D33に切られている。

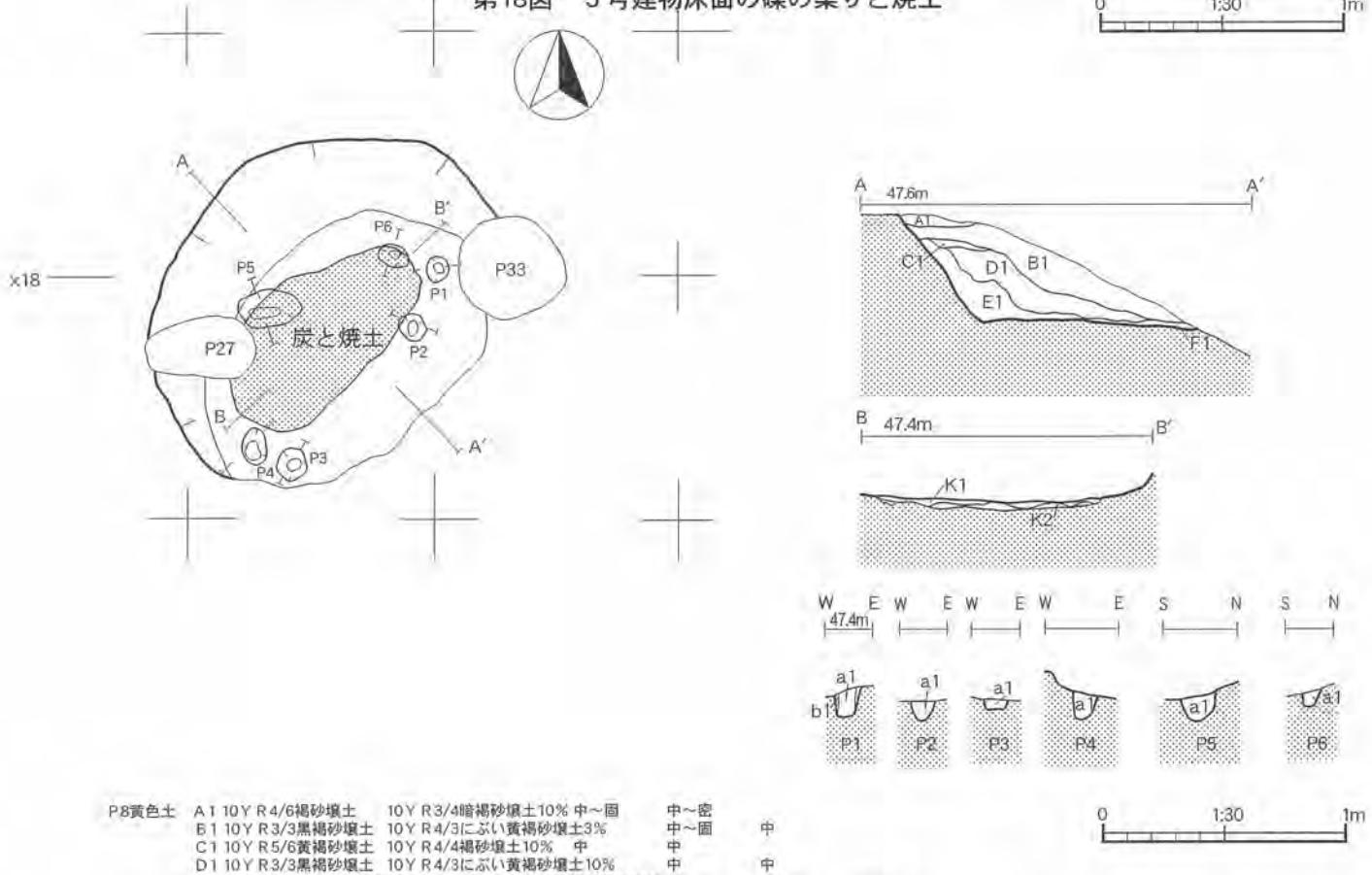
床面が炭混じりの焼土で覆われており、いわゆる「伏窯」タイプの炭窯と判断した。平面形は橢円形である。規模は1.6m×1.2m、深さ40cmである。覆土は黄色土混じりの褐色土が大半をしめ、最下層は炭層である。

床面の周縁部で、炭と焼土の下から小土坑を検出している。遺物は出土していない。

時期は、切り合の関係から17世紀末以前に伴う。

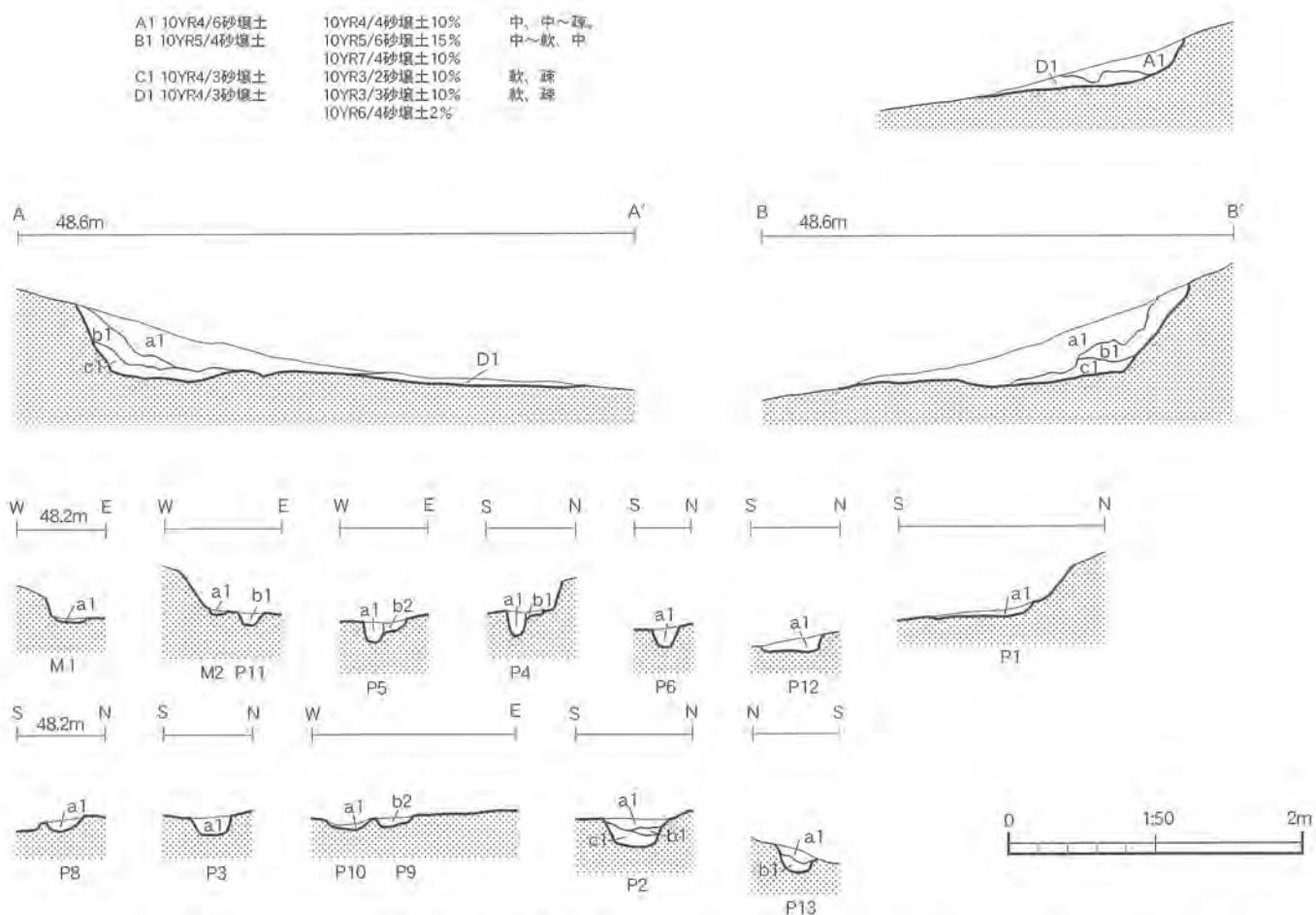
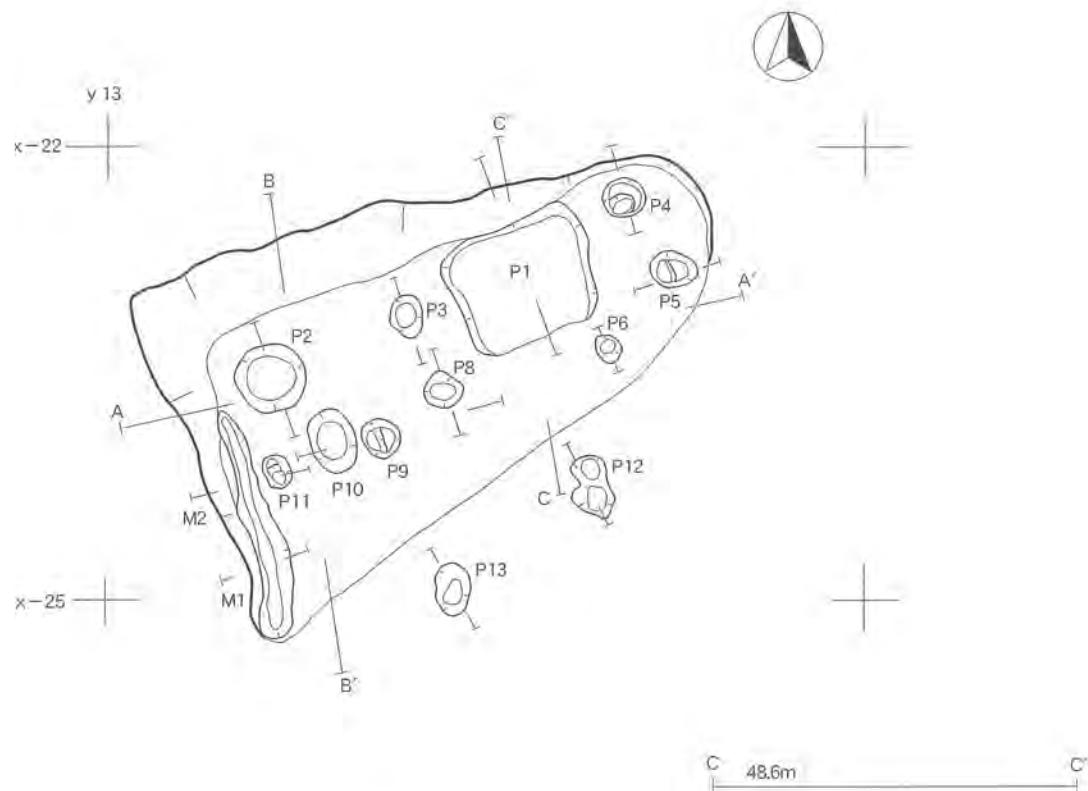


第18図 5号建物床面の礫の集りと焼土



焼土層	K 1 7.5Y R 3/2黒褐シト質壌土 10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土 10% 10Y R 2/1黒色土砂壌土 10%	10Y R 5/6黄褐砂壌土 10% 中 中～密 炭多
	B 1 5Y R 4/4にぶい赤褐砂壌土 7.5Y R 5/3にぶい褐砂壌土 10% 中	それほど焼き締まってない 中
P1 明瞭な当り	a 1 10Y R 3/2黒褐シト質壌土 10Y R 4/6褐シト質壌土 1% 軟 b 1 10Y R 2/1黒シト質壌土 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土 1%	中～軟 中 炭少
P2 a 1 10Y R 3/3黒褐砂壌土 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土 10% 中～固 中		
P3 a 1 10Y R 4/3にぶい黄褐砂壌土 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土 3% 中～軟 中		
P4 a 1 10Y R 4/3にぶい黄褐シト質壌土 10Y R 5/4にぶい黄褐砂壌土 10% 中～軟 中～密 中 中～密 炭粒微		
P5 a 1 10Y R 4/3にぶい黄褐シト質壌土 10Y R 4/6褐シト質壌土 10% 中 中		
P6 a 1 10Y R 3/2黒褐シト質壌土 10Y R 4/4褐シト質壌土 3% 中 中		

第19図 8号炭窯跡



P1	a1	10YR2/2沙質壤土	10YR3/3砂壤土15%	中~固、中、炭
			10YR6/4沙質壤土5%	
P2	a1	10YR3/4砂壤土	10YR2/2砂壤土5%	中~軟、疎
P2	a1	10YR3/4砂壤土	明	10YR4/2沙壤土5%
P2	b1	10YR4/3砂壤土	10YR3/3砂壤土3%	軟、疎
P3	a1	10YR6/4沙質壤土7.5%	10YR6/6重壤土5%	固、密
P4	a1	10YR5/4沙質壤土	10YR6/4沙質壤土5%	中~固、密
P4	b1	10YR6/4沙質壤土	10YR7/4沙質壤土3%	固、密
P5	a1	10YR3/4沙質壤土	10YR4/4砂壤土5%	中、中~密
P5	b1	10YR6/4沙質壤土	10YR6/6沙壤土5%	中
P6	a1	10YR5/4沙質壤土	10YR4/4砂壤土10%	中、中~密

P7	a1 10YR4/2沙質壤土	10YR6/4沙質壤土5%	中~軟、中
P8	a1 10YR6/4沙質壤土	10YR7/6砂壤土3%	中~固、中
P9	b1 10YR5/4砂壤土	10YR4/6砂壤土3%	固、中
P10	a1 10YR5/4砂壤土	10YR4/3砂壤土3%	中~固、中
M1.2	a1 10YR4/4砂壤土	10YR6/4砂壤土3%	中~固、中
P11	b1 10YR4/4砂壤土	10YR6/4砂壤土3%	中~固、中
P12	a1 10YR5/4粘質壤土	10YR5/8砂壤土10%	固、密
	b1 10YR4/3砂壤土	10YR5/6砂壤土15%	固、中
P13	a1 10YR2/3砂壤土	10YR2/3砂壤土3%	軟

第20図 6号竪穴跡

## 6号竪穴跡（第20図写真第2図版）

7号住居跡の南に位置する小規模な竪穴である。検出面は地山面である。平面形は、西側の壁の形状から方形を呈していたものと推測される。規模は、東西3.8mである。覆土は上層（A1）が褐色土、中～下層（B1～D1）に真砂土が混入するにぶい黄色褐色土である。床面から小土坑跡、溝跡を検出したが、明瞭な柱のアタリなどは確認できず、溝もごく浅いものである。カマドは検出していないが、方形の浅い掘り込み（p1）の覆土（黒色土）には少量の炭が含まれる。

遺物は出土せず、時期は不明であるが、位置、方形の掘り方などから5号建物に伴う可能性が考えられる。

## 7号竪穴住居跡（第21、22図写真第2図版）

尾根西端に近い鞍部南側に位置する。検出面は地山面である。平面形は、西側のみの検出なので不明であるが、壁面から隅丸方形を呈していたものと思われる。規模は南北で3.8mである。

覆土は、固めの褐色土、軟質の黄褐色土である。カマドは西壁のほぼ中央に設けられている。削り貫き式である。煙道は下降気味に掘られ、煙出しはほぼ垂直に立ち上がる。規模は煙道が径20cm、長さ1.5mである。煙出しは径30cm、深さ70cmである。袖石は溝を掘り込んで据えられている。k3層が固く焼き締まった焼土層である。

火床部で甕、北側の床面で壺がセットで出土している。

## 出土遺物（第23図）

1～5は土師器である。1～4は、カマドの北側から出土した壺である。1を上にして、1から4の順序に重なって出土した。1はやや外反しながら直線的に立ち上がる。外面腰部に沈線をもち、内面は黒色処理される。2は平らな底部をもち、腰部からわずかに外反して直線的に立ち上がる。外面に段をもち、内面は黒色処理される。3は丸い底をもち、やや内湾しながら立ち上がる。外面に沈線をもち、内面は黒色処理を施される。4は平らに近い底をもち、底部から外反して直線的に立ち上がる。外面に沈線を巡らし、内面に黒色処理を施す。5は甕である。口縁部の径が胴部の径より若干大きい長胴甕である。頸部の一部に明瞭な段をもつ。内外面ともナデ調整され、底面に木葉痕を残す。

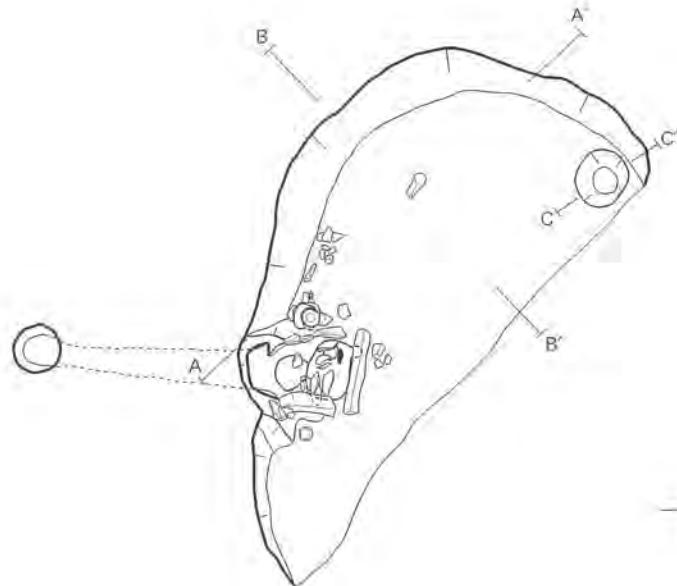
6は刻線で施文された縄文土器である。7はカマドから出土した湾曲面をもつ土製品である。支脚か？8、9は礫石器である。8は端部に敲打痕を残す敲石である。9は砥石である。

時期は、遺物から奈良時代に伴う。

図no	遺構	層位	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胴部径(cm)	内	外	備考
23図-1	7号竪穴住居	床面カマド	壺	12.9	9.0	4.1		内黒処理。ナデ、ミガキ	沈線。ナデ、ケズリ。	
23図-2	7号竪穴住居	床面カマド	壺	12.4	5.0	4.3		内黒処理。ミガキ	有段。ミガキ、カズリ	
23図-3	7号竪穴住居	床面カマド	壺	16.6	6.0	6.5		内黒処理。ナデ、ミガキ	沈線。ナデ、ミガキ	
23図-4	7号竪穴住居	床面カマド	壺	17.7	6.5	6.5		内黒処理。ナデ、ミガキ	沈線。ミガキ	
23図-5	7号竪穴住居	床面カマド	甕	21.7	8.2	27.0	20.0	ナデ	ナデ	頸部の一部に明瞭な段を持つ

y10  
x-16

y15  
x-16



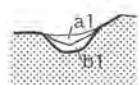
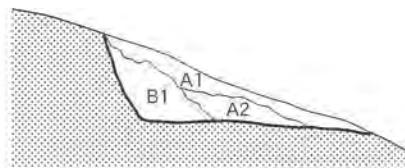
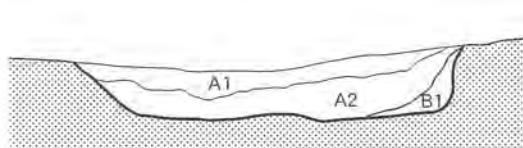
x-20  
y10

+

A 50.6m A'

B 50.6m B'

C 50.6m C'



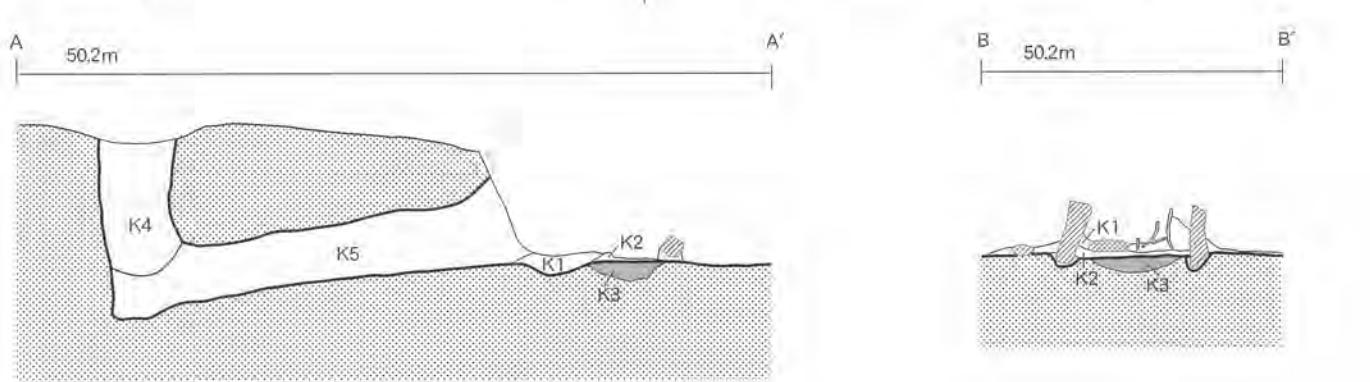
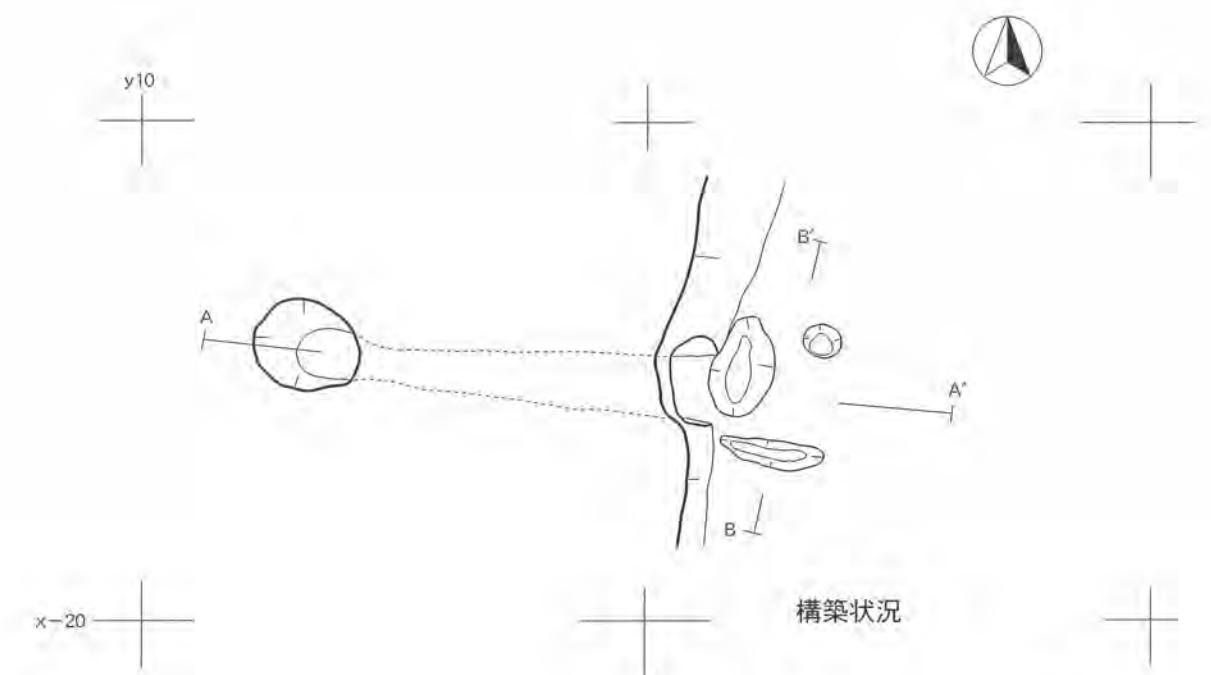
A1 10YR4/4砂壤土  
A2 10YR4/4砂壤土  
B1 10YR5/6砂壤土  
P1 a1 10YR3/4砂壤土

10YR2/4砂壤土10%  
10YR4/6砂壤土5%  
10YR5/4砂壤土3%  
10YR5/4砂壤土10%

固。疎  
中~固。疎。炭塊微  
中~軟。疎。土師器  
軟。疎

0 1:50 2m

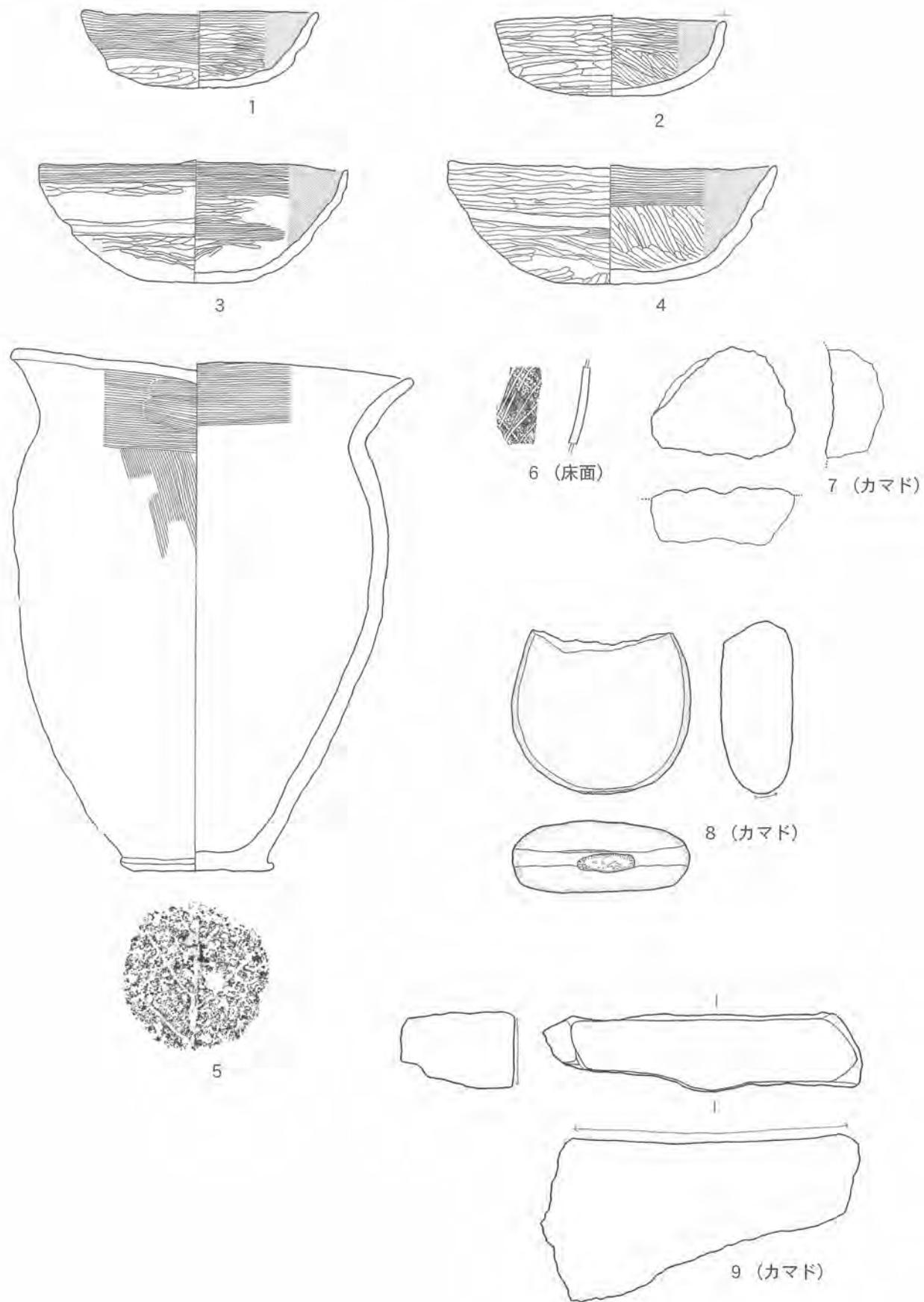
第21図 7号竪穴住居跡



K1	5YR4/8砂壤土 5YR4/4沙質壤土3%	中～軟、疎。炭少
K2	5YR3/4沙質壤土2%	
K2	5YR4/4砂壤土 5YR4/2砂壤土3%	中～固、疎。
K3	5YR5/4砂壤土3%	
K3	5YR4/6砂壤土 5YR5/6砂壤土5%	固、中～疎。燒土層
	7.5YR5/4砂壤土3%	
K4		
K5	10YR5/6砂壤土 10YR6/4砂壤土2%	中、中～密。
	10YR4/3砂壤土3%	

0 1:30 1m

第22図 7号竖穴住居跡カマド



第23図 7号住居跡出土遺物

## B区

北方向に伸びる勾配の急な尾根である。

畝跡、溝跡、土坑跡などを検出している。

### 基本層序

I層 A区の調査の際に出た廃土である。

II層 表土である。暗褐色土の混じる黒褐色土である。遺物は含まれていない。

III層 地山への漸移層で、暗褐色土の混じる褐色土である。遺物は含まれていない。

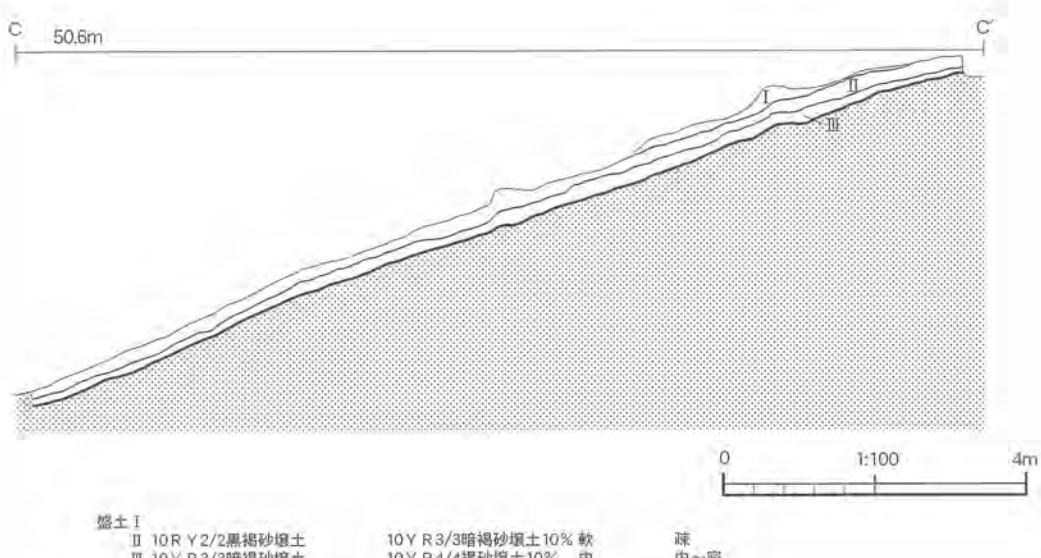
### 42号畝跡、40、43号溝跡、41号土坑跡（第25図）

いずれも地山面からの検出している。

畝跡は尾根の中央の急斜面に位置する。規模は5.5m×2mである。遺物は出土していない。

周辺に位置する溝跡、土坑跡は畝跡に伴うものと思われるが、いずれからも遺物は検出しておらず、遺構の性格は不明である。

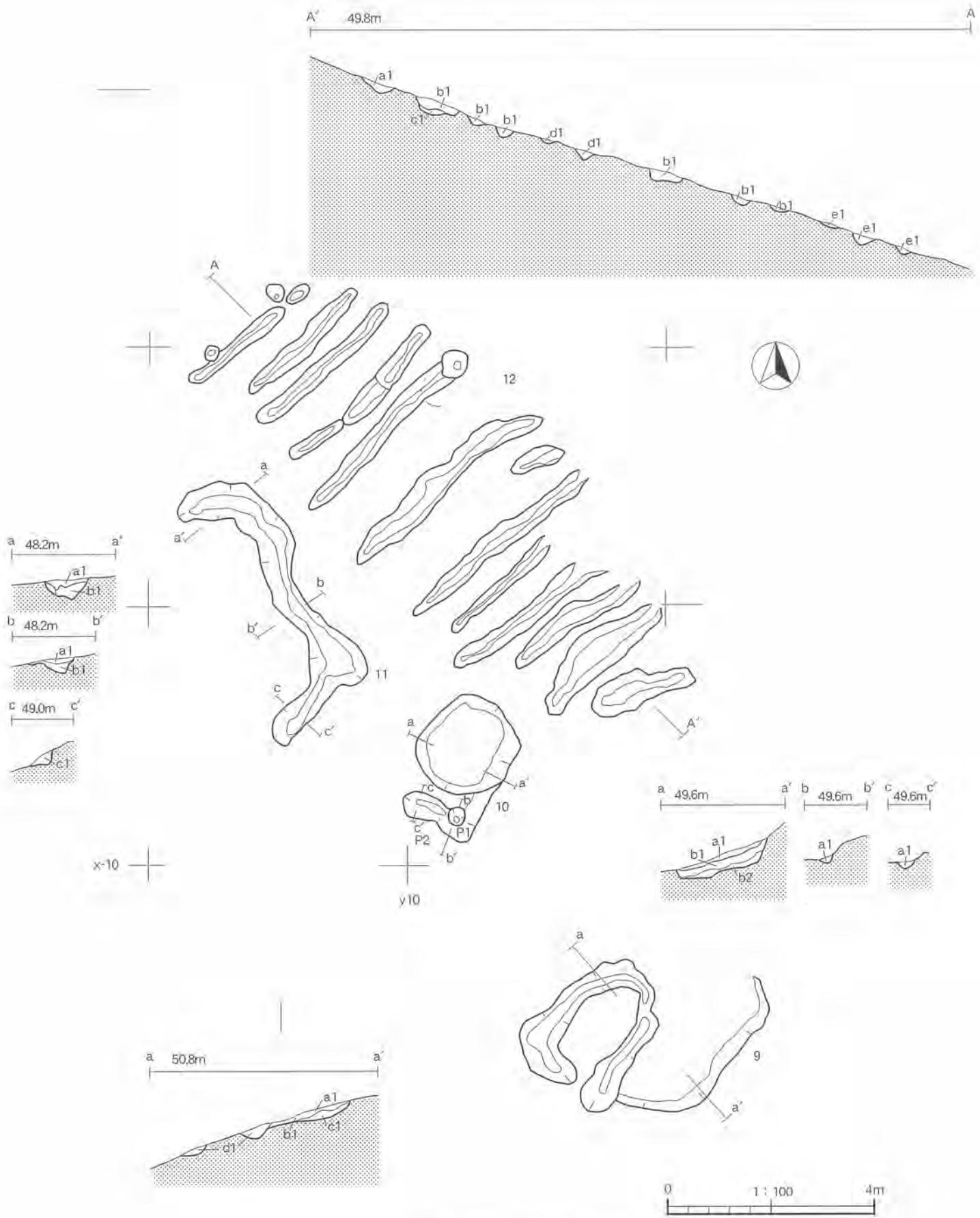
時期は不明である。



第24図 I B区基本層序

### I B区遺構土層観察表

12	a 1 10Y R 3/4 暗褐色砂壌土 10Y R 5/4にぶい黄褐色砂壌土 2% b 1 10Y R 4/6 黑褐色砂壌土 10Y R 5/6 黄褐色砂壌土 5% 中～軟 c 1 10Y R 3/3 暗褐色砂壌土 10Y R 2/1 黑褐色砂壌土 10% 軟 d 1 10Y R 4/3にぶい黄褐色砂壌土 10Y R 2/1 黑褐色砂壌土 10% 中～固 e 1 10Y R 4/4 黑褐色砂壌土 10Y R 5/4にぶい黄褐色砂壌土 2% 中～軟	中～軟 中～疎 中～疎 中～固 中	中～密 中～疎 中～疎 中～密 中	炭粒比較的多
11	a 1 10Y R 4/4 黑褐色砂壌土 10Y R 5/4にぶい黄褐色砂壌土 3% 中 b 1 10Y R 5/4にぶい黄褐色砂壌土 10Y R 5/6 黄褐色砂壌土 2% 中～軟 c 1 10Y R 5/4にぶい黄褐色砂壌土 10Y R 6/4にぶい黄褐色砂壌土 3%	中 中～疎 中～軟	中 中～疎 中	炭粒微 炭粒微 中
10	a 1 10Y R 4/4 黑褐色砂壌土 10Y R 4/6 黑褐色砂壌土 5% 中～固 b 1 10Y R 5/4にぶい黄褐色砂壌土 10Y R 6/4にぶい黄褐色砂壌土 10% 中 b 2 10Y R 5/4にぶい黄褐色砂壌土 10Y R 6/4にぶい黄褐色砂壌土 2%	中～固 中	中～密 中～疎 中～固	炭粒微 炭粒微 中～密
P 1	a 1 10Y R 4/6 黑褐色砂壌土 10Y R 5/4にぶい黄褐色砂壌土 10% 中～固 P 2	a 1 10Y R 4/4 黑褐色砂壌土 10Y R 5/4にぶい黄褐色砂壌土 2% 中～固	中～密 中～密	炭粒微
9	a 1 10Y R 2/2 黑褐色砂壌土 10Y R 3/3 暗褐色砂壌土 10% 中～軟 b 1 10Y R 4/3にぶい黄褐色砂壌土 10Y R 5/6 黄褐色砂壌土 2% 中 c 1 10Y R 3/4 暗褐色砂壌土 10Y R 5/6 黄褐色砂壌土 10% 中～軟 d 1 10Y R 4/4 黑褐色砂壌土 10Y R 5/6 黄褐色砂壌土 3% 中～固	中 中～密 中 中	炭粒少 炭粒微 炭粒微 炭粒微	



第25図 I-B区遺構配置

### 3-2 II区

II区は洞地と北尾根の斜面と先端部である。洞中央部の緩斜面では畝跡を検出し、竪穴住居跡などの遺構は北側の山際に集まっている。南側の山裾では炭窯跡を検出し、尾根の斜面、先端部では大規模な溝跡、竪穴状遺構などが出土している。

#### 基本層序

I～V層 尾根南斜面に作業道を開削した際に盛られた土層である。

VI層 表土層である。固めの暗褐色土である。

VII層 B区に堆積する明褐色土である。炭窯の構築土と思われる。

VIII層 B区緩斜面に堆積する褐色土の混じる暗褐色土である。炭窯の掘り込み面である。D区のIX層に対応する。

IX層 4区緩斜面に堆積する褐色土の混じる暗褐色土である。

X層 洞の中央部に広く堆積する。黄褐色土の混じる暗褐色土である。

XI層 2区緩斜面に堆積する暗褐色土の混じる褐色土である。

XII層 洞の中央部に広く堆積するシルト質の黒褐色土である。

XIII層 洞中央部北側に堆積する黒褐色土層である。

XIV層 洞中央部西側に堆積する砂質の黄褐色土層である。水成の堆積層である。

XV層 1区山裾に堆積する褐色土の混じる黒褐色土である。

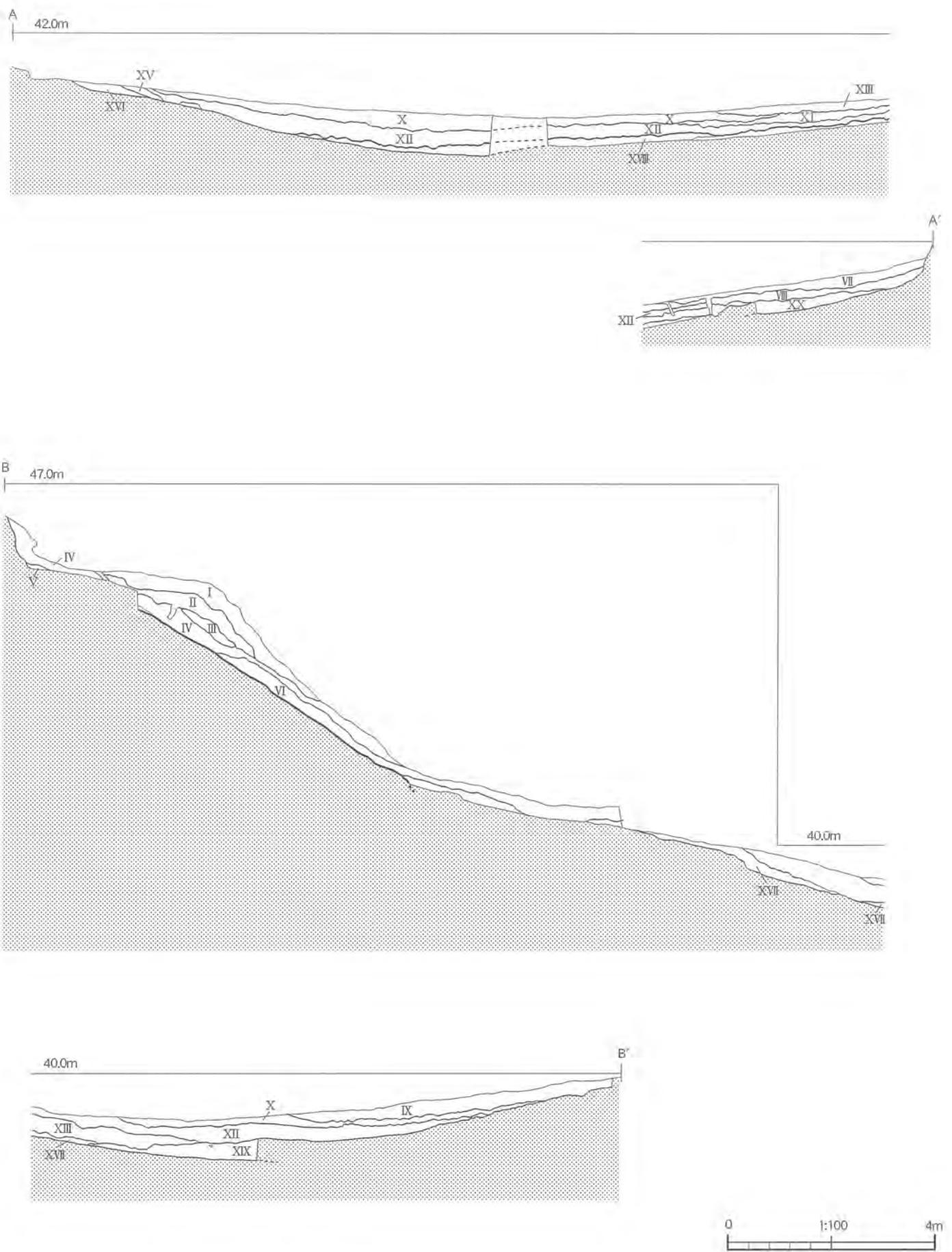
XVI層 1区山裾に堆積する黒褐色土混じりの黒色土層である

XVII層 5区山裾に堆積する暗褐色土である。粘土塊、炭などを含む。A区XV層に対応する。

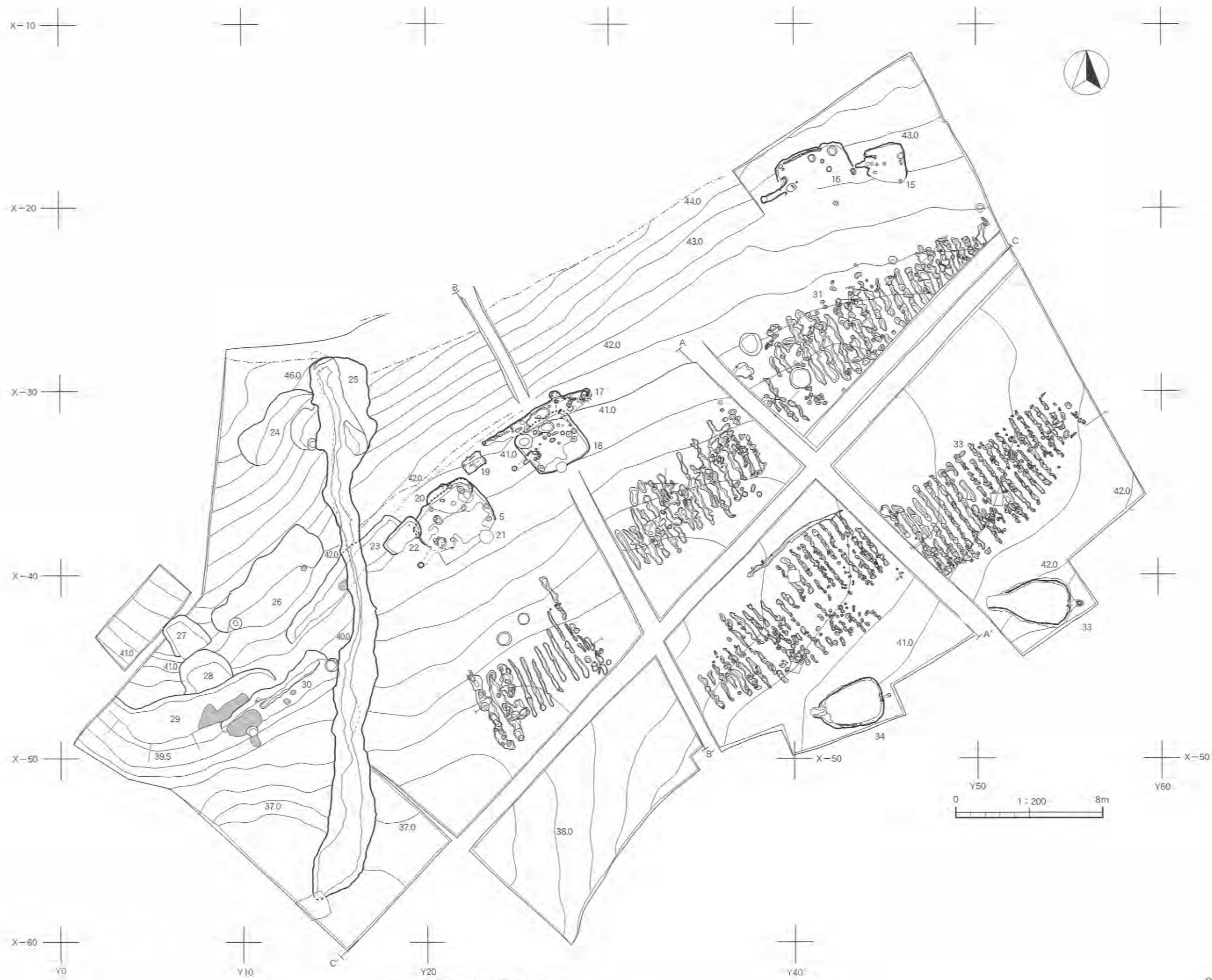
XVIII層 洞中央に広く堆積するシルト質の黒色土層である。2、4区畝跡の掘り込み面である。

XIX層 洞北側斜面に広く堆積するシルト質の黒色土である。山裾の竪穴住居跡、1区から5区にかけて出土した畝跡などの堀り込み面である。土師器片などが出土している。

XX層 B区山裾の斜面で確認されたやや固めのにぶい黄褐色土である。遺物は出土していない。地山への漸移層である。

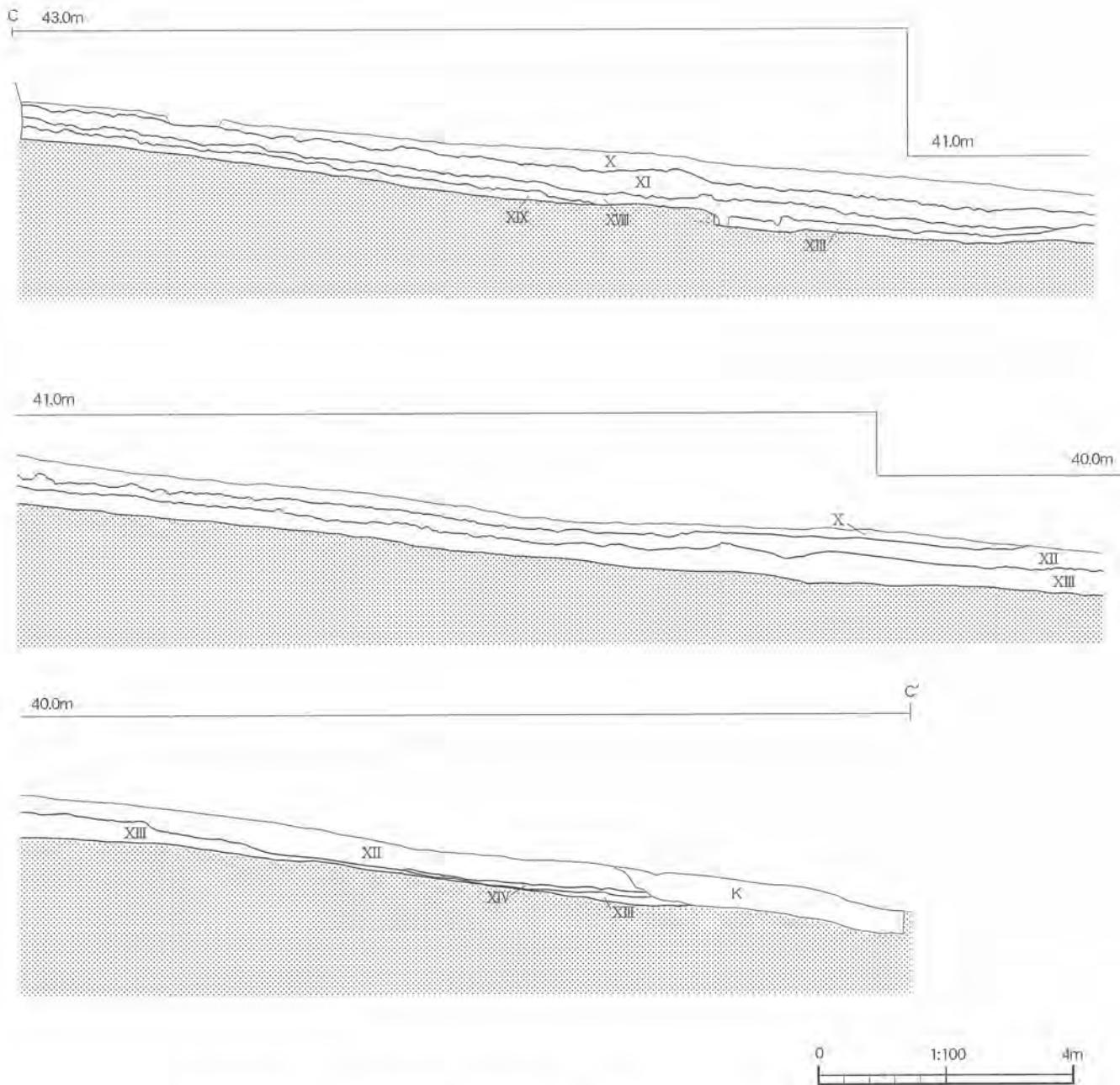


第26図 II区基本層序 (1)



第27図 II区遺構配置図





I	10Y R3/2砂壤土	10Y R6/4砂壤土塊状20% 固、疎。真砂土盛土
II	10Y R4/3砂壤土	10Y R6/8砂壤土塊状10% 軟、疎盛土
III	10Y R4/3砂壤土	10Y R4/2砂壤土塊状10% 軟、疎旧表土?
IV	10Y R4/2砂壤土	10Y R4/2砂壤土塊状10% 固、中。
V	10Y R3/2砂壤土	10Y R3/4砂壤土塊状10% 中、中。表土の残り
VI	10Y R3/3砂壤土	10Y R3/2砂壤土塊状3% 固、中。
VII	7.5Y R5/8砂壤土	10Y R3/4砂壤土塊状15% 中、疎。度多
VIII	10Y R3/4砂壤土	10Y R4/6砂壤土塊状29% 中~固、中。
IX	10Y R3/4砂壤土	10Y R3/3砂壤土塊状5% 固、中。
X	10Y R3/2砂壤土	10Y R3/4砂壤土塊状10% 中、中。
X I	10Y R2/3朴質壤土	10Y R3/4砂壤土塊状10% 中、中。
X II	10Y R3/2砂壤土	10Y R3/1砂壤土塊状10% 中、中。
X III	10Y R2/1朴質壤土	10Y R3/4朴質壤土塊状10% 中、中~密。
X IV	10Y R5/4朴質壤土	10Y R4/2朴質壤土塊状10% 固、疎。
X V	10Y R2/3砂壤土砂壤土	10Y R4/6砂壤土塊状20% 中、中。
X VI	10Y R1.7/1砂壤土	10Y R2/3砂壤土塊状10% 中、中。
X VII	10Y R3/3砂壤土	10Y R4/4砂壤土塊状5% 中、中。
X VIII	10Y R2/3砂壤土	10Y R3/4砂壤土塊状10% 中~軟、中~密。
X IX	10Y R2/1朴質壤土	10Y R3/1朴質壤土塊状5% 中、中~密。
X X	10Y R4/3砂壤土	10Y R4/4砂壤土塊状20% 中、中。

第28図 II区基本層序 (2)

#### 15号竪穴住居跡（第29図写真第4図版）

A区山裾の東側に位置する小規模な住居跡である。上部をかなり削られていたが、北と東の壁、西側のカマドを確認できた。

平面形は隅丸方形である。規模は東西2.2m、南北も2.2mと推定する。

覆土は密な暗褐色土が大半を占める。

床面から小土坑を検出している。p1～p4では柱アタリが確認された。

カマドは西壁の中央に設けられている。焚口で焼土を確認し、北側で袖石と推定される礫を検出した。煙道はほぼ水平に掘り込まれている。

遺物は出土していない。

時期は、周辺の遺構、遺物の出土状況から古代に伴う。

#### 16号竪穴住居跡（第30図写真第4図版）

A区山裾の緩斜面に位置する。15号住居跡の南に位置し、尾根寄りである。

平面形は隅丸方形である。規模は東西4.0m、南北は不明である。

覆土は、A層が着褐色土混じりの黒褐色土、B層が着褐色土混じりの黒色土、C層は黒色土混じりの基褐色土が大半を占める。自然堆積層である。

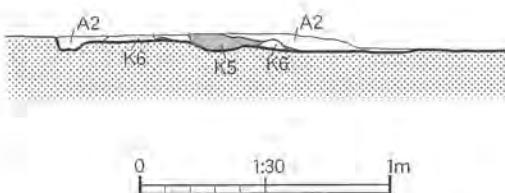
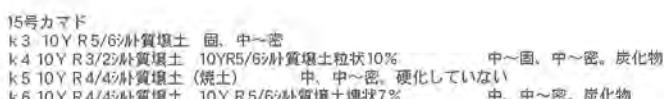
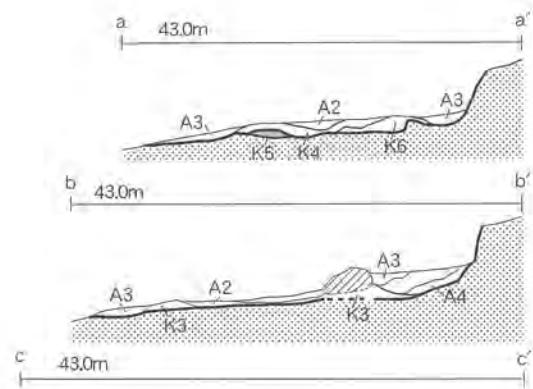
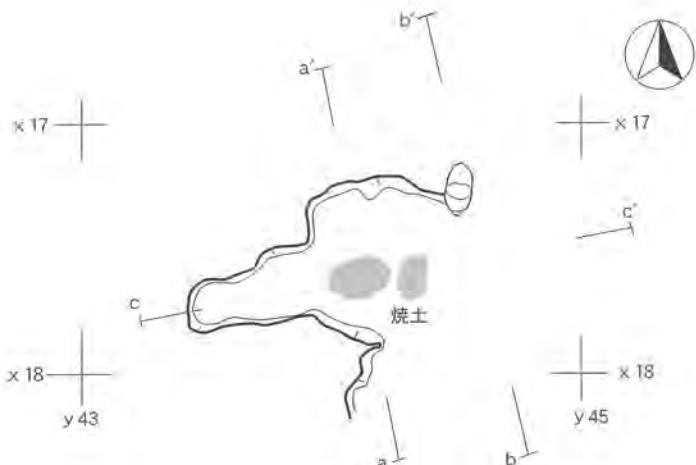
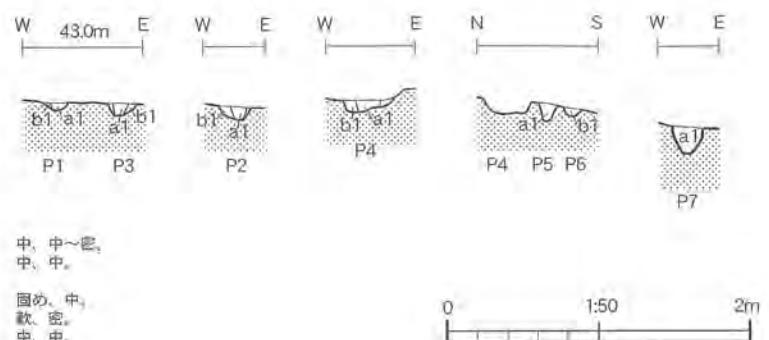
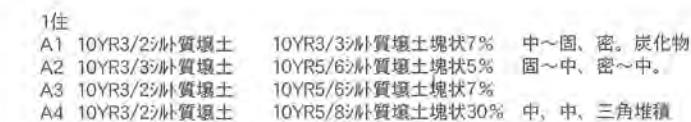
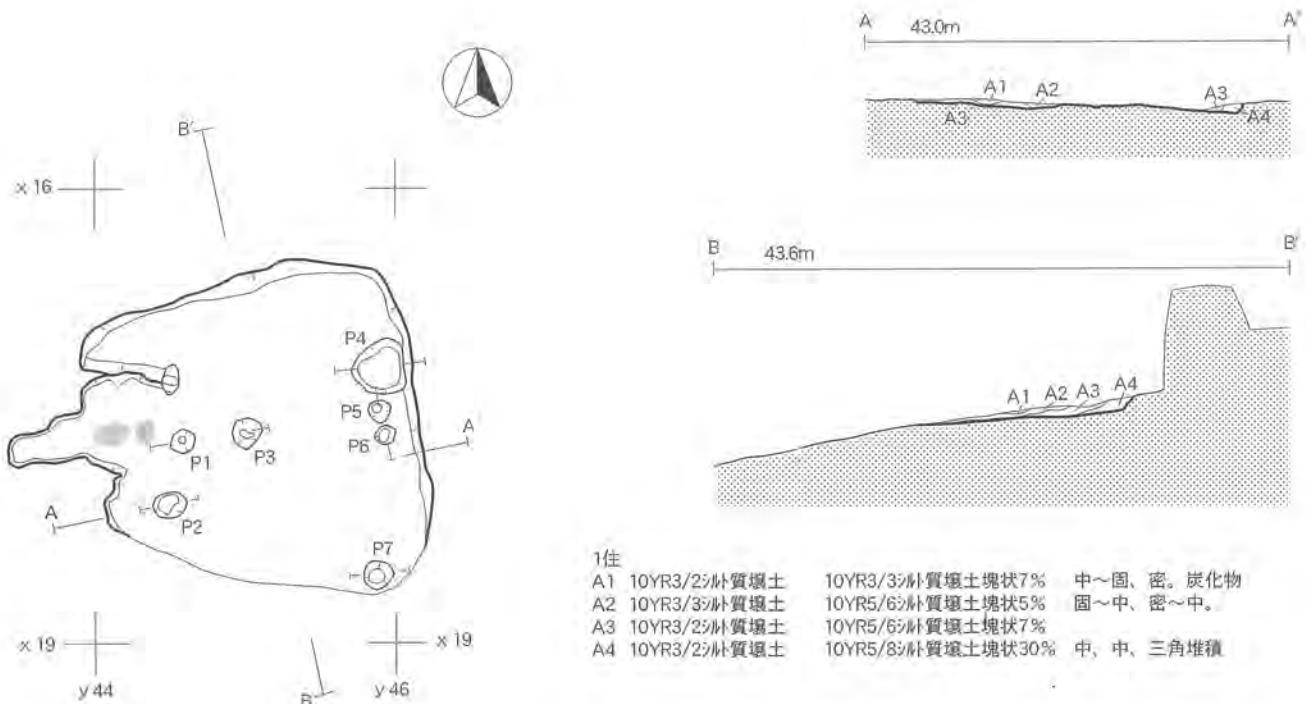
床面で小土坑、北側の壁沿いに溝跡を検出した。いずれも規模は小さい。

カマドは西壁に設けられている。くり貫き式と思われる。煙道は下降気味に掘り込まれている。k1、k2層はカマドの崩壊土である。

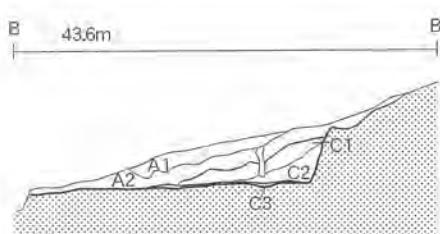
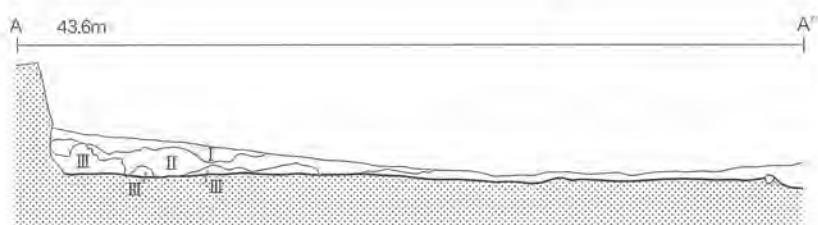
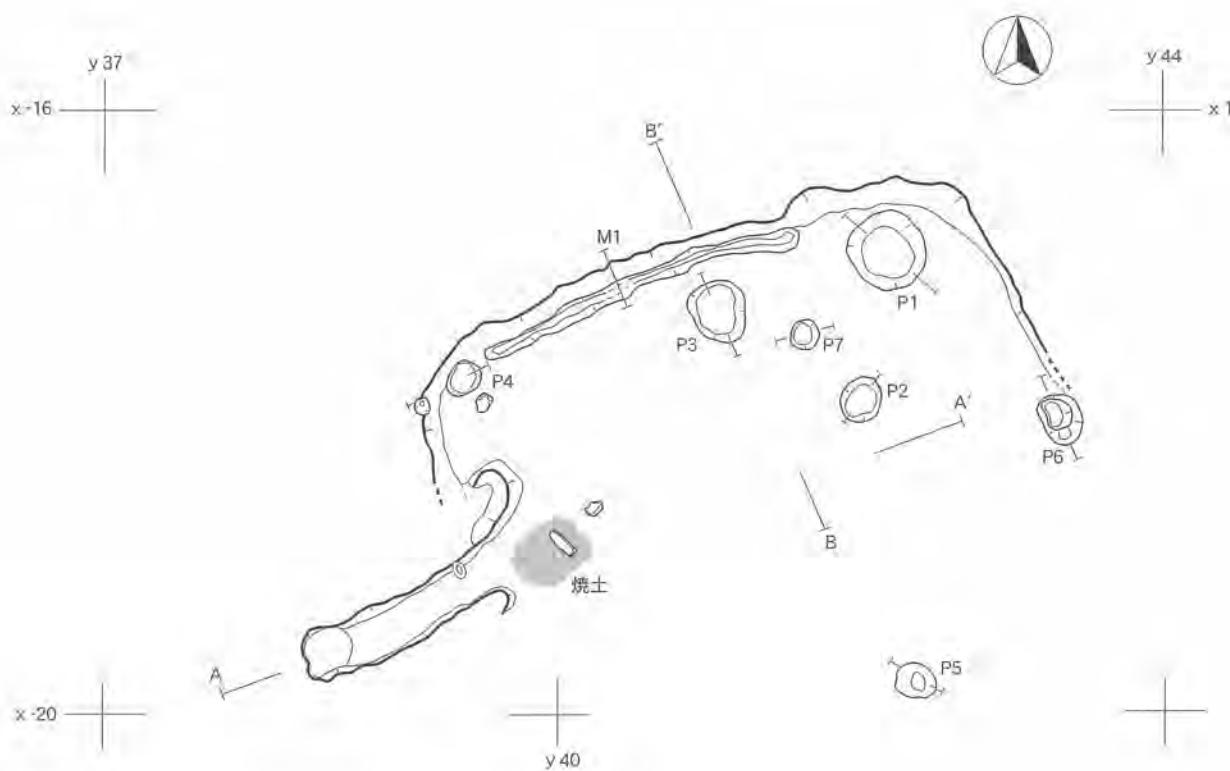
#### 出土遺物（第32図）

1はカマドから出土した須恵器である。内外面にタタキメを残す。

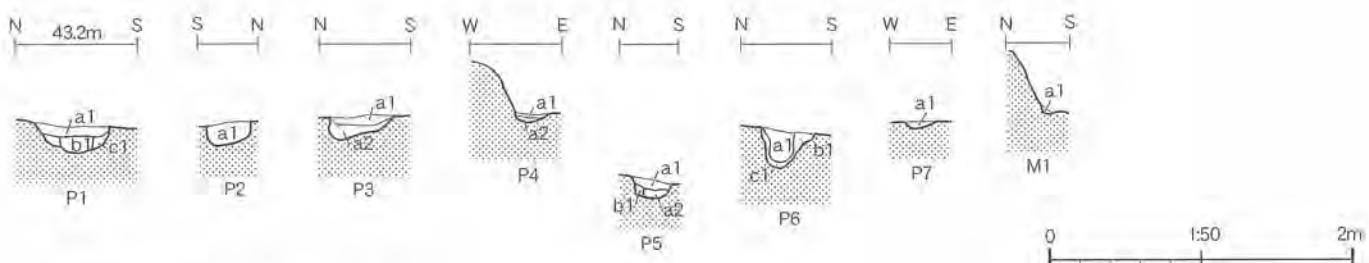
時期は、遺物、出土状況から古代に伴う。



第29図 15号竪穴住居跡

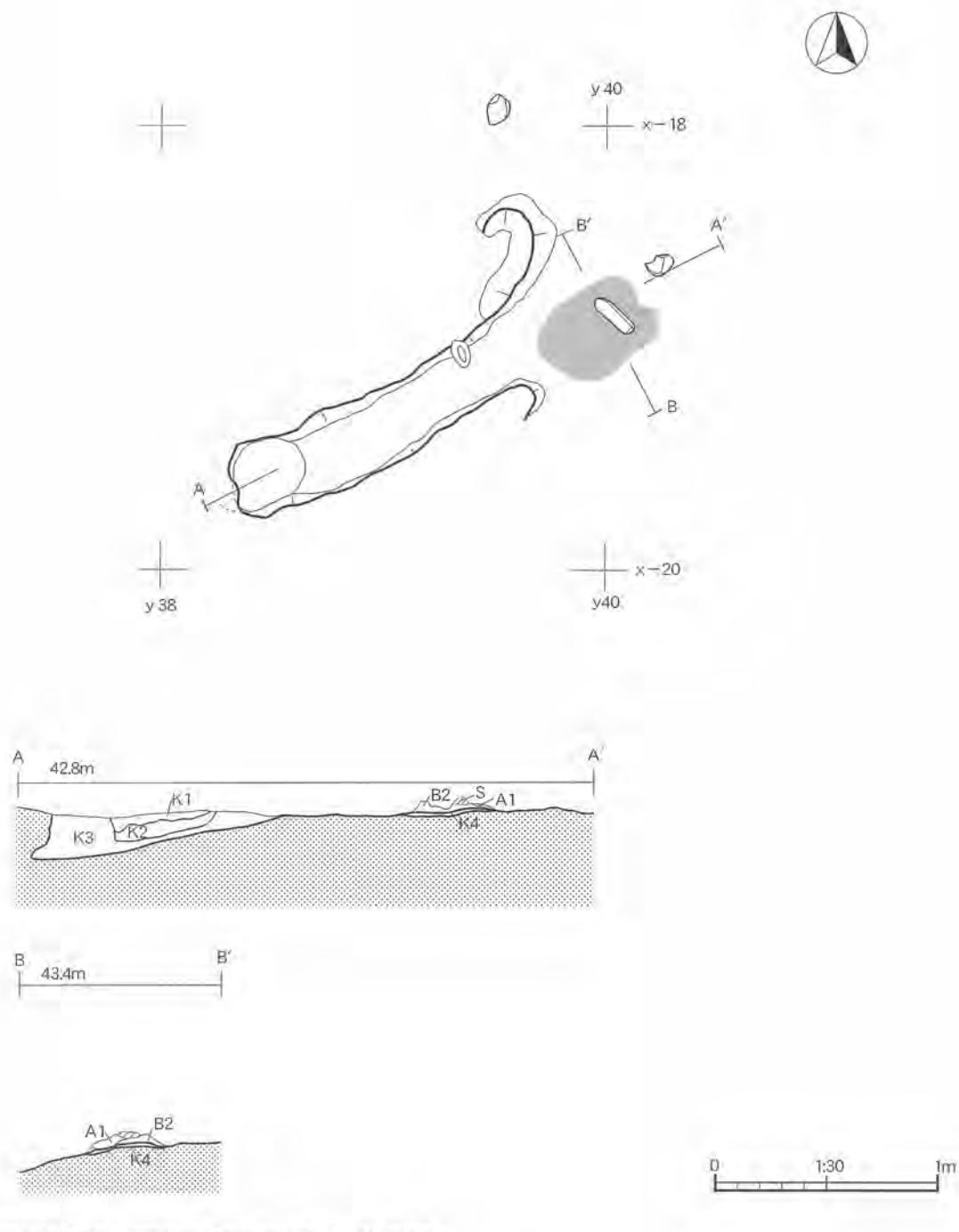


A1 10YR3/2沙質壤土 10YR5/6沙質壤土粒状20% 中～固、中～密。炭化物  
 B1 10YR2/1沙質壤土 10YR5/6沙質壤土粒状15% 軟～中、中。炭化物  
 C1 10YR3/2沙質壤土 10YR5/6沙質壤土塊状7% 中～軟、中。炭化物  
 C2 10YR5/8沙質壤土 10YR2/1沙質壤土塊状5% 軟、中。三角堆積  
 C3 10YR5/4沙質壤土 軟、中。

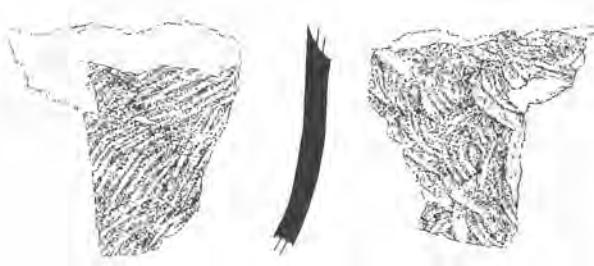


p 1 a1 10YR4/3沙質壤土 10YR3/2沙質壤土塊状30% 中～軟、中。炭化物  
 b1 10YR5/6沙質壤土 10YR3/2沙質壤土塊状40% 中、中。  
 c1 10YR3/4沙質壤土 10YR5/6沙質壤土粒状10% 中、中。炭化物  
 p 2 a1 10YR2/1沙質壤土 10YR5/6沙質壤土塊状7% 中、中～密。  
 p 3 a1 10YR4/3沙質壤土 10YR3/3沙質壤土塊状30% 軟、中～疎。炭化物微  
 a2 10YR3/3沙質壤土 10YR4/6沙質壤土塊状15% 軟、中。  
 p 4 a1 10YR3/3沙質壤土 10YR4/6沙質壤土塊状7% 炭化物  
 a2 10YR3/4沙質壤土 固～中、密。  
 p 5 a1 10YR2/1沙質壤土 10YR3/2沙質壤土粒状20% 中、中。炭化物  
 b1 10YR3/2沙質壤土 10YR2/1沙質壤土塊状5% 軟、中～疎。炭化物微  
 c1 10YR2/1沙質壤土 中～固、中～密。炭化物  
 p 6 a1 10YR3/2沙質壤土 10YR5/6沙質壤土塊状3% 中～軟、中。炭化物  
 a2 10YR3/2沙質壤土 10YR5/6沙質壤土塊状20% 中、中～疎。炭化物  
 b1 10YR5/6沙質壤土 10YR3/2沙質壤土 中～軟、中。炭化物  
 M1 a1 10YR4/3沙質壤土 10YR4/6沙質壤土塊状20% 軟、中～疎。炭化物微

第30図 16号竪穴住居跡



第31図 16号住居跡カマド



1 (カマド焼土)

第32図 16号住居跡出土遺物

### 17号竪穴跡（第33図写真第4図版）

洞の中央部北側の山裾に位置する。C区とE区にまたがって延びる細長い竪穴である。18号竪穴住居跡を切っている。

平面形は、東西にやや弓なりに伸びる弧状の竪穴で、東側の壁に円形の張り出しが付随する。

覆土は、A1層が褐色土、B1層が黒褐色土層である。炉跡付近に粘土混じりのにぶい黄褐色土、黒褐色土（E1、F1層）が堆積する。

床面からは小土坑のほかに西側で溝跡、中央部で浅い土坑跡、東側で2基の炉跡を検出している。土坑の中では中央のp12が比較的規模の大きい。

### 炉跡I（第34図写真第4図版）

西側の礫群を伴った炉である。北側の壁に張り出しがあり、そこから南の円形の焼土かかって礫が並ぶように倒れている。焼土の上の角礫は赤く焼けている。張り出しおの南側から溝跡が検出しており、礫を据えた跡と思われる。北側に石を据えた炉である。南側の焼けた角礫が動いてなければ、このままの状態で二次的に使用したものと考えられる。焼土B1層は固く焼き締まっている。

### 炉跡II（第34図写真第4図版）

東側の炉跡である。南側に弓なりに盛土をして作った罐みのほぼ中央に円形の焼土がひろがる。周辺部から小土坑が検出している。A1層は固く焼き締まった焼土層である。B1層は還元焼成を受けたと思われる黒色土、C1層粘土による構築土層である。

炉跡I、IIは出土状況からセットとして使用されていたと考えられる。

### 出土遺物（第35、36図）

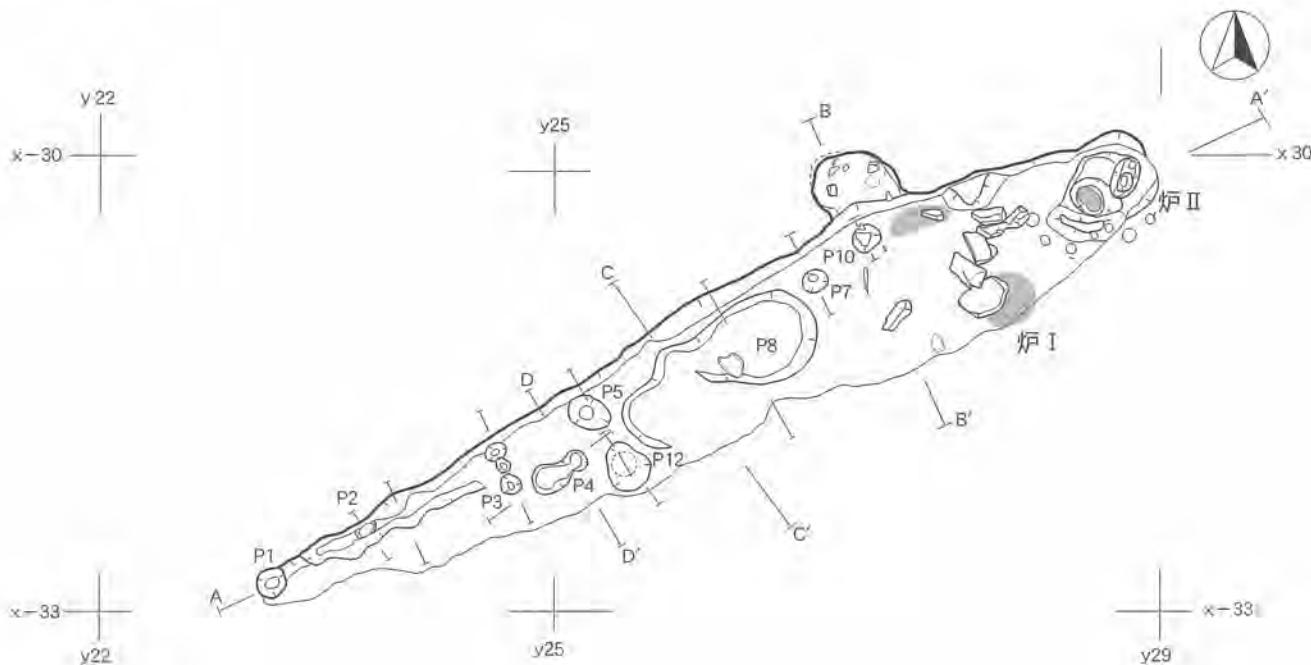
1～14は土師器である。1～4は壺である。1、2は口クロを使用した口縁部である。3、4は底部である。外面はケズリ、内面はナデ調整されている。

5～14は甕である。5～12は口縁部である。いずれも短い口縁部で、外反しながら立ち上がる。13、14は底部である。いずれもわずかな張出しを有する。

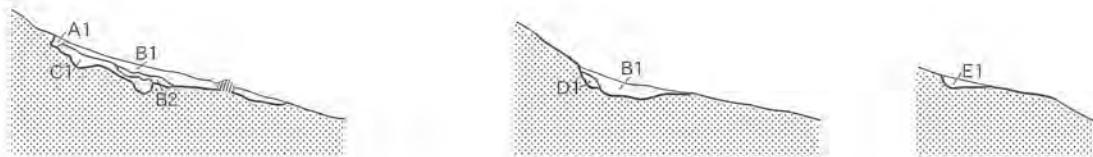
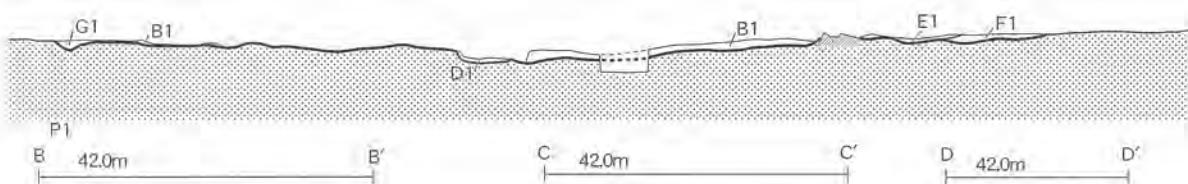
15は湾曲面をもつ土製品である。支脚と思われる。

16～18は鉄製品である。16、17は刃子である。16は茎と刃部で、明瞭な区を有す。17は刃部である。18は細い鉄板の頭部を二つに分けて、環状に成形している。祭具と推測する。

時期は、遺物から平安時代に伴う。



A 42.0m A'



S 42.0m N N S W E N S N S

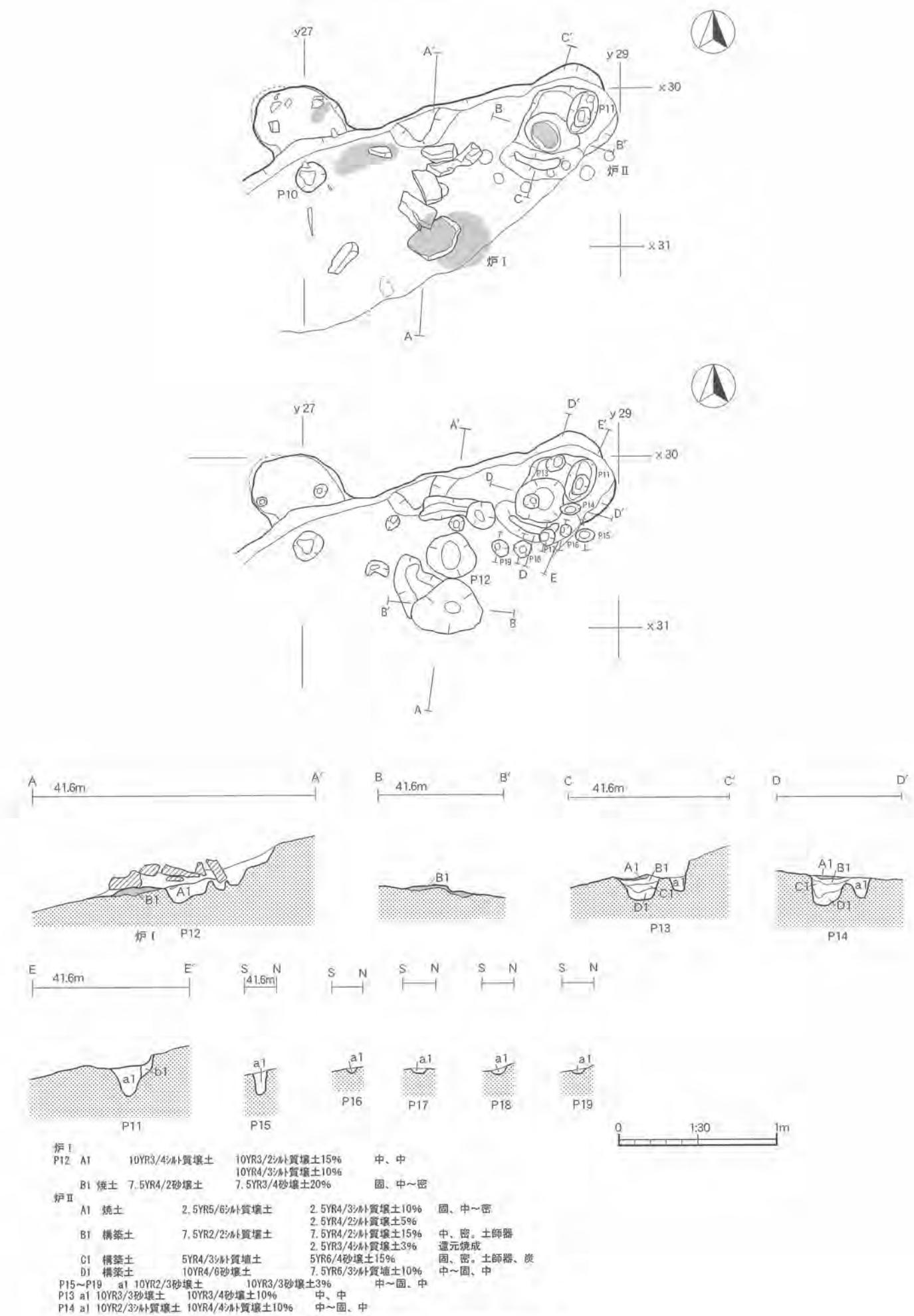


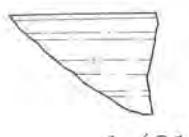
P3	a1 10YR3/3沙質壤土 10YR4/6沙質壤土 10%	軟, 中
b1 10YR3/3沙質壤土 10YR4/6沙質壤土 10%	軟, 中	
c1 10YR2/3沙質壤土 10YR4/6沙質壤土 10%	軟, 中	
P4	a1 10YR2/3沙質壤土 7.5YR4/4沙質壤土 10%	10YR4/2沙質壤土 5%
b1 10YR2/2沙質壤土 10YR4/4沙質壤土 15%	中~固, 中~密	
P5	a1 10YR2/3沙質壤土 7.5YR4/6沙質壤土 10%	軟, 中~密
b1 7.5YR4/6沙質壤土	10YR3/3沙質壤土 3%	
P6	a1 10YR3/3沙質壤土 10YR3/4沙質壤土 15%	中, 中~密
b1 10YR2/2沙質壤土 10YR4/4沙質壤土 15%	中~軟, 膜, 硬	
P8	a1 10YR2/2沙質壤土 10YR3/4沙質壤土 3%	中, 中~密
b1 10YR3/3沙質壤土 10YR4/6沙質壤土 15%	中~軟, 中	
P9	a1 10YR2/3沙質壤土	10YR4/6沙質壤土 3%
P10	a1 10YR2/3沙質壤土 10YR4/4沙質壤土 5%	中~軟, 中
b1 10YR3/4沙質壤土	10YR2/3沙質壤土 2%	
P11	a1 10YR2/2沙質壤土 10YR4/4沙質壤土 2%	中, 中~密
b1 10YR3/3沙質壤土 10YR4/3沙質壤土 10%	中, 中~密	
P12	a1 10YR2/3沙質壤土	7.5YR3/4沙質壤土 10%
b1 10YR4/4沙質壤土	10YR3/4沙質壤土 10%	
P13	a1 10YR3/3沙質壤土	10YR3/4沙質壤土 10%
b1 10YR2/3沙質壤土	10YR4/4沙質壤土 10%	
P14	a1 10YR2/3沙質壤土	10YR4/4沙質壤土 10%
b1 10YR2/2沙質壤土	10YR3/4沙質壤土 5%	
P15	a1 10YR2/2沙質壤土	10YR3/4沙質壤土 5%

A1	10YR4/6沙壤土	10YR5/4沙壤土 10%	固, 膜
B1	10YR2/3沙質壤土	10YR4/6沙質壤土 5%	中~固, 中
B2	10YR2/3沙質壤土	10YR4/6沙質壤土 5%	中~固, 中
C1	10YR4/2沙壤土	10YR4/6沙壤土 15%	中, 中
D1	7.5YR4/4沙壤土	7.5YR4/3沙質壤土 10%	中, 中~密
E1	10YR4/3沙質壤土	10YR5/3重壤土 3%	中~密
F1	10YR2/2沙壤土	10YR4/2沙壤土 10%	中~固, 中
G1	10YR4/4沙質壤土	10YR4/3沙質壤土 5%	中~固, 中

0 1:50 2m

第33図 17号竪穴跡





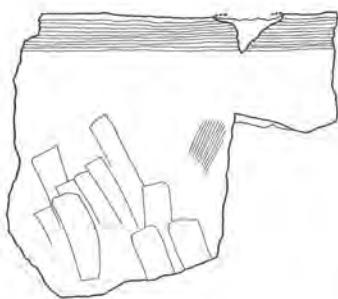
1 (C1層)



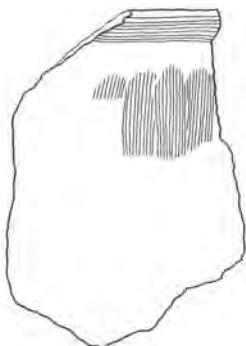
2 (炉 I)



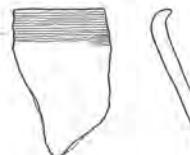
3 (検出面)



4 (炉 II)



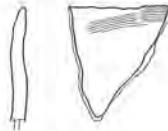
5 (炉 II)



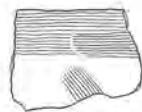
6 (C1層)



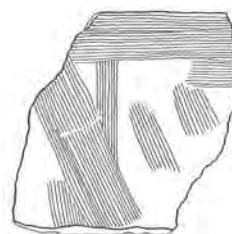
7 (P11)



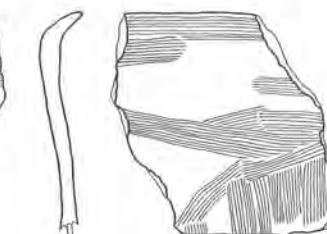
8 (炉 II)



9 (F1層)



10 (P7)



11 (炉 II)



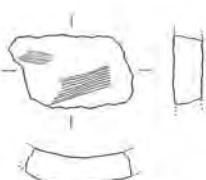
12 (P7)



13 (P7)



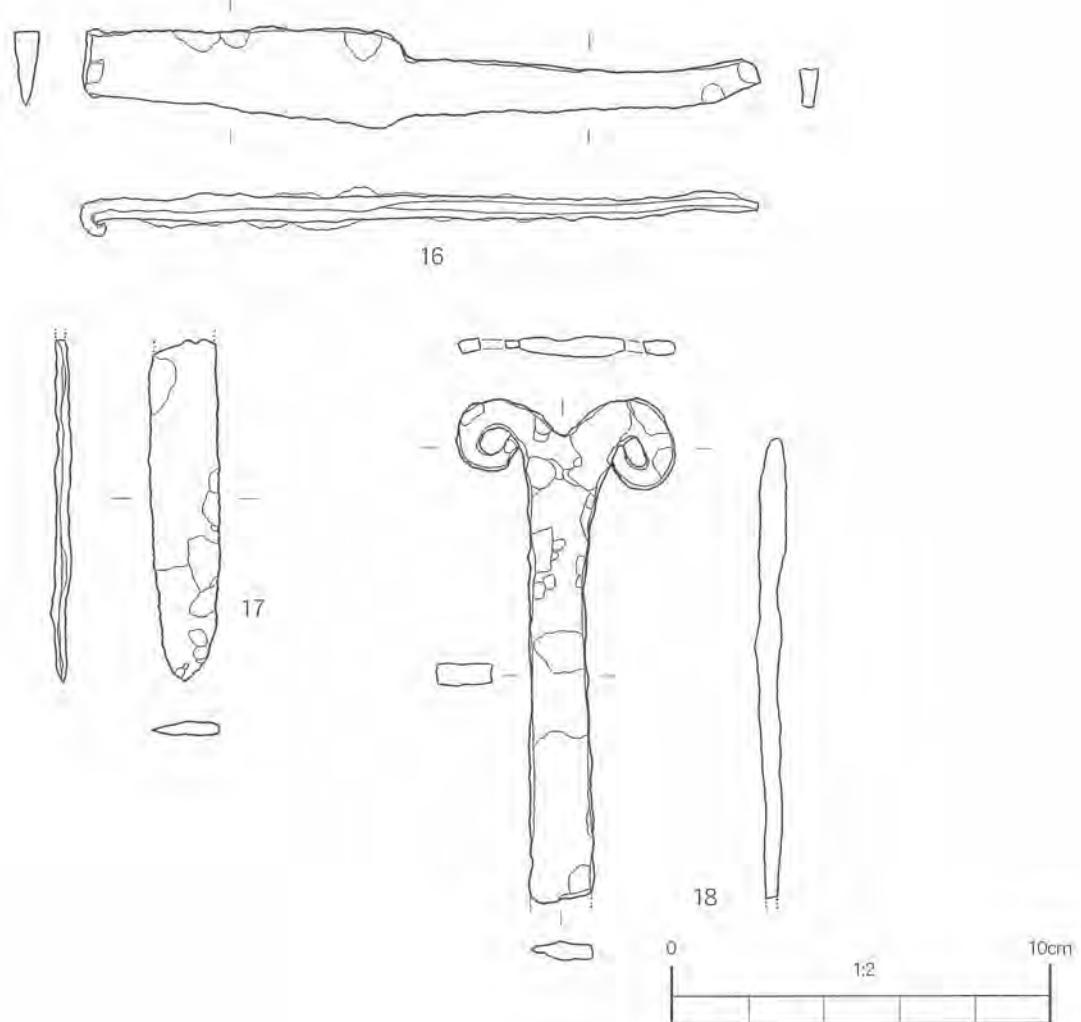
14 (B1層)



15 (炉 I)

0 1:3 5cm

第35図 17号竪穴跡出土遺物 (1)



図no	遺構	層位	器種	長さ (cm)	幅 (cm)		厚 (mm)	備考
					刃部	茎		
図36-16	17号竪穴	床面	刃子	18	2.5	1.2	7	先端部欠損
図36-17	17号竪穴	床面	刃子	9	1.8		2~4	茎欠損
図no	遺構	層位	器種		頭部	脚部	厚 (mm)	備考
図36-18	17号竪穴	床面	環状鉄製品	13.5	5.8	1.0~1.2	4~6	下部欠損

第36図 17号竪穴跡出土遺物 (2)

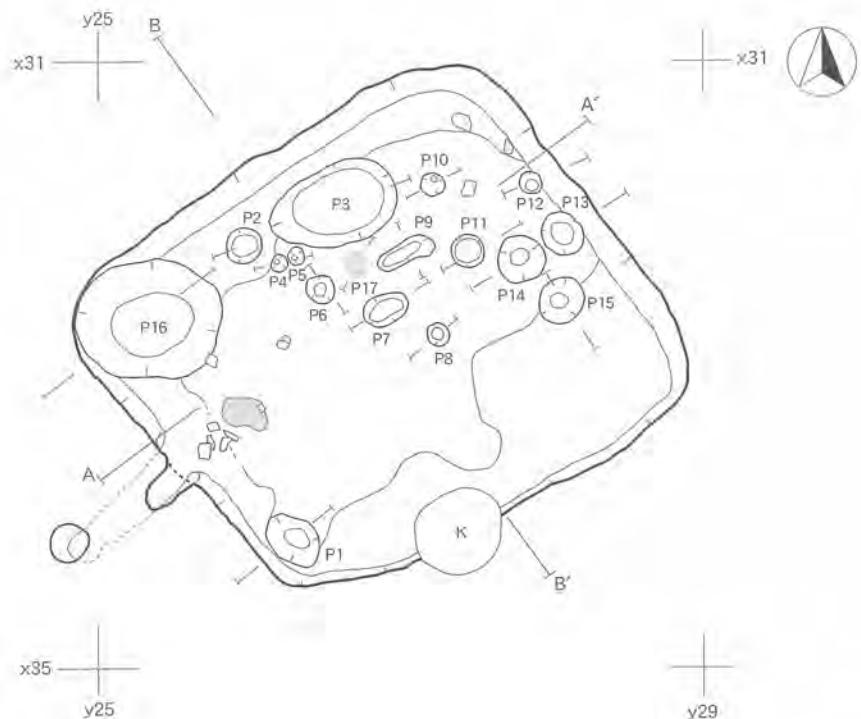
#### 18号竪穴住居跡 (第37図写真第4図版)

17号竪穴跡と重複する位置にあり、17号竪穴跡に切られている。検出面は8層上面である。平面形は隅丸方形である。規模は、東西3.3m、南北2.8mである。覆土は、上層 (B1) が黒褐色土、中層 (E1) が砂層、下層 (D1, F1) が黒褐色土で構成され、A1層は貼床層である。床面からは、主に北側で大小規模の土坑を検出した。p16の最上層からは鉄製品、骨片などが出土している。17は塊状の炭である。17は塊状の炭である。

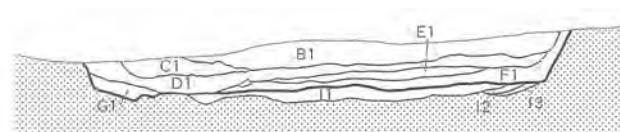
カマドは西側の壁に設けられている。煙道は下降して掘り込まれ、煙出しへほぼ垂直に立ち上がる。火床部の両側で溝跡を検出した。袖石を据えていた跡と推測する。c 3層は固く焼き締まった焼土層である。

#### 出土遺物 (第39、40図)

1~14は土師器の甕である。1~10は口縁部である。いずれも短い口縁部で、大半が「く」の字に外反するが、7、8はほぼ直角に折れる。10は器形が楕円に歪んだ甕である。11、12は体部、13、14底部である。

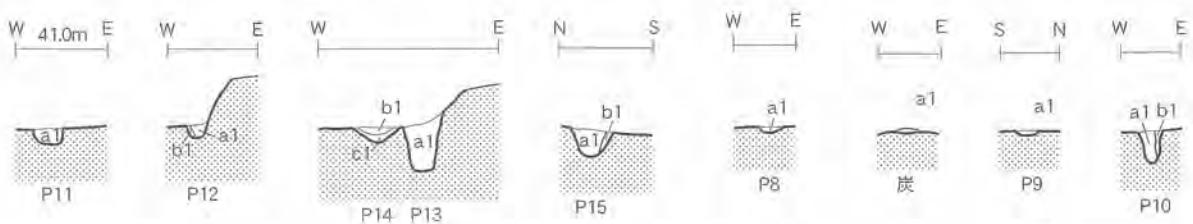
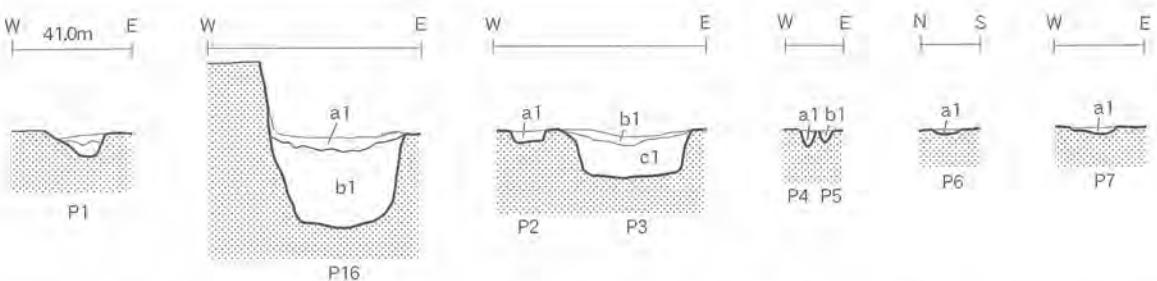
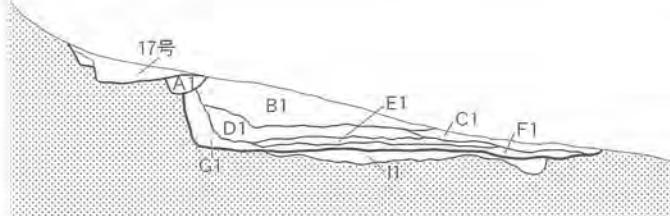


A 41.6m A'



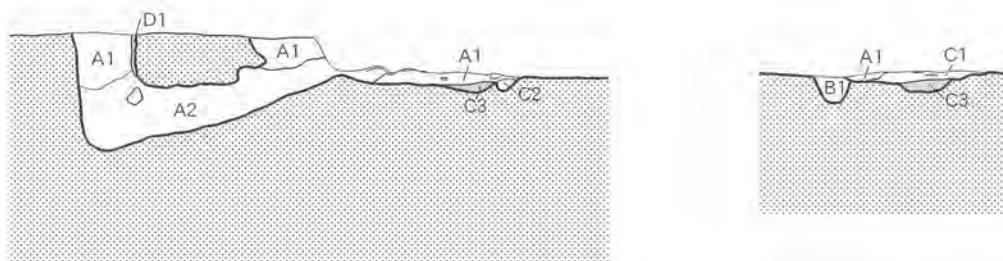
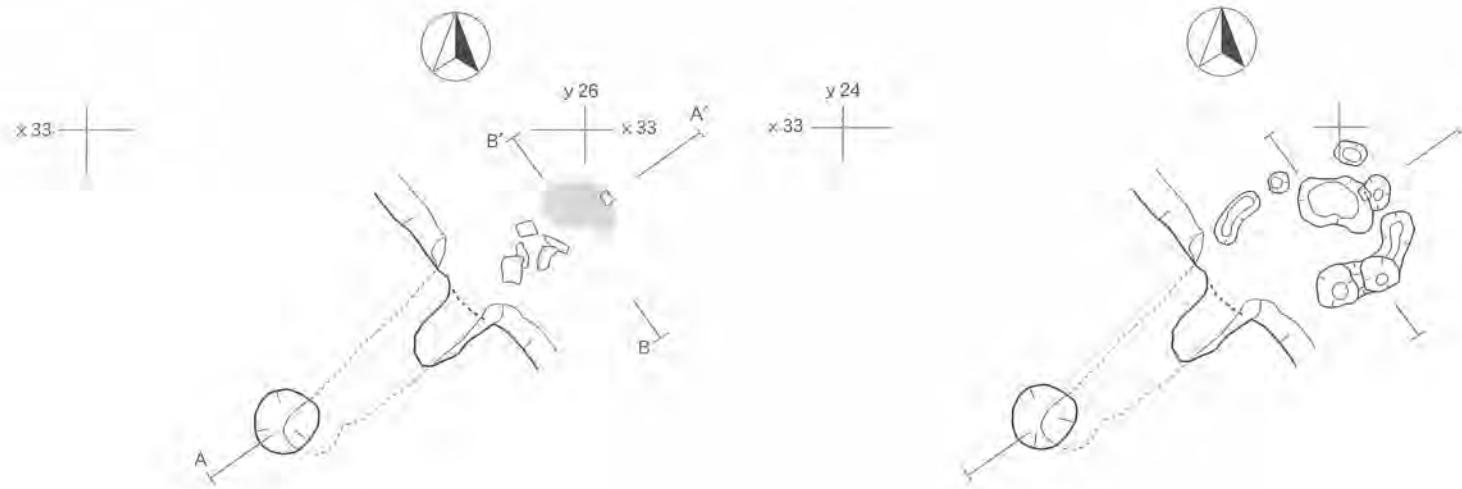
A1	3Ha貼床 10YR5/6砂壤土	10YR4/4砂壤土 15%	固、中～密
B1	10YR2/2砂壤土	10YR4/4砂壤土 2%	中、中。土師器
C1	10YR3/4砂壤土	10YR4/6砂壤土 2%	中、中～密
D1	10YR2/2.5粘質壤土	10YR3/4砂壤土 5%	中～軟、中～密
E1	10YR5/3砂土	10YR4/3砂土 10%	中、中～密
F1	10YR2/2.5粘質壤土	10YR3/4砂壤土 15%	中、中～密
G1	10YR3/4粘質壤土	10YR4/6砂壤土 10%	固、中～密。土師器、焼土
H1	10YR3/2.5粘質壤土	10YR2/1.5粘質壤土 10%	軟、中。土師器
I1	貼床 10YR4/6砂壤土	10YR3/2砂壤土 10%	固、密
I2	10YR4/2砂壤土	10YR2/2砂壤土 5%	中、疎。
I3	10YR2/2.5粘質壤土	10YR4/6砂壤土 2%	軟、中

B 41.6m B'

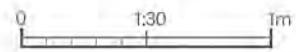


0 1:50 2m

第37図 18号竪穴住居跡

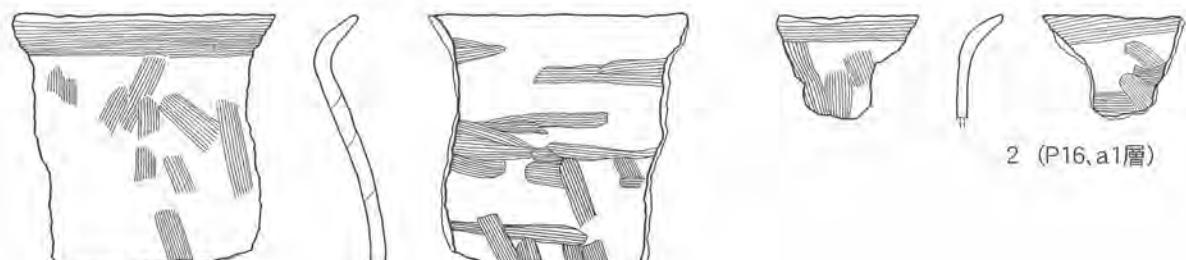


A1 煙道、煙出	10YR3/3砂壤土	10YR4/4砂壤土15% 5YR4/4砂壤土3% 燃土	中、中~密
A2 煙道	10YR3/4砂壤土	10YR5/4砂質壤土10% 10YR2/3砂壤土5%	中~軟、中~密。土器器
B1 抽石埋設	10YR4/2砂壤土	10YR5/3砂壤土2% 10YR5/6砂壤土2%	中~固、密
C1 燃土	5YR4/4砂質壤土	7.5YR4/2砂質壤土10% 5YR4/4砂質壤土2%	固、密
C2 小土坑	7.5YR4/4砂質壤土	5YR4/4砂質壤土2%	固、密
C3 燃土	2.5YR4/6砂壤土	5YR4/4砂壤土10%	固、中~密
D1 煙出	2.5YR3/2砂質壤土	5YR4/2砂質壤土10%	中~固、中~密



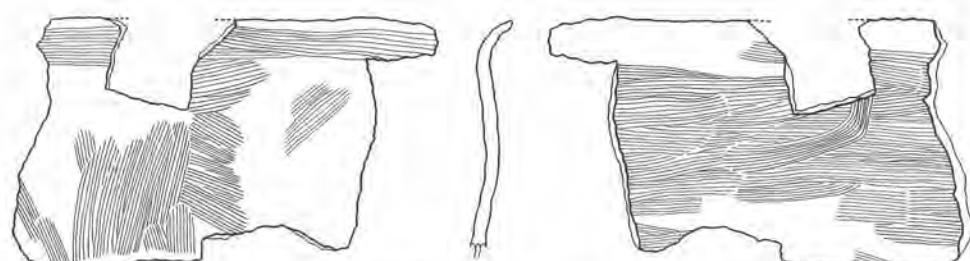
p1 a1	10Y R2/2砂質壤土	10Y R3/3砂質壤土15%	軟、中~密
b1	10Y R3/3砂質壤土	10Y R4/3砂質壤土2%	中、中~密
p2 a1	10Y R3/3砂質壤土	10Y R3/4砂質壤土15%	固、中~密
b1	10Y R2/2砂質壤土	10Y R2/1砂質壤土10%	中~固、中、燃、燒土少
c1	10Y R4/4砂質壤土	10Y R3/4砂質壤土3%	中~固、中、燒土少
p4 a1	10Y R2/2砂質壤土	10Y R3/4砂質壤土10%	中、中~密
b1	10Y R3/3砂質壤土	10Y R2/3砂質壤土10%	中、中
p5 a1	10Y R3/3砂質壤土	10Y R4/6砂質壤土10%	固、中
b1	10Y R3/3砂質壤土	10Y R3/4砂質壤土10%	固、中~密
p7 a1	10Y R2/2砂質壤土	10Y R3/4砂質壤土10%	固、中~密
b1	10Y R2/2砂質壤土	10Y R3/4砂質壤土10%	固、中
p11 a1	10Y R2/2砂質壤土	10Y R3/4砂質壤土10%	固、中~密。燒土粒多
b1	10Y R2/2砂質壤土	10Y R4/3砂質壤土10%	中~固、中
p8 a1	10Y R3/3砂質壤土	10Y R4/4砂質壤土10%	軟、疎
b1	10Y R3/3砂質壤土	10Y R3/3砂土2%	軟、疎
p9 a1	10Y R3/3砂質壤土	10Y R4/6砂壤土2%	軟、疎
b1	10Y R3/3砂壤土	10Y R4/2砂壤土10%	中、中
p10 a1	10Y R2/2砂質壤土	10Y R3/4砂壤土10%	中、中~疎
b1	10Y R3/3砂質壤土	10Y R4/3砂質壤土3%	軟、中
p12 a1	10Y R3/3砂質壤土	10Y R5/3砂土3%	軟、中
b1	10Y R3/4砂質壤土	10Y R3/4砂壤土10%	固、中、燒土粒少
p13 a1	10Y R3/3砂質壤土	10Y R4/2砂質壤土10%	固、密
b1	10Y R3/2砂質壤土	10Y R3/3砂質壤土20%	中、密
p14 a1	10Y R2/2砂質壤土	10Y R4/6砂質壤土2%	中~固、密
b1	10Y R2/2砂質壤土	7.5Y R3/4砂質壤土10%	中、密、燒土、鐵製品
p16 a1	5Y R4/4砂質壤土		

第38図 18号竪穴住居跡カマド

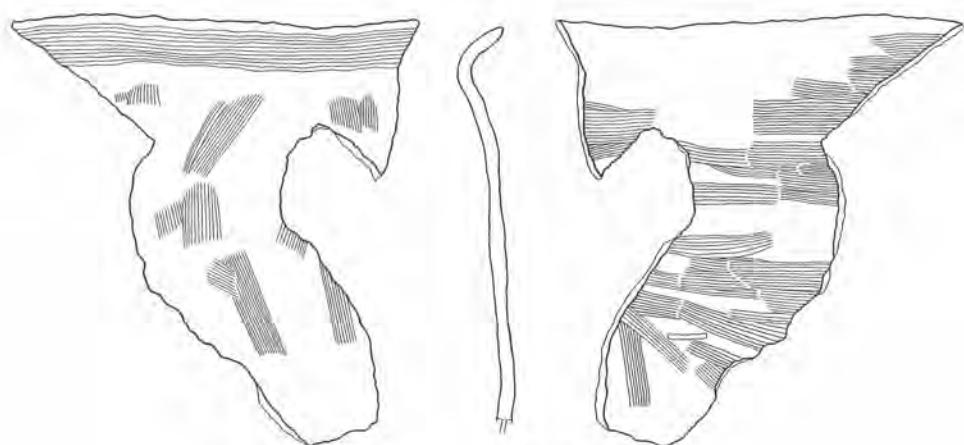


1 (P16, a1層)

2 (P16, a1層)



3 (カマド、A2層)



4 (カマド、A2層)



5 (B1層)



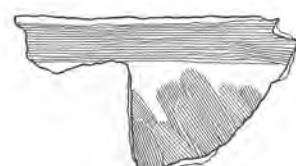
6 (E1層)



7 (床面)



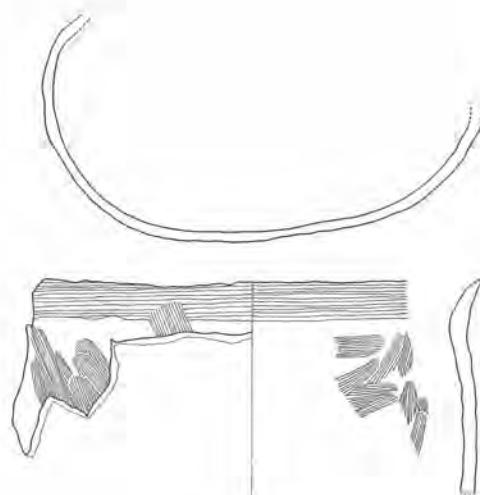
8 (E1層)



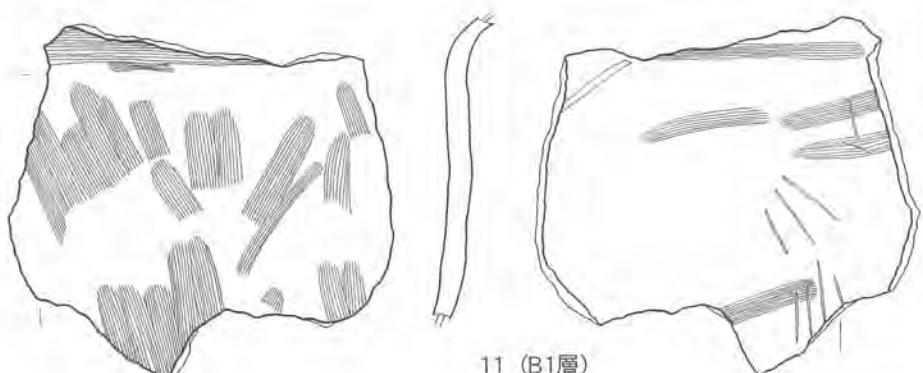
9 (床面)

0 1:3 5cm

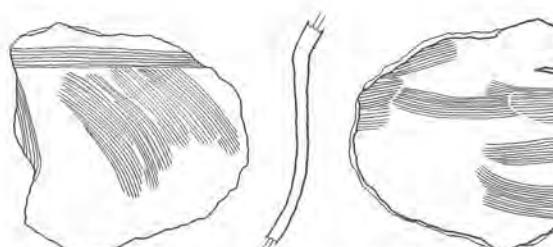
第39図 18号竪穴住居跡出土遺物 (1)



10 (E1層)



11 (B1層)



12 (床面)

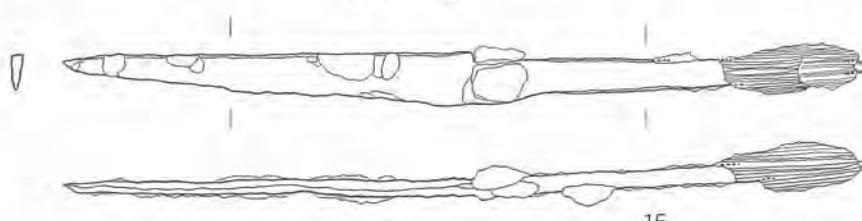


13 (D1層)

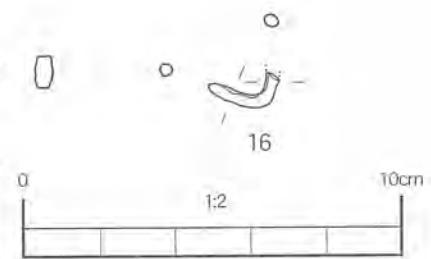


14 (P16, a1層)

0 1:3 5cm



15



16

第40図 18号竪穴住居跡出土遺物 (2)

5、16は鉄製品である。15はp16から出土した刀子である。全長21cmである。

16は釣針の先端部と推測する。径3mmである。

時期は、遺物から平安時代に伴う。

#### 21号竪穴住居跡（第41図写真第4図版）

E区の山裾に位置する。20号竪穴跡と重複し、同遺構に切られている。

平面形は方形である。規模は、4.1m×3.4mである。覆土のA1層は20号竪穴跡の構築土である。全体に暗、黒褐色土で覆われ（B1～E1）、壁際に黄褐色土が堆積する（F1）。A層は貼床層である。住居の北半分は地山面を掘り込んで床にしているが、南半分は盛土をして床を作っている。B1層以下の黒色土、褐色土が盛土層である。

床面の周縁部で中、小規模の土坑を検出している。p1、p2、p5、p6が主柱穴と推測する。p7から鉄滓が出土している。

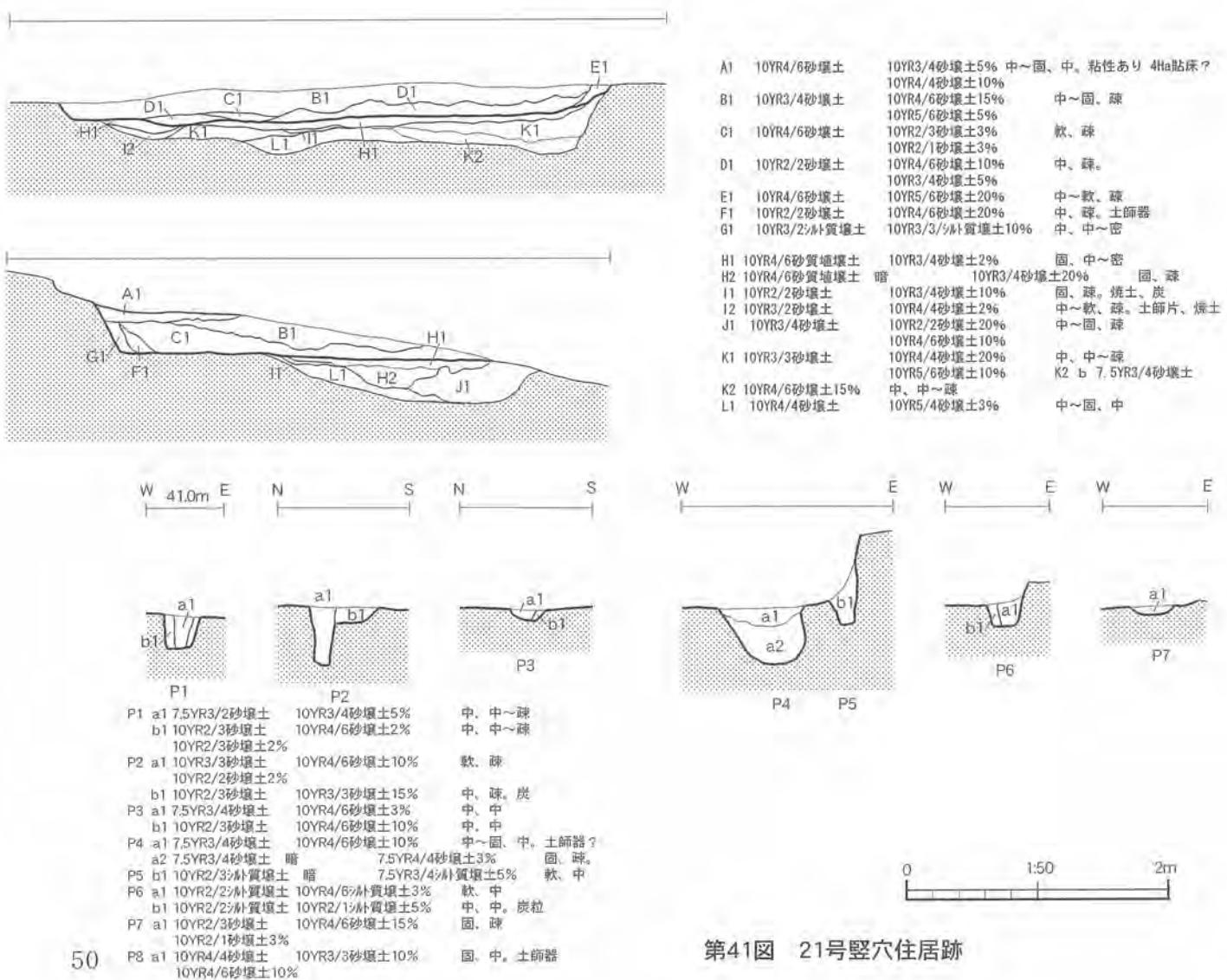
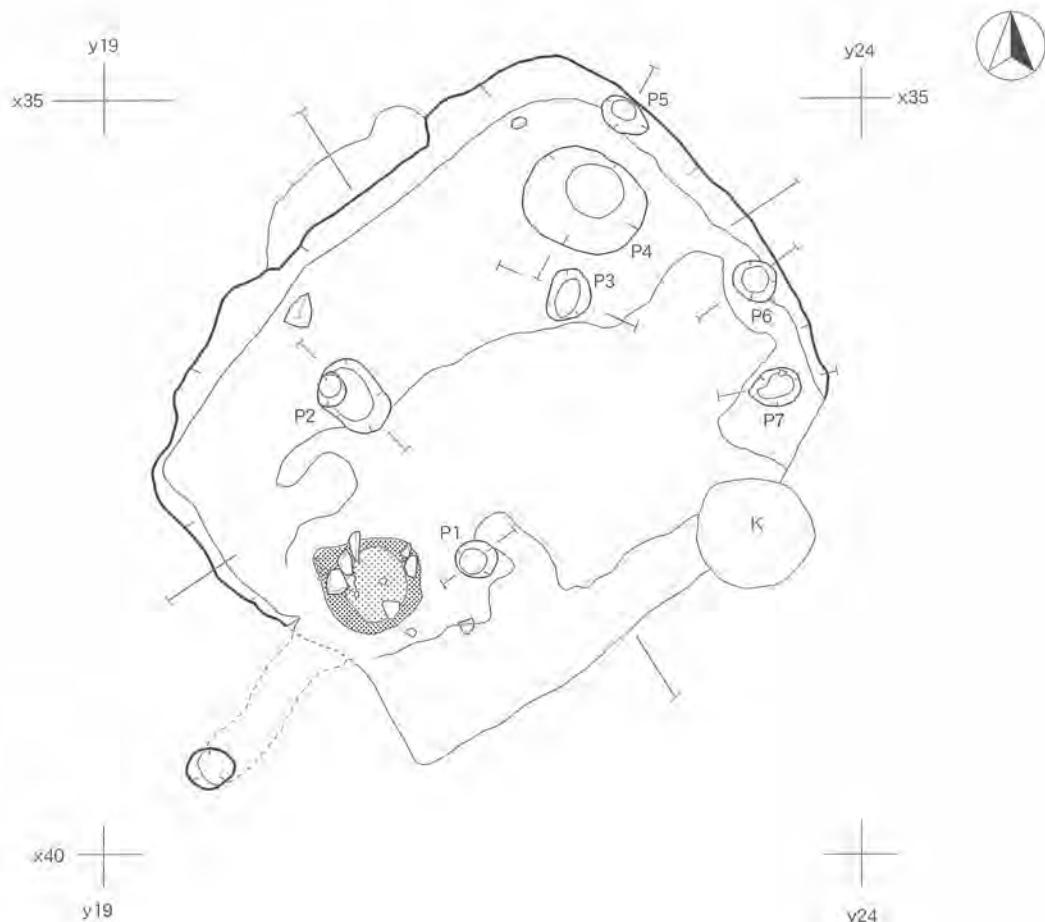
カマドは西側の壁のほぼ中央に設けられている。くり貫き式と思われる。煙道は下降して掘り込まれている。火床部は、円形に掘りくぼめて、両側に袖石を据えて構築している。k10層は固く焼き締まった焼土層である。

#### 出土遺物（第43図）

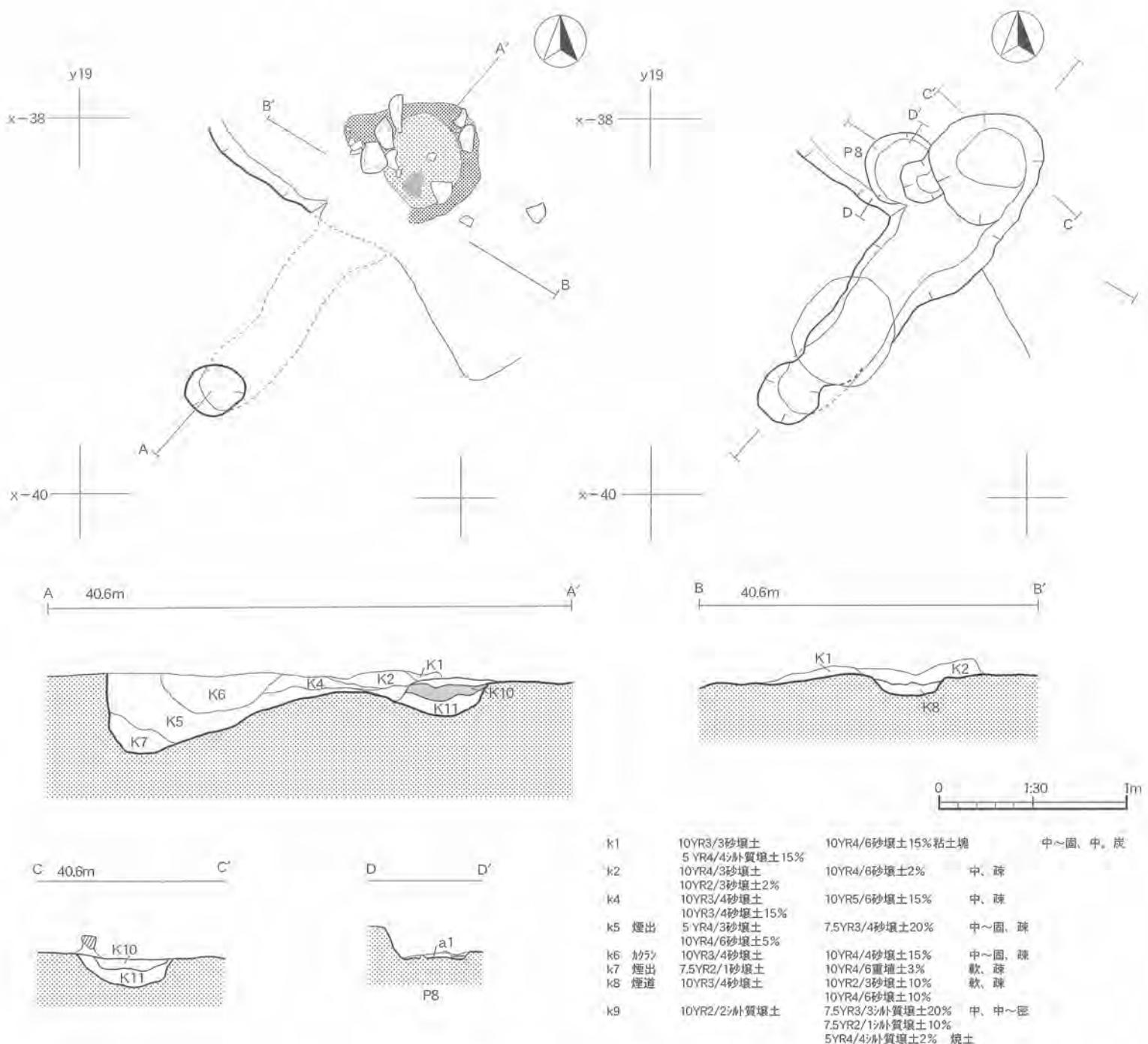
1～3は土師器である。1は口クロ使用の壺の口縁部である。2、3は甕の口縁部である。いずれも短く、「く」の字に外反する。

時期は、遺物から平安時代に伴う。

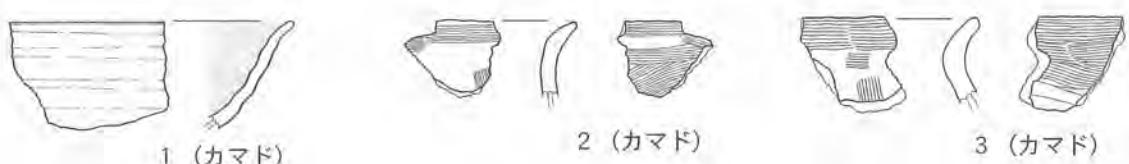
図no	遺構	層位	器種	全長(cm)	刃部		茎		厚(mm)
					長(cm)	幅(cm)	長(cm)	幅(cm)	
図40-15	18号住居	p16土坑	刀子	21.2	10.9	1.4	10.3	0.9	2～5
図no	遺構	層位	器種	高さ(cm)	幅(cm)	径(cm)	備考		
図40-16	18号住居	B1層	釣針？		1.7	3	軸部欠損		



第41図 21号竪穴住居跡



第42図 21号住居跡カマド



第43図 21号住居跡出土遺物

0 1:3 5cm

### 歓跡（第44図写真第5図版）

歓跡は、洞の北側と南側で検出している。検出面は、北の31号歓跡がXIX層上面、南の32号歓跡がXVIII層上面である。

### 31号歓跡（第44図写真第5図版）

A区からE区に連なる。歓方向は斜面に直交している。規模は、東西38mである。

覆土a 1層は、暗褐色土の混じるシルト質の黒褐色土である。

### 出土遺物（第45図）

1～11は土師器である。

1～5は壺である。いずれも口クロ成形されている。2、3、5は内黒処理され、5は底面に回転糸切痕を残す。6～9は口縁部である。いずれも短く、外反する。10、11は底部である。10はわずかに張り出し、底面に木葉痕を残す。11は小形の台付甕の底部である。

12は不定形な剥片石器である。

時期は、検出面、遺物から古代に伴う。

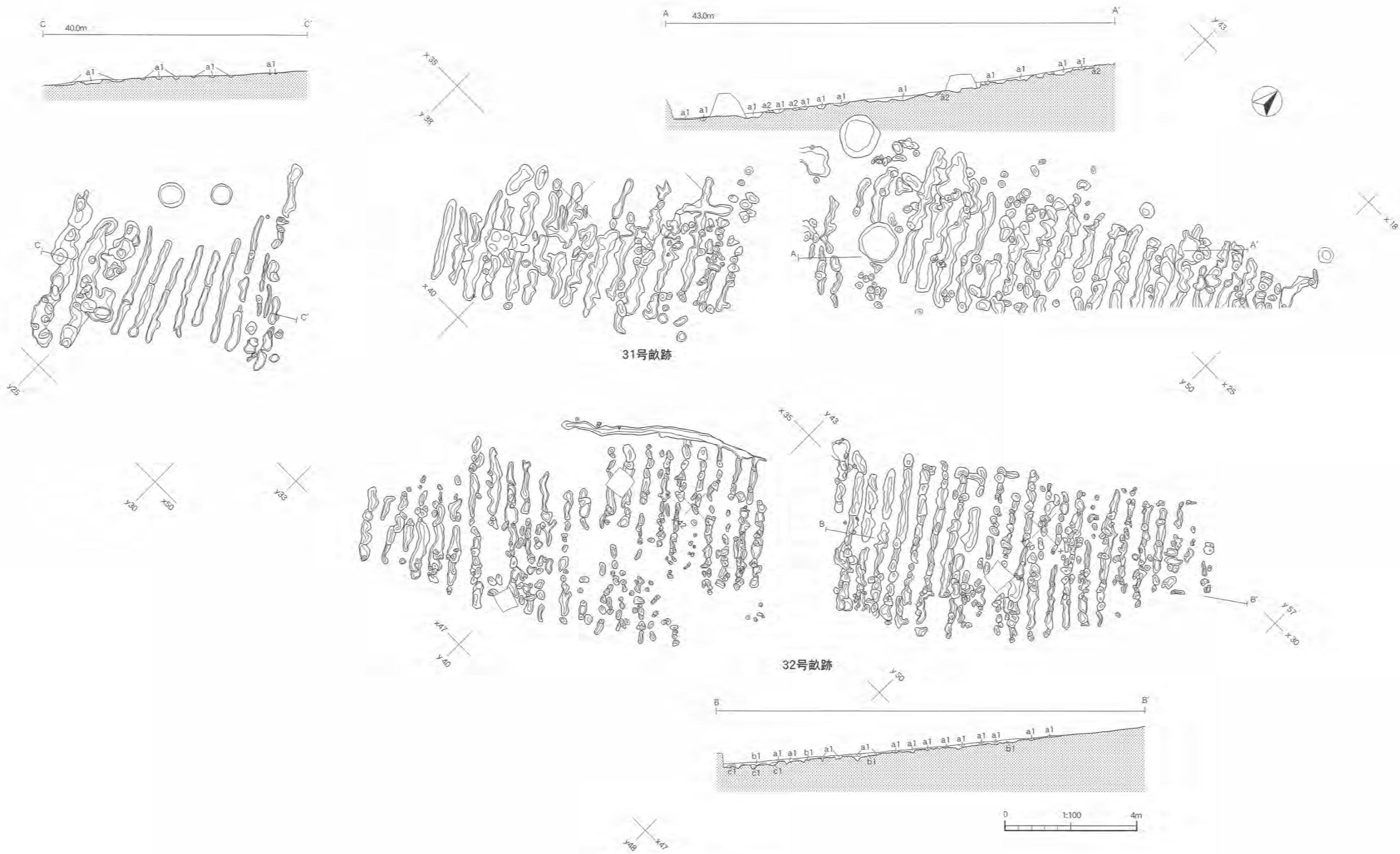
### 32号歓跡（第44図写真第5図版）

B区からD区に連なる。歓方向は、歓Iとほぼ同じであるが、わずかに西に寄る。

覆土a 1層は、黒色土を含む黒褐色砂壤土である。

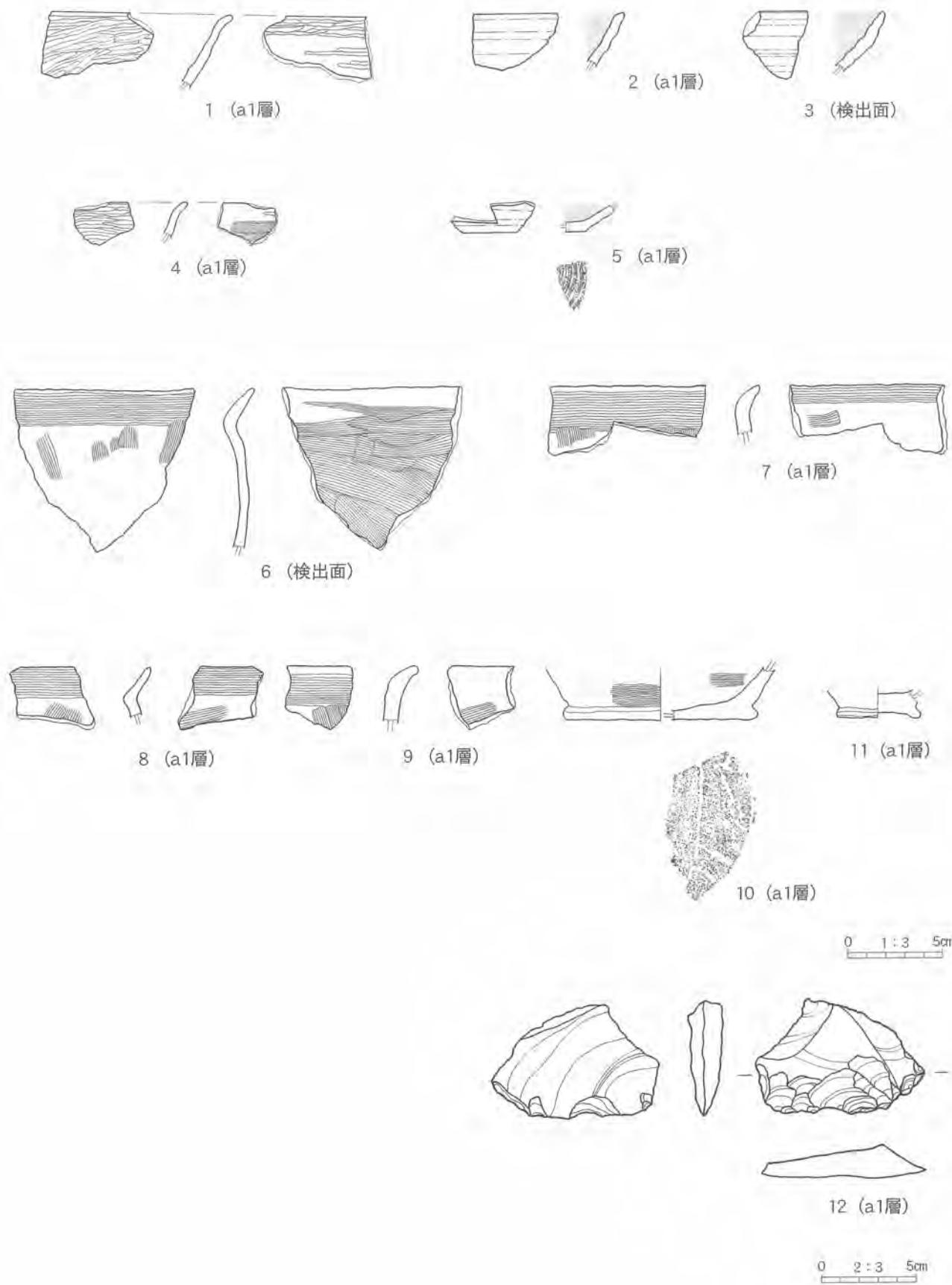
遺物は土師器、須恵器片などが出土地で出土しているが図化できなかった。

時期は、掘り込み面から近世に伴うと思われる。



第44図 31、32号歯跡





第45図 31号竪跡出土遺物

### 33号炭窯跡（第46図写真第5図版）

B区の山裾に位置する。検出面はXVII層上面である。

平面形は卵形に近く、西側に焚口、東側に煙出しを設けている。規模は東西4.5m、南北2.3mである。

覆土A、B層はブロック状に堆積しており、天井の崩落土と思われる。床面はほぼ全面炭を含む黒色土で覆われ、周縁部の壁際で極小規模な土坑の列を検出している。床面は還元焼成によりかなり固く焼き締まった黒色土と、その下の赤褐色土で構成されていることが断ち割りで確認できた。構築時点では焼き締めたものと思われる。

煙出しは、石を組んで作った出口と、筒状の土製品を煙道としてやや斜めに埋め込んで連絡するという構成である。

遺物は出土していない。

時期は、近世から近、現代に伴う

### 34号区炭窯跡（第47図写真第5図版）

4区の山裾に位置し、1号炭窯との距離は10mである。

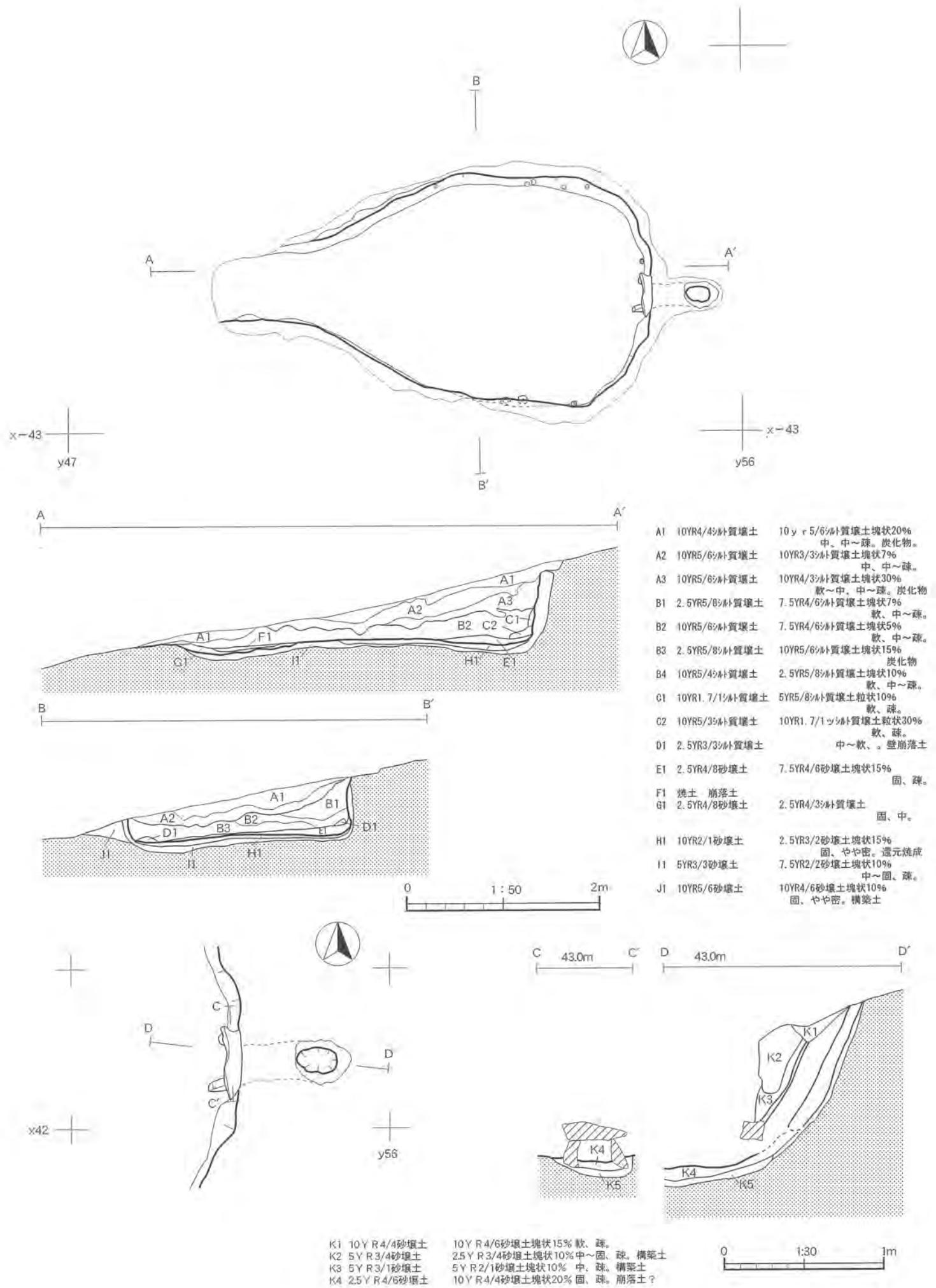
平面形は1号炭窯と同様に卵形に近く、西側に焚口、東壁に煙出しを設けている。規模は東西4.0m、南北2.5mである。

覆土A～c層は、天井、側壁の崩落土である。南側の壁には石を組んだ跡が残されている。床面東の壁際で杭跡の列を検出している。細線で示したのは、土が赤色あるいは紫色に変色した範囲である。床面は、固く焼き締まった厚い黒色土層で覆われている。黒色土の下からやはりほぼ全面に広がる暗赤褐色土層を検出した。還元焼成によるものと推測する。

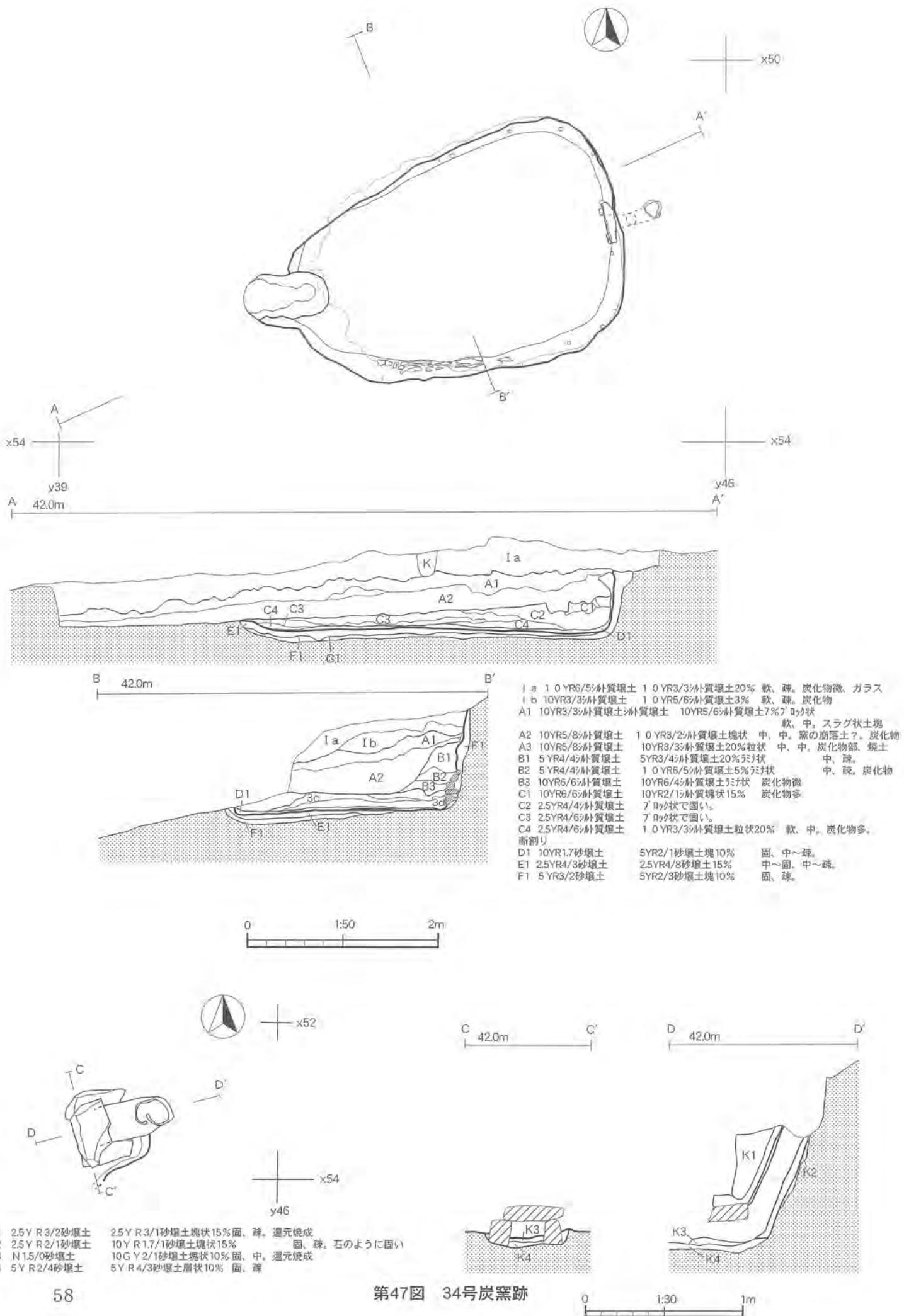
煙出しは、出口の石組、煙道の筒状の土製品、石組と筒をつなぐ構造など1号炭窯と同じである。

遺物は出土していない。

窯の構造、出土位置などから1号炭窯と同時期のものと考える。時期は、近世から近、現代に伴う。



第46図 33号炭窯跡



第47図 34号炭窯跡

#### 19号土坑跡（第48図写真第5図版）

5区の山裾に位置する。検出面は地山面である。

平面形は方形である。規模は1.2m×0.8m、深さ20cmである。覆土は軟質の暗褐色土である。船釘、木質などを多数含んでいる。

#### 出土遺物（第49～51図）

遺物はすべて鉄製品である。1～23は船釘である。1～7は13.5cm（4寸5分）、8～12は12.0cm（4寸）、13は10.0cm、14～19は9.0cm（3寸）である。

24～26は角釘である。

27～29は鎌である。寸法は、27が7.0cm、28、29が約10.0cmである。

時期は、遺物から近、現代に伴うものと考える。

#### 20号竪穴跡（第48図）

E区23号土坑の西に位置する21号住居跡と重複し、同遺構を切る。

平面形は不整方形である。規模は2.5m×1.6mである。覆土は黒褐色土、遺物を含んでいない。床面から小規模は焼土、土坑跡を検出している。p 2から魚の骨、炭、灰などが出土している。

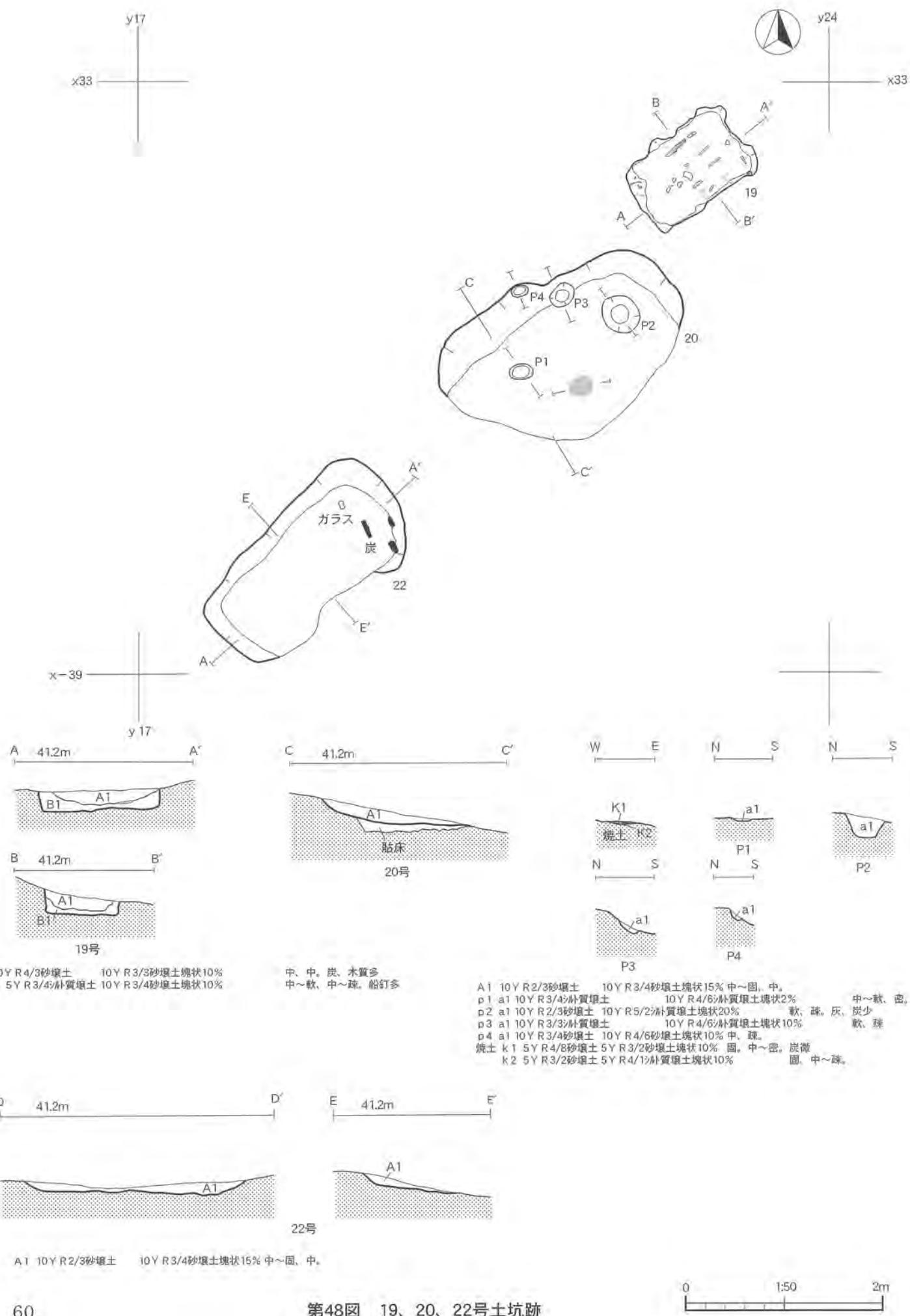
時期は、周辺の遺構の出土状況から近、現代に伴うものと推定する。

#### 22号竪穴跡（第48図第5図版）

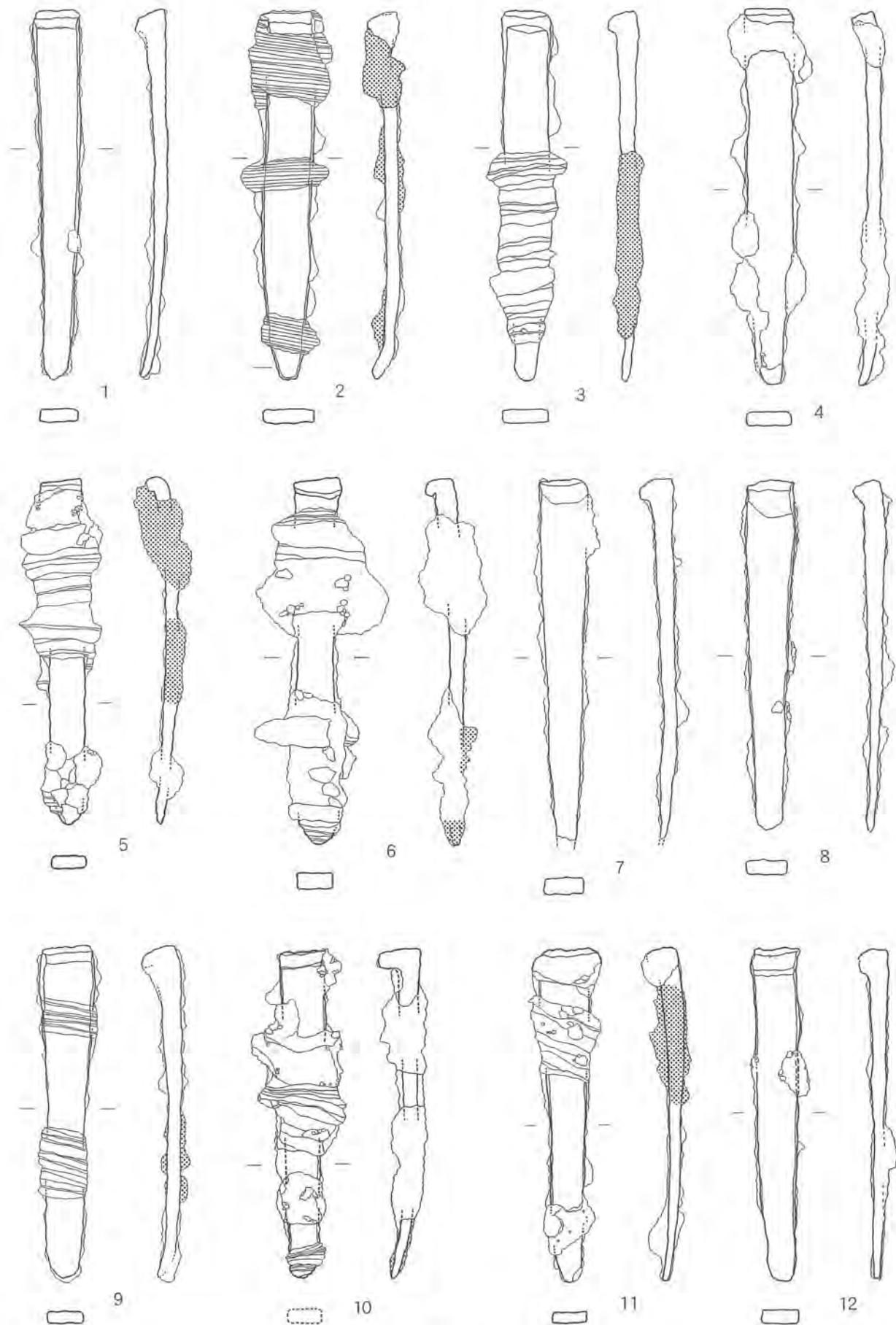
E区20号竪穴の西に位置する。

平面形は方形である。規模は2.3m×1.1mである。覆土は軟質の黒褐色土である。釘、ガラスなどを含む。床面から炭塊が出土している。

時期は、遺物から近、現代に伴う。

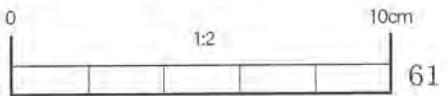


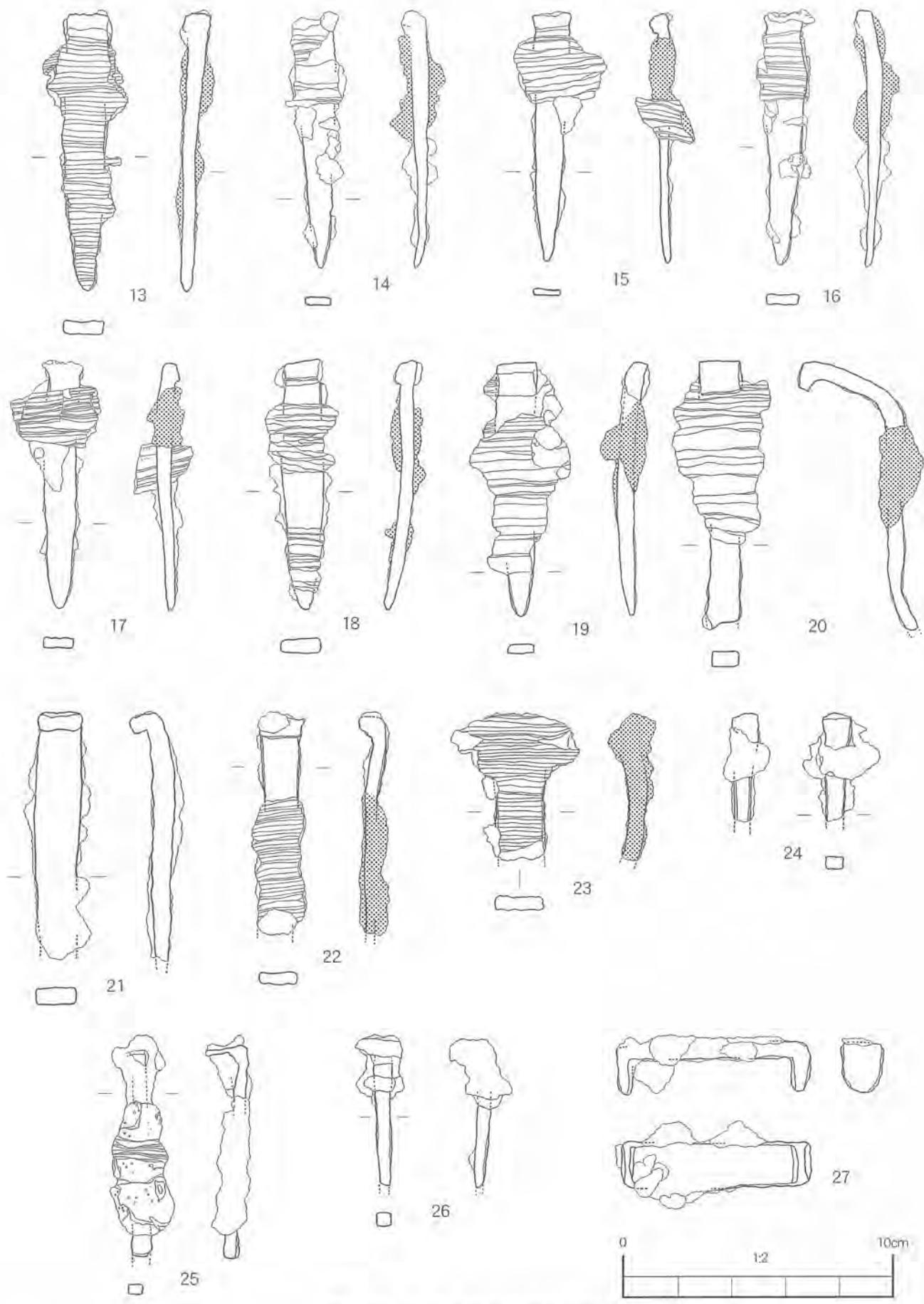
第48図 19、20、22号土坑跡



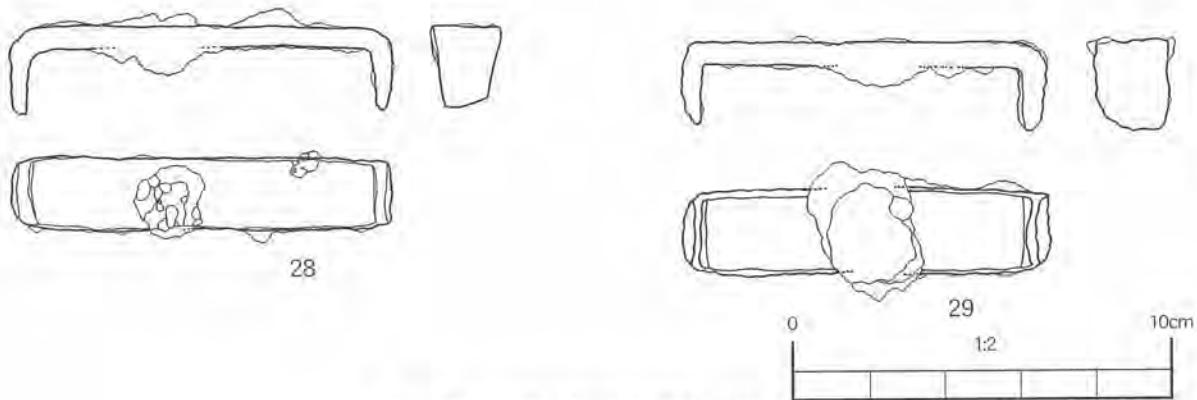
■は木質の断面を示す。

第49図 19号土坑出土遺物 (1)





第50図 19号土坑出土遺物 (2)



第51図 23号土坑出土遺物 (3)

図no.	遺構	層位	器種	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	備考
図49-1	19号土坑	覆土	船釘	13.3	1.6	5.0	
図49-2	19号土坑	覆土	船釘	13.3	1.8	5.0	
図49-3	19号土坑	覆土	船釘	13.4	1.8	5.0	
図49-4	19号土坑	覆土	船釘	13.6	1.6	5.0	
図49-5	19号土坑	覆土	船釘	12.6	1.5	4.0	
図49-6	19号土坑	覆土	船釘	13.3	1.7	5.0	
図49-7	19号土坑	覆土	船釘	13.1	1.8	5.0	
図49-8	19号土坑	覆土	船釘	12.7	1.7	5.0	
図49-9	19号土坑	覆土	船釘	12.2	1.8	5.0	
図49-10	19号土坑	覆土	船釘	11.8	1.6	5.0	
図49-11	19号土坑	覆土	船釘	12.0	1.5	4.0	
図49-12	19号土坑	覆土	船釘	12.1	1.7	4.0	
図50-13	19号土坑	覆土	船釘	10.4	1.7	5.0	
図50-14	19号土坑	覆土	船釘	9.5	1.6	5.0	
図50-15	19号土坑	覆土	船釘	9.3	1.5	3.5	
図50-16	19号土坑	覆土	船釘	9.5	1.4	4.0	
図50-17	19号土坑	覆土	船釘	9.2	1.5	5.0	
図50-18	19号土坑	覆土	船釘	9.4	1.5	5.0	
図50-19	19号土坑	覆土	船釘	9.5	1.5	6.0	
図50-20	19号土坑	覆土	船釘	10.0	1.6	6.0	下部欠損
図50-21	19号土坑	覆土	船釘	9.2	1.6	7.0	下部欠損
図50-22	19号土坑	覆土	船釘	8.3	1.5	4.0	下部欠損
図50-23	19号土坑	覆土	船釘	5.4	1.8	5.0	下部欠損
図50-24	19号土坑	覆土	角釘	4.0	0.9	7.0	下部欠損
図50-25	19号土坑	覆土	角釘	7.5	0.7	4.0	下部欠損
図50-26	19号土坑	覆土	角釘	5.4	0.7	4.0	下部欠損
図50-27	19号土坑	覆土	鍵	2.0	7.2	6.0	
図50-28	19号土坑	覆土	鍵	1.8	10.0	5.0	
図50-29	19号土坑	覆土	鍵	2.0	9.6	6.0	

#### 尾根先端部の豊穴状遺構、土坑跡（第52図写真第5図版）

尾根先端部の斜面に掘られた遺構群である。検出面はいずれも地山面である。

横長の豊穴状遺構（23号、24号、26号、29号、30号）、円形の土坑（28号）方形の土坑（27号）などである。覆土は13号を除いて、細礫を多く含む真砂土である。

9号、10号、25号の床面で、炭、焼土の広がりを確認した。9号の床面で腐食したスコップ、13号の床面では丸釘を検出した。

遺物、出土状況から現代の遺構群と判断し、焼土遺構は平面記録に止め、精査は割愛した。

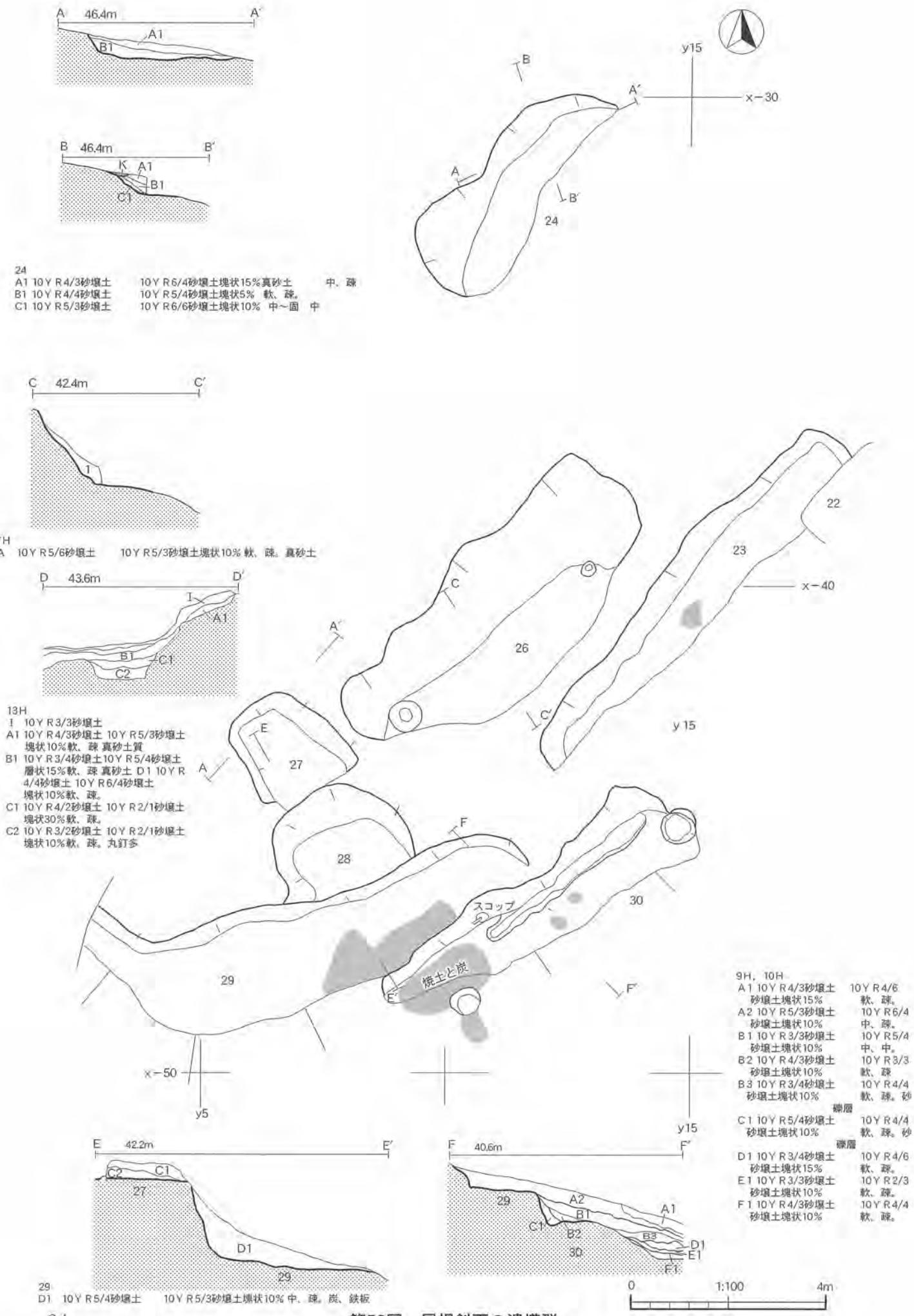
#### 25号溝跡（第53図写真第5図版）

尾根とほぼ直交するように、裾から中腹に向かって掘り込まれた大規模な土坑である。尾根先端部の遺構群の一つ24号に切られている。

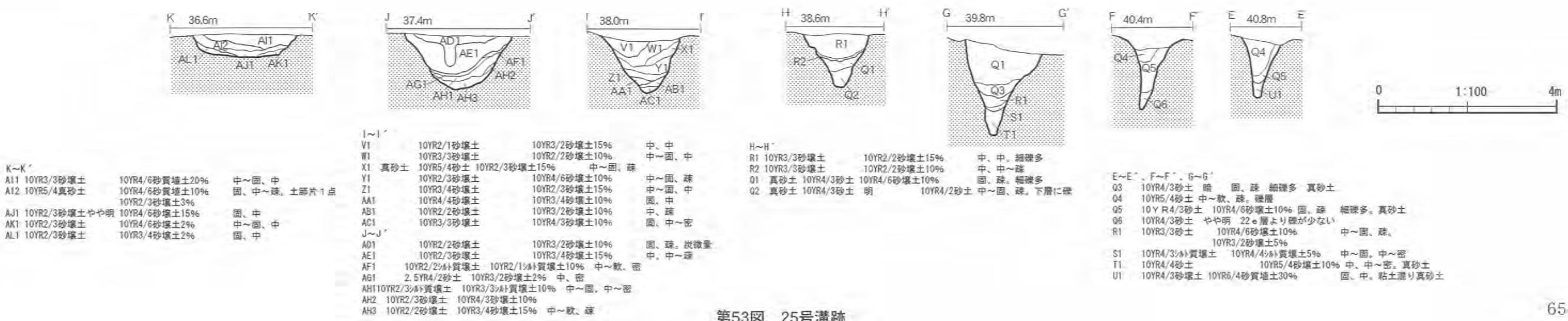
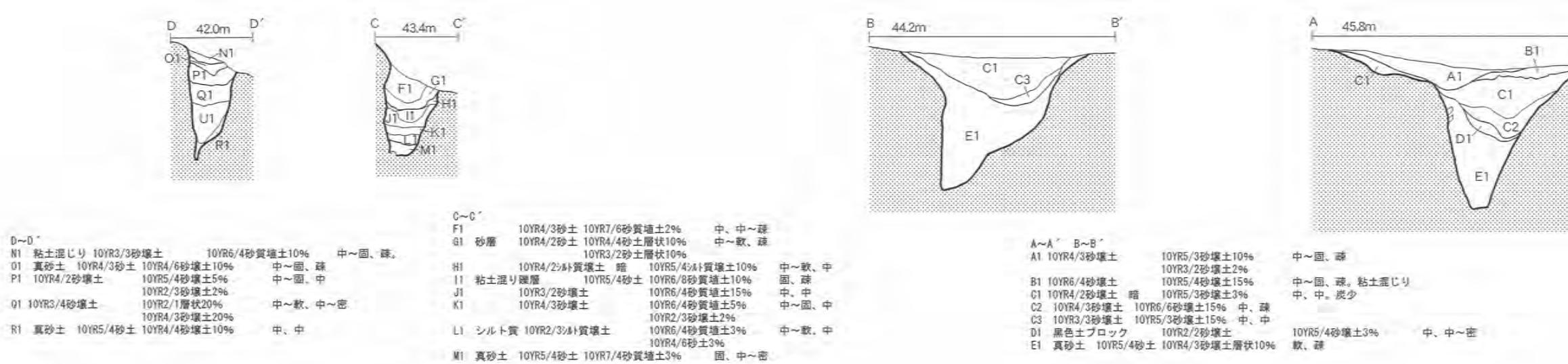
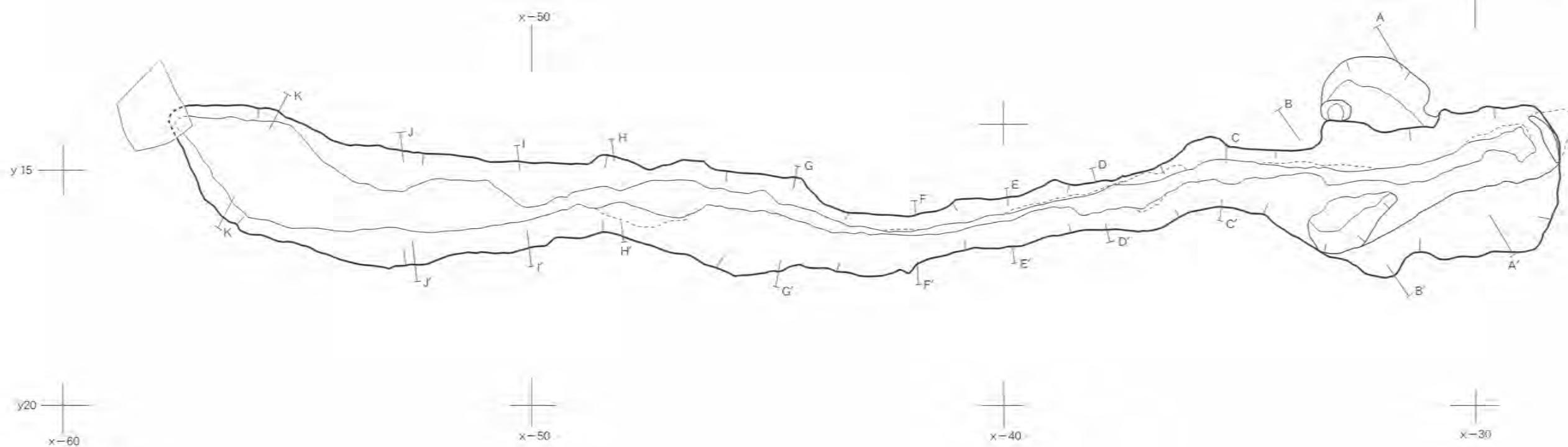
ほぼ直線的に掘り込んでいるが、掘り方、幅や深さの規模も一定ではない。真中あたりで人が通れるほどに狭くなり、オーバーハングしている箇所もある。幅は3.0m～1.0mである。深さは尾根中腹にむかって次第にふかくなり、北端の最深部で、2.8mを測る。

覆土は、上層は黒色土であるが、山寄りで中、下層に粘土などが混入する真砂土が流れ込んでいる。遺物はベルトGの中層から土師器の甕が1点出土している。

時期、遺構の性格などは不明である。



第52図 尾根斜面の遺構群



第53図 25号溝跡



## 遺構外出土遺物（第54～61図）

出土状況は、洞の北側（A、C、E、G区）と南側（B、D、F区）では異なり、北側の出土量の多さが際立っている。北側、南側の順に記述していく。

### A区（第54図）

1～4は土師器の坏である。1～3の口縁部はロクロ成形されて、内黒処理を施される。4は高台の付いた痕を残す底部である。5～7は須恵器である。5、6は甕の体部片で、タタキメを残す。7はロクロ成形の壺の頸部である。8～17は土師器の甕である。8はわずかに外反する短い口縁部である。9～16は底部である。9～15は小さな張り出しを持つが、16は張り出しを持たない。17、18は土師器の小形の鉢である。18はロクロ成形である。19は沈線で施文された縄文土器である。

20は鉄製品の釣針である。21は石器の砥石である。

### C区（第54～57図）

1～6は土師器の坏である。いずれもロクロ成形され、内黒処理を施される。5、6は高台が付く。7～9は須恵器の甕である。いずれもタタキメを残すが、8は内面にロクロ目を残している。10～31は土師器の甕である。10～21は口縁部である。大半が短い口縁部で、わずかに外反している。12は大きく外反し、14は内湾気味である。22～31は底部である。22～27は張り出しを持つが、28～31はまったく張り出しを持たない。

32は縄文土器である。深鉢の底部である。

33～38は土製品である。湾曲面をもち、内面に明瞭なハケメを残している。支脚と思われる。

39～41は石器である。39は鎌である。40は不定形な剥片石器である。41は砥石である。

42は銭貨である。銭銘は「熙寧元寶」（きねいげんぽう）である。北宋銭の模鋳銭？である。43は鉄製品である。刃部、区、茎を持つ。方頭式の鉄鎌と思われる\*。

### E区（第58、59図）

1～23は土師器である。1～5は坏である。いずれもロクロ成形される。3～5には高台の付く。4を除き内黒処理を施される。

6～23は甕である。6～20は口縁部である。いずれも短く、13を除いてわずかに外反する。21～23は底部である。いずれも明瞭な張り出しをもつ。24は縄文土器で鉢の底部である。

25、26は土製品である。25は湾曲面をもつ筒状の製品である。支脚と思われる。26は型起こし成形された大黒様である。

27は石器の鎌である。

### G区（第60図）

1～6は土師器の甕である。1～3は口縁部である。いずれも短く、わずかに外反する。1はくびれているが、意図的なものかどうかは不明である。4～6は底部である。4、6は張り出しを持つが、5はまったく持たない。

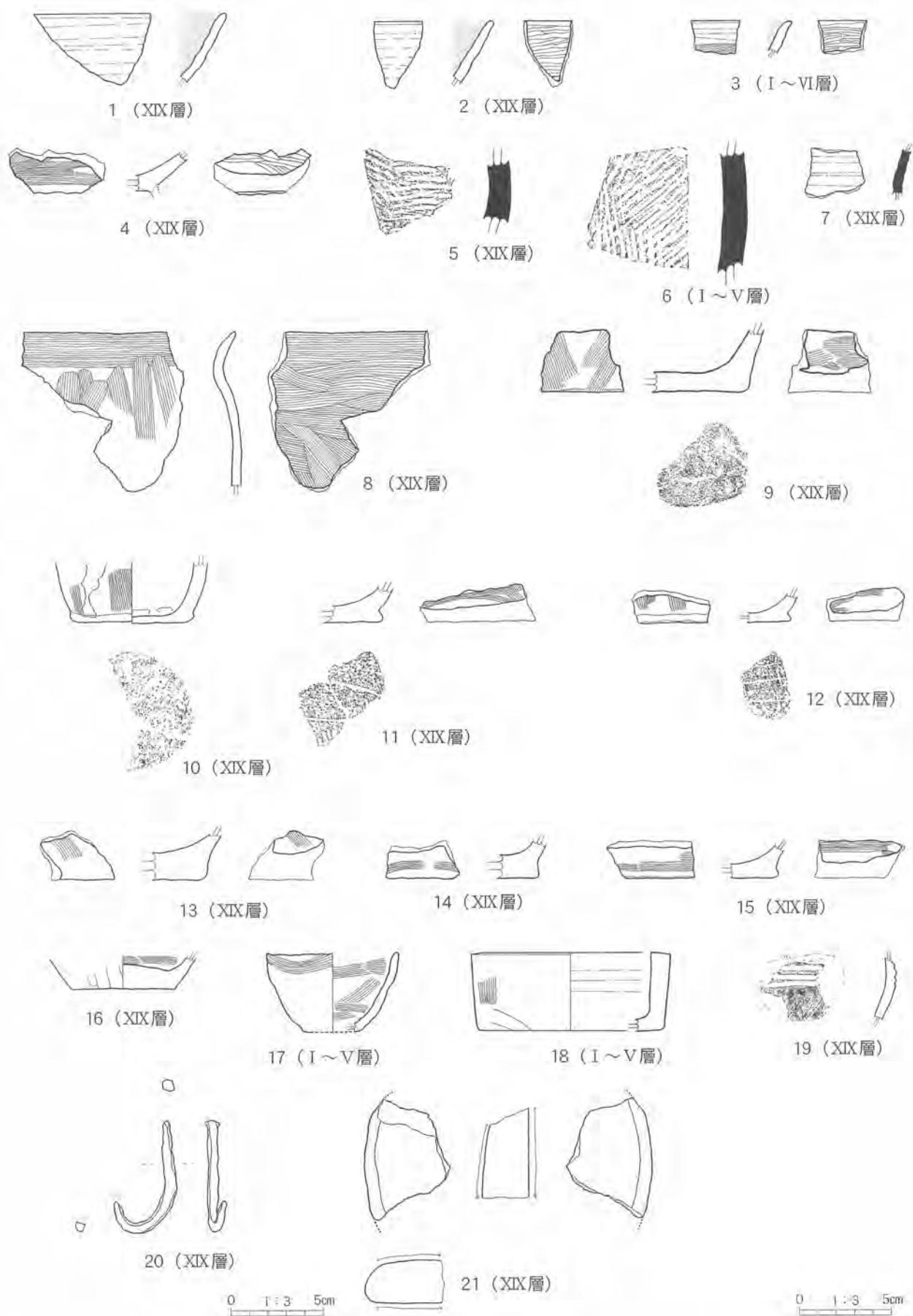
7は須恵器である。甕の体部片で、内外面にタタキメを残す。

8は染付け陶磁器である。筒型の湯呑みである。高台脇には、松葉文のと思われる文様が施文される。

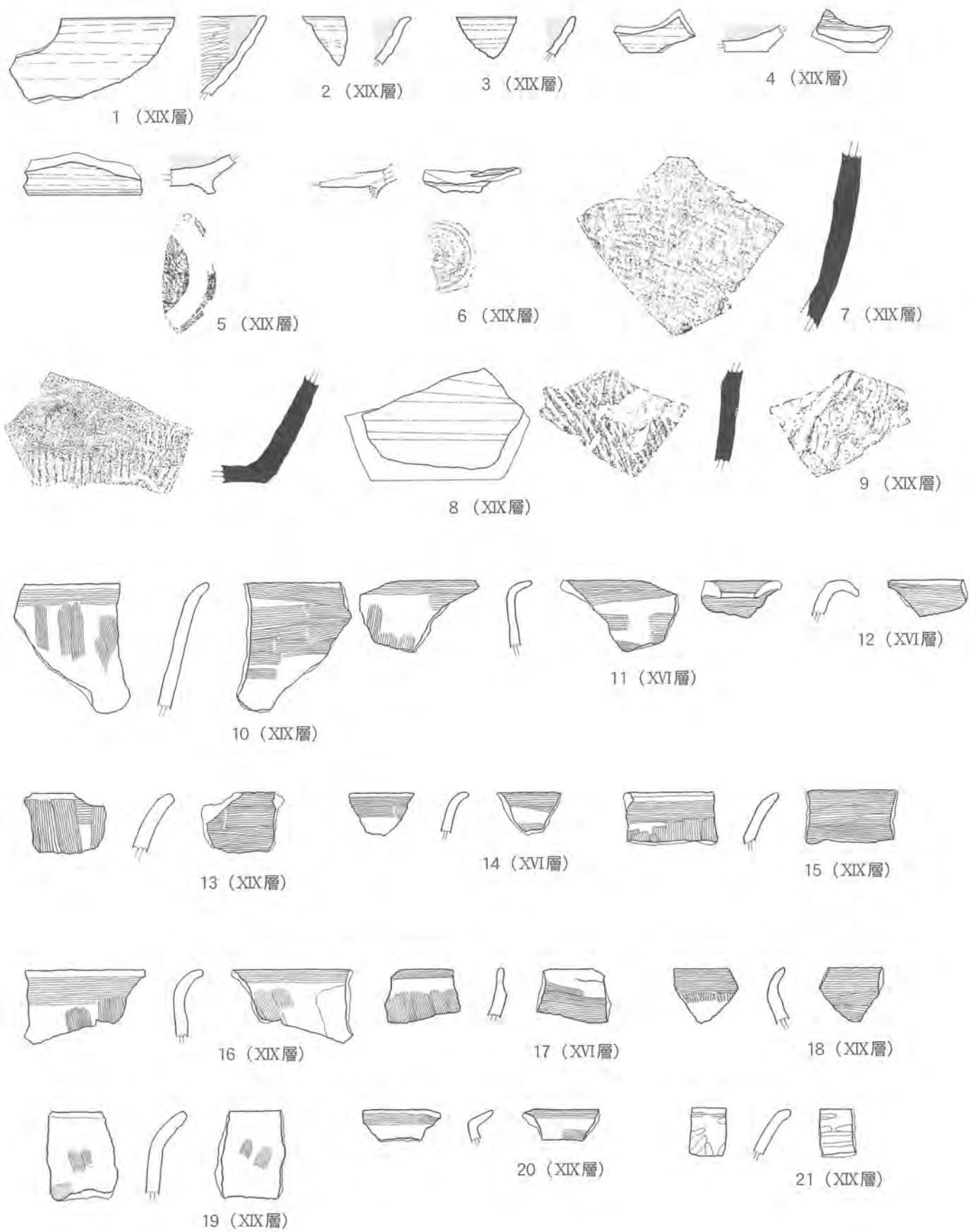
9は鎌である。10は不定形な剥片石器である。

### B区（第61図1～9）

1、2は土師器の坏である。1は口縁部で、ナデメを残す。2はロクロ成形された高台付きの底部である。内黒処理が施される。3須恵器である。甕の体部片で、タタキメを残す。4、5は土師器の甕の口

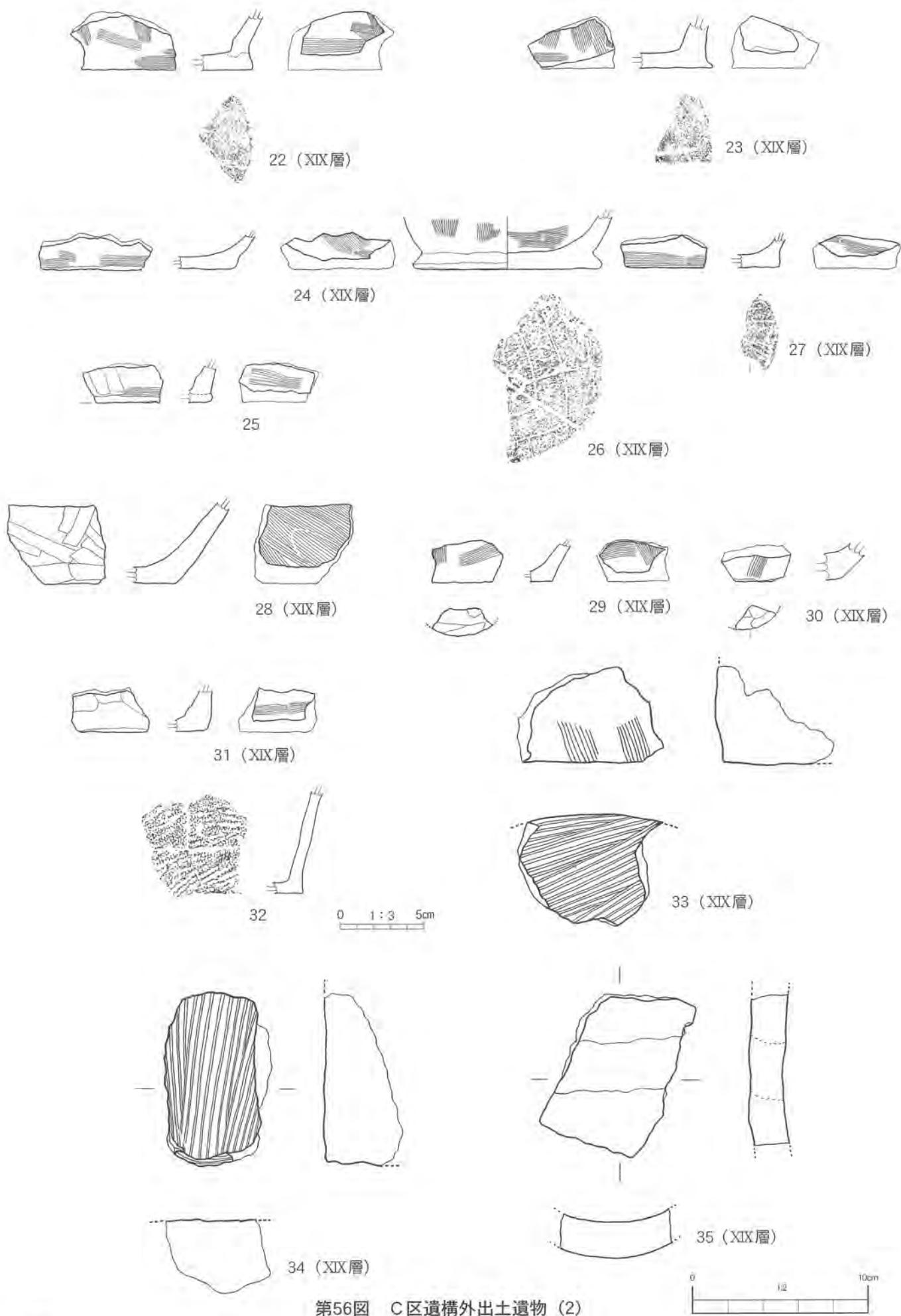


第54図 A区遺構外出土遺物

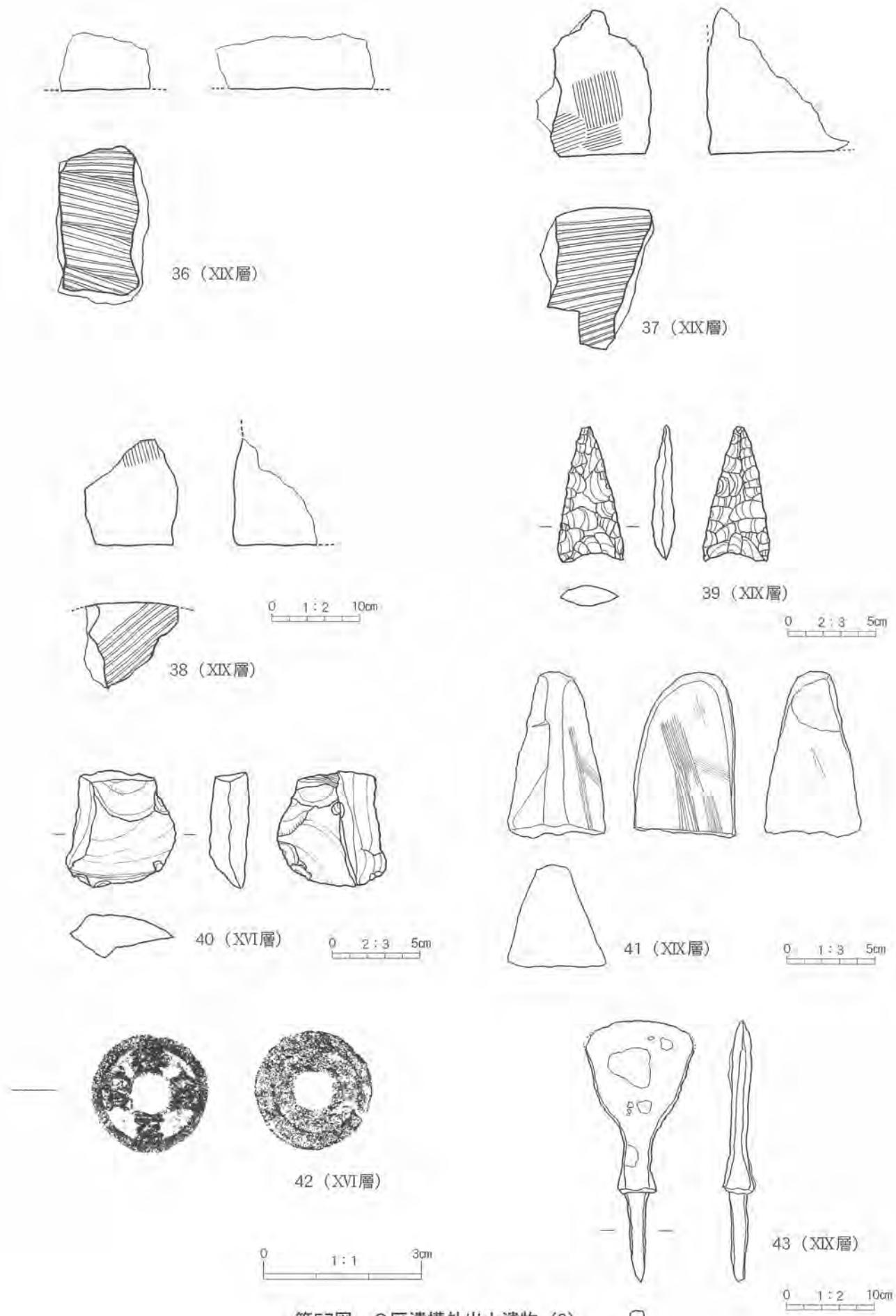


0 1 : 3 5cm

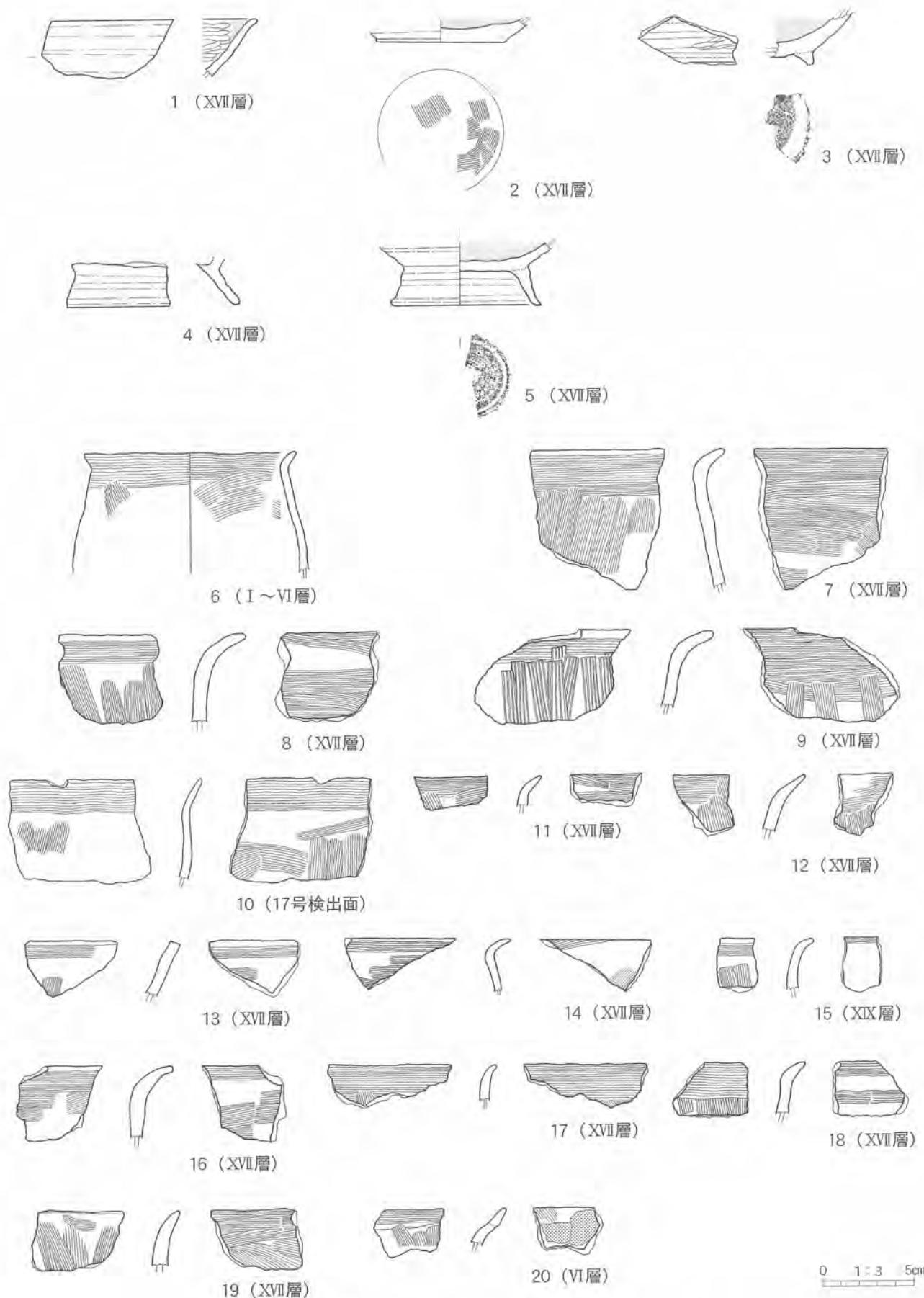
第55図 C区遺構外出土遺物 (1)



第56図 C区遺構外出土遺物 (2)



第57図 C区遺構外出土遺物 (3)



第58図 E区遺構外出土遺物 (1)



第59図 E区遺構外出土遺物 (2)

る縁部である。4はやや長めで、大きく外反する。5は短めでくびれは小さい。6は弥生土器と思われる。沈線を巡らした壺の頸部である。

7~9は石器である。7は鎌である。8は敲石である。端部に敲打痕を残す。9は敲打磨石である。

#### D区 (第61図11~15)

10は土師器の壺である。口クロで成形され、高台が付く。11は須恵器である。壺の体部片で、タタキ目を残す。

12は陶器の皿である。内面に草文を施される。やや黄色を帯びた釉がかけられ、細かい貫入が入る。見込みは五弁花文か思われる。胎土は淡黄色を呈す。瀬戸美濃産で、18世紀代に伴う。

13~15は石器の鎌である。

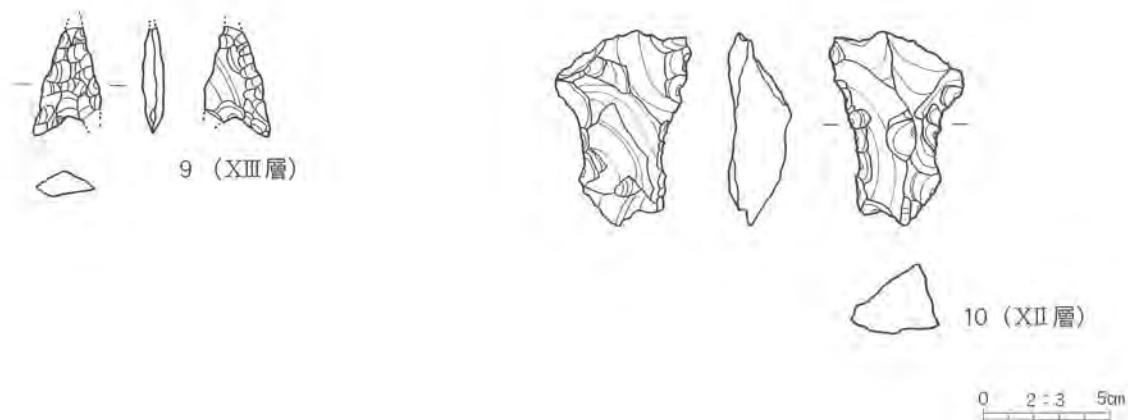
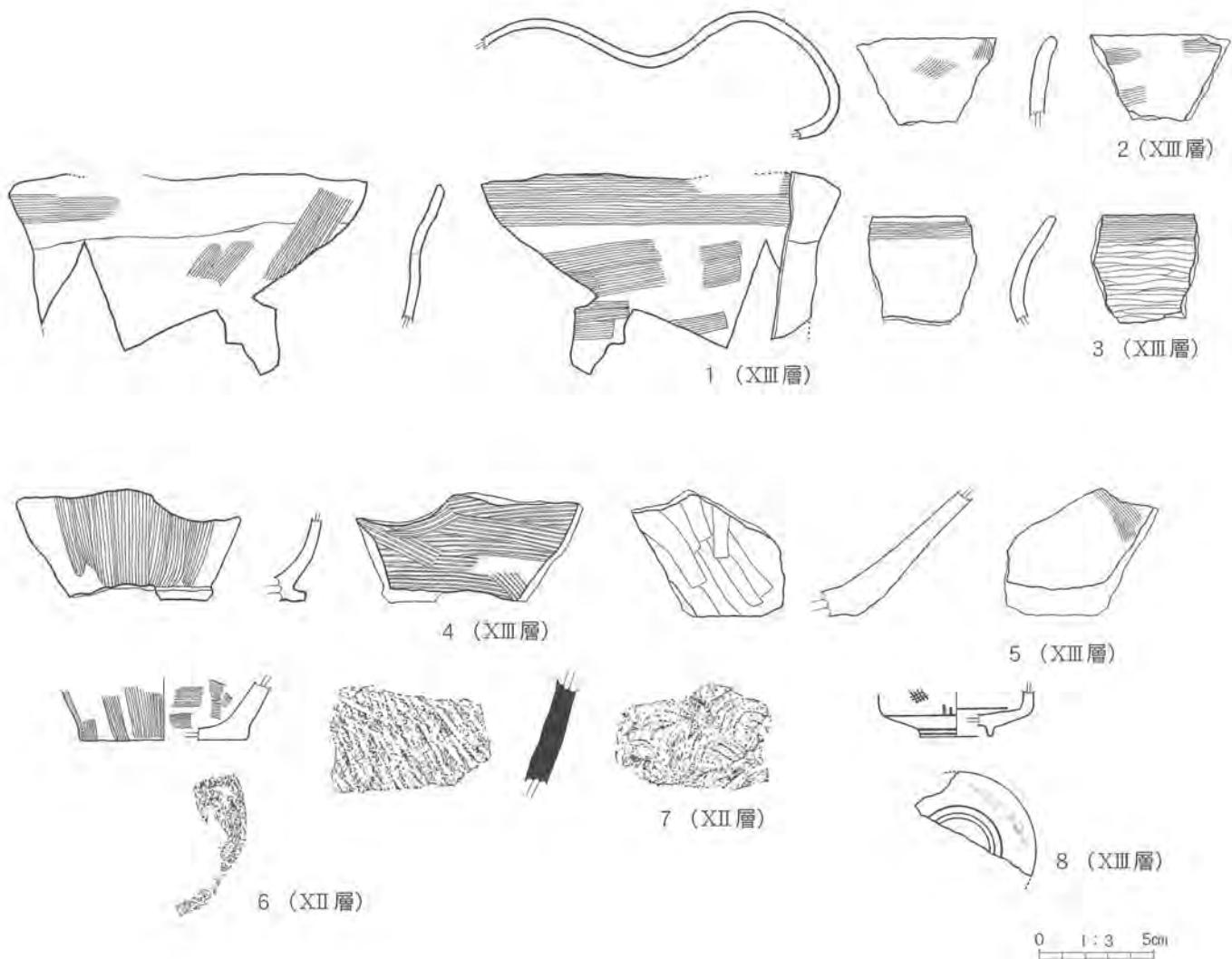
#### F区 (第61図16~18)

16は土師器の壺である。短い口縁部で、わずかに外反する。

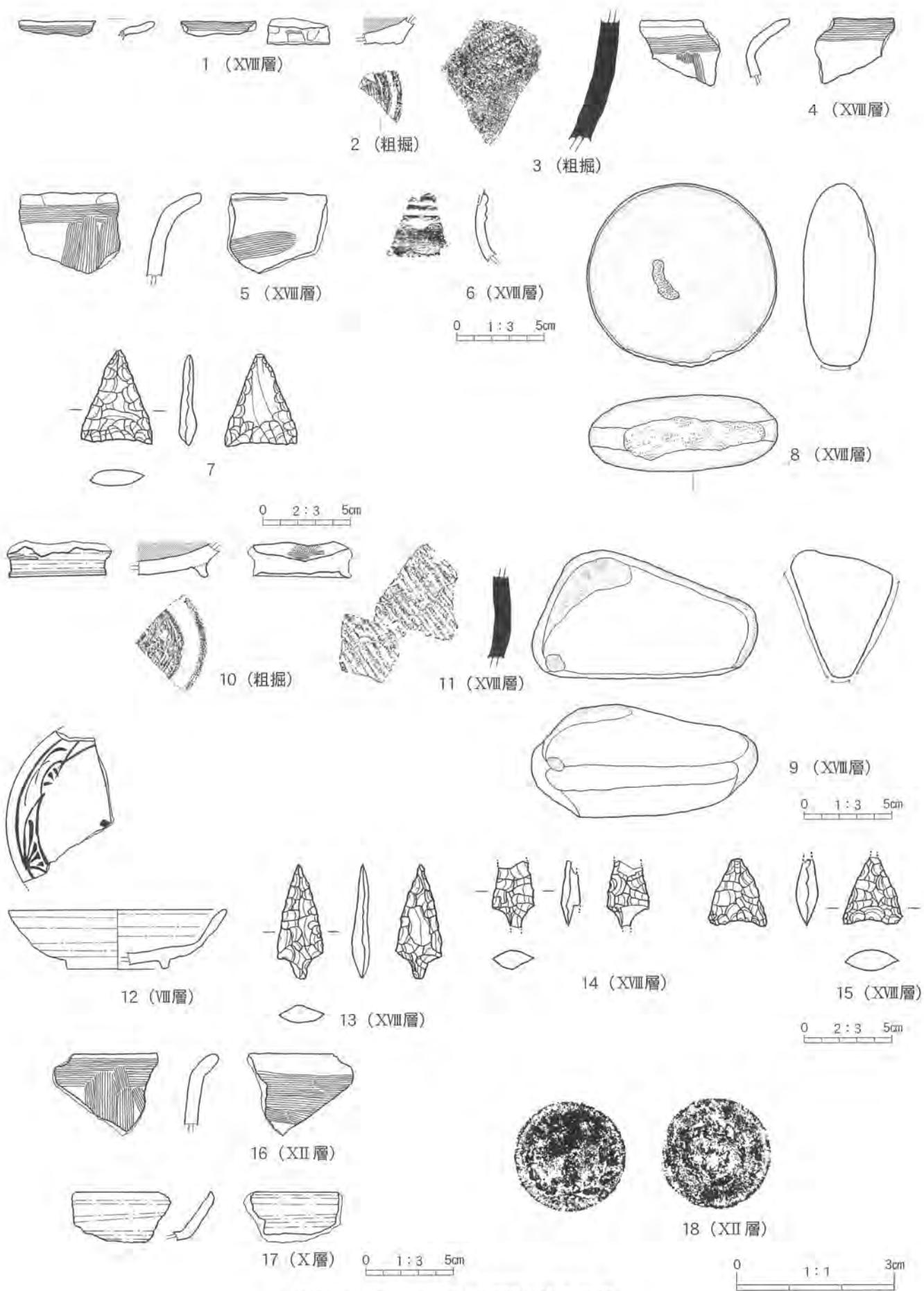
17は陶器の皿である。胎土は赤褐色を呈し、白濁した釉がかけられる。産地年代は不明である。

18は銭貨である。銭銘は「半錢」である。「半錢」は明治6年~21年にかけて発行された銅貨である。発行年は判読出来ない。

図no	遺構	層位	銭銘		外径(mm)	穿孔(mm)	外輪厚(mm)	外輪幅(mm)	重量(g)	初鑄年代	備考
			面	背							
図57-42	C区	XVII層	熙寧元寶		23.6×23.0	6.7×7.3	1.1	18.3	1.4	1068	
刃部											
図57-43	C区	XVII層	鎌?		10	5.5	4.2	7	4.5	14×1.2	
図no	遺構	層位	器種	全長(cm)	長(cm)	幅(cm)	厚(mm)	長(cm)	幅(cm)		
図54-20	遺構外A区	XVII層	釣針	4.0		2.3	2~3				
内											
図61-18	F区	XII層	半錢	竜文	21.9		0.8			2	明治6年~21年
図no	遺構	層位	器種	口径(cm)	高台径(cm)	器高(cm)	胴部径(cm)	内	外		
図61-12	D区	炭窯検出面	染付陶器皿	12.6	6	3.4		草文			



第60図 G区遺構外出土遺物



第61図 B、D、F区遺構外出土遺物

### 3-3 Ⅲ区（第62図）

尾根裾の緩斜面に位置する遺構群である。掘立柱建物跡、竪穴住居跡、土坑跡、陥穴などが出土している。

#### 基本層序

I層 砂質の褐灰色土である。表土層である。

II層 にぶい黄褐色土の混じる褐灰色土、灰黄褐色土である。ほぼ全域に堆積する。

III層 にぶい黄褐色土とにぶい黄橙色土の混じる灰黄褐色土である。西側に堆積する。

IV層 にぶい黄褐色土混じりの灰黄褐色土である。西側斜面に堆積する。

V層 にぶい黄褐色土混じりの灰黄褐色土である。地山への漸移層である。

VI層 にぶい黄褐色土である。東側緩斜面に堆積する。

12~21層は遺構の覆土である。

### 35号竪穴住居跡（第63図写真第6図版）

南調査区のやや北寄りに位置する。

形状は南北に長い隅丸方形を呈すものと思われるが、西側の壁は確認できなかった。規模は南北4.5mを測り、東西は2.5m前後と推定する。

覆土は、A、B層が密な黒褐色土、C層が褐色土層である。自然堆積と思われる。

床面からは、小土坑のほかに北西の隅で小規模な焼土遺構を検出している。

#### 出土遺物（第64、66図）

1~8は深鉢である。1~3、5はB1層から出土している。1はやや内反する山形の口縁部である。4箇所の突起部には、山形文が貼付される山形文は沈線で区画されさらに円形刺突が施される。口縁部には隆帯を巡らし、突起部のしたには縦位に山形文が貼付される。隆帯は沈線でなぞられる。大木5式に伴う。2は平縁の口縁部で、わずかに外反する。口縁部には粘土紐による山形文が貼付される。網目状撲糸文をほどこされる。3は胴部にふくらみをもち、口縁部は外反する。頸部に隆帯を巡らす。口縁部と隆帯に円形の押圧を加える。木目状撲糸文である。4は胴部がわずかにふくらみ、口縁部は反りがなく、玉縁状に成形する。撲糸文である。5はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部に山形状の突起をもつ。木目状撲糸文である。6は口縁部である。縁は平らに成形し、折り曲げ複合口縁の形をとる。内外面ともナデ調整され、外面下部にわずかに縄文が認められる。7、8は体部片である。8は縦位の鋸歯文が施される。

9は不定形な剥片石器である。

時期は、遺物から縄文時代前期大木4式に伴う。

x-70



x-70

x-80

x-90

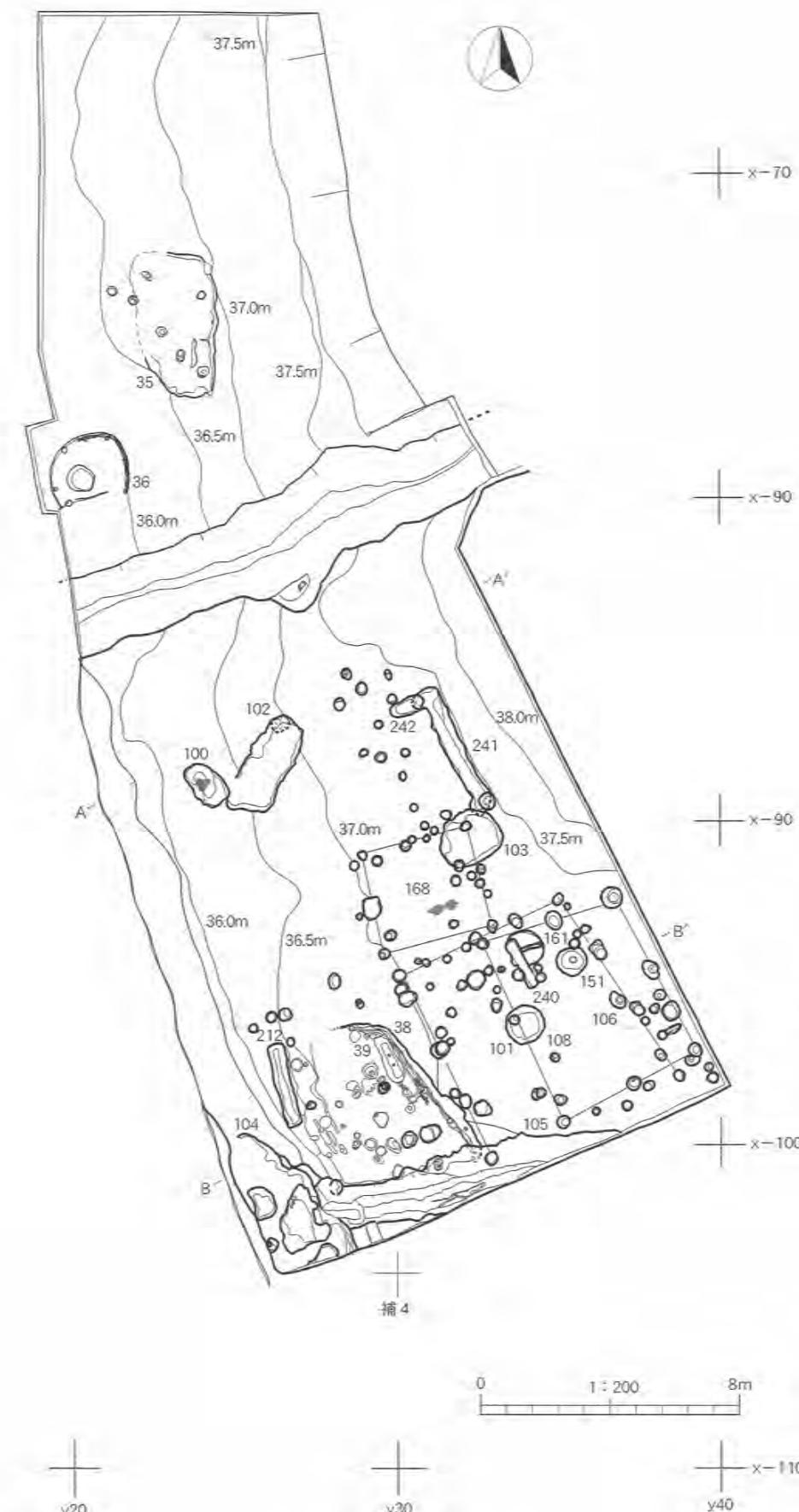
x-90

x-100

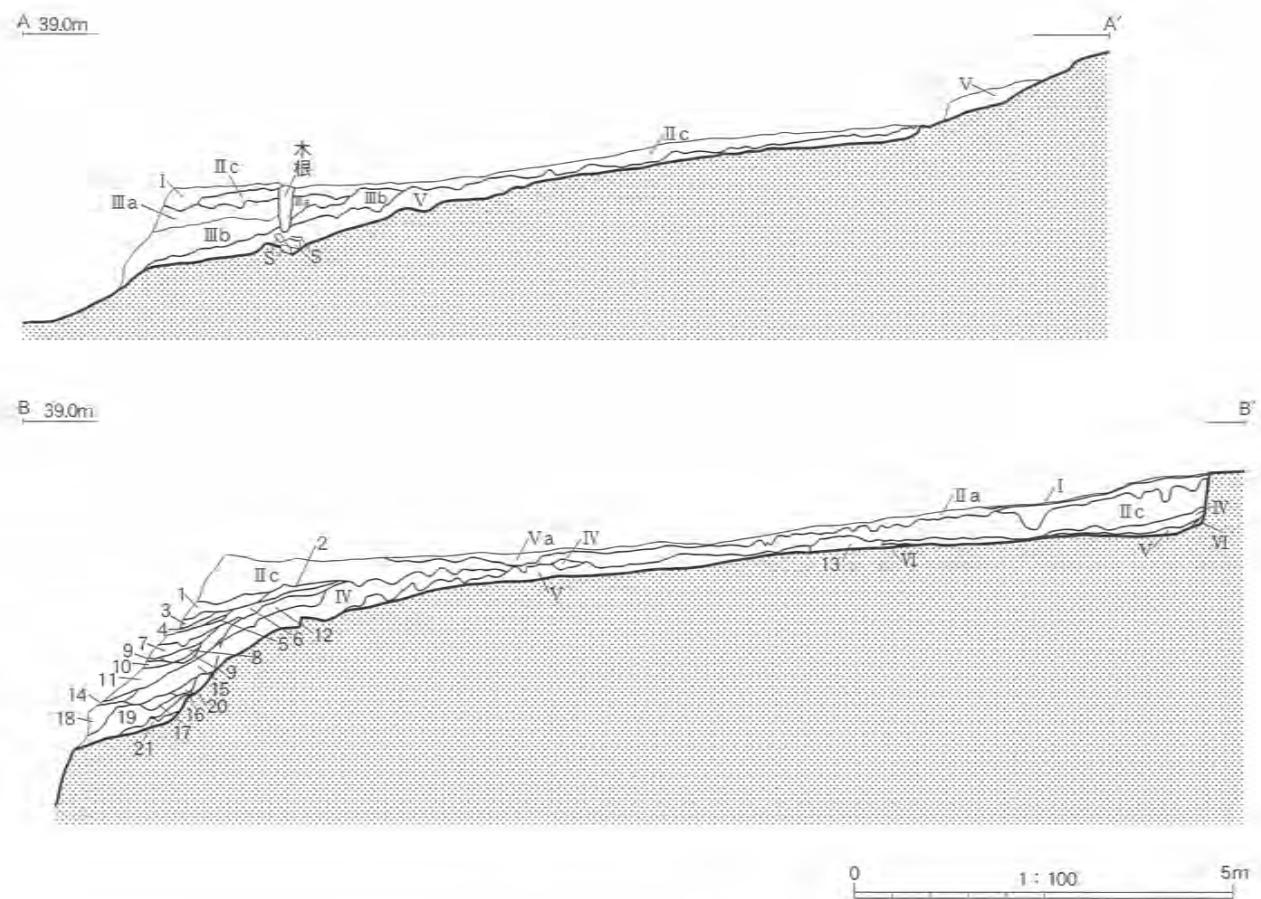
x-100

0 1:200 8m

y20

x-10  
y30  
y40

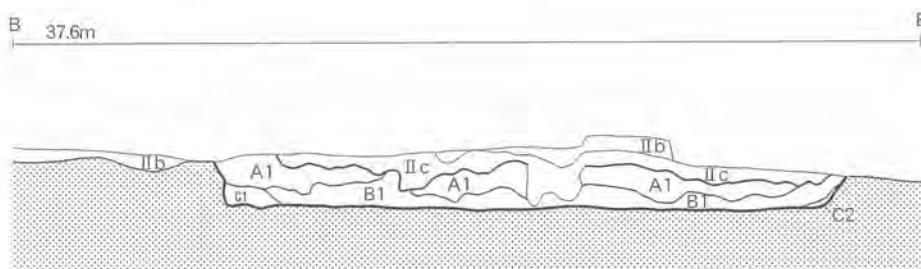
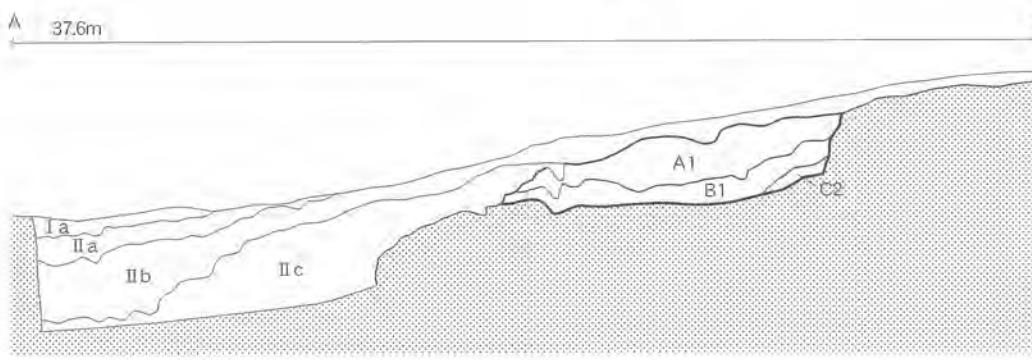
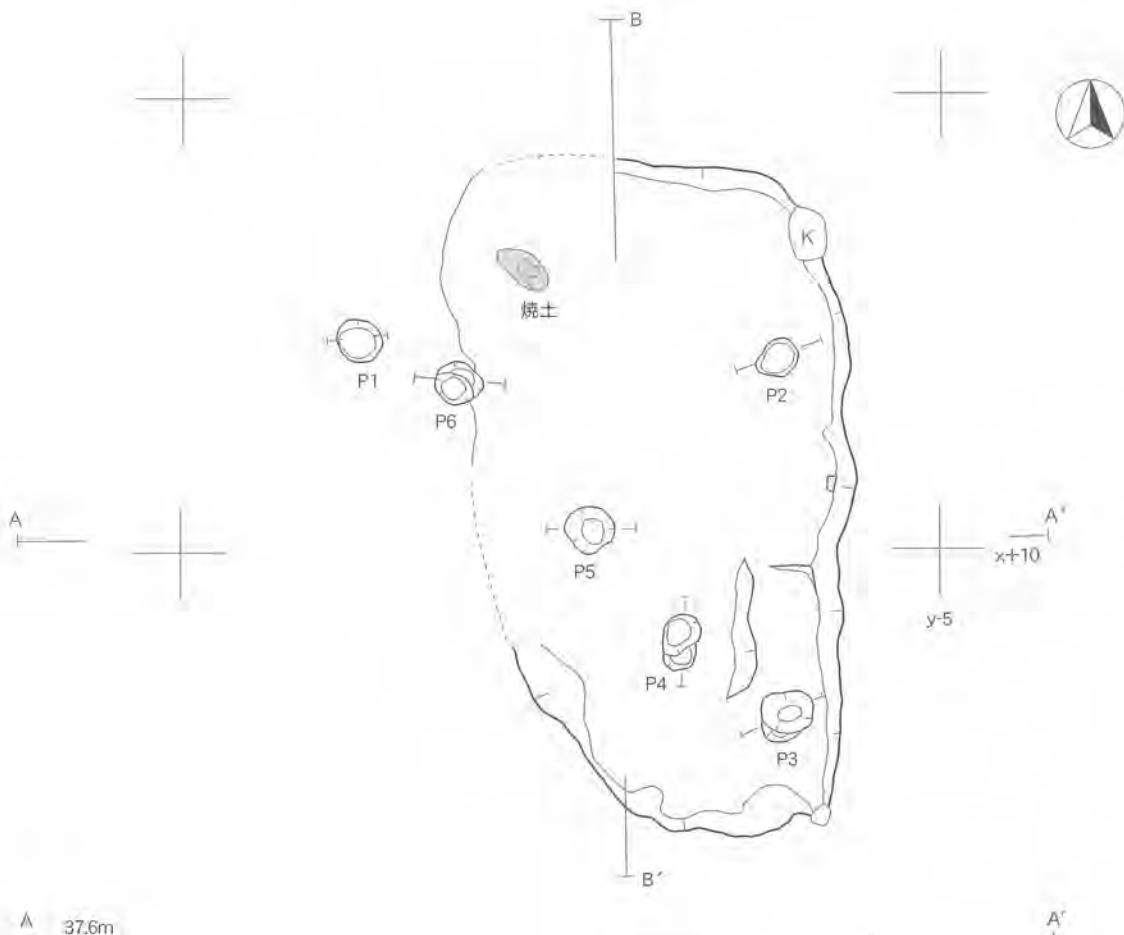
第62図 III区遺構配置図・基本土層図



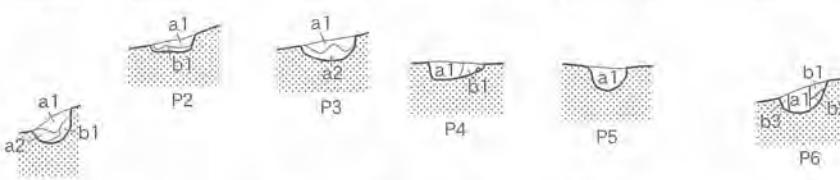
第63図 III区基本層序

III区基本土層 (A-A' B-B')			
層名	基本土	混入土	備考
I	10YR4/1 砂壤土		砂質 疎 表土
IIa	10YR4/1 砂壤土	10YR5/3 径1~5mm 1% (地山土粒)	砂質 疎
IIb	10YR6/3 砂壤土	10YR5/3 径1~5mm 1% (地山土粒)	砂質 疎
IIc	10YR5/2 砂壤土	10YR5/2 径1~5mm 1%	砂質 疎
IIIa	10YR5/3 砂壤土	10YR5/4 径1~5mm 1% (地山土粒)	砂質 疎
IIIb	10YR4/2 砂壤土	10YR6/4 径1~5mm 1% (地山土粒)	砂質 疎
IV	10YR4/2 砂壤土	10YR5/4 径10mm 1% (地山土塊)	やや砂質 疎
V	10YR4/2 砂壤土	10YR5/4 径10mm 1% (地山土塊)	やや粘質 疎 地山漸移層
VI	10YR5/4 砂壤土		砂質 疎 地山
1	10YR5/2 砂壤土	10YR5/4 径10~30mm 1% (地山土塊)	砂質 疎
2	10YR5/1 砂壤土	10YR5/4 径10~20mm 1% (地山土塊)	砂質 疎
3	10YR5/1 砂壤土	10YR5/4 径10mm 1% (地山土塊)	砂質 疎
4	10YR4/1 砂壤土	10YR5/3 径1~5mm 1% (地山土塊)	砂質 疎
5	10YR5/2 砂壤土	10YR6/4 径1~5mm 1% (地山土粒)	砂質 疎
6	10YR5/1 砂壤土	10YR5/2 径1~3mm 1% (地山土粒)	砂質 疎
7	10YR4/2 砂壤土	10YR5/4 径10mm 1% (地山土粒) 10YR1.7/1 径10~30mm 1% (炭化物)	砂質 疎
8	10YR5/1 砂壤土	10YR5/4 径10mm 1%以下 10YR1.7/1 径10~30mm 1% (炭化物)	砂質 疎
9	10YR5/2 砂壤土	10YR5/6 径10~30mm 1% (地山土塊)	やや粘質
10	10YR4/1 砂壤土	10YR5/2 径1~5mm 1%以下	砂質 疎
11	10YR5/1 砂壤土	10YR5/1 径1mm 1% (地山土粒) 10YR1.7/1 径1mm以下 (炭化物)	砂質 疎
12	10YR6/1 砂壤土	径10~30mm 30% (砾)	砂質 疎
13	10YR4/1 砂壤土	10YR5/4 径1~5mm 1%以下 (地山土粒)	砂質 疎 (101号覆土)
14	10YR3/1 砂壤土	10YR5/4 径1~5mm 1% (地山土粒) 径10~30mm 5% (砾)	砂質 疎 (104号覆土)
15	10YR3/2 砂壤土	10YR2/1 径10~20mm 1% (黑褐色土粒)	砂質 疎 (104号覆土)
16	10YR4/2 砂壤土	10YR5/4 径1~5mm 1%以下 (地山土粒)	砂質 疎 (104号覆土)
17	10YR5/2 砂壤土	径10~30mm 10% (砾)	砂質 疎 (104号覆土)
18	10YR3/2 砂壤土	10YR5/4 径1~5mm 1% (地山土粒) 10YR1.7/1 径5mm 1%以下 (炭化物)	砂質 疎 (104号覆土)
19	10YR4/2 砂壤土	10YR5/4 径5~30mm 30% (地山土塊)	やや粘質 疎 (104号覆土)
20	10YR5/2 砂壤土	10YR5/3~6/2 径10~50mm 1% (地山土塊)	やや粘質 疎 (104号覆土)
21	10YR5/2 砂壤土	10YR5/4~6/2 径10~50mm 10% (地山土塊)	やや粘質 疎 (104号覆土)





W 37.0m E N S W E W E W E

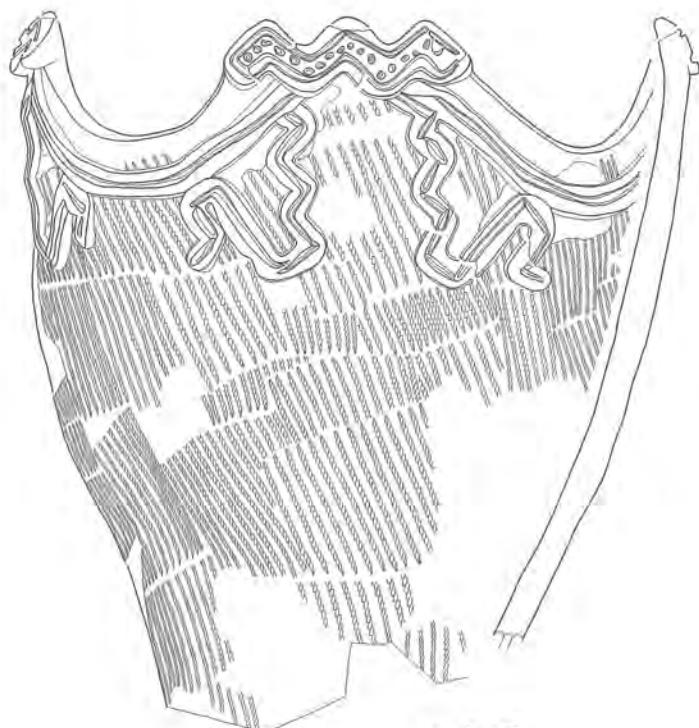


P1	a1 10Y R2/2沙質壤土	10Y R3/2沙質壤土塊狀15%	中、中~疎。
	a2 10Y R3/2沙質壤土		中、中。
	b1 10Y R2/2沙質壤土	10Y R5/6沙質壤土塊狀10%	中~固、中。
P2	a1 10Y R4/4沙質壤土	10Y R5/6沙質壤土塊狀10%	中~固、中。
	b1 10Y R5/6沙質壤土	10Y R4/4沙質壤土塊狀5%	中~固、中~密。
P3	a1 10Y R3/3沙質壤土	10Y R5/6沙質壤土塊狀20%	中、中~疎。炭化物
	a2 10Y R4/4沙質壤土	10Y R5/6沙質壤土塊狀20%	中、中~疎。炭化物
P4	a1 10Y R3/2沙質壤土	10Y R4/4沙質壤土20%	中、中。
	b1 10Y R4/4沙質壤土	10Y R5/6沙質壤土塊狀10%	中~固、中。
P5	a1 10Y R3/2沙質壤土	10Y R5/6沙質壤土塊狀20%	中~固、中。
	a2 10Y R4/4沙質壤土	10Y R3/2沙質壤土粒狀15%	軟、中~疎。
P6	a1 10Y R2/2沙質壤土	10Y R4/4沙質壤土塊狀20%	中~固、中。
	b1 10Y R3/2沙質壤土	10Y R4/4沙質壤土塊狀7%	中~軟、中。
	b2 10Y R3/2沙質壤土	10Y R5/6沙質壤土塊狀40%	中~軟、中。

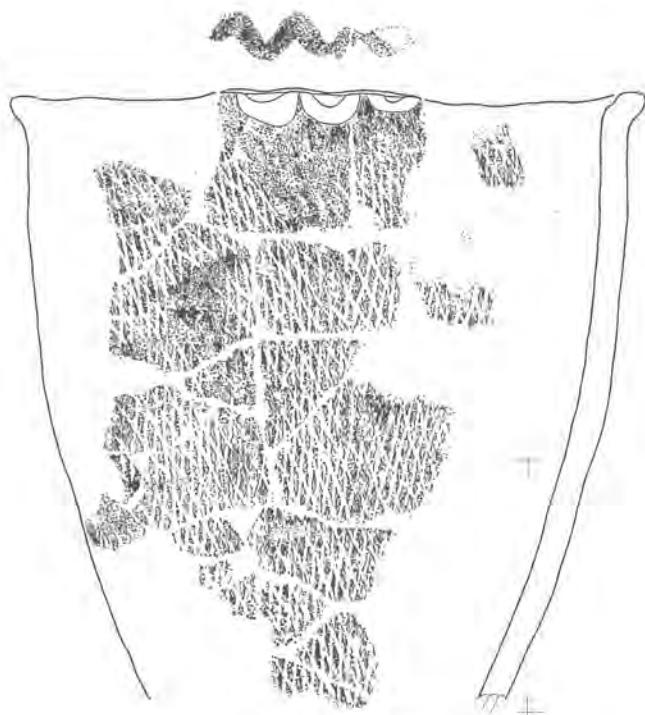
10Y R3/2沙質壤土塊狀15%	中、中~疎。
中、中。	
10Y R5/6沙質壤土塊狀10%	中~固、中。
中~固、中。	
10Y R4/4沙質壤土塊狀5%	中~固、中~密。
中~固、中~密。	
10Y R5/6沙質壤土塊狀20%	中、中~疎。炭化物
中、中~疎。炭化物	
10Y R4/4沙質壤土20%	中、中。
中~固、中。	
10Y R5/6沙質壤土塊狀10%	中~固、中。
中~固、中。	
10Y R5/6沙質壤土塊狀20%	中~固、中。
软、中~疎。	
10Y R3/2沙質壤土粒狀15%	中~固、中。
中~固、中。	
10Y R4/4沙質壤土塊狀20%	中~軟、中。
中~軟、中。	
10Y R5/6沙質壤土塊狀40%	中~軟、中。

0 1:50 2m

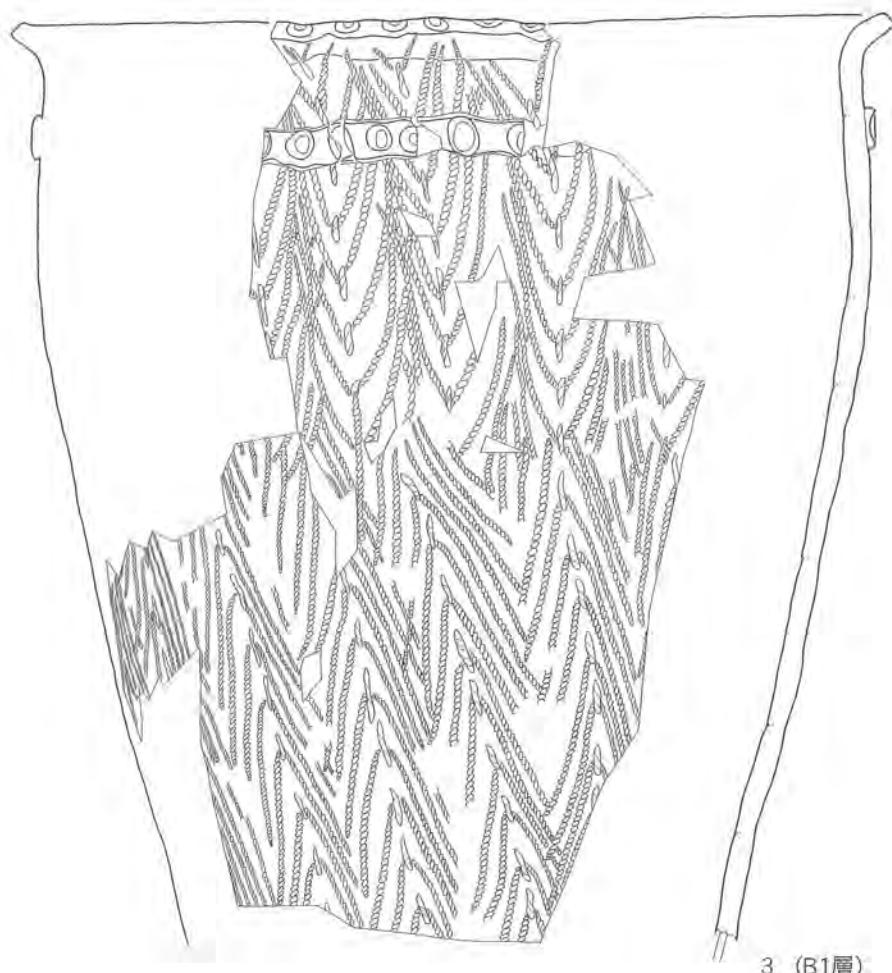
第64図 35号竪穴住居跡



1 (B1層)



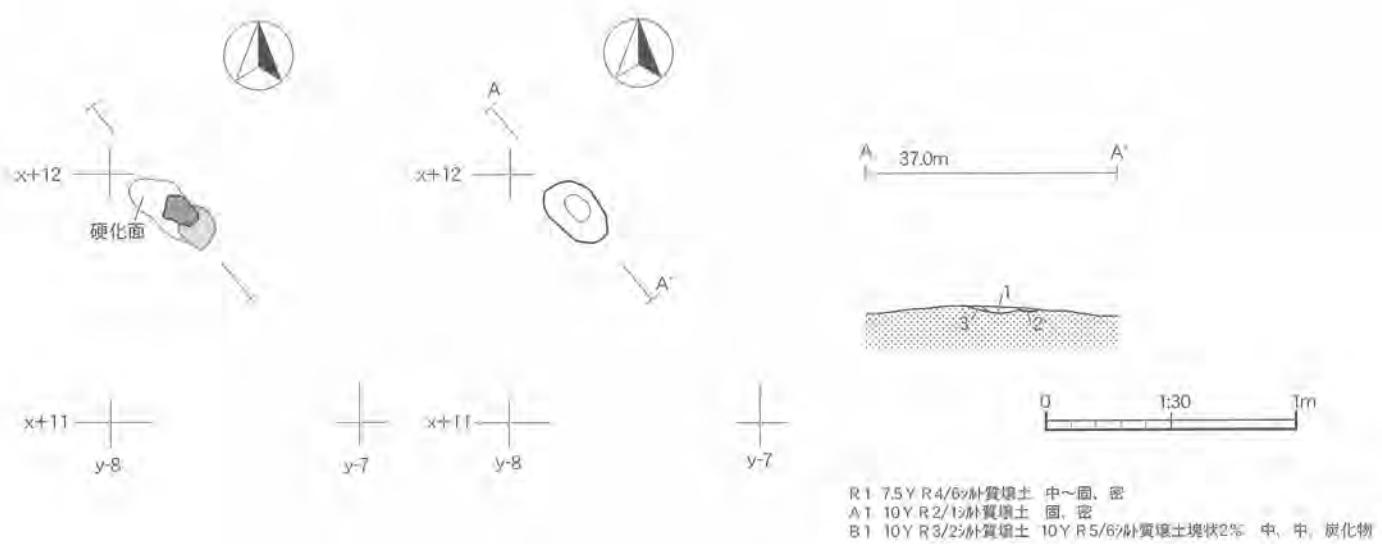
2 (B1層)



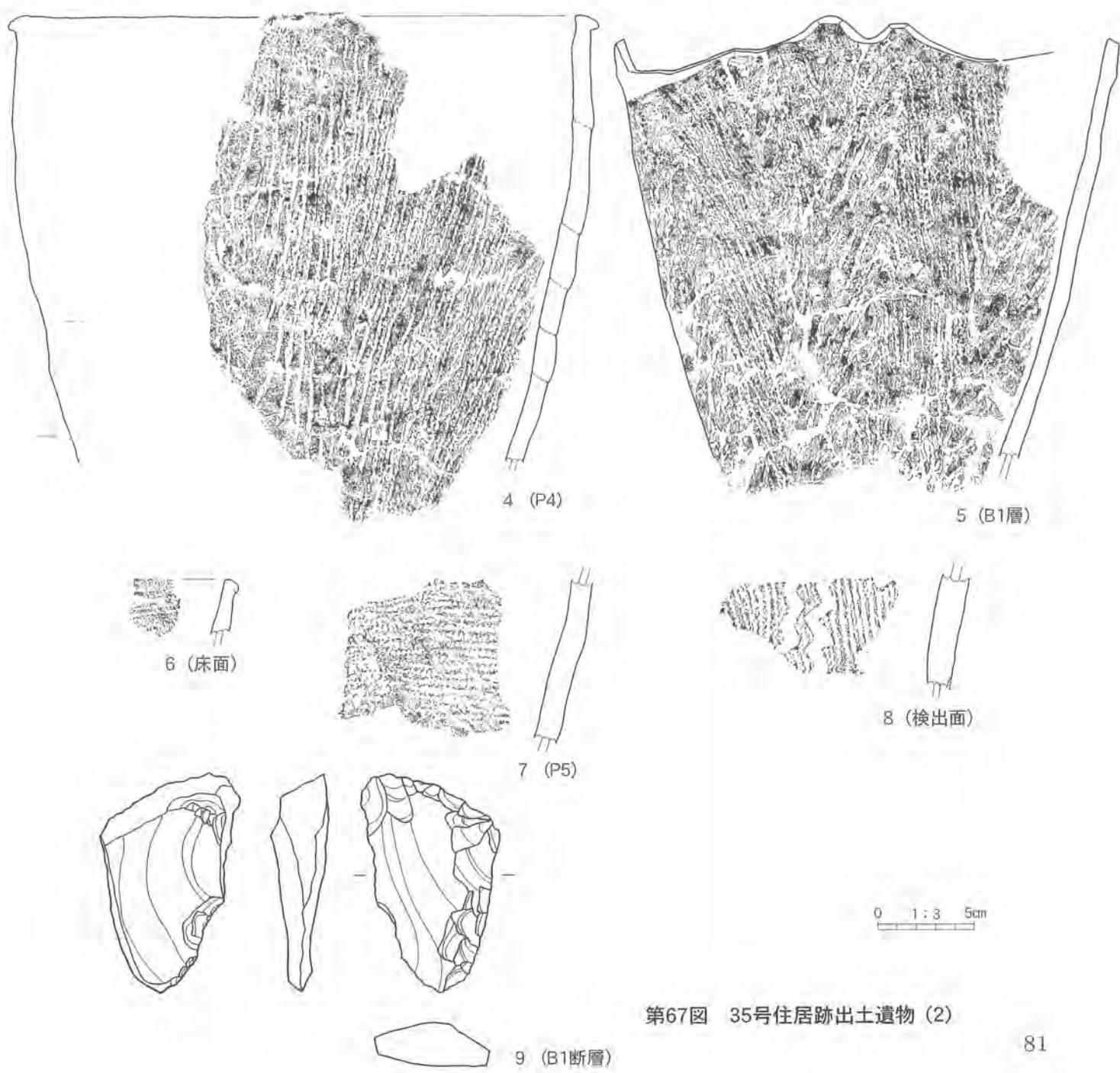
3 (B1層)

0 1 : 3 5cm

第65図 35号住居跡出土遺物 (1)



第66図 35号住居焼土



第67図 35号住居跡出土遺物 (2)

### 38号竪穴住居跡（第67、68図写真第6図版）

南区南部の緩斜面に位置する。検出面は地山面で、39号陥穴を切る。

東壁と南壁の一部を検出した。平面形は隅丸方形と推定する。残存規模は、南北5.5m、東西3.0mである。覆土は、褐色土が大半を占め、縄文前期の土器を含む。

床面からは中小規模の土坑、中央部で炉跡、壁際で溝跡を検出した。壁寄りのp21、p15、p16、が比較的規模の大きく、主柱穴をなすものと思われる。p6は炉跡の下から検出している。p1からはまとまとった土器が出土している。

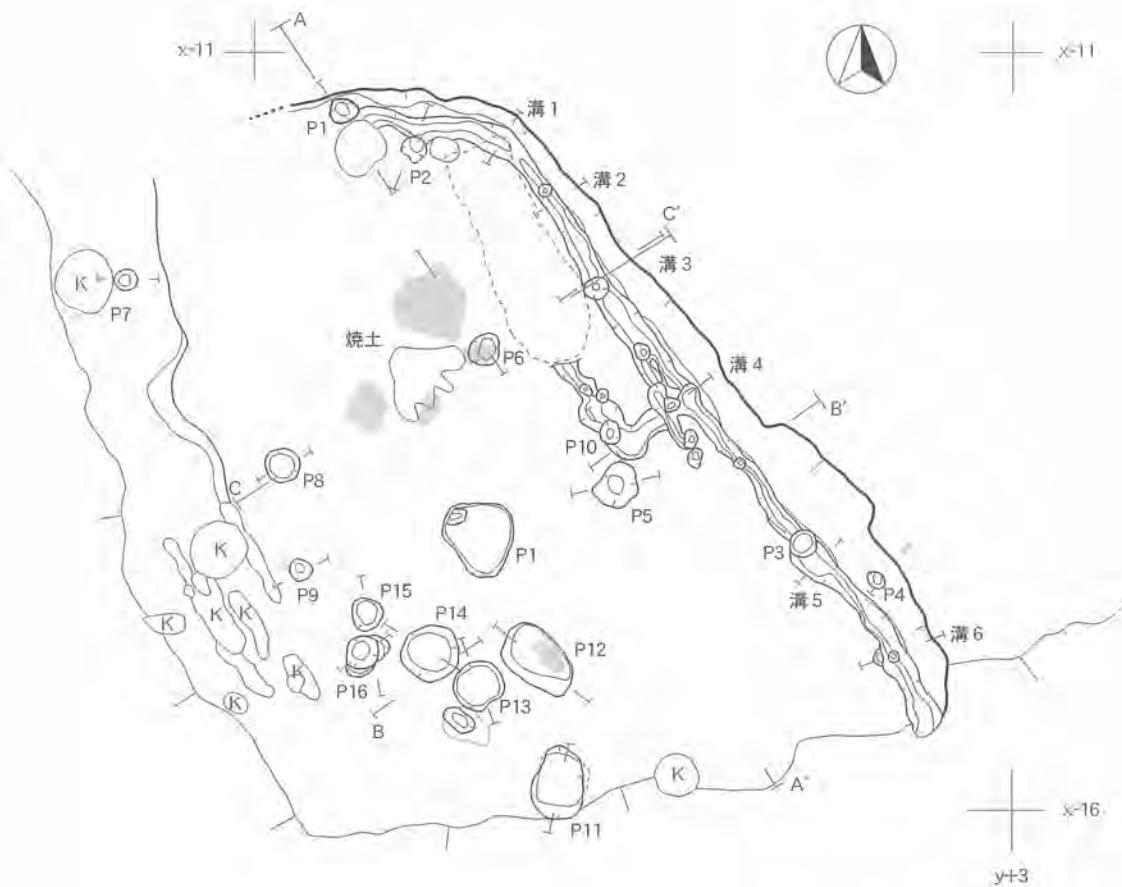
炉跡の焼土はいずれも掘り込み伴っていない。p10の焼土は現地性のものではなく、投げ込みである。

### 出土遺物（第69、70図）

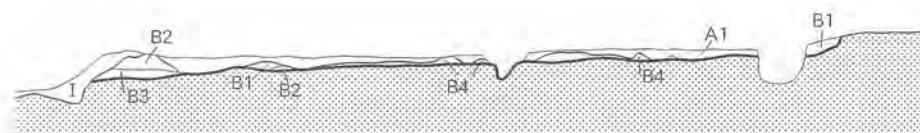
1～11は深鉢である。1はp1から出土した一括土器である。胴部はわずかにふくらみ、口縁部はほぼまっすぐ立ち上がる。撲糸文で施文される。2は1と同形の器形である。口縁部に波状の粘土紐が貼付され、粘土紐には円形の押圧が施される。櫛目状の沈線で施文される大木4式に伴うものと思われる。3はほぼ垂直に立ち上がる口縁部である。施文は附加条によるものと思われる。4は外傾しながら真っ直ぐにたちあがる。網目状撲糸文で施文される。5は玉縁状に成形された口縁部で、沈線が入る。6は山形状の口縁部で、円形の刺突列が施される。結節縄文を伴う。7は網目状撲糸文を伴う口縁部である。8、9は体部片である。8は撲糸文、9は結節縄文で施文される。

12～17は石器である。12～15は石鏃である。16、17は不定形の剥片石器である。

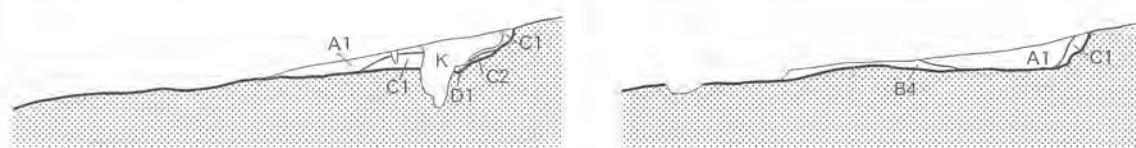
時期は、遺物から縄文時代前期大木4式に伴う。35号住居と平行すると思われる。



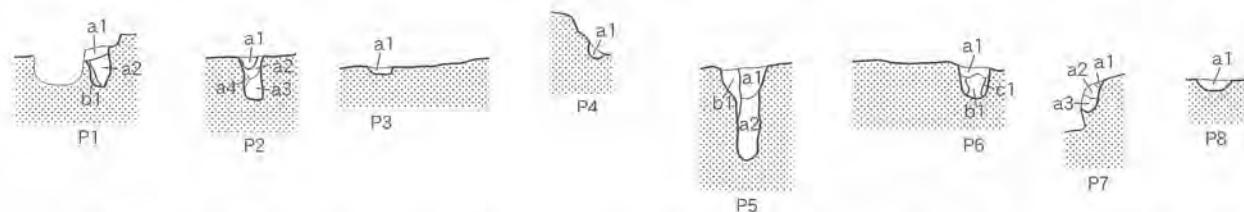
A 37.2m A'



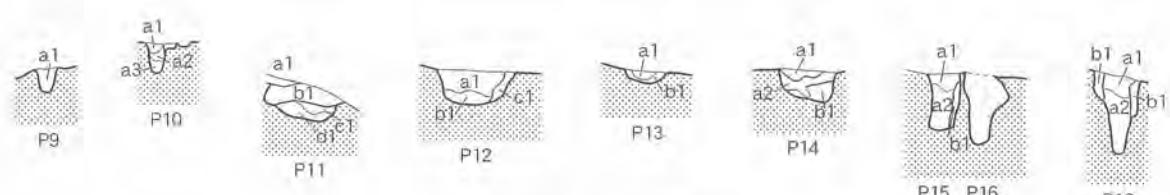
B 37.2m B' C 37.2m C'



S 37.2m N S N N S E W W E N S W E W E

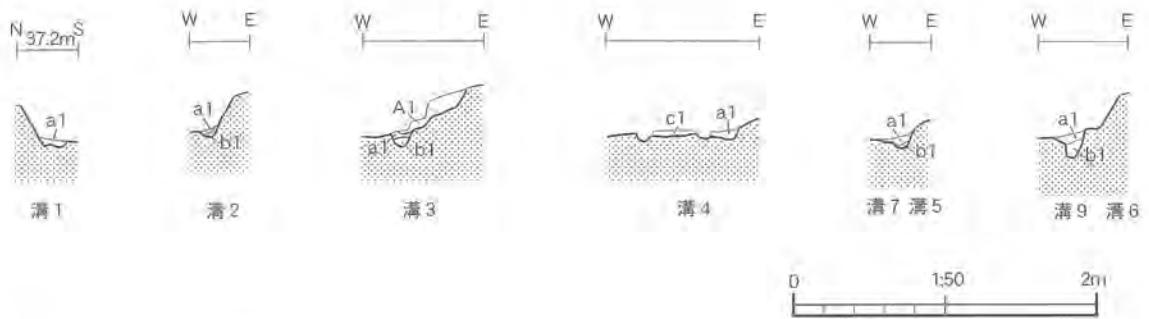


W 37.2m E S N N S N S N S W E



第68図 38号竖穴住居跡 (1)

0 1:50 83 2m



覆土土層観察表

I	10Y R2/3沙付質壌土	軟、中。炭化物
A1	10Y R4/4沙付質壌土	10Y R6/8沙付質壌土塊状10% 中～密
B1	10Y R2/2沙付質壌土	中～固、中～密。床面に微堆積
B2	10Y R4/4沙付質壌土	10Y R6/8沙付質壌土塊状10% 中～軟、中～疎。炭化物
B3	10Y R5/6沙付質壌土	10Y R4/4沙付質壌土塊状15% 中～固、密。
B4	10Y R4/4沙付質壌土	7.5Y R6/8沙付質壌土塊状7% 中～固、中。
C1	10Y R4/4沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土塊状10% 中～固、中～密。
C2	10Y R5/6沙付質壌土	中～固、中～密。
D1	10Y R3/2沙付質壌土	10Y R4/6沙付質壌土塊状15% 中～固、中～密。炭化物

柱穴跡土層観察表

p12 a1	10Y R3/2沙付質壌土	10Y R3/3沙付質壌土15%	軟、中～疎
a2	10Y R2/2沙付質壌土	10Y R3/2沙付質壌土10%	軟～中、中。
b1	10Y R3/3沙付質壌土	10Y R4/4沙付質壌土20%	中～固、中。
p13 a1	10Y R3/2沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土15%	軟、中。
b1	10Y R2/1沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土3%	軟、中～密。炭化物多
p14 a1	10Y R3/3沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土3%	中、中。炭化物
a2	10Y R3/3沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土30%	中～固、炭化物
b1	10Y R2/2沙付質壌土	10Y R4/4沙付質壌土10%	軟、中。炭化物
p15 a1	10Y R3/2沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土10%	中～固、中
a2	10Y R3/3沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土10%	中、中
b1	10Y R5/6沙付質壌土	10Y R2/3沙付質壌土20%	固～中、密～中
p16 a1	10Y R3/2沙付質壌土	10Y R6/5沙付質壌土10%	中～固、中。炭化物、焼土
a2	10Y R4/4沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土10%	中、中。炭化物
b1	10Y R4/4沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土20%	中～密。炭化物

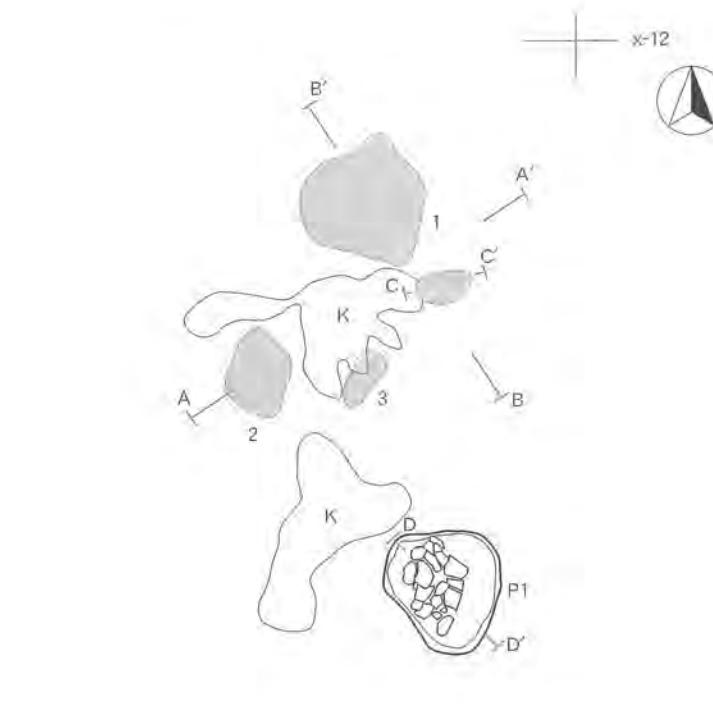
周溝

a1	10Y R3/3沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土塊状10%
b1	10Y R4/4沙付質壌土	10Y R4/4沙付質壌土粒状15%
c1	10Y R3/3沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土塊状10%

柱穴跡土層観察表

p1 a1	10Y R3/3沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土粒状7%	軟、中～疎
a2	10Y R3/3沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土塊状20%	軟、中
b1	10Y R4/4沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土塊状20%	中～固、中～密
p2 a1	10Y R2/3沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土7%	軟、中～疎
a2	10Y R3/3沙付質壌土	10Y R6/4沙付質壌土3%	固～中、中～密
a3	10Y R4/4沙付質壌土	10Y R3/3沙付質壌土20%	軟、中～密
a4	10Y R4/6沙付質壌土	10Y R4/6沙付質壌土20%	軟、中～疎
p3 a1	10Y R3/3沙付質壌土	10Y R4/4沙付質壌土粒状7%	軟、中～疎。炭化物
p4 a1	10Y R3/3沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土7%	軟、中。
p5 a1	10Y R3/2沙付質壌土	10Y R4/6沙付質壌土塊状20%	中～固、中
a2	10Y R3/2沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土粒状30%	軟、中～疎。
b1	10Y R4/6沙付質壌土	10Y R2/3沙付質壌土塊状10%	中～軟、中。
p6 a1	10Y R4/6沙付質壌土	10Y R6/6沙付質壌土7%	中、中～密。
b1	10Y R4/4沙付質壌土	10Y R6/6沙付質壌土7%	中、中
c1	10Y R4/4沙付質壌土	10Y R6/6沙付質壌土塊状15%	中～疎
p7 a1	10Y R3/3沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土塊状20%	軟、中
a2	10Y R5/6沙付質壌土	10Y R3/3沙付質壌土粒状7%	中～固、中～密
a3	10Y R3/2沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土粒状7%	中～軟、中。
p8 a1	10Y R2/3沙付質壌土	10Y R4/4沙付質壌土粒状15%	軟、中～密
a2	10Y R3/2沙付質壌土	10Y R5/6沙付質壌土塊状10%	中、中～密。炭化物
a3	10Y R3/2沙付質壌土	10Y R4/4沙付質壌土7%	軟、中～疎。
p11 a1	10Y R5/6沙付質壌土	10Y R3/3沙付質壌土10%	中、中～密。
b1	10Y R3/2沙付質壌土	10Y R4/6沙付質壌土10%	軟、中～疎。
c1	10Y R3/2沙付質壌土	10Y R4/6沙付質壌土10%	中、中～密。
d1	10Y R3/2沙付質壌土	10Y R4/6沙付質壌土10%	中、中～密。

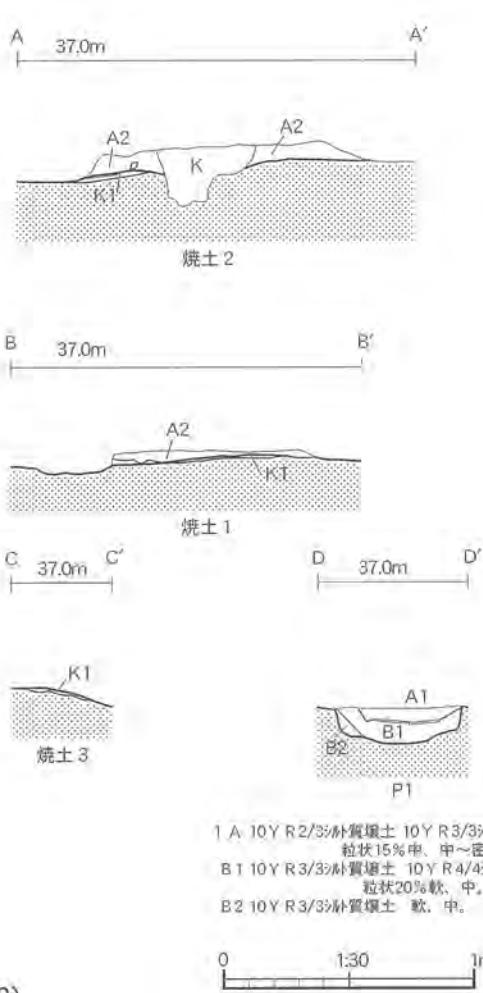
10Y R5/6沙付質壌土粒状7%	軟、中～疎
10Y R5/6沙付質壌土塊状20%	軟、中
10Y R5/6沙付質壌土塊状20%	中～固、中～密
10Y R5/6沙付質壌土7%	軟、中～疎
10Y R6/4沙付質壌土3%	固～中、中～密
10Y R3/3沙付質壌土20%	軟、中～密
10Y R3/3沙付質壌土10%	軟、中～疎。
10Y R4/6沙付質壌土10%	中～中、中～密



南2住戸  
焼土2 K1 10Y R4/6沙付質壌土  
焼土1 K2 2.5Y R5/8沙付質壌土  
焼土3 K3 5Y R5/8沙付質壌土

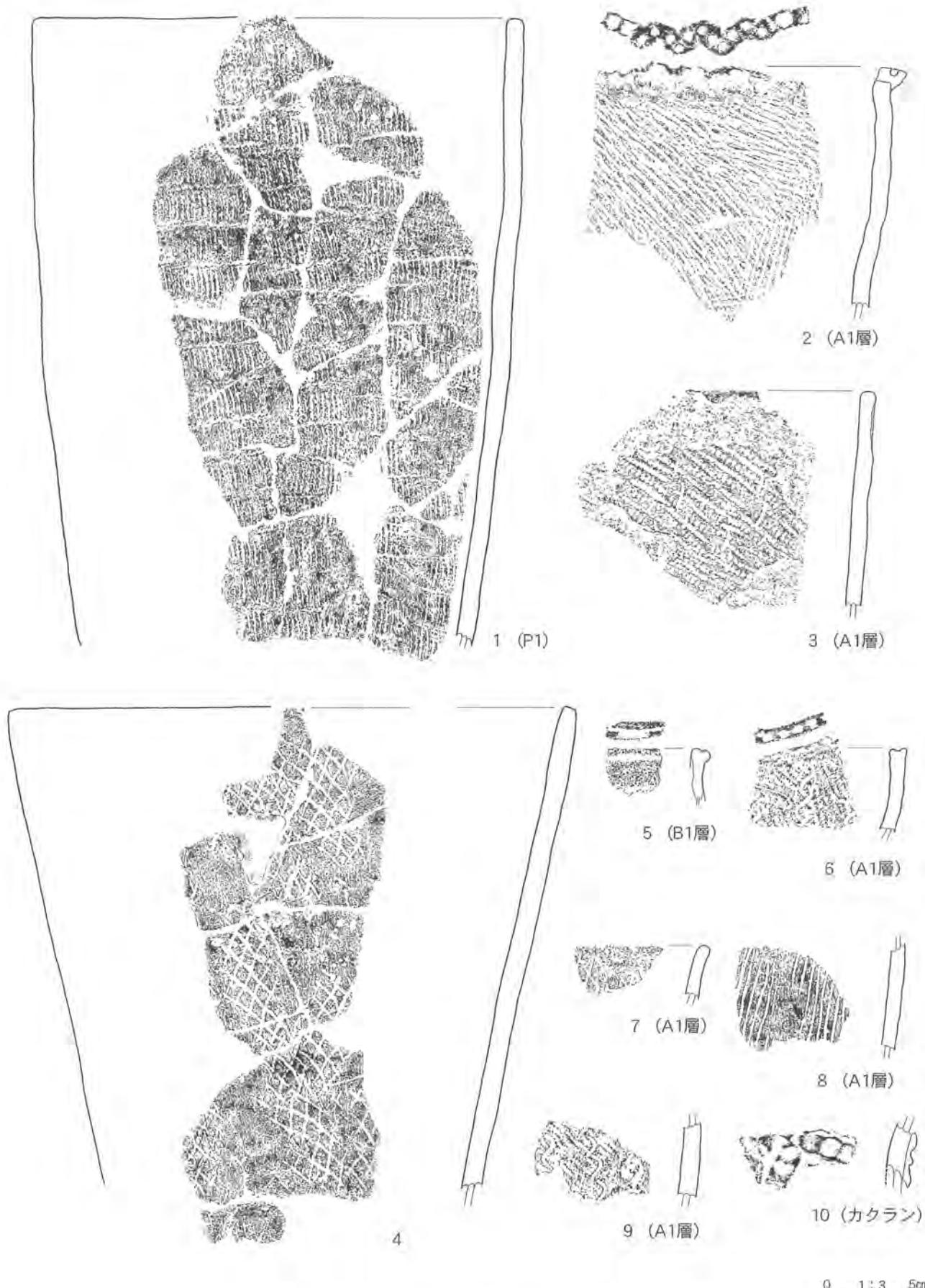
5Y R5/6沙付質壌土粒状25% 中～固。密。現地性?  
中～固、密。

第69図 38号竪穴住居跡 (2)

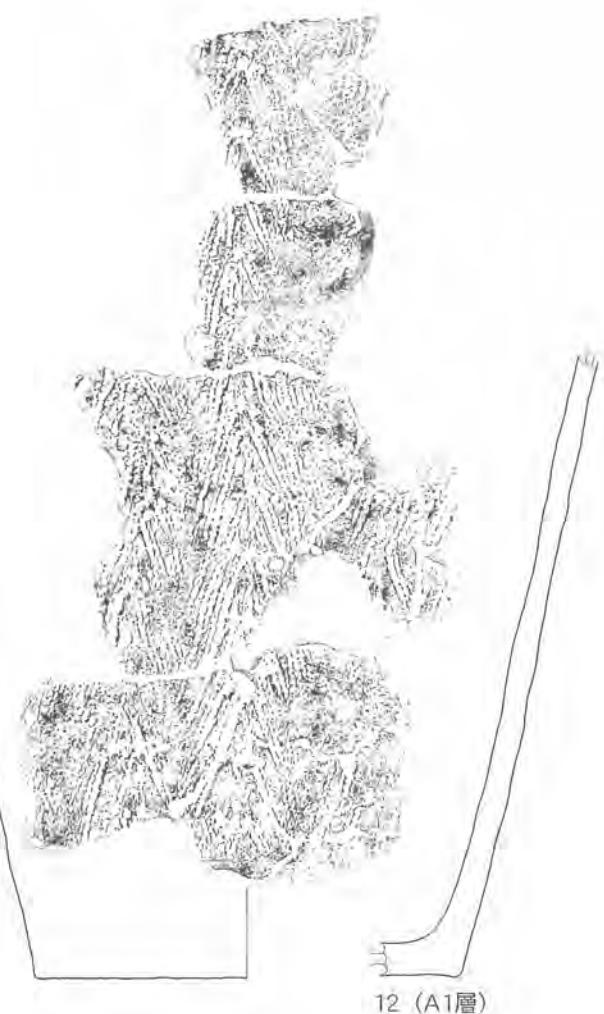
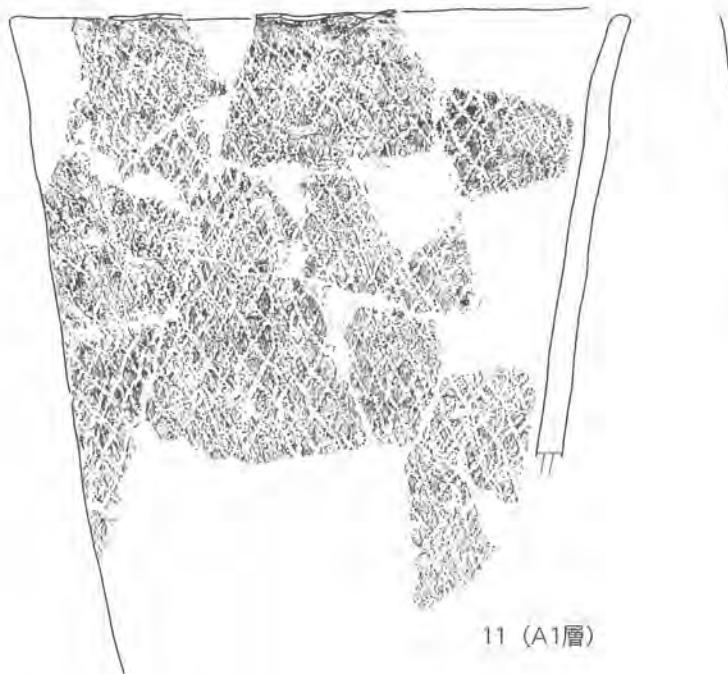


1 A 10Y R2/3沙付質壌土 10Y R3/3沙付質壌土  
粒状15% 中、中～密。  
B 1 10Y R3/3沙付質壌土 10Y R4/4沙付質壌土  
粒状20% 軟、中。  
B 2 10Y R3/3沙付質壌土 軟、中。

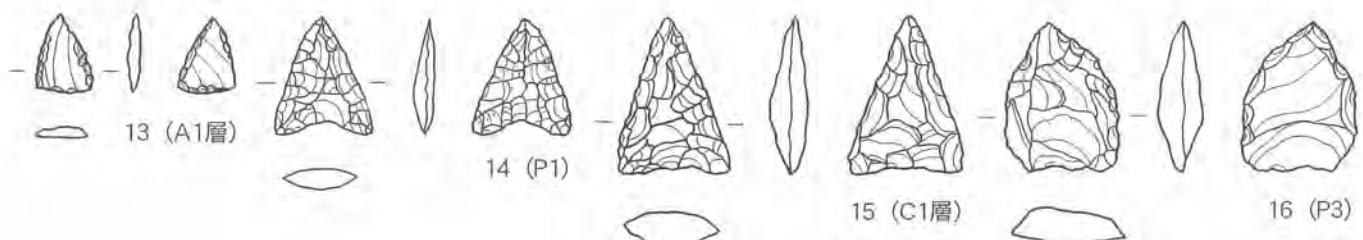
0 1:30 1m



第70図 38号住居跡出土遺物 (1)



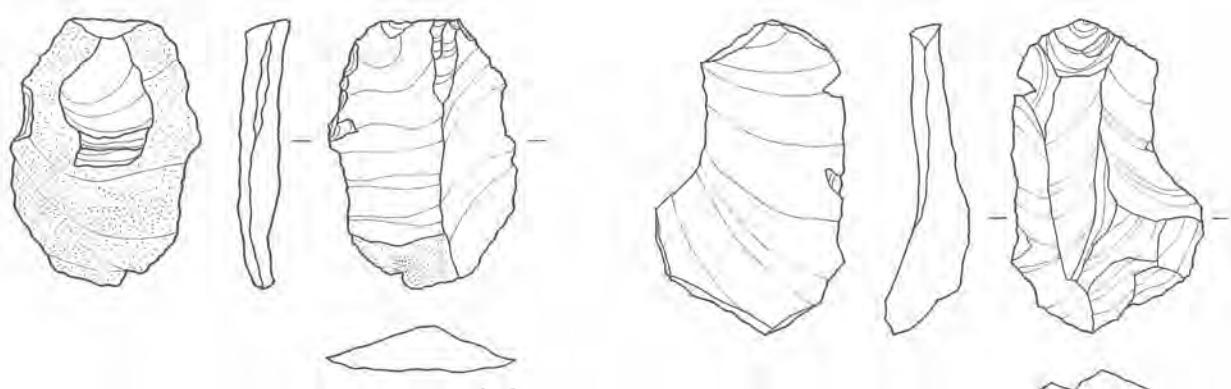
0 1 : 3 5cm



14 (P1)

15 (C1層)

16 (P3)



0 2 : 3 5cm

第71図 38号住居跡出土遺物 (2)

### 36号竪穴跡（第71図）

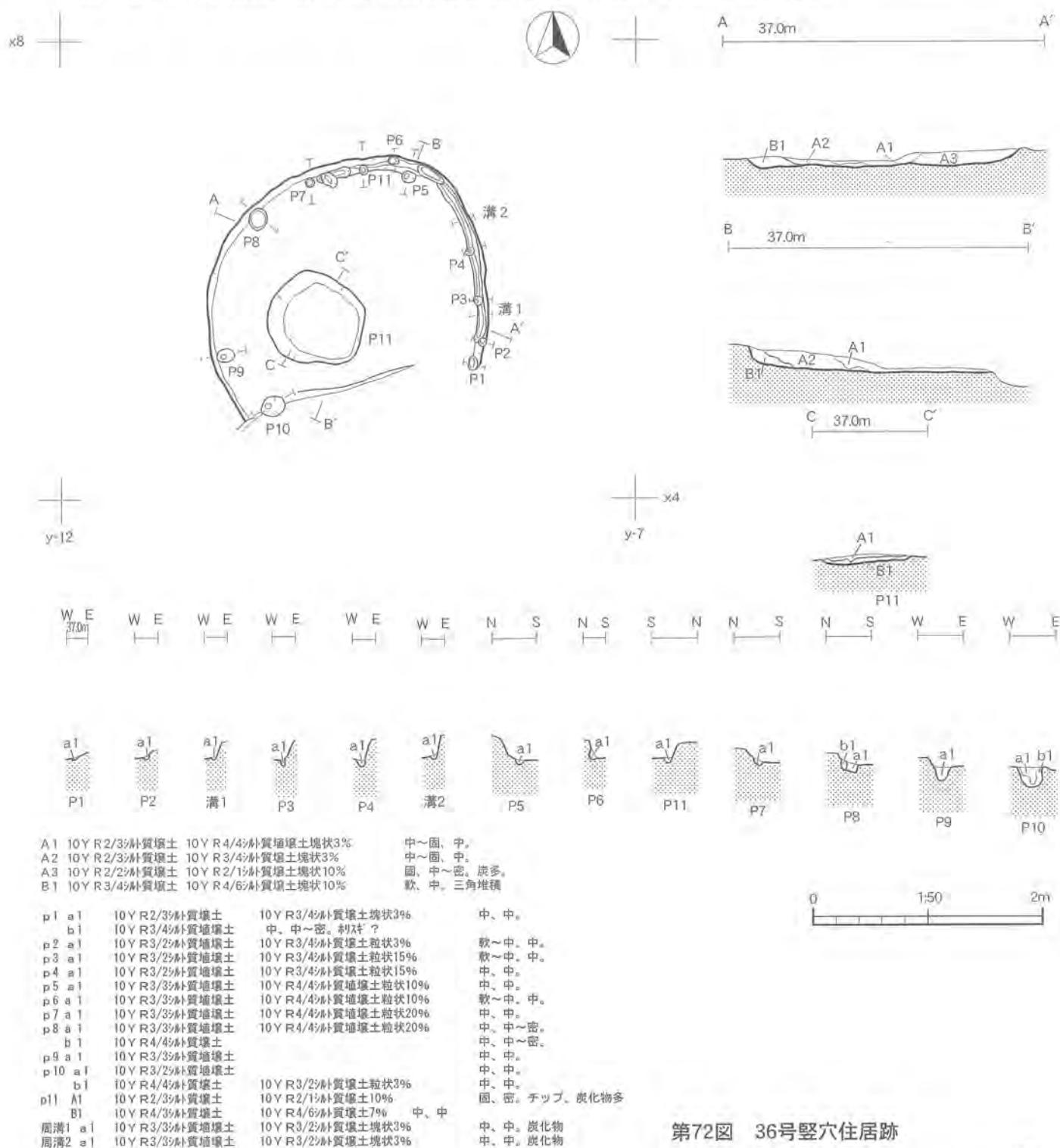
35号住居跡の南西に位置する。

平面形は不整円形である。規模は、径約2.5mである。覆土は上、中層（A1～A3）が黒褐色土、北側下層（B1層）に暗褐色土が堆積する。

床面からは、周縁部で小ピット、東壁際で溝跡を検出している。中央部で深い土坑を検出した。A層はチップ、炭化物を多く含んでいる。

土器は出土していない。

時期は、掘り込み面、周辺の出土状況などから縄文時代に伴うものと思われる。



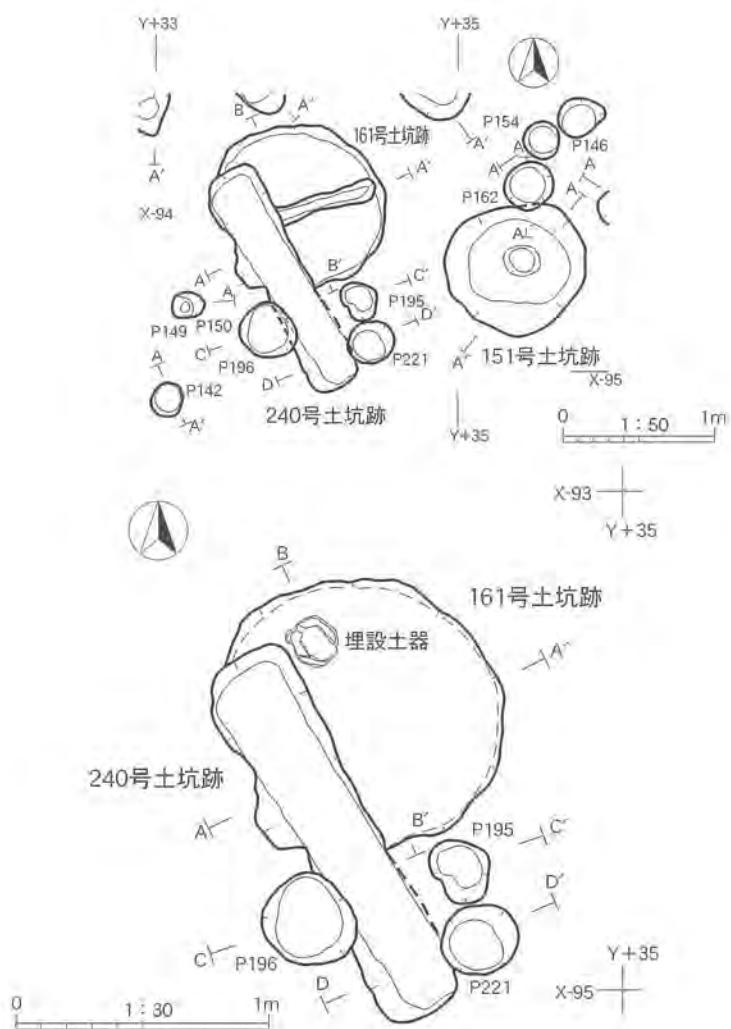
151号・161号土坑跡・240号陥穴跡 (第73、74図 写真第12図版)

151号土坑跡は長軸0.90×短軸0.82m、深さ0.43mの円形である。底面中央に円形の小ピットを伴う。覆土は、明褐色土の下に炭、焼土を塊上に含む黒色土、暗赤褐色土層が交互に堆積する。堆積状況から二次的な堆積と思われる。遺物はa1層下位から縄文土器片が出土する。1は深鉢形胴部であり撚糸文で縦位に施文したものである。2は口縁部で刺突がみられ、3は口縁部で貼付文に円形刺突を施している。これら土器は大木4~5式のものと考えられる。151号土坑跡は出土遺物から縄文時代前期の遺構と考えられる。

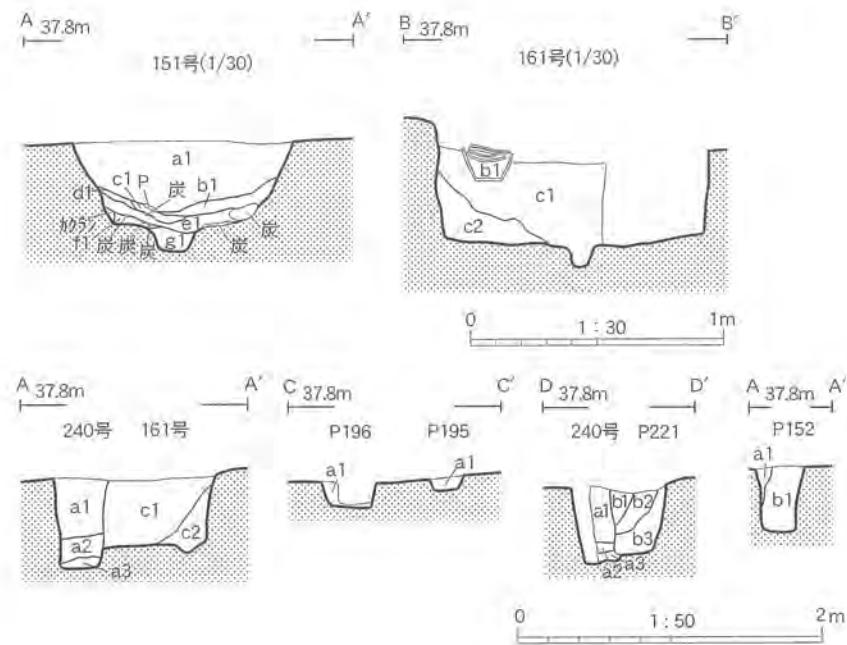
161号土坑跡は長軸が1.17m、深さが0.46mの円形である。西側部分が140号土坑跡と重複し、当遺構が古い。遺構北側覆土上位で埋設土器が確認される。土器は深鉢形で正位に埋設されている。遺構覆土は人為堆積と考えられる。遺構底面で東西方向に浅い溝跡が確認される。

出土した埋設土器は深鉢形であり（大木）5式と考えられる。口縁部には鋸歯状貼付文と環状装飾体が施されている。鋸歯状貼付文は対になっている。胴部には撚糸文で縦位に施文されている。161号土坑跡は出土した遺物から縄文時代前期の遺構と考えられる。

240号陥穴跡は長軸1.61m×短軸0.41m、深さ0.59mである。161号土坑跡、P196号、P221号と重複し、当遺構は161号より新しく、P196号、P221号より古い。覆土は自然堆積と考えられる。出土遺物はない。遺構の時期は重複する161号土坑跡との新旧関係から縄文時代前期以降と考えられる。



第73図 151号・161号・240号土坑跡 (1)



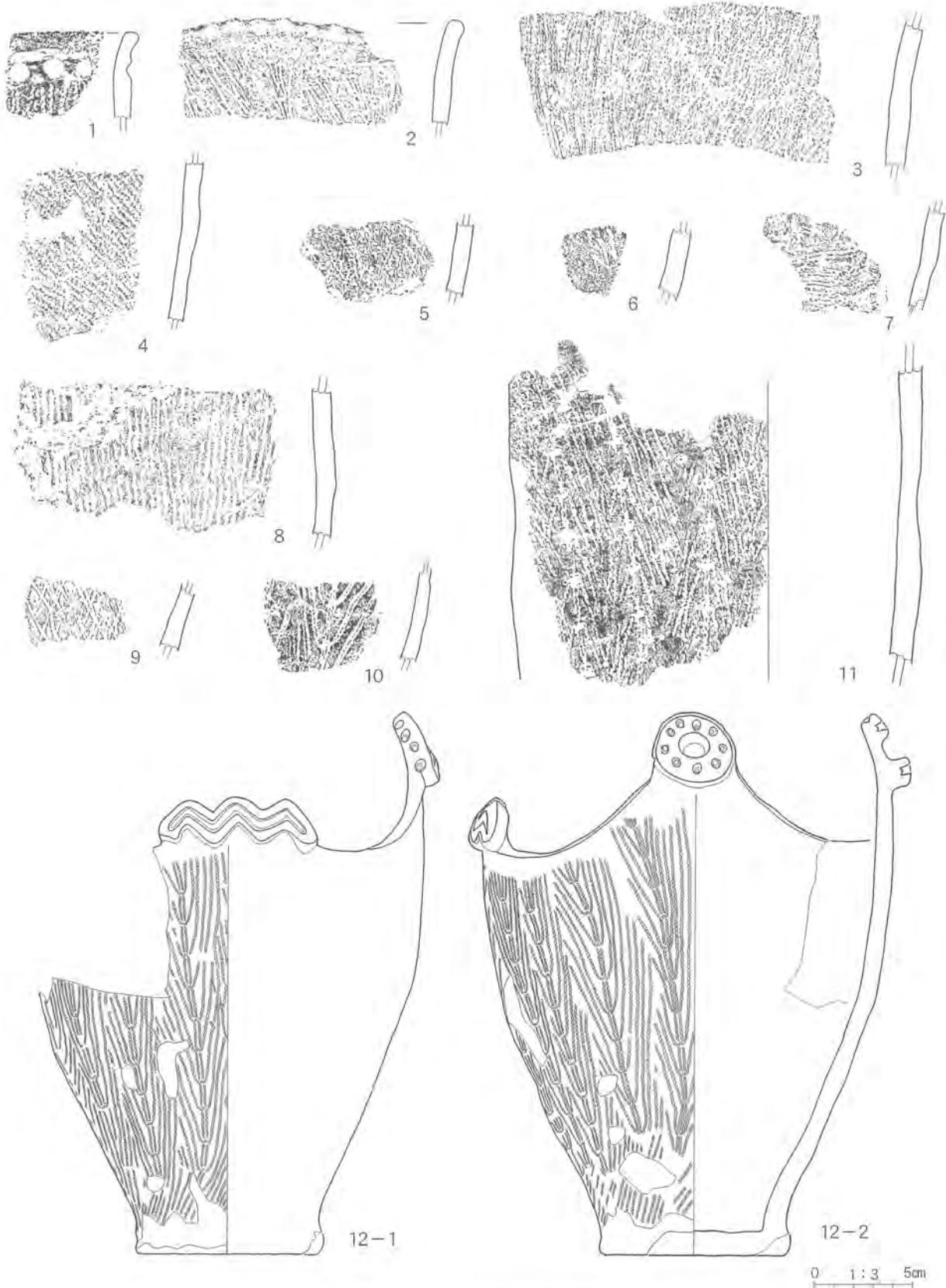
151号土坑

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR5/2 砂壌土	10YR5/2 砂壌土塊10%	砂質、疎
b1	10YR4/6 砂壌土	5YR4/4 砂壌土塊10%	軟、疎。土器、炭少
c1	5YR4/4 砂壌土	5YR5/4 砂壌土塊10% 2.5YR5/4 砂壌土塊3%	中～固。土器
d1	7.5YR2/2 砂壌土	7.5YR3/2 砂壌土塊10%	中～固。炭少
e1	5YR3/2 砂壌土	5YR5/2 砂壌土塊10%	固、中～密。炭塊
f1	5YR3/3 砂壌土	2.5YR4/6 砂壌土2%	固、中～密。
g1	7.5YR4/4 シルト質壌土	10YR5/6 シルト質壌土塊10% 5YR2/2 シルト質壌土層状3%	中～固、中。炭、燒土

161号・240号土坑跡 (A-A'・B-B')

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR5/2 砂壌土	10YR4/2 径5mm 1% (地山土粒)	やや粘質 疎 流入土 (240号覆土)
a2	10YR4/2 砂壌土	10YR5/4 径5mm 1% (地山土粒)	やや粘質 疎 流入土 (240号覆土)
a3	10YR4/1 砂壌土	10YR5/4 径1～5mm 1% (地山土粒)	やや粘質 疎 流入土 (240号覆土)
b1	10YR6/2 シルト質壌土	10YR4/1 径5～10mm 1%	シルト質 疎 (161号埋設土器内覆土)
c1	10YR4/1～4/2 砂壌土	10YR5/4 径5mm 1%	やや砂質 やや密 (161号覆土)
c2	10YR3/2 砂壌土	10YR5/4 径5mm 1% (地山土粒)	やや砂質 やや密 (161号覆土)

第74図 151号・161号・240号土坑跡 (2)



No.	出土遺物	層位・地点	器種	部位	内面	外面	その他特徴
1	151号土坑跡	a1 層下位	深鉢	口縁部	ナテ	貼付文、刺突、縦位撚糸文	口唇部平坦
2	151号土坑跡	a1 層下位	深鉢	口縁部	ナテ	縦位撚糸文	口唇部刺突
3	151号土坑跡	a1 層下位	深鉢	胴部	ナテ	縦位撚糸文	—
4	161号土坑跡	確認面	深鉢	胴部	ナア	結束文	—
5	161号土坑跡	確認面	深鉢	胴部	ナテ	縦位撚糸文	—
6	161号土坑跡	確認面	深鉢	胴部	摩滅	摩滅	—
7	161号土坑跡	確認面	深鉢	胴部	摩滅	縦位撚糸文	—
8	161号土坑跡	c1層中	深鉢	胴部	ナテ	縦位撚糸文	—
9	161号土坑跡	埋土中	深鉢	胴部	ナテ	縦位撚糸文	—
10	161号土坑跡	埋土中	深鉢	胴部	ナテ	縦位撚糸文	—
11	161号土坑跡	埋土中	深鉢	胴部	ナテ	縦位撚糸文	—
12	162号土坑跡	c1層上位	深鉢	ほぼ完形	ナテ	鋸齒状 貼付文(1対)、環状装飾体、縦位撚糸文	遺物内埋設土器 4/5残存

### 212号陥穴跡 (第76、77図)

長軸2.62m×短軸0.48m、深さ0.62mの陥穴跡である。覆土は自然堆積と考えられる。

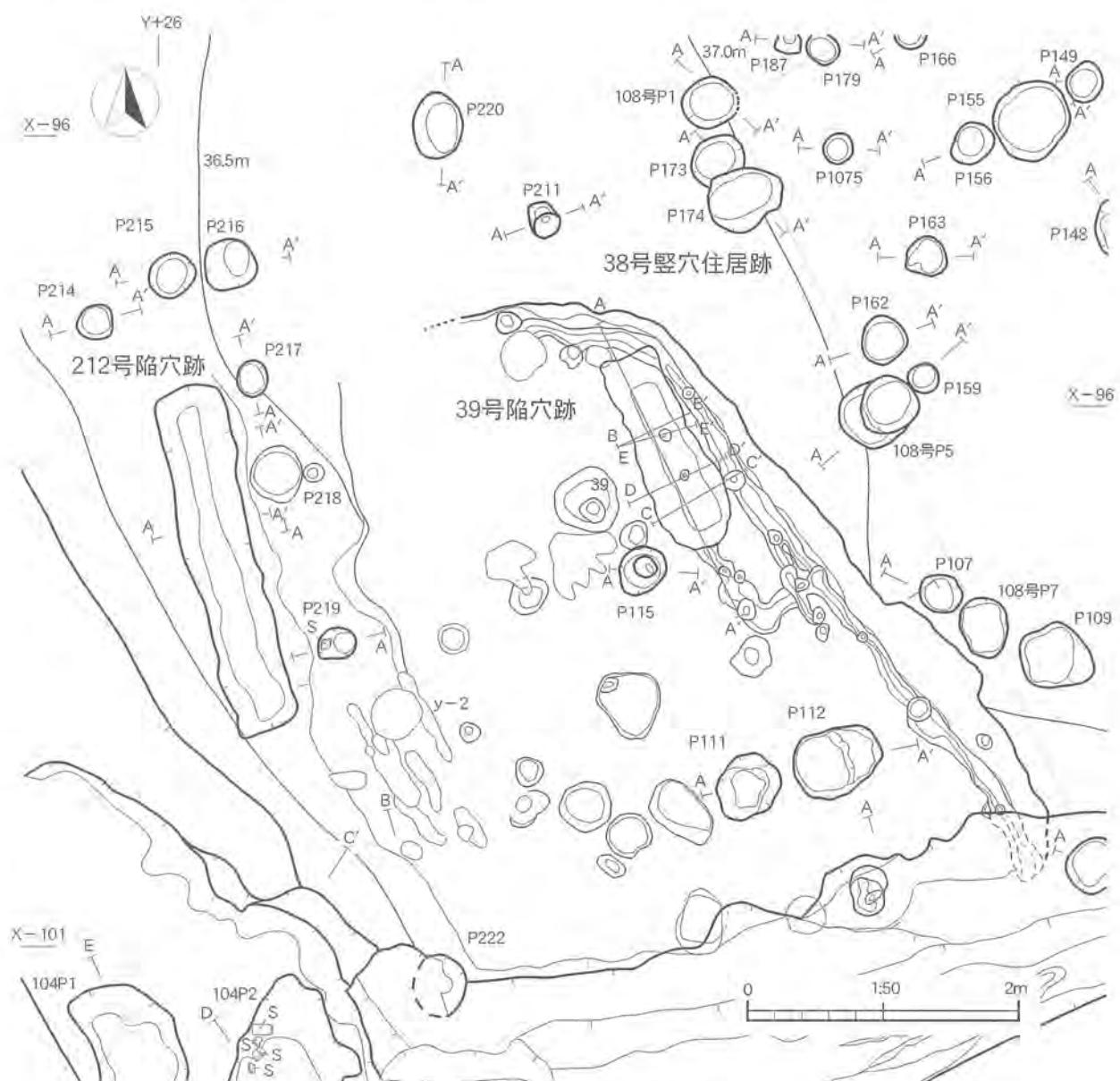
遺物は覆土中より縄文土器片が出土しているが、小破片で摩滅している。

遺構の時期について、212号は斜面に平行して構築されており、この東側で39号、240号陥穴跡が並ぶように検出されている。この位置関係から、これら3基の陥穴跡は同時期の遺構と考えられ、且つ39号、240号ともに縄文時代前期頃と考えられることから、212号陥穴跡は縄文時代前期と考えられる。

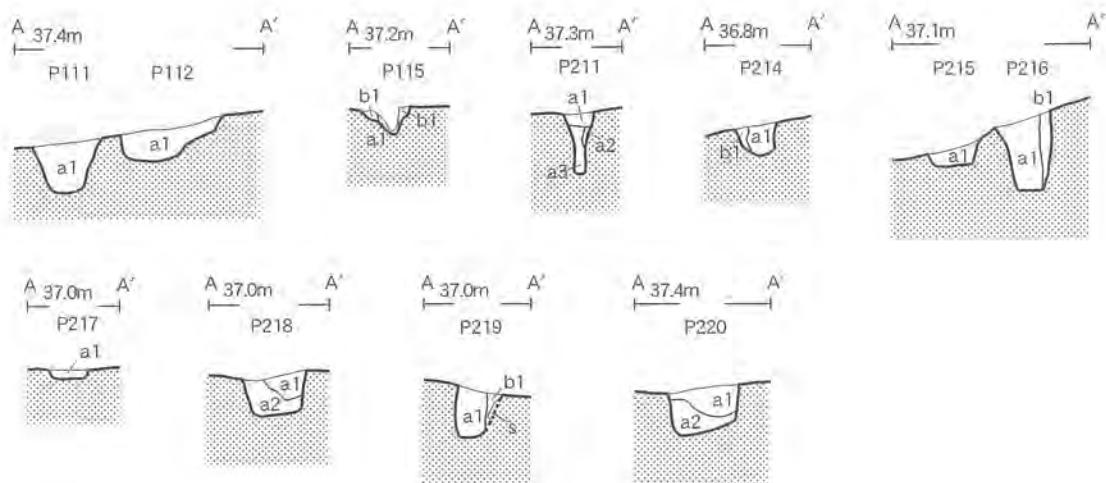
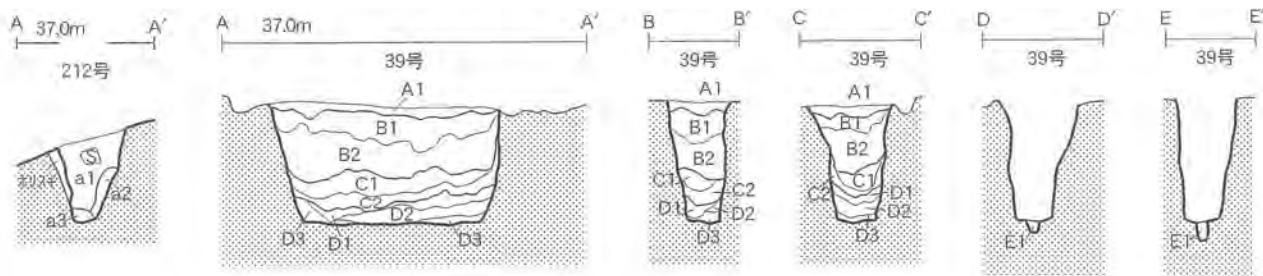
### 39号陥穴跡 (第76、77図写真第6図版)

38号住居跡の北東隅の床面から検出した。38号住居跡に切られる。

平面形は方形である。規模は1.5m×0.5m、深さ0.8mである。覆土A、B層は固い人為堆積層で、C層以下は自然堆積層である。床面から小ピットを2基検出している。遺物は出土していない。時期は、切り合いから縄文時代前期以前に伴う。



第76図 212号・39号陥穴跡 (1)



0 1:50 2m

212号陥穴跡

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/1 砂壌土	10YR5/4 径1~5 mm 1% (地山土粒)	やや砂質 疎
a2	10YR4/2 砂壌土	10YR5/4 径5~10mm 1% (地山土粒)	やや砂質 疎
a3	10YR5/3 砂壌土	10YR5/4 径1 mm 1% (地山土粒)	砂質 疎

39号陥穴跡

層名	基本土	混入土	備考
A	10Y R 3/4沙質埴壌土	7.5Y R 5/6沙質埴土塊状20%	中~固、密
B1	10Y R 3/4沙質埴壌土	7.5Y R 5/6沙質埴土塊状7%	軟、中。
B2	10Y R 3/3沙質埴壌土	10Y R 4/6沙質埴土塊状20%	軟、中
C1	10Y R 3/3沙質埴壌土		中~固、密
C2	10Y R 3/3沙質埴壌土	10Y R 6/4沙質埴土塊状15%	中~固、密
D1	10Y R 3/3沙質埴壌土	10Y R 5/6沙質埴土塊状30%	軟、中~密。
D2	10Y R 3/2沙質埴壌土		軟、中。三角堆積
D3	10Y R 3/3沙質埴壌土		中、密
E1	10Y R 5/6沙質埴壌土	7.5Y R 5/8沙質埴土塊状20%	中~固、密。

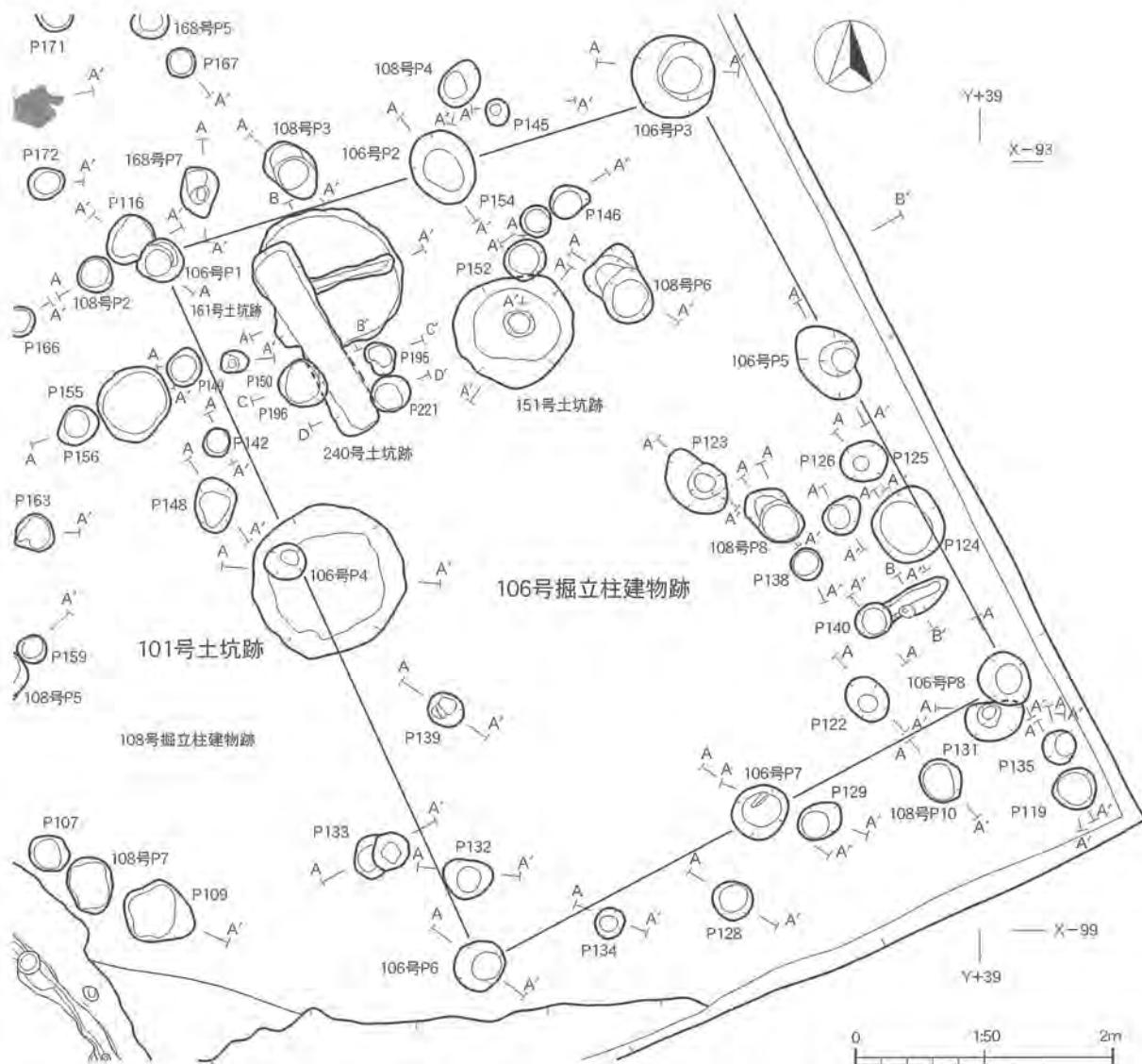
第77図 212号・39号陥穴跡 (2)

### 101号土坑跡・106号掘立柱建物跡（第78、79、80図 写真第7図版）

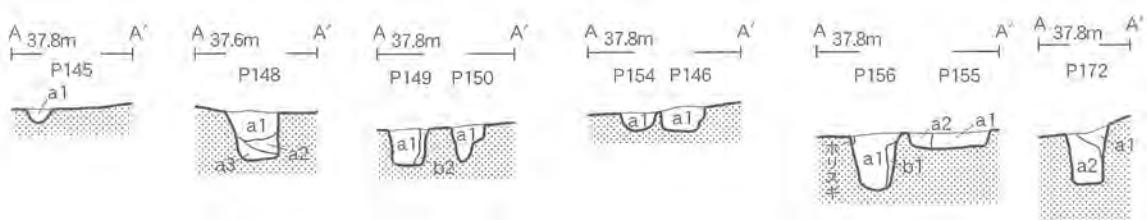
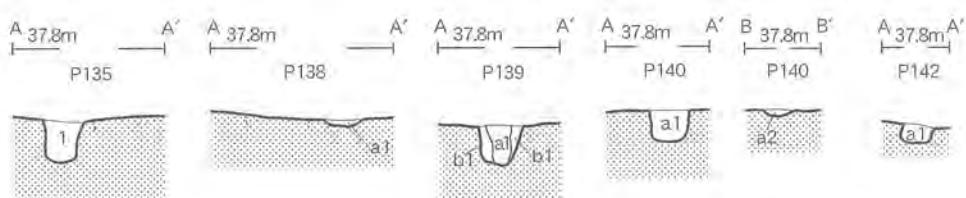
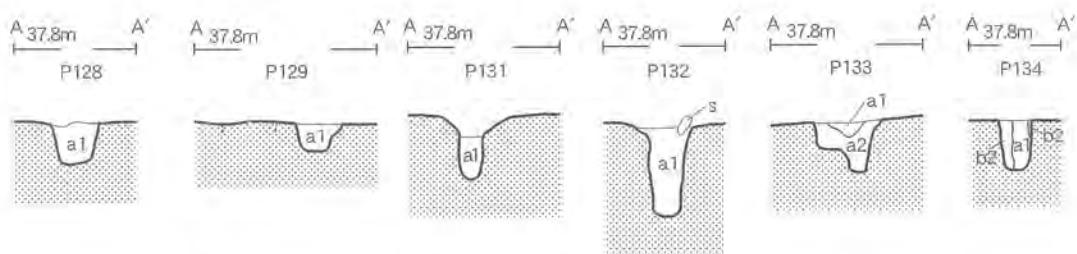
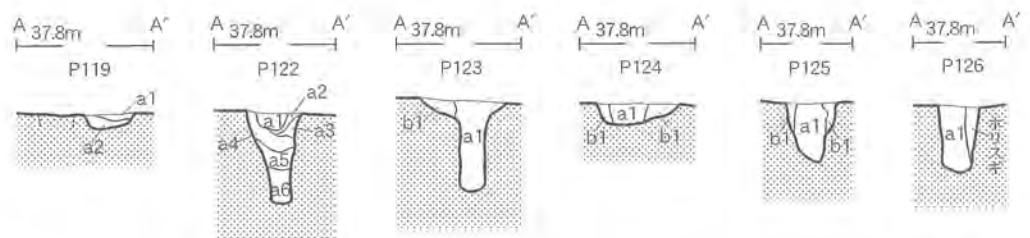
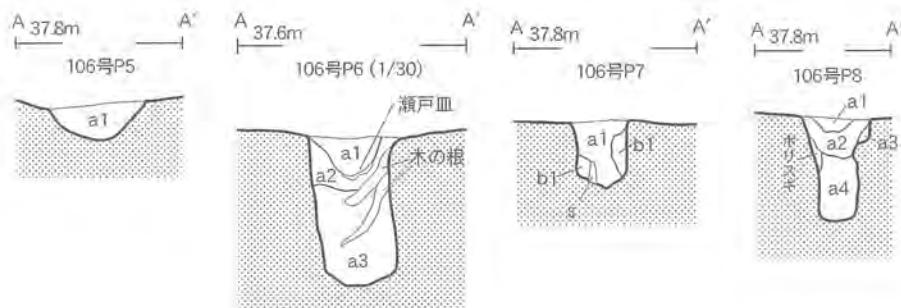
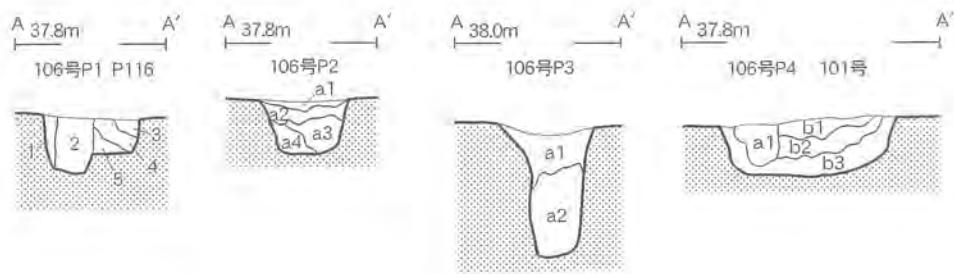
101号土坑跡は長径1.18m×短径1.16m、深さ0.4mの円形である。106号掘立柱建物跡と重複し本土坑跡が古い。覆土は3層に分けられ、各層に地山土塊が多く含まれることから、人為堆積と考えられる。出土遺物はない。101号土坑跡は重複する106号掘立柱建物跡との新旧関係から近世以前の遺構と考えられる。

106号掘立柱建物跡は桁行2間、梁間2間である。建物軸方向はN-25°-Wである。桁行は西側6.05m、東側5.36m、梁間北側4.32m、南側4.62mである。柱間寸法は桁行西側で北から2.51m-3.54m、桁行東側で北から2.55m-2.80m、梁間北側で西から2.30m-2.01m、梁間南側で西から2.46m-2.16mである。柱穴跡は円形から不整円形で、直径0.40~0.65m、深さは0.26~0.86mである。柱痕はP1、P7で確認されている。建物跡の隅にあたる、P3、P6、P8は同建物を構成する他の柱穴跡より掘り方が深い。

出土遺物は1が瀬戸皿であり、P6柱穴跡に意図的に入れ込まれたものと考えられる。蘭竹文が施されており、17世紀中頃のものと考えられる。この他にP7柱穴跡覆土中位から陶器片が1点出土しているが、小破片であり時期や器種は不明である。106号掘立柱建物跡は出土遺物から近世の遺構と考えられる。



第78図 101号土坑跡・106号掘立柱建物跡（1）



0 1:50 2m

第79図 101号土坑跡・106号掘立柱建物跡 (2)

## 101号土坑跡・106号P4

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/1 砂壌土		砂質 疎 (106号P4 覆土)
b1	10YR4/1 砂壌土	10YR6/4 径5~10mm 1% (地山土塊)	砂質 やや密 人為堆積 (101号土坑跡覆土)
b2	10YR4/2 砂壌土	10YR6/4 径5~30mm 10% (地山土塊)	砂質 密 人為堆積 (101号土坑跡覆土)
b3	10YR6/4 砂壌土	10YR7/6 径1~5mm 3% (地山土粒)	砂質 密 人為堆積 (101号土坑跡覆土)

## 106号P1・P206号

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/2 砂壌土	10YR5/2 径5~30mm 3% (地山土塊)	やや砂質 疎 柱痕 (106号P1 覆土)
a2	10YR5/3 砂壌土	10YR2/2 径5~10mm 3% (地山土粒)	やや粘質 やや密 (106号P1 覆土)
b1	10YR5/1 シルト質壌土	10YR3/2 径1~5mm 1% (黒褐色土粒)	砂質 疎 (P116 覆土)
b2	10YR4/2 砂壌土	10YR5/2 径1~5mm 1% (地山土粒)	やや砂質 疎 (P116 覆土)
b3	10YR5/6 シルト質壌土		やや粘質 やや密 (P116 覆土)

## 106号P2

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR2/1 砂壌土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒) 10YR3/1 径1~5mm 1% (炭化物粒)	やや粘質 疎
a2	10YR5/4 砂壌土	10YR2/1 径5mm 1% (黒褐色土粒)	砂質 疎
a3	10YR4/1 砂壌土		砂質 疎
a4	10YR4/2 砂壌土		砂質 疎

## 106号P3

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR5/1 砂壌土		砂質 疎
a2	10YR4/1 砂壌土		砂質 疎

## 106号P5

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/1 砂壌土	10YR5/3 径10~30mm 1%	砂質 疎

## 106号P6

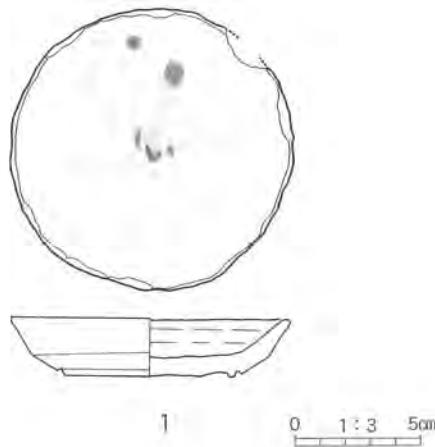
層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR2/1 砂壌土	10YR5/4 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 疎 人為堆積
a2	10YR5/3 砂壌土	10YR3/1 径5~10mm 1% (黒褐色土粒)	砂質 疎 人為堆積
a3	10YR5/2 砂壌土	10YR6/4 径1~10mm 3% (地山土粒)	砂質 疎 人為堆積

## 106号P7

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/2 砂壌土	10YR5/3 径10~30mm 10% (地山塊) 10YR2/1 径10mm 1% (黒色土)	砂質 疎 柱痕
b1	10YR5/3 砂壌土		砂質 疎

## 106号P8

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/1 砂壌土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 疎
a2	10YR4/2 砂壌土	10YR5/2 径5~10mm 1% (地山土粒) 10YR2/1 径5~20mm 1% (炭化物)	砂質 疎
a3	10YR4/3 砂壌土		砂質 疎 地山崩落土
a4	10YR4/2 砂壌土	10YR5/2 径5~10mm 3% (地山土粒)	砂質 疎



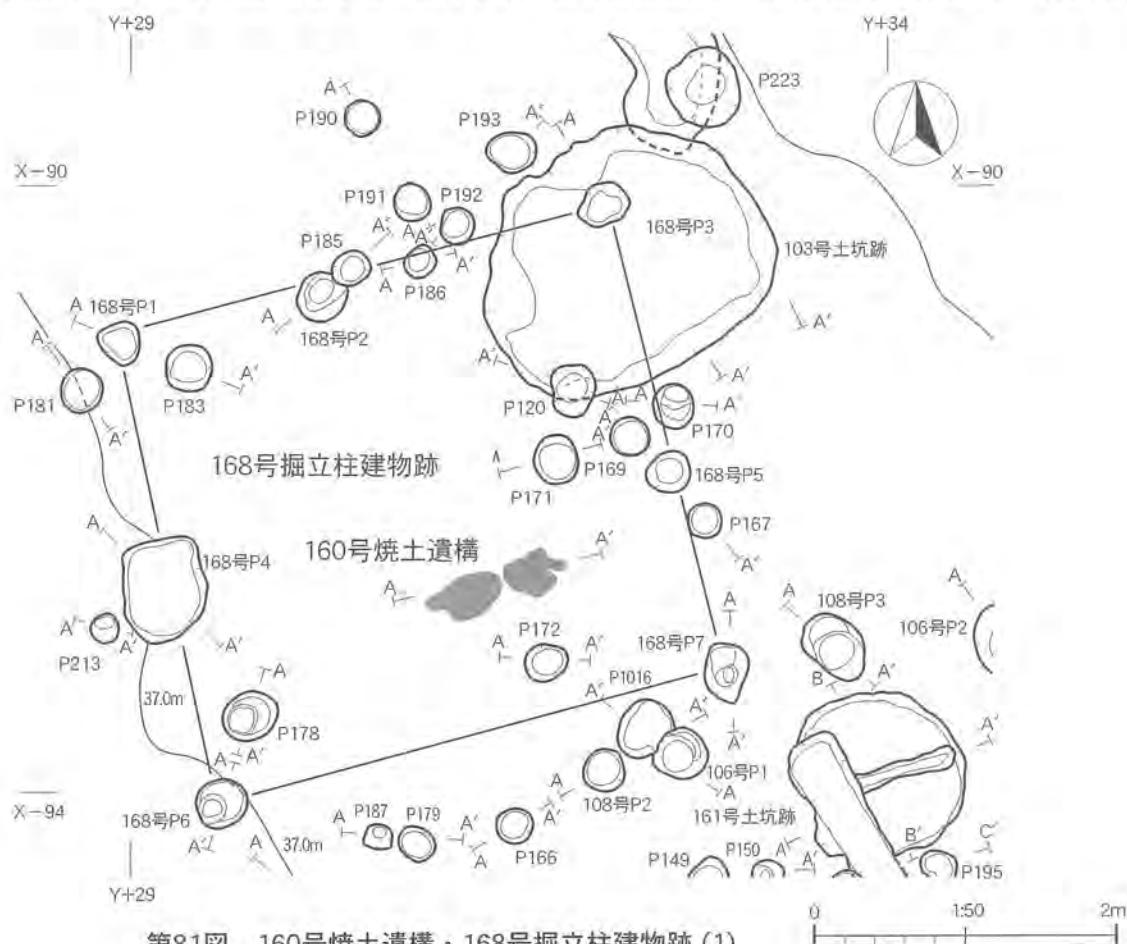
No	出土遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	内面	外面	備考
1	108号P3	a1層下位	皿	完形	11.1	6.8	2.3	淡黄色釉 蘭竹文	淡黄色釉	瀬戸產 削高台 口縁部 欠損 17世紀中頃

第80図 106号掘立柱建物跡出土遺物

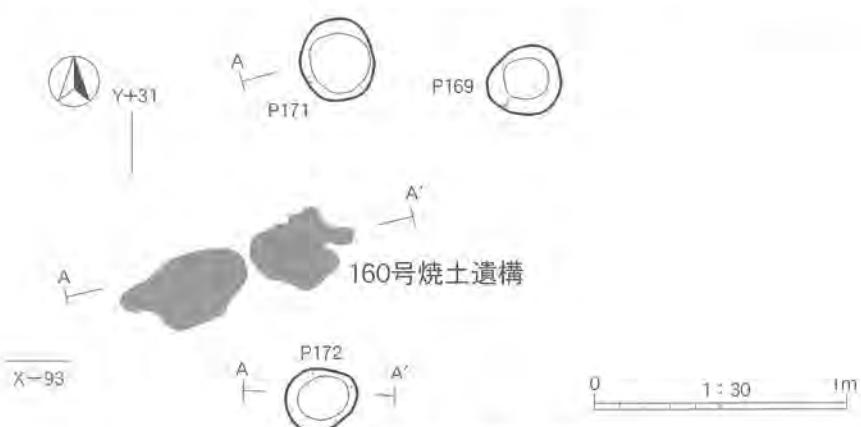
### 160号焼土遺構・168号掘立柱建物跡(第81、82、83図)

160号焼土遺構は長径0.52m×短径0.28m、長径0.41m×短径0.30m、不整形のプランを地山面で確認する。これら2基のプランは本来同一のものであったと考えられる。掘り込みはなく、出土遺物はない。

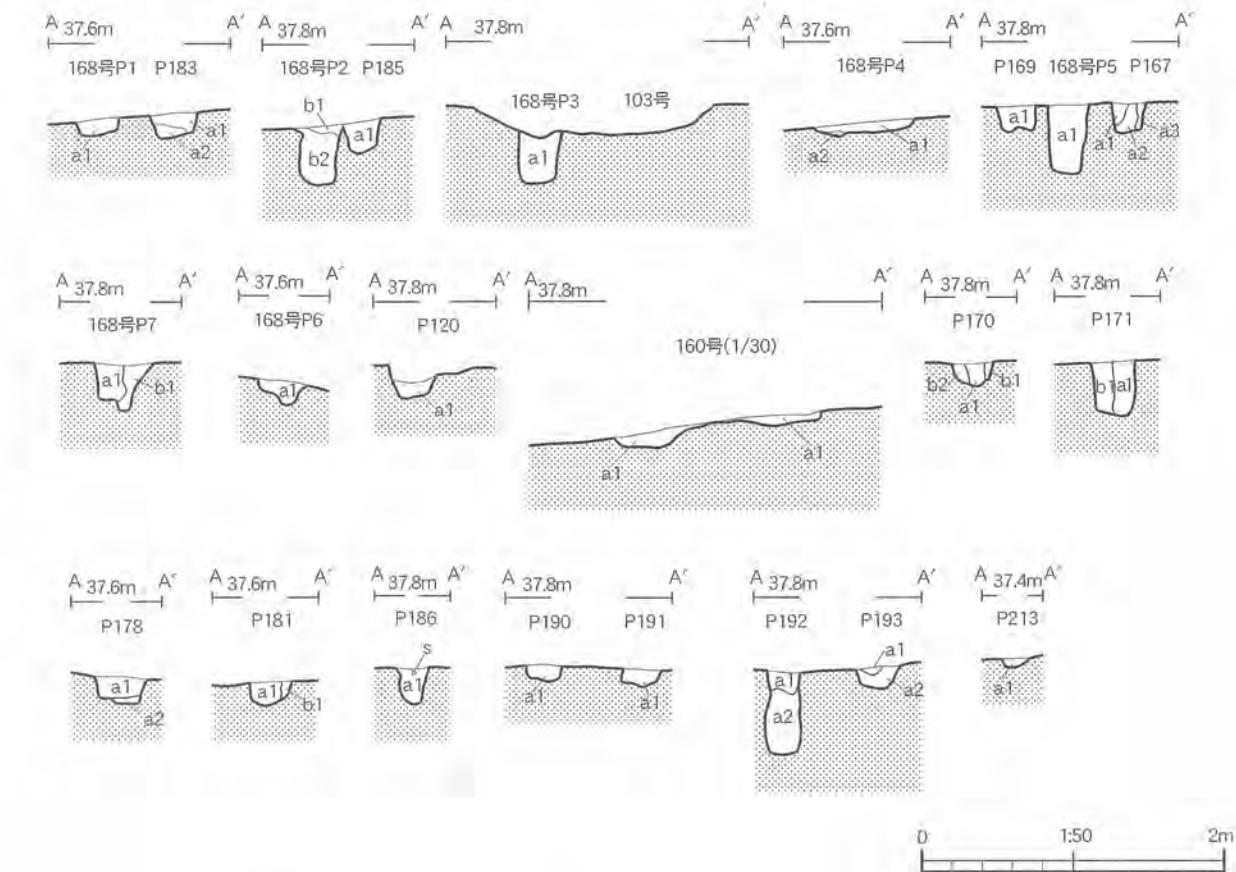
168号掘立柱建物跡は桁行(北側)2間、(南側)1間、梁間2間である。103号土坑跡と重複し、当遺構は103号土坑跡より古い。建物軸方向はS-76°-Wである。桁行は北側3.31m、南側3.47m、梁間は西側3.12m、東側3.12mである。柱間寸法は、桁行北側で西から1.37m-1.83m、桁行南側で3.47m、梁間西側で北から1.51m-1.50m、梁間東側で北から1.78m-1.34mである。柱穴跡は円形から不整円形で、直径0.28~0.69m、深さ0.12~0.46mである。柱痕はP6で確認されている。出土遺物はない。168号掘立柱建物跡は重複する103号土坑跡との新旧関係から、近世以前の遺構と考えられる。



第81図 160号焼土遺構・168号掘立柱建物跡(1)



第82図 160号焼土遺構



160号焼土遺構

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/2 砂壌土		やや砂質 やや密 地山

168号 P1

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/1 砂壌土	10YR4/2 径10~30mm 3% (地山土塊)	砂質 やや密

168号 P2・P185

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/2 砂壌土	10YR5/3 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 蘿 (P185 覆土)
b1	10YR4/1 砂壌土	10YR5/3 径5~20mm 1% (地山土塊)	砂質 蘿 (168号 P2 覆土)
b2	10YR3/2 砂壌土	10YR2/1 径5~10mm 1% (黒褐色土粒)	砂質 蘿 (168号 P2 覆土)

168号 P3

a1	10YR10/2 砂壌土	10YR5/3 径10~50mm 1% (地山土粒)	砂質 蘿
----	--------------	----------------------------	------

168号 P4

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/1 砂壌土	10YR5/3 径5~10mm 1% (地山土粒)	砂質 蘿
a2	10YR4/2 砂壌土	10YR4/3 径10mm 1% (地山土粒)	砂質 蘿

168号 P5

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/2 砂壌土	10YR3/2 径5mm 1% (黒褐色土粒)	砂質 蘿

168号 P6

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/2 砂壌土	10YR5/3 径5~20mm 1% (地山土粒)	砂質 蘿

168号 P7

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR2/2 砂壌土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 蘿 柱痕
b1	10YR4/2 砂壌土	10YR5/2 径5~10mm 3% (地山土粒)	砂質 蘿

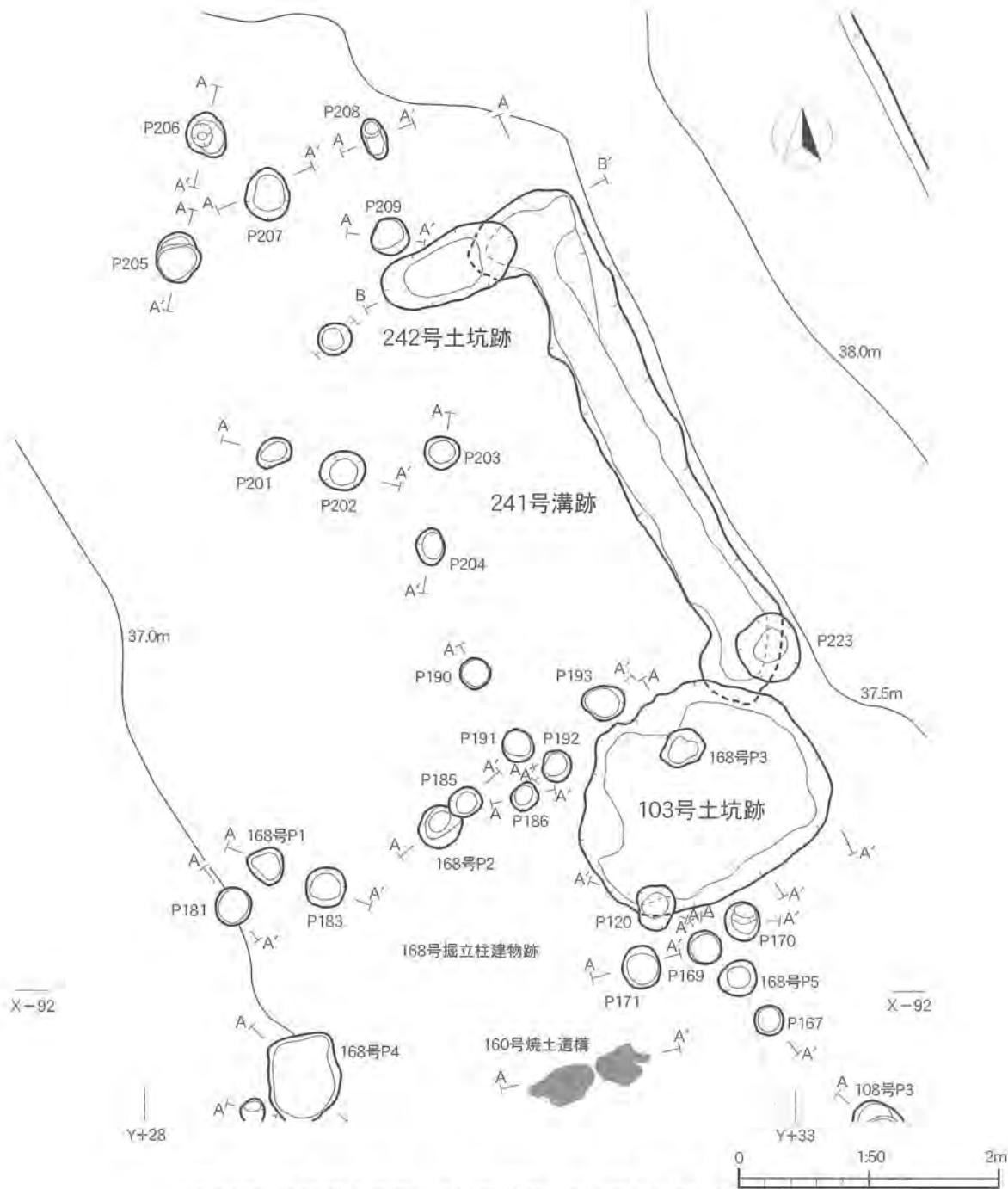
第83図 160号焼土遺構・168号掘立柱建物跡 (2)

103号土坑跡・241号溝跡・242号土坑跡(第84、85、86図 写真第7図版)

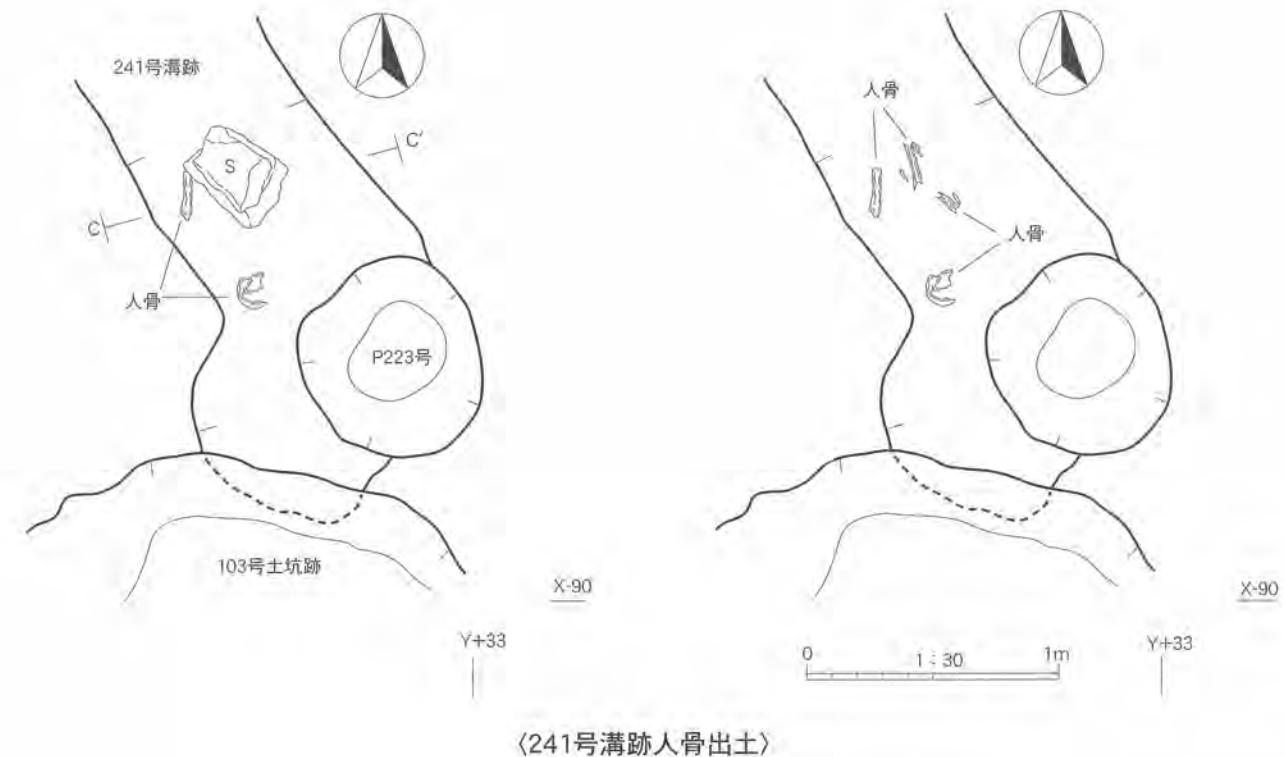
103号土坑跡は長径1.97m×短径1.67m、深さ0.2mの不整円形である。168号掘立柱建物跡と重複し、当遺構が新しい。出土遺物は1が陶器片、2は寛永通宝である。1は小破片であり時期、産地は不明である。103号土坑跡は出土遺物から近世以降の遺構と考えられる。

241号溝跡は242号土坑跡、P223号、103号土坑跡と重複し、当遺構が重複するいずれの遺構より古い。長さ4.2×幅0.63m、深さ0.42mの規模をもつ。覆土は自然堆積と考えられる。遺物は遺構南側の覆土上位から人骨が出土する。部位は尺骨と考えられる。241号溝跡は、近世の遺構と考えられる103号土坑跡より古いことから、近世期かそれ以前の遺構と考えられる。

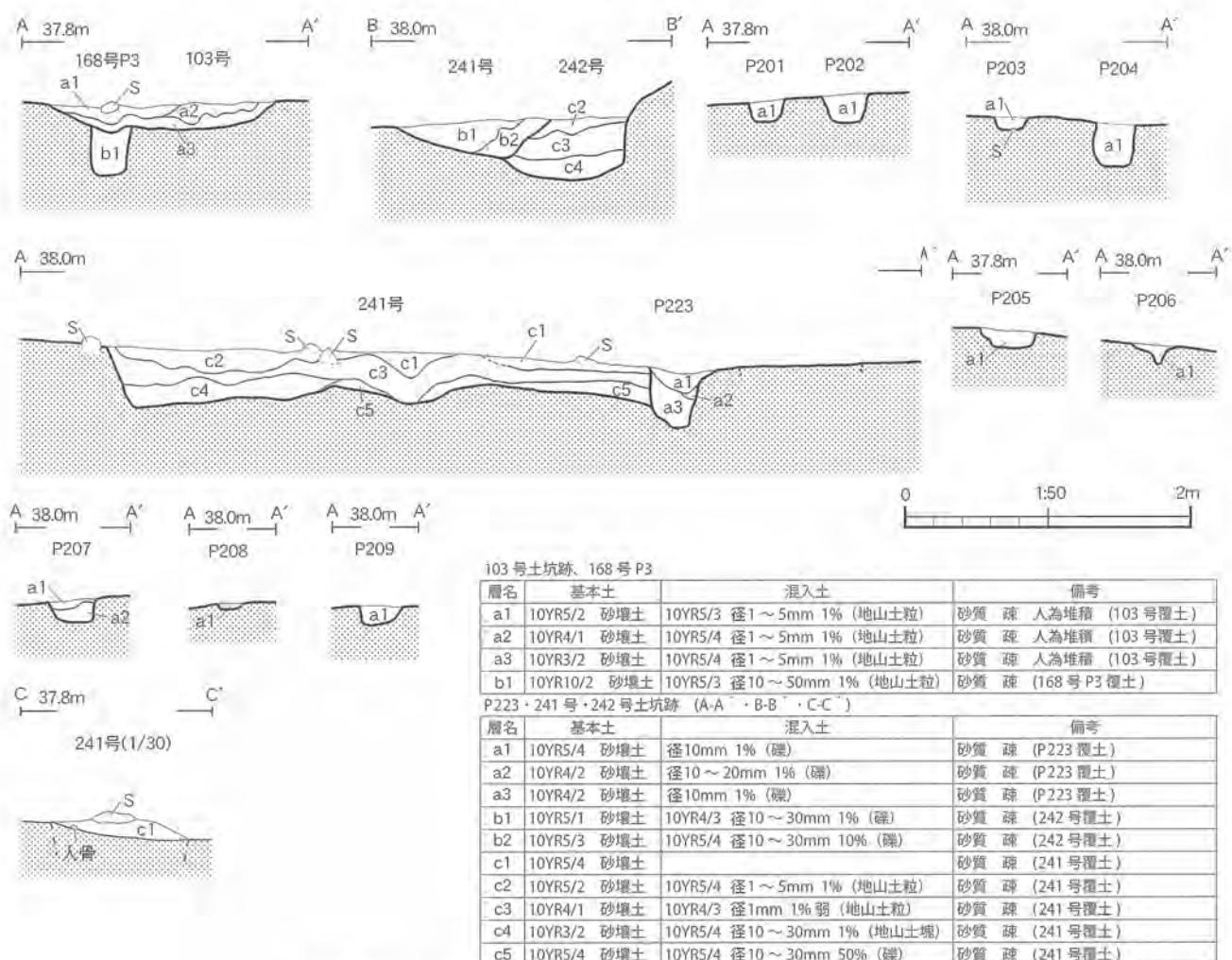
242号土坑跡は241号溝跡と重複し、本遺構が新しい。長軸1.1m×短軸0.5m、深さ0.28mの長楕円形である。覆土は自然堆積と考えられる。出土遺物はない。遺構の時期は不明である。



第84図 103号土坑跡・241号溝跡・242号土坑跡 (1)



〈241号溝跡人骨出土〉



第85図 103号土坑跡・241号溝跡・242号土坑跡 (2)



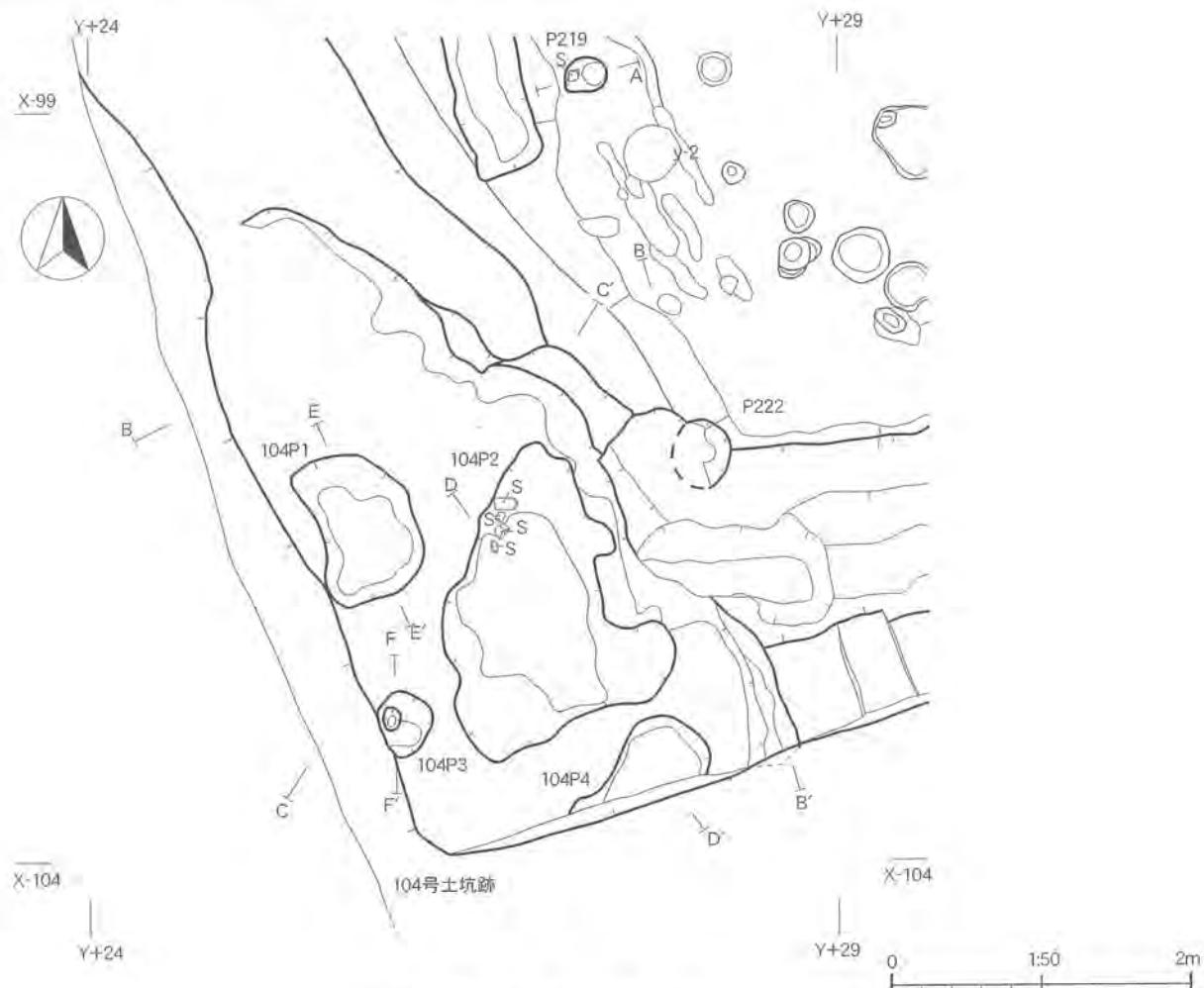
No	出土地点	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	内面	外面	その他特徴
1	103号土坑跡	a1層中	碗	口縁部	—	—	—	淡黄色釉	淡黄色釉	

No	出土遺構	層位	銭文		外径 (mm)	穿孔 (mm)	外輪厚 (mm)	外輪幅 (mm)	重量 (g)	初鑄年代	特徴
			面	背							
2	103号土坑跡	a2層中	寢永通寶	無背	21.7 ~ 21.8	5.7 × 7.0	1.0 ~ 1.2	1.5 ~ 1.9	1.5	1697年	新寢永

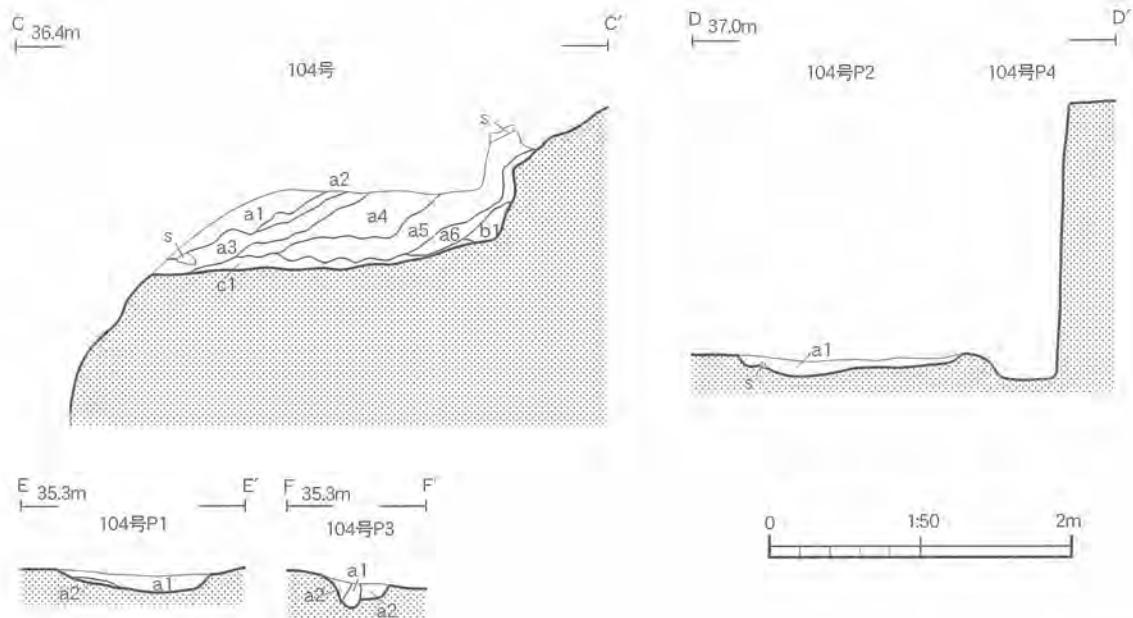
第86図 103号土坑跡出土遺物

#### 104号土坑跡 (第87、88、89図)

調査区南東端で確認する。第105号溝跡と重複し当遺構が新しい。遺構南側は調査区外に伸び、また、西側部分は切り通しにより削平されている。遺存する部分で長径4.43m、短径2.58m、深さ0.87mである。遺構の掘り方は不整形である。底面では不整形の土坑が確認されている。出土遺物は1が縄文土器片、2が永樂通寶であり、ともに覆土中からの出土である。遺構の時期は不明である。



第87図 104号土坑跡 (1)



104号土坑跡 (C-C')

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR5/2 砂壌土	10YR5/4 径1~5mm 1% (地山土粒) 径10~20mm 10% (礫)	砂質 薄 流入土
a2	10YR4/2 砂壌土	10YR5/4 径1~5mm 1% (地山土粒) 径10~20mm 5% (礫)	砂質 薄 流入土
a3	10YR4/2 砂壌土	10YR5/4 径5~10mm 1% (地山土粒)	やや砂質 薄 流入土
a4	10YR3/2 砂壌土	10YR5/4 径1~5mm 1% (地山土粒) 径5mm 1% 以下 (炭化物)	やや砂質 薄 流入土
a5	10YR3/2 砂壌土	10YR5/4 径1~5mm 1% (地山土粒) 径5mm 1% 以下 (炭化物)	やや砂質 薄 流入土
a6	10YR4/2 砂壌土	10YR5/4 径5~30mm 30% (地山土塊)	やや粘質 薄 流入土
b1	10YR5/2 砂壌土	10YR5/3 ~ 6/2 径10~50mm 1% (地山土塊)	やや粘質 薄 地山崩落土
c1	10YR5/2 砂壌土	10YR5/4 ~ 6/2 径10~50mm 10% (地山土塊)	やや粘質 薄

104号土坑跡 P-1

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/2 シルト質壌土	10YR5/4 径5~30mm 1% (地山土塊) 径5mm 1% 以下 (炭化物) 径5~10mm 以下 (小礫)	やや粘質 やや密
a2	10YR5/2 シルト質壌土		やや粘質 薄 地山

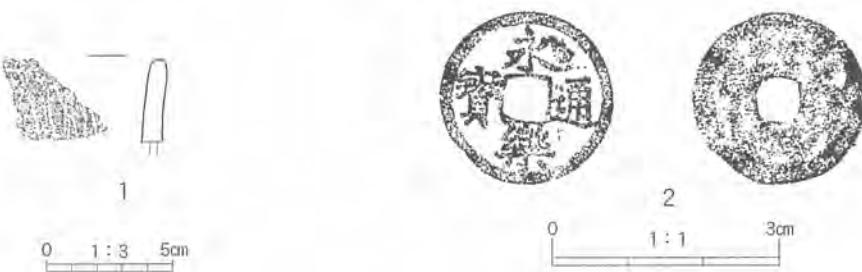
104号土坑跡 P-2

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/3 シルト質壌土	10YR5/4 ~ 5/6 径5~30mm 3% (地山土塊)	やや粘質 やや密

104号土坑跡 P-3

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/1 砂壌土	10YR5/4 径5~10mm 1% (地山土粒) 径5~10mm 1% (炭化物)	砂質 薄
a2	10YR4/2 砂壌土	10YR5/3 ~ 5/6 径5~20mm 1% (地山土塊)	砂質 やや密

第88図 104号土坑跡 (2)



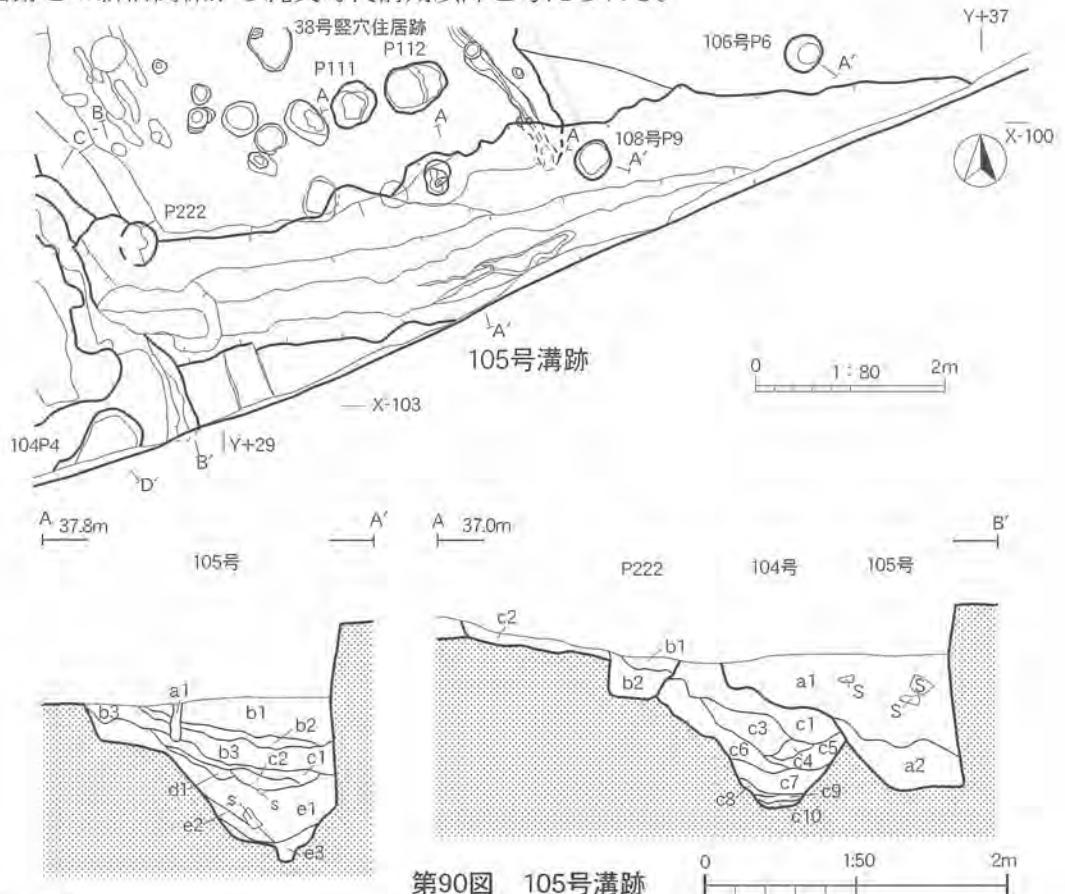
No	出土遺構	層位	器種	部位	内面	外面	その他特徴
1	104号土坑跡	覆土下位	深鉢	口縁部	ナデ	撚糸文	口唇部平坦

No	出土遺構	層位	銘文		外径 (mm)	穿孔 (mm)	外輪厚 (mm)	外輪幅 (mm)	重量 (g)	初鋤年代	特徴
			面	背							
2	104号土坑跡	a4層中	永楽通寶	無背	23.6	5.8	0.7~0.9	1.7~2.1	1.6	1408年	明錢

第89図 104号土坑跡出土遺物

## 105号溝跡(第90、91図)

調査区南端で確認する。東西方位に築かれている。南側部分は調査区外となる。38号竪穴住居跡と104号土坑跡、108号掘立柱建物跡、P222号と重複する。当遺構は38号竪穴住居跡より新しく、その他重複する遺構より古い。確認された部分で長さ9.52m、幅1.69m、深さ1.04mである。底面は西側にむかって緩く傾斜する。覆土は自然堆積と考えられる。遺物は覆土中から縄文土器片と石器が出土している。出土した土器は大木4式～5式に伴うものと考えられる。遺構の時期は重複する38号竪穴住居跡との新旧関係から縄文時代前期以降と考えられる。



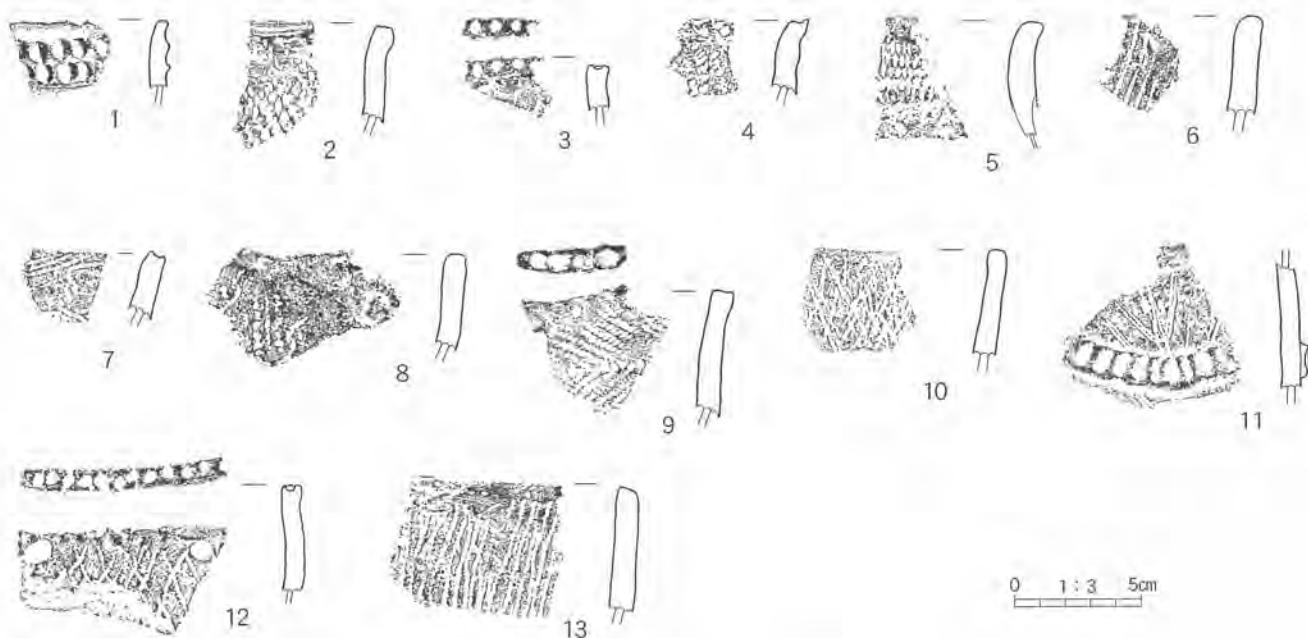
第90図 105号溝跡

105号溝跡 (A-A')

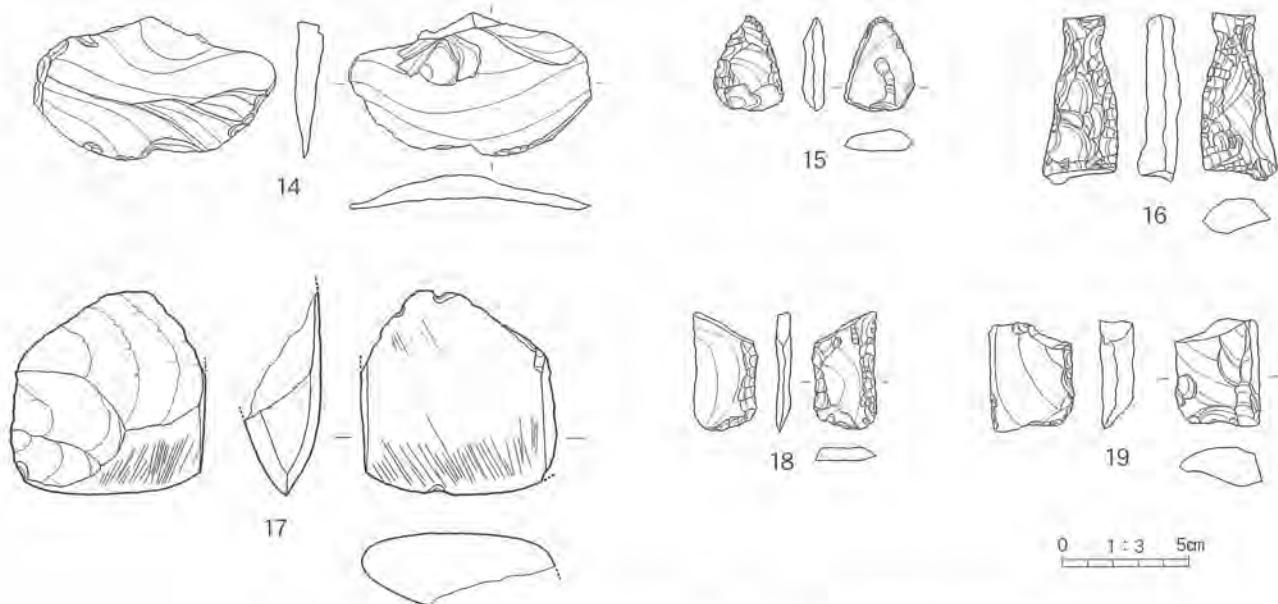
層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/1 砂壌土	10YR5/2 径1mm 1% (地山土粒)	砂質 疎 木根 カクラン
b1	10YR3/1 砂壌土	10YR5/2 径1mm 1% (地山土粒)	砂質 疎
b2	10YR2/1 砂壌土	10YR5/2 径1mm 1% (地山土粒)	砂質 疎
b3	10YR3/1 砂壌土	10YR5/2 径5～10mm 1% (地山土塊)	砂質 疎
c1	10YR2/1 砂壌土	10YR5/2 径1mm 1% (地山土粒)	砂質 疎 地山崩落土
c2	10YR4/2 砂壌土	10YR5/3 径5～20mm 3% (地山土塊)	砂質 疎 地山崩落土
d1	10YR3/1 砂壌土	10YR5/2 径1～5mm 1% (地山土粒)	砂質 疎
e1	10YR3/2 砂壌土	10YR5/2 径5～10mm 1% (地山土塊)	やや砂質 疎 地山崩落土
e2	10YR5/3 砂壌土	10YR5/6 径10～30mm 3% (地山土塊)	やや砂質 疎 地山崩落土
e3	10YR4/2 砂壌土	10YR4/2 径5～10mm 3% (地山土塊)	やや砂質 疎 地山崩落土

104号土坑跡、105号溝跡、P222 (B-B')

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/1 砂壌土	10YR5/4 径1～5mm 1% 以下 (地山土粒)	砂質 疎 (105号覆土)
a2	10YR3/2 砂壌土	10YR4/2 径1～5mm 1% 以下 (地山土粒)	砂質 疎 (105号覆土)
b1	10YR4/1 砂壌土	10YR5/4 径10～20mm 1% (地山土粒)	砂質 疎 (P222 覆土)
b2	10YR5/1 砂壌土	10YR5/4 径1～5mm 1% (地山土粒)	砂質 疎 (P222 覆土)
c1	10YR4/2 砂壌土	10YR4/2 径1～5mm 1% 以下 (地山土粒)	砂質 疎 (104号覆土)
c2	10YR4/1 砂壌土	10YR5/4 径10mm 1% (地山土粒)	砂質 疎 (104号覆土)
c3	10YR4/1 砂壌土	10YR5/2 径10mm 1% (地山土粒) 10YR2/1 径30mm 1% (黒褐色土塊)	砂質 疎 (104号覆土)
c4	10YR4/2 砂壌土	10YR5/4 径10mm 1% (地山土粒)	砂質 疎 (104号覆土)
c5	10YR5/1 砂壌土	10YR5/4 径1～5mm 1% (地山土粒)	砂質 疎 (104号覆土)
c6	10YR4/1 砂壌土	10YR5/4 径10～30mm 1% 以下 (地山土塊) 10YR2/1 径10～30mm 1% 以下 (黒褐色土粒)	砂質 疎 (104号覆土)
c7	10YR4/2 砂壌土	10YR5/4 径10mm 1% 10YR2/1 径10～30mm 1% 以下 (黒褐色土粒)	砂質 疎 (104号覆土)
c8	10YR4/2 砂壌土	10YR5/4～6/3 径10mm 1% 以下 (地山土粒) 10YR2/1 径10mm 1% (黒褐色土粒)	砂質 疎 (104号覆土)
c9	10YR5/3 砂壌土		粘質 疎 地山崩落土 (104号覆土)
c10	10YR3/2 砂壌土	10YR5/4 径1mm 1% (地山土粒)	やや粘質 疎 (104号覆土)



No	出土遺構	層位	器種	部位	内面	外面	その他特徴
1	105号溝跡	覆土中位	深鉢	口縁部	ナテ	RL 縱位	口唇部平坦
2	105号溝跡	覆土中位	深鉢	口縁部	ナテ	刺突	
3	105号溝跡	覆土中位	深鉢	口縁部	ナテ	—	口唇部刺突
4	105号溝跡	覆土上位	深鉢	口縁部	ナテ	地文	
5	105号溝跡	覆土上位	深鉢	口縁部	ナテ	地文	
6	105号溝跡	覆土上位	深鉢	口縁部	—	刺突文	
7	105号溝跡	覆土上位	深鉢	口縁部	ナテ	地文	
8	105号溝跡	覆土上位	深鉢	口縁部	ナテ	摩滅	
9	105号溝跡	覆土下位	深鉢	口縁部	ナテ	結束縄文	
10	105号溝跡	覆土下位	深鉢	口縁部	ナテ	摩滅	
11	105号溝跡	覆土上位	深鉢	口縁部	ナテ	結束縄文 貼付文刺突	口唇部平坦
12	105号溝跡	覆土上位	深鉢	口縁部	ナテ	網目状撚糸文	口唇部刺突 捻修孔
13	105号溝跡	覆土下位	深鉢	口縁部	ナテ	撚糸文	口唇部平坦



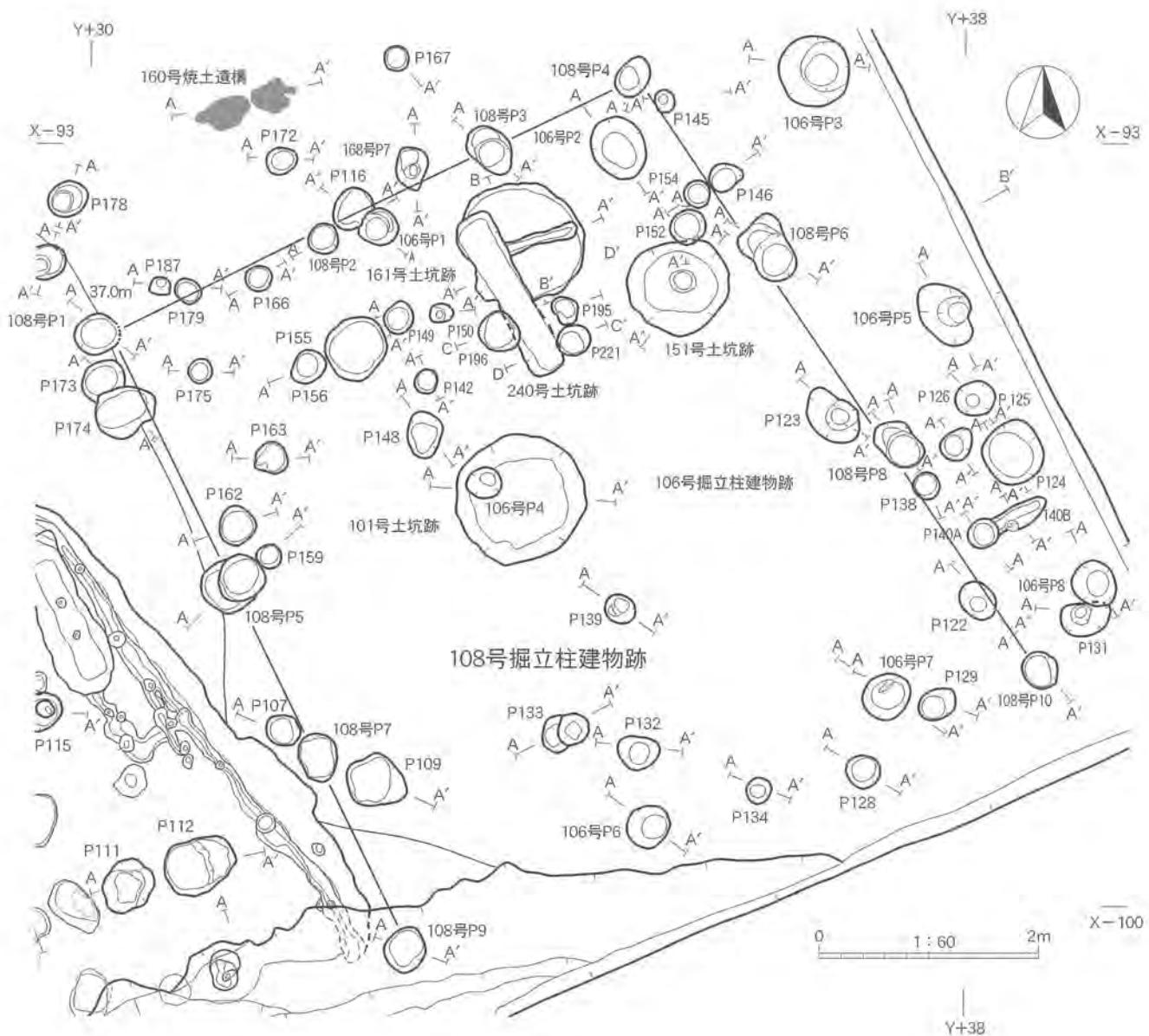
No	出土遺構	器種	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	その他特徴
14	105号溝跡	不定形石器	a1層	55	96	8	横長
15	105号溝跡	石鏃	覆土上位	37	27	8	
16	105号溝跡	石匙	覆土上位	66	29	16	先端部欠損
17	105号溝跡	石斧	覆土上位	81	77	30	基部欠損
18	105号溝跡	石匙	覆土上位	49	25	6	基部欠損
19	105号溝跡	石匙	覆土上位	43	33	7	基部欠損

第91図 105号溝跡出土遺物

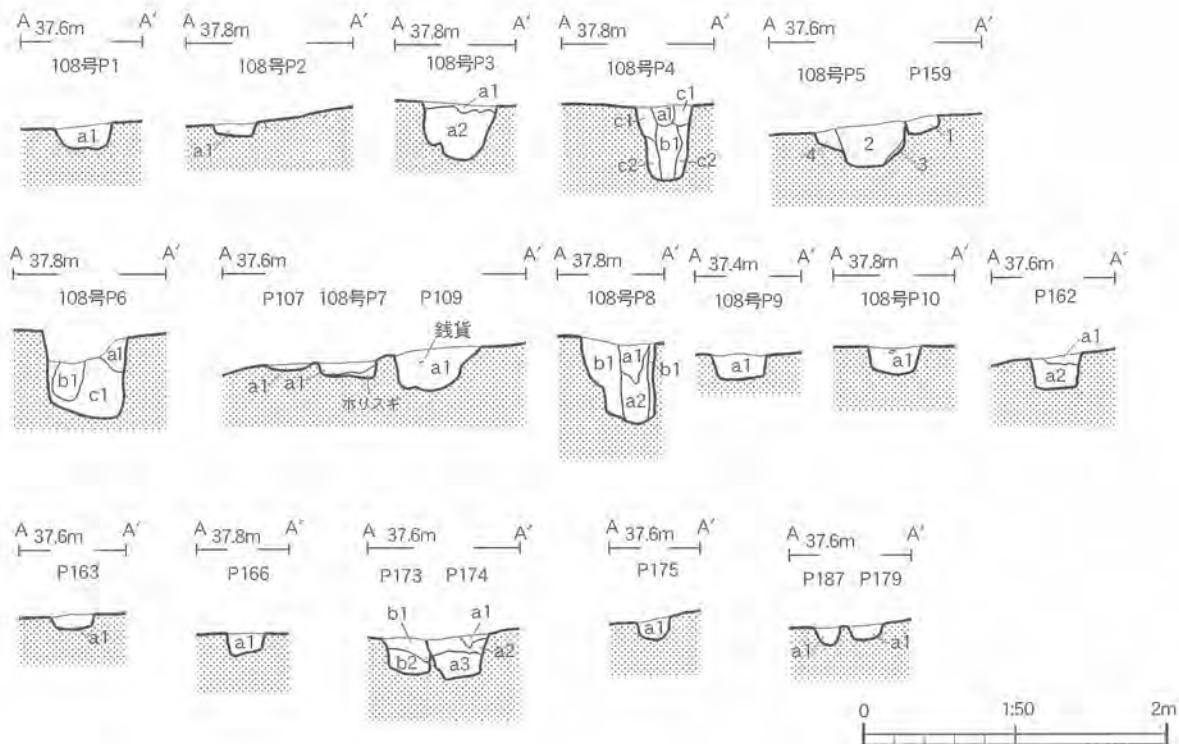
### 108号掘立柱建物跡(第92、93、94図)

桁行は3間以上、梁間3間である。建物跡南側は調査区外となる。建物軸方向はN-30°-Wである。105号溝跡と重複し、当遺構が新しい。桁行は西側6.32m以上、東側6.61m以上、梁間は北側5.38mである。柱間寸法は、桁行西側で北から2.61m-1.78m-1.82m、桁行東側で北から2.14m-2.05m-2.42m、梁間北側で西から2.22m-1.69m-1.44mである。柱穴跡は円形から不整円形で、直径0.27~0.58m、深さ0.1~0.58mである。柱痕はP6で確認されている。

出土遺物は1が縄文土器片である。この他にP6確認面から近現代と考えられる陶器片が1点出土している。遺構の時期は不明である。



第92図 108号掘立柱建物跡 (1)



108号P1

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/2 砂壌土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 疊

108号P2

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/2 砂壌土	10YR2/2 径5~10mm 1%	砂質 疊

108号P3

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR5/3 砂壌土		砂質 やや密
a2	10YR4/2 砂壌土		砂質 疊

108号P4

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/7 砂壌土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 疊 (カクラン)
b1	10YR4/2 砂壌土	10YR5/2 径10mm 1% (黒褐色土粒)	砂質 疊 痕
c1	10YR5/4 砂壌土		砂質 疊
c2	10YR4/3 砂壌土		砂質 疊

108号P5

層名	基本土	混入土	備考
b1	10YR4/1 砂壌土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 疊
b2	10YR4/2 砂壌土	10YR5/2 径10~20mm 1% (地山土粒)	砂質 疊
b3	10YR3/2 砂壌土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 疊

108号P6

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR5/2 砂壌土		砂質 疊 地山崩落土
b1	10YR4/1 砂壌土	10YR5/2 径5mm 3% (地山土粒)	砂質 疊 柱痕
c1	10YR4/2 砂壌土	10YR3/1 径5~10mm 1% (黒褐色土粒)	砂質 疊

108号P7

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/2 砂壌土		やや粘質 疊 流入土

108号P8

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/2 砂壌土	10YR5/2~5/4 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 疊 柱痕
a2	10YR4/3 砂壌土	10YR5/3 径5~20mm 3% (地山土粒)	砂質 疊 柱痕
b1	10YR5/3 砂壌土		砂質 疊

108号P9

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR2/1 砂壌土		砂質 疊

108号P10

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/1 砂壌土	10YR5/4 径10~30mm 1%	砂質 疊 人為堆積

第93図 108号掘立柱建物跡 (2)



No	出土遺構	層位	器種	部位	内面	外面	特徴
1	108号P3	確認面	深鉢	胴部	ナテ	撫糸文	

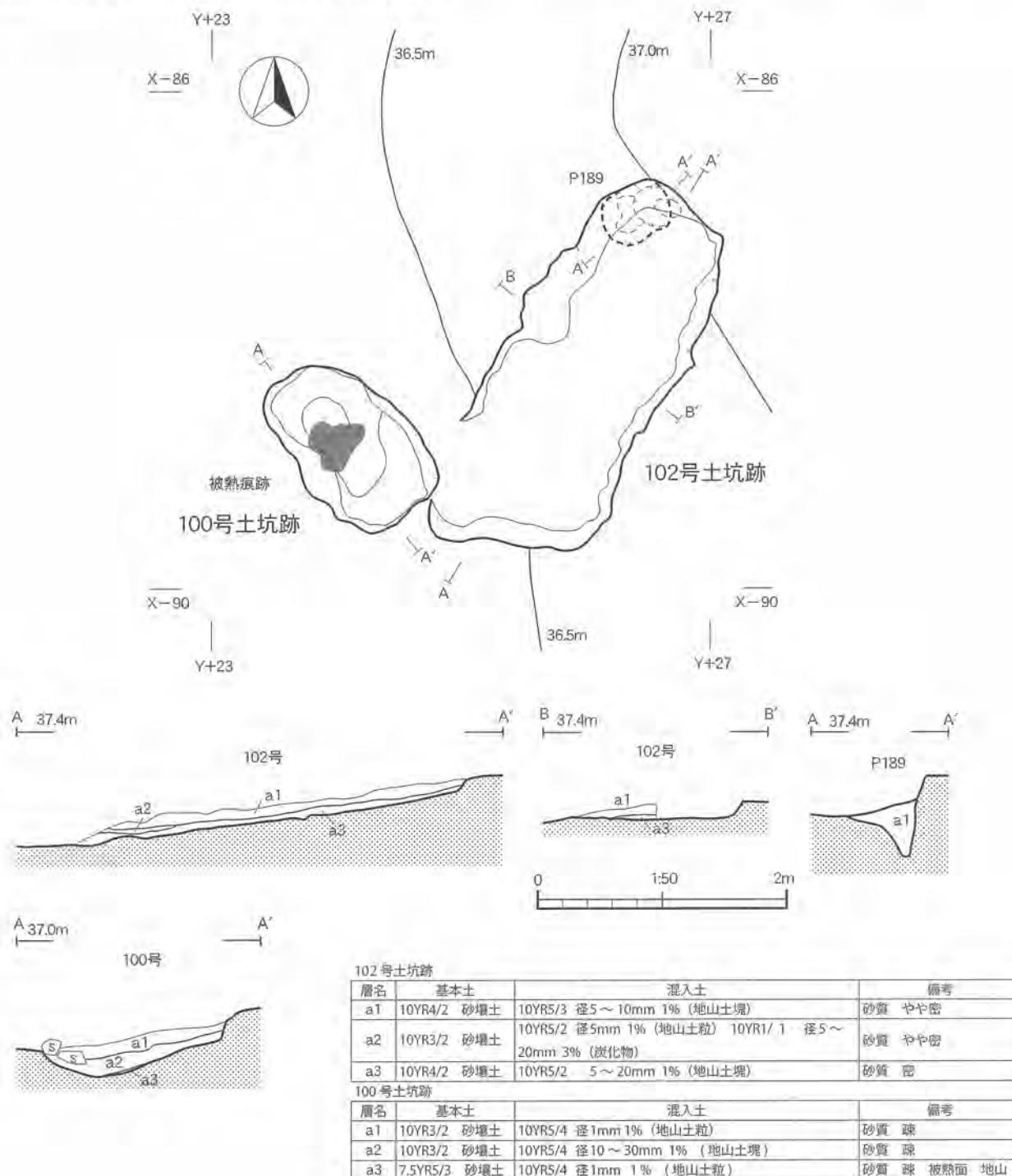
No	出土遺構	層位	面	背	外径 (mm)	穿孔 (mm)	外輪厚 (mm)	外輪幅 (mm)	重量 (g)	初鑄年代	特徴
2	P109	a1層中	聖寧元寶	無背	23.7~23.9	6.8	1.1~1.2	1.9~2.2	3.9	1068年	真書

第94図 108号掘立柱建物跡・P109出土遺物

### 102号・100号土坑跡（第95図）

102号土坑跡は緩斜面にあり、長径3.18m×短径1.40m、深さ0.12mの不整円形である。P189号と重複し、本土坑跡が新しい。覆土中から炭化物が少量出土している。出土遺物はない。102号土坑跡は覆土に炭化物が含まれることから炭焼跡の可能性が考えられる。遺構の時期は不明である。

100号土坑跡は長径1.25m×短径0.98m、深さ0.2mの不整円形である。102号土坑跡の西側で確認する。底面中心部で被熱痕跡を確認する。覆土は自然堆積と考えられ、炭化物は含まれていない。出土遺物はない。底面の被熱痕跡や102号土坑跡に近接することから炭焼跡かこれに関係する遺構の可能性が考えられる。遺構の時期は不明である。



第95図 102号・100号土坑跡

## 柱穴跡群 (図版第73、74、76~79、82~85、87、88、90、92、93、95図)

建物跡等の柱穴跡と考えられるものをまとめた。形状や大きさ、覆土等については以下一覧表のとおりである。

遺構番号	平面形	長径×短径 (m)	深さ (m)	重複		柱痕	出土遺物等
				旧	新		
P107	円形	0.30 × 0.28	0.05	—	—	無	—
P109	不整円形	0.58 × 0.50	0.30	—	—	無	鉄滓1点、銭貨(熙寧元寶)1点、貝殻片1点(埋土中)
P111	不整円形	0.50 × 0.41	0.37	—	—	無	—
P112	不整円形	0.68 × 0.50	0.30	—	—	無	石鏡1点(1層下位)、鉄滓1点(1層中位)
P115	不整円形	0.38 × 0.32	0.18	不明	—	有	縄文土器片1点(2層中) 38号竪穴住居跡P19と重複
P116	円形	0.40 × 0.31	0.22	P116	106号P1	無	—
P119	不整円形	0.34 × 0.33	0.11	—	—	有	—
P120	不整円形	0.34 × 0.30	0.22	120	103号土坑	無	—
P122	楕円形	0.38 × 0.30	0.63	—	—	有	—
P123	不整円形	0.58 × 0.40	0.61	—	—	有	—
P124	不整円形	0.59 × 0.57	0.14	—	—	有	炭化物1点(埋土中)
P125	円形	0.36 × 0.32	0.38	—	—	有	—
P126	不整円形	0.34 × 0.25	0.44	—	—	有	—
P128	円形	0.31 × 0.30	0.28	—	—	有	—
P129	楕円形	0.36 × 0.28	0.19	—	—	有	—
P131	楕円形	0.46 × 0.31	0.41	—	—	有	—
P132	不整円形	0.38 × 0.31	0.59	—	—	有	—
P133	不整形	0.45 × 0.30	0.35	—	—	無	—
P134	円形	0.24 × 0.22	0.32	—	—	有	—
P135	円形	0.26 × 0.26	0.28	—	—	無	—
P138	円形	0.25 × 0.24	0.40	—	—	無	—
P139	円形	0.29 × 0.25	0.26	—	—	有	—
P140	円形	0.29 × 0.26	0.19	—	—	無	浅い溝跡を伴う
P142	円形	0.22 × 0.21	0.12	—	—	無	—
P145	不整円形	0.21 × 0.18	0.08	—	—	無	—
P146	不整円形	0.32 × 0.26	0.14	—	—	無	—
P148	不整円形	0.44 × 0.33	0.32	—	—	有	—
P149	不整円形	0.30 × 0.26	0.24	—	—	有	—
P150	不整円形	0.22 × 0.16	0.22	—	—	無	—
P152	不整円形	0.33 × 0.30	0.44	151号土坑	P152	有	—
P154	不整円形	0.22 × 0.24	0.12	—	—	無	—
P155	不整円形	0.60 × 0.52	0.10	—	—	有	—
P156	不整円形	0.34 × 0.29	0.38	—	—	有	—
P159	円形	0.24 × 0.23	0.12	108号P5	P159	無	—
P162	円形	0.36 × 0.33	0.24	—	—	有	近現代陶磁器片1点(埋土中)
P163	不整円形	0.30 × 0.28	0.10	—	—	無	—
P166	円形	0.24 × 0.23	0.14	—	—	無	—
P167	円形	0.23 × 0.22	0.20	—	—	無	—
P169	円形	0.26 × 0.25	0.16	—	—	無	—
P170	円形	0.29 × 0.26	0.15	—	—	有	—
P171	円形	0.33 × 0.29	0.36	—	—	有	—
P172	不整円形	0.29 × 0.25	0.40	—	—	有	—
P173	不整円形	0.41 × 0.29	0.24	P173	P174	無	—
P174	不整円形	0.58 × 0.45	0.32	P173	P174	無	—
P175	円形	0.25 × 0.23	0.16	—	—	無	—
P178	不整円形	0.37 × 0.32	0.18	—	—	無	—
P179	楕円形	0.25 × 0.21	0.10	—	—	無	—
P181	円形	0.29 × 0.29	0.15	—	—	有	—
P183	円形	0.33 × 0.32	0.17	—	—	無	—
P185	楕円形	0.27 × 0.22	0.24	168号P2	P185	無	—
P186	不整円形	0.21 × 0.20	0.24	—	—	無	—
P187	不整円形	0.18 × 0.16	0.12	—	—	無	—
P189	不整円形	0.56 × 0.43	0.34	P189	102号土坑	無	—
P190	円形	0.25 × 0.22	0.10	—	—	無	—
P191	円形	0.25 × 0.24	0.10	—	—	無	—
P192	円形	0.25 × 0.24	0.55	—	—	有	—
P193	不整円形	0.32 × 0.27	0.14	—	—	無	—
P195	不整円形	0.28 × 0.20	0.10	—	—	無	—
P196	不整円形	0.37 × 0.3 5	0.16	240号土坑	P196	無	—
P201	不整円形	0.27 × 0.20	0.18	—	—	無	—
P202	円形	0.35 × 0.30	0.19	—	—	無	—
P203	円形	0.26 × 0.25	0.09	P203	103号土坑	無	—
P204	楕円形	0.28 × 0.22	0.30	—	—	無	—
P205	不整円形	0.38 × 0.34	0.14	—	—	無	—
P206	不整円形	0.36 × 0.30	0.14	—	—	無	—
P207	不整円形	0.41 × 0.33	0.16	—	—	無	—
P208	楕円形	0.32 × 0.18	0.04	—	—	無	—
P209	不整円形	0.29 × 0.28	0.12	—	—	無	—
P211	不整円形	0.26 × 0.22	0.40	—	—	無	—
P213	円形	0.20 × 0.18	0.60	—	—	無	—
P214	不整円形	0.26 × 0.25	0.22	—	—	有	—
P215	不整円形	0.34 × 0.34	0.18	—	—	無	—
P216	不整円形	0.40 × 0.39	0.52	—	—	有	—
P217	不整円形	0.26 × 0.23	0.06	—	—	無	—
P218	円形	0.42 × 0.39	0.30	—	—	無	—
P219	不整円形	0.28 × 0.23	0.34	—	—	有	—
P220	楕円形	0.48 × 0.36	0.32	—	—	無	—
P221	不整円形	0.31 × 0.29	0.47	240号土坑	P221	有	近現代陶器片1点(埋土中位)
P222	円形	0.46 × 一	0.40	105号溝跡	P222	無	西側部分消失
P223	不整円形	0.52 × 0.47	0.43	241号溝跡	P223	有	—

柱穴跡群一覧表

P107				P135			
層名	基本土	混入土	備考	層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR2/1 砂壤土		やや粘質 脳 流入土	a1	10YR4/1 砂壤土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 脳
P109				P138			
層名	基本土	混入土	備考	層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/1 砂壤土	10YR5/6 径5mm 1% (地山土粒)	やや粘質 脳	a1	10YR4/1 砂壤土	10YR5/2 径5~10mm 1% (地山土粒)	砂質 脳
P111				P139			
層名	基本土	混入土	備考	層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/1 砂壤土	10YR6/4 径5~10mm 5% (地山土塊)	砂質 脳	a1	10YR4/1 砂壤土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 脳
P112				P140			
層名	基本土	混入土	備考	層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR5/2 砂壤土	10YR3/1 径10~50mm 30% (黒褐色土塊) 10YR6/4 径5~10mm 5% (地山土塊)	砂質 脳	a1	10YR3/1 砂壤土	10YR5/2 径5~10mm 1% (地山土粒)	砂質 脳
P115				P140			
層名	基本土	混入土	備考	層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/1 砂壤土		シルト質 脳 柱痕	a1	10YR3/1 砂壤土	10YR5/3 径5~10mm 1%	砂質 脳
b1	10YR3/2 砂壤土	10YR5/3 径5~10mm 1%	ややシルト質 脳	a2	10YR3/2 砂壤土	10YR5/3 径1~2mm 1% (地山土粒)	砂質 脳
P119				P142			
層名	基本土	混入土	備考	層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/2 砂壤土	10YR5/4 径5mm 1%	砂質 脳	a1	10YR3/2 砂壤土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 脳
a2	10YR5/2 砂壤土	10YR2/1 径1~5mm 1% (黒色土)	砂質 脳	P145			
P120				層名	基本土	混入土	備考
層名	基本土	混入土	備考	a1	10YR3/1 砂壤土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 脳
a1	10YR5/3 砂壤土	10YR6/4 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 脳	P146			
P122				層名	基本土	混入土	備考
層名	基本土	混入土	備考	a1	10YR3/2 砂壤土	10YR5/2 径5~20mm 1% (地山土粒)	砂質 脳
a1	10YR10/3 砂壤土	10YR3/2 径5~10mm 1% (黒褐色土粒)	砂質 脳	a2	10YR4/2 砂壤土	10YR5/4 径10~20mm 3% (地山土粒)	砂質 脳
a2	10YR4/2 砂壤土	10YR3/2 径5~20mm 3% (黒褐色土粒)	砂質 脳	a3	10YR3/1 塵土		やや砂質 脳
a3	10YR5/4 砂壤土		砂質 脳 地山崩落土	P148			
a4	10YR4/1 砂壤土	10YR5/3 径10mm 1% (地山土粒)	砂質 脳	層名	基本土	混入土	備考
a5	10YR5/3 砂壤土		砂質 脳 地山崩落土	a1	10YR4/2 砂壤土	10YR3/1 径10~30mm 1% (黒褐色土粒)	砂質 脳
a6	10TR5/2 砂壤土	10YR2/2 径5~10mm 1% (黒褐色土)	砂質 脳 流入土	a2	10YR3/2 砂壤土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 脳
P123				P149			
層名	基本土	混入土	備考	層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/1 砂壤土	10YR5/2 径5~10mm 1% (地山土粒)	砂質 脳 柱痕	a1	10YR4/2 砂壤土	10YR5/2 径5~30mm 1% (地山土粒)	砂質 脳
b1	10YR3/2 砂壤土	10YR5/1 径5~10mm 1% (地山土粒)	砂質 脳	P150			
P124				層名	基本土	混入土	備考
層名	基本土	混入土	備考	a1	10YR4/2 砂壤土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 脳
a1	10YR5/4 砂壤土	10YR2/2 径10mm 1% (黒褐色土粒)	砂質 脳 柱痕	P152			
b1	10YR5/3 砂壤土		砂質 やや密	層名	基本土	混入土	備考
P125				a1	10YR5/3 砂壤土		砂質 脳
層名	基本土	混入土	備考	b1	10YR2/1 シルト質埴塗土	10YR5/3 径5mm 3% (地山土粒)	シルト質 脳 柱痕
a1	10YR4/2 砂壤土	10YR6/3 径10~20mm 1% (地山土塊)	砂質 脳 柱痕	P154			
b1	10YR5/4 砂壤土		砂質 やや密	層名	基本土	混入土	備考
P126				a1	10YR4/2 砂壤土	10YR3/2 径10mm 1% (黒褐色土粒)	砂質 脳
層名	基本土	混入土		P155			
a1	10YR4/1 砂壤土	10YR5/3 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 脳	層名	基本土	混入土	備考
a2	10YR5/2 砂壤土		砂質 脳 地山 挖りすぎ	a1	10YR4/1 砂壤土		砂質 やや密
P128				a2	10YR4/2 砂壤土		砂質 やや密
層名	基本土	混入土	備考	P156			
a1	10YR3/2 砂壤土	10YR5/3 径10~30mm 1% (地山土粒)	砂質 脳	層名	基本土	混入土	備考
P129				a1	10YR5/2 砂壤土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 脳 柱痕
層名	基本土	混入土	備考	b1	10YR4/1 砂壤土	10YR5/2 径1~5mm 1% (地山土粒)	砂質 やや密
a1	10YR5/3 砂壤土	10YR4/2 径5~10mm 1% (黒褐色土粒)	砂質 脳	P159			
P131				層名	基本土	混入土	備考
層名	基本土	混入土	備考	a1	10YR4/2 砂壤土	10YR5/2 径1~5mm 1% (灰褐色土塊)	砂質 脳
a1	10YR4/1 砂壤土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 脳	P162			
P132				層名	基本土	混入土	備考
層名	基本土	混入土	備考	a1	10YR4/2 砂壤土	10YR3/2 径1~5mm 1% (黒褐色土粒)	砂質 脳
a1	10YR3/2 砂壤土	10YR5/2 径5~20mm 3% (地山土粒)	砂質 脳	a2	10YR3/2 砂壤土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 脳
P133				P163			
層名	基本土	混入土	備考	層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/2 砂壤土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 脳	a1	10YR3/2 砂壤土	10YR5/2 径10mm 1% (地山土粒)	砂質 脳
a2	10YR4/1 砂壤土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 脳	P166			
P134				層名	基本土	混入土	備考
層名	基本土	混入土	備考	a1	10YR4/2 砂壤土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 脳
a1	10YR4/2 砂壤土	10YR5/3 径5~10mm 1% (地山土粒)	砂質 脳 柱痕	P166			
b2	10YR2/2 砂壤土	10YR5/3 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 やや密	層名	基本土	混入土	備考

柱穴跡群土層観察表 (1)

P167

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/2 砂壤土	10YR5/2 径5mm 1% (地山土粒)	やや粘質 薄
a2	10YR3/2 砂壤土	10YR5/2 径1 ~ 5mm 1% (地山土粒)	砂質 薄
a3	10YR5/2 砂壤土		やや粘質 薄

P169

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/1 砂壤土		やや砂質 薄

P170

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/2 砂壤土	10YR2/2 径5mm 1% (黒褐色土粒)	砂質 薄 柱痕
b1	10YR5/3 砂壤土		やや砂質 薄
b2	10YR3/2 砂壤土	10YR5/2 径10 ~ 30mm 1% (地山土塊)	砂質 薄

P171

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/2 砂壤土	10YR5/2 径10 ~ 20mm 3% (地山土塊)	砂質 薄 柱痕
b1	10YR4/2 砂壤土	10YR5/2 径10 ~ 30mm 1% (地山土塊)	砂質 薄

P172

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/2 砂壤土	10YR5/3 径5 ~ 10mm 1% (地山土粒)	砂質 薄
a2	10YR2/1 砂壤土	10YR5/3 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 薄

P173 ~ 174

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/1 砂壤土	10YR4/3 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 薄 (P174 褐土)
a2	10YR4/2 砂壤土	10YR5/2 径5 ~ 10mm 1% (地山土粒)	砂質 薄 (P174 褐土)
a3	10YR4/2 砂壤土	10YR5/2 径10 ~ 20mm 1% (地山土粒)	砂質 薄 (P174 褐土)
b1	10YR3/2 砂壤土	10YR4/2 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 薄 (P173 褐土)
b2	10YR3/2 砂壤土	10YR5/2 径5 ~ 10mm 1% (地山土粒)	砂質 薄 (P173 褐土)

P175

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR2/2 砂壤土	10YR5/2 径5 ~ 10mm 1% (地山土粒)	砂質 薄

P178

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/2 砂壤土	10YR5/3 径5 ~ 10mm 1% (地山土粒)	砂質 薄
a2	10YR3/1 砂壤土	10YR5/3 径1 ~ 5mm 3% (地山土粒)	砂質 密

P179

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/2 砂壤土	10YR5/3 径5 ~ 20mm 1% (地山土粒)	砂質 薄

P181

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/2 砂壤土	10YR5/3 径5 ~ 10mm 1% (地山土粒)	砂質 薄 柱痕
b1	10YR4/2 砂壤土	10YR5/3 径1 ~ 3mm 1% (地山土粒)	砂質 薄

P183

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/2 砂壤土	径10 ~ 30mm 1% (地山土粒) 10YR2/1 径10mm 1% (炭化物)	砂質 薄 人為堆積
a2	10YR3/2 砂壤土	10YR5/3 径5 ~ 20mm 1% (地山土塊)	砂質 薄 人為堆積

P186

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/1 砂壤土	10YR5/3 径5mm 1% (地山土粒) 径5 ~ 20mm 1% (砾)	砂質 薄

P187

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/2 砂壤土	10YR5/3 径5 ~ 10mm 1% (地山土粒)	砂質 薄

P189

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR5/3 砂壤土	10YR4/2 径1mm 1% (地山土粒)	砂質 薄

P190

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/2 砂壤土	10YR5/3 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 薄

P191

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/2 砂壤土	10YR5/3 径1 ~ 3mm 1% (地山土粒)	砂質 薄

P192

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/2 砂壤土	10YR5/3 径1 ~ 5mm 3% (地山土粒)	砂質 薄
a2	10YR3/2 砂壤土	10YR5/3 径1 ~ 5mm 1%	砂質 薄

P193

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/3 砂壤土	10YR5/3 径10 ~ 30mm 1% (地山土粒)	砂質 薄
a2	10YR3/2 砂壤土	10YR5/3 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 薄

P195

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/2 砂壤土	10YR5/3 径5mm 1% (地山土粒) 10YR2/1 径5mm 1% (炭化物)	砂質 薄

P196

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/1 砂壤土	10YR5/3 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 薄

P201

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/1 砂壤土	10YR5/3 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 薄

P202

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/2 硅質砂土		やや砂質 薄

P203

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/2 砂壤土	10YR5/3 径5mm 1% (地山土粒)	砂質 薄

P204

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/2 砂壤土	10YR5/3 径5 ~ 10mm 1% (地山土粒)	砂質 薄

P205

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/2 砂壤土	10YR5/3 径5 ~ 10mm 1% (地山土粒)	砂質 薄

P206

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/2 砂壤土	10YR5/4 径5mm 1% (地山土粒)	やや粘質 薄

P211

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/1 砂壤土	10YR5/4 径5mm 1% (地山土粒)	やや粘質 薄
a2	10YR5/2 砂壤土	10YR5/4 径5 ~ 10mm 1% (地山土粒)	やや粘質 薄
a3	10YR3/1 砂壤土	10YR5/4 径10 ~ 20mm 1% (地山土粒)	やや粘質 薄

P213

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/1 砂壤土	10YR5/6 径5mm 1%	やや粘質 薄

P214

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR3/2 砂壤土	10YR5/4 径5 ~ 10mm 1% (地山土粒)	やや粘質 薄 柱痕
b1	10YR4/1 砂壤土	10YR5/2 径10 ~ 20mm 1% (地山土粒)	やや粘質 薄

P215

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/1 砂壤土	10YR5/4 径5mm 1% (地山土粒)	やや粘質 薄

P216

層名	基本土	混入土	備考
a1	10YR4/1 砂壤土	10YR5/4 径5 ~ 10mm 1% (地山土粒)	やや粘質 薄 柱痕
b1	10YR3/1 砂壤土	10YR5/4 径5 ~ 10mm 1% (地山土粒)	やや粘質 薄

P217

層名	基本土	混入土	備考

### 37号溝跡（第97図）

調査区のほぼ中央に位置する。検出面は地山面である。

尾根から沢に向かってほぼまっすぐ掘られている。幅は、中央の広いところで2.8m、そのほかは約2m前後で一定している。深さは東側最も深く約1.0m、西側で0.6mである。

覆土は、覆土Ⅲ層からはビール壠、釘などが出土し、上層ではいくつか浅い土坑が掘り込まれていることが確認された（A層～D層）。J1層は、炭を多量に含む黒色土で、西に向かって下降する傾斜面を形成している。

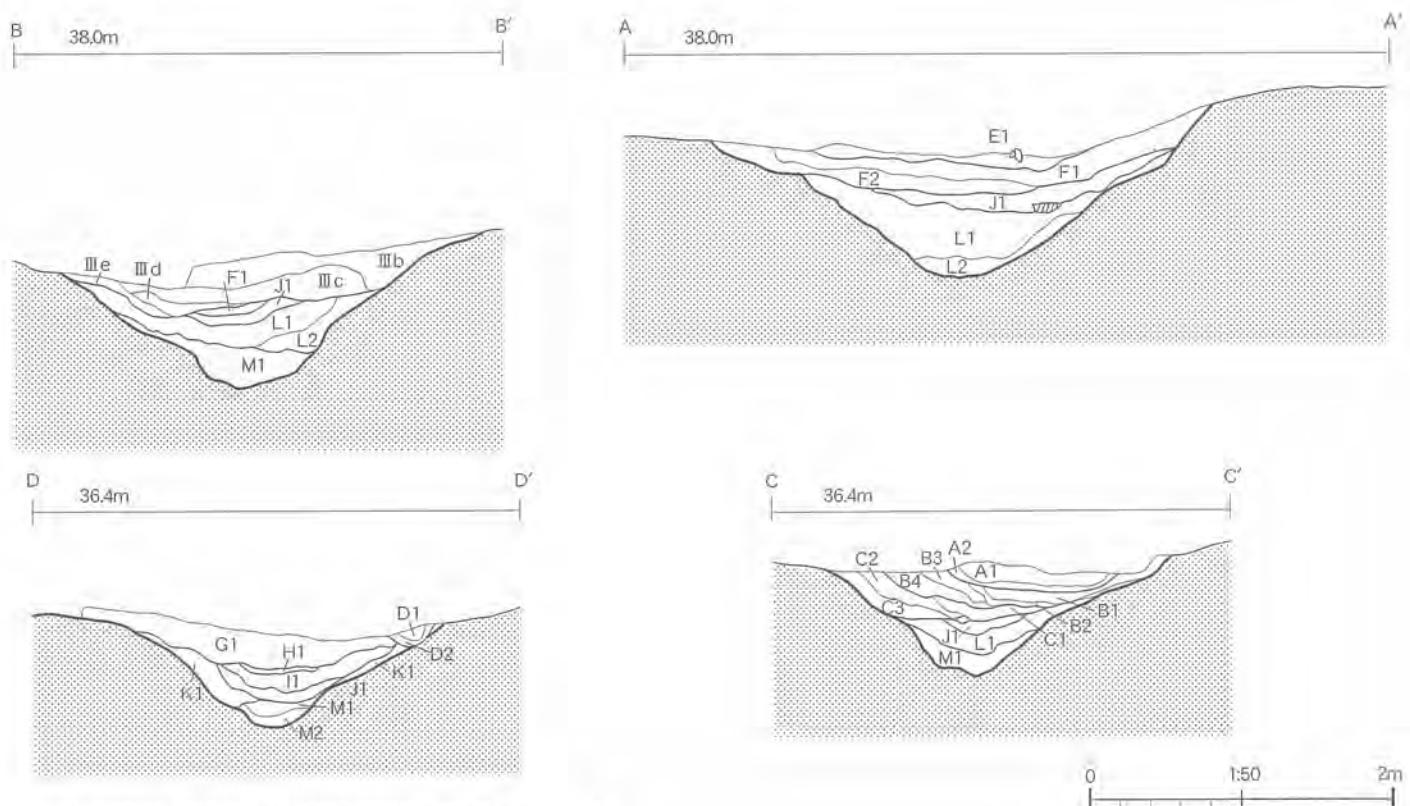
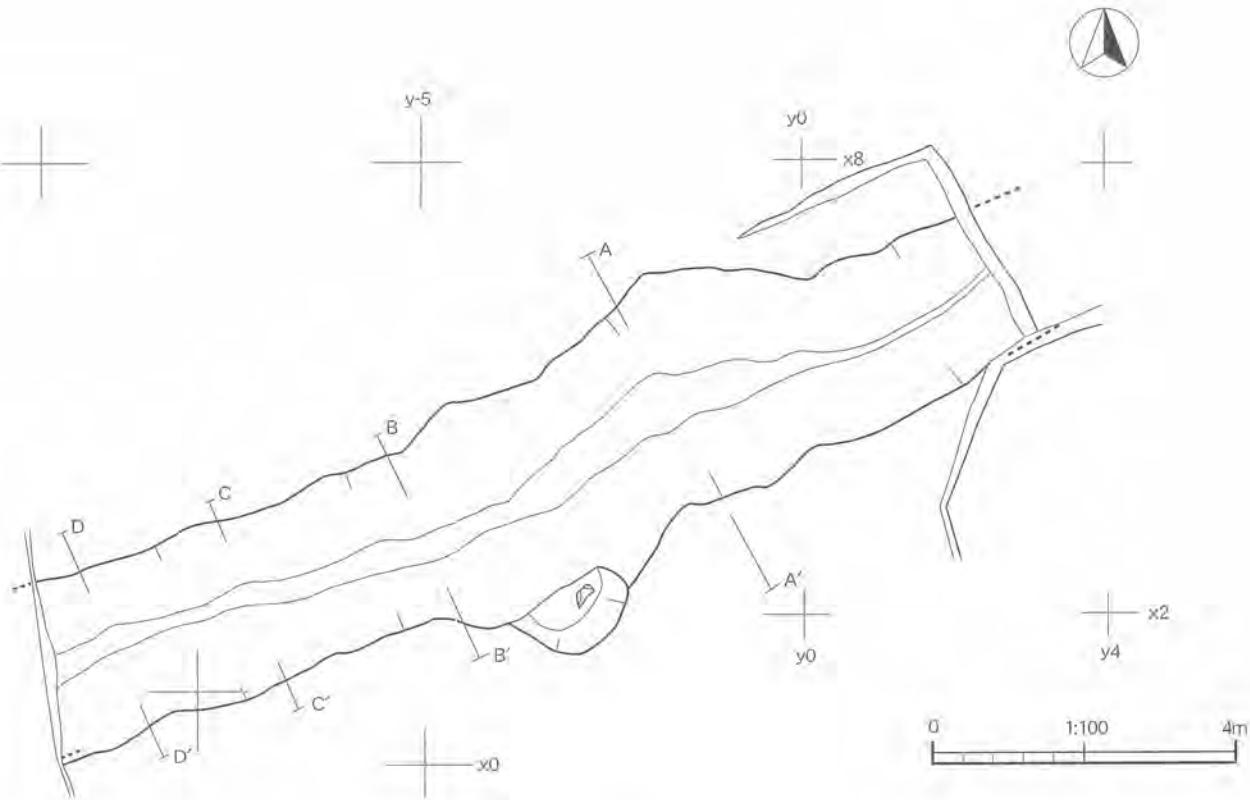
J1層は、堆積状況から生活面であったと思われるが、時期としては炭窯（33、34号）などとの併行関係が考えられる。

### 出土遺物（第96図）

1は上層から出土したビール壠である。大日本麦酒株式会社（明治39年～昭和24年）によって製造された壠である。2はL1層状面から出土した石器の砥石である。時期は、遺物、出土状況などから近、現代に伴う。



図no	遺構	層位	器種	高さ(cm)	幅(cm)	備考
図39-1	37号溝	Ⅲ層	ビール壠	28.6	7.6	大日本麦(株)（明治39～昭和24）の製品

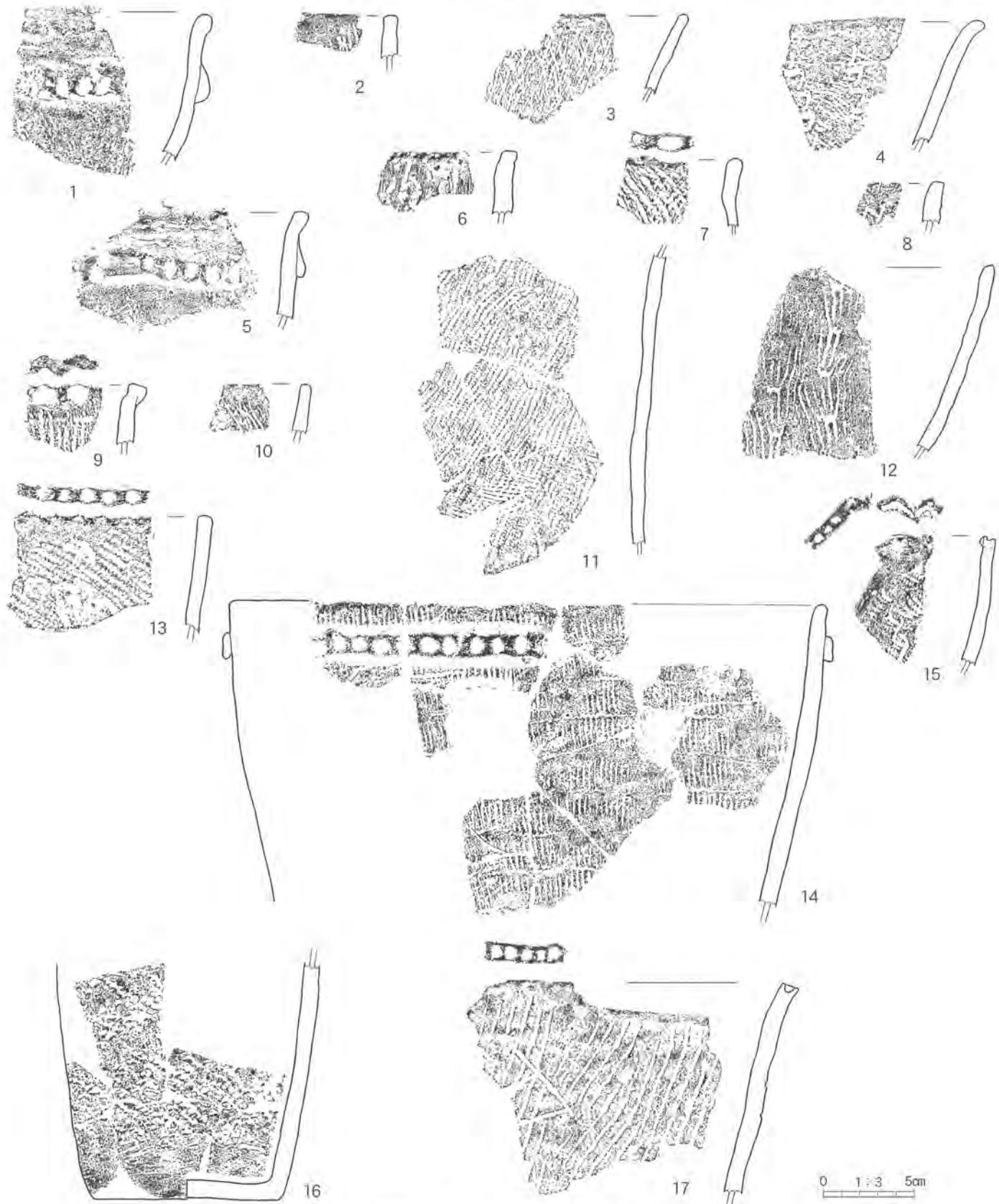


IIIb 10Y R3/4沙付質壠土	7.5Y R4/6沙付質壠土3%	中～軟。中～疎。鉄釘
IIIc 10Y R2/2沙付質壠土	7.5Y R5/6沙付質壠土3%	軟～中。中～疎。炭化物
IIId 5B1.7/1沙付質壠土	7.5Y R3/2沙付質壠土10%	軟～中。軟
IIIe 10Y R3/2沙付質壠土		中～中。
A1 10Y R2/2沙付質壠土	7.5Y R4/4沙付質壠土3%	軟、中。レンズ状堆積。炭化物多
A2 10Y R2/2沙付質壠土		軟、中。レンズ状堆積炭化物多
B1 10Y R2/3沙付質壠土		中～軟、中。
B2 10Y R3/2沙付質壠土	10Y R2/1沙付質壠土30%	軟、中。レンズ状堆積
B3 10Y R3/3沙付質壠土	10Y R3/2沙付質壠土5%	中～軟、中。
B4 10Y R3/4沙付質壠土	10Y R3/3沙付質壠土76%	軟、中～疎。
C1 10Y R3/3沙付質壠土	10Y R2/1沙付質壠土15%	中。中～密。レンズ状堆積
C2 10Y R3/3沙付質壠土	10Y R3/2沙付質壠土15%	中～軟、中
D1 10Y R2/3沙付質壠土	10Y R3/4砂壠土塊状10%	軟、疎。
D2 10Y R3/4砂壠土	10Y R5/4砂壠土塊状2%	軟、疎。
E1 10Y R5/4砂壠土	7.5Y R5/4砂壠土15%	赤褐色と炭の堆積
F1 10Y R5/4砂壠土	10Y R3/4砂壠土塊状10%	軟、疎。粗い礫層
G1 10Y R2/4砂壠土	10Y R3/4砂壠土塊状5%	中～軟、疎。炭粒多。表土？
H1 10Y R2/1砂壠土	10Y R2/3砂壠土塊状10%	中～固、中～密。炭層
I1 10Y R2/3沙付質壠土	10Y R3/4沙付質壠土塊状3%	固、密。
J1 10Y R1.7/1沙付質壠土	10Y R2/2層状15%	中～固、中～疎。炭混じり黒色土
K1 10Y R2/3沙付質壠土	10Y R3/3沙付質壠土塊状5%	中～固。
L1 10Y R3/4砂壠土	10Y R5/4砂壠土塊状10%	中～固、疎。
L2 10Y R3/4砂壠土	10Y R4/4砂壠土塊状10%	軟、疎。
M1 10Y R4/6砂壠土	10Y R5/4砂壠土塊状10%	固、疎。

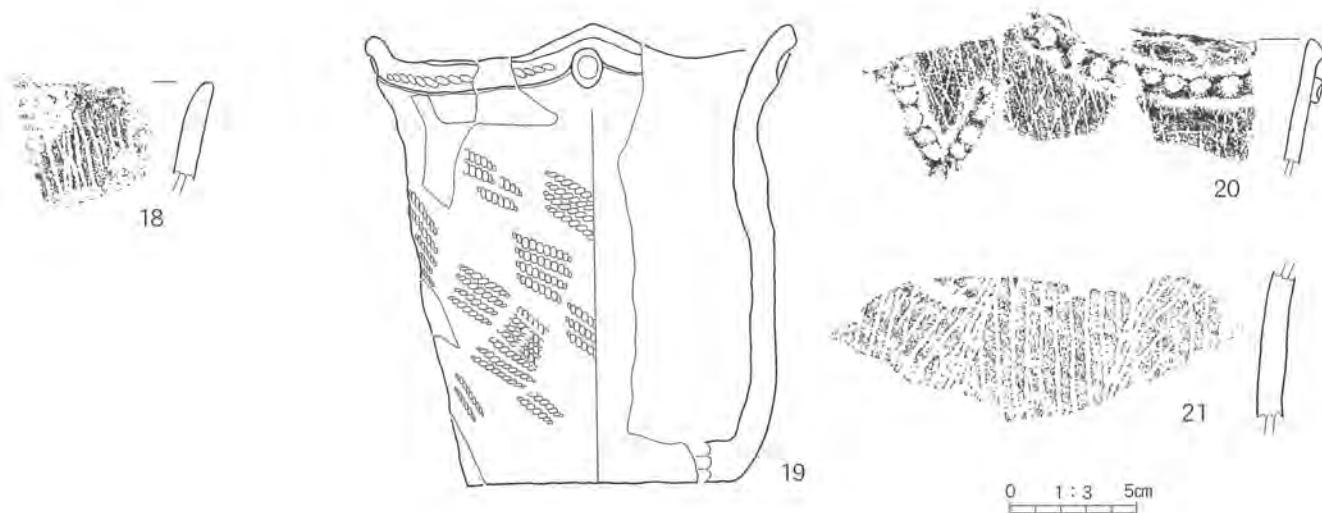
第97図 37号溝跡

### 遺構外出土遺物（第98、99、100図）

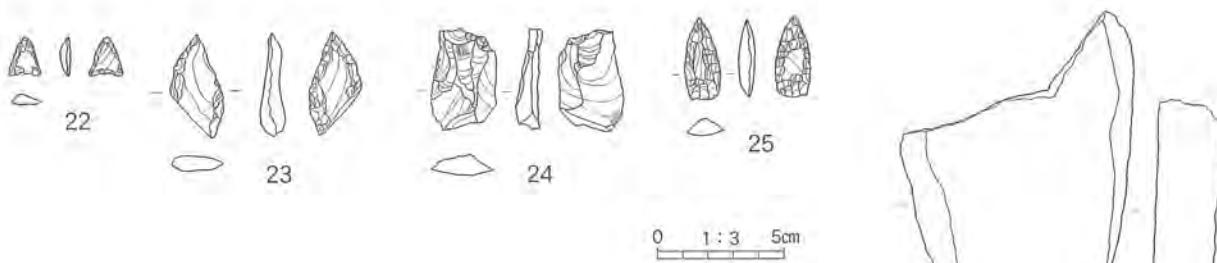
遺構外から出土した遺物をまとめたものである。縄文土器については、第99図観察表のとおり38号竪穴住居跡出土土器と共に特徴が観察できる。38号竪穴住居跡に関連する資料と考えたい。また、その他に中世のものと考えられる天目碗片や近世の瀬戸皿、錢貨では寛永通寶が出土している。



第98図 遺構外出土遺物（1）

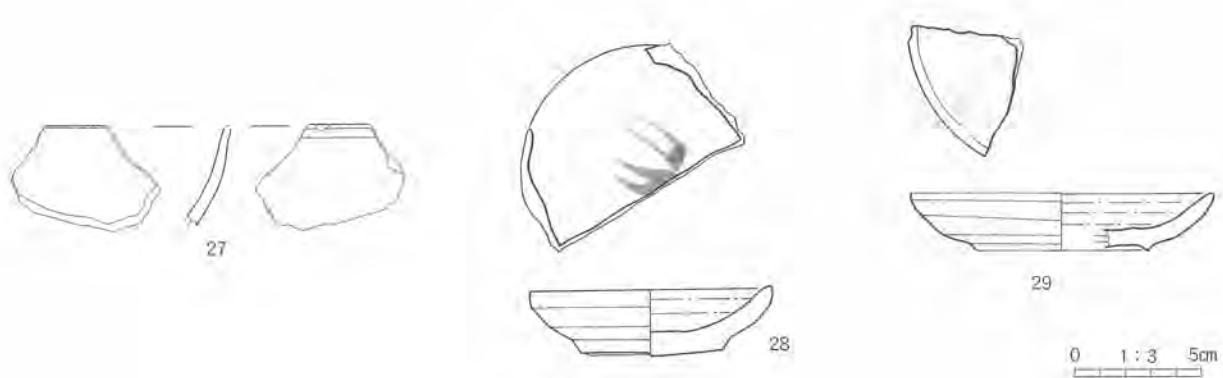


No	出土地点	層位	器種	部位	内面	外面	その他特徴
1	調査区南側	V層中	深鉢	口縁部	ナテ	貼付文 刺突	
2	調査区南西側	V層	深鉢	口縁部		摩滅	
3	調査区南西側	V層中	深鉢	口縁部	ナテ	燃糸文	補修孔
4	調査区南西側	V層中	深鉢	口縁部		結束縄文	
5	調査区南西側	VI層	深鉢	口縁部	ナテ	貼付文、刺突、一部縄文	
6	調査区南西側	V層中	深鉢	口縁部	ナテ	摩滅	
7	調査区南西側	V層中	深鉢	口縁部		LR、縦位	口唇部押圧
8	調査区南西側	V層中	深鉢	口縁部	ナテ		
9	調査区南西側	VI層	深鉢	口縁部	ナテ	燃糸文	口唇部押圧
10	調査区南西側	V層	深鉢	口縁部	ナテ	摩滅、縄文有	口唇部平坦
11	調査区南西側	V層	深鉢	胴部	ナテ	LR、横位、結束縄文	
12	調査区南西側	V層	深鉢	口縁部	ナテ	燃糸文	
13	調査区南西側	VI層	深鉢	口縁部	ナテ	RL、横位	口縁部押圧
14	調査区南西側	V層	深鉢	口縁部	ナテ	燃糸文 口縁部粘土紐、刺突	
15	調査区南西側	V層	深鉢	口縁部	ナテ	結束縄文	口唇部山形突起・沈線・刺突
16	調査区東側	V層～VI層	深鉢	胴～底部	ナテ	縄文	
17	調査区南西側	V層	深鉢	口縁部	ナテ	燃糸文、沈線	口唇部台形状突起・刺突
18	調査区南西側	VI層	深鉢	口縁部	ナテ	燃糸文	
19	調査区南西側	VI層	深鉢	口縁～底部	ナテ	摩滅、縄文	口縁部山形突起・刺突、貼付文・原体押圧、1/4強復元、横位 RL?
20	調査区南西側	V層	深鉢	口縁部	ナテ	燃糸文 口縁部粘土紐、刺突	
21	調査区東側	VI層	深鉢	胴部	ナテ	燃糸文	

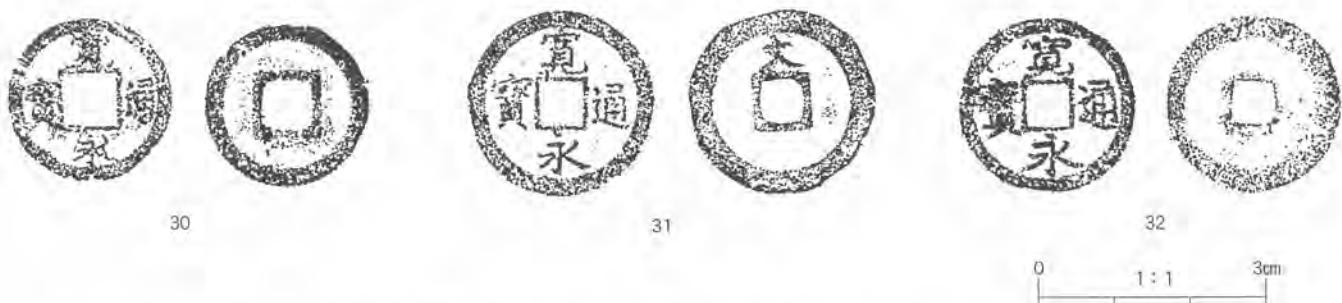


No	出土遺物	器種	層位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	その他特徴
22	調査区西侧	石鏃	IV層	15	13	4	
23	調査区西侧	削撲器	IV層	22	26	10	先端部欠損
24	調査区西侧	石匙	IV層	40	26	9	先端部欠損
25	調査区東側	石鏃	IV層	33	14	6	
26	調査区東側	石皿	II層	219	153	44	1/4弱残存

第99図 遺構外出土遺物 (2)



No	出土地点	層位	器種	部位	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	内面	外面	その他特徴
27	調査区西側	覆土中	天目碗	口縁部	—	—	—	黒色鉄釉	黒色鉄釉	産地不明 中世陶器
28	調査区西側	覆土中	皿	口縁～底部	96	56	27	淡黄色釉 蘭竹文	淡黄色釉	瀬戸産 削高台 口唇部欠損 17世紀中頃
29	調査区西側	覆土中	皿	口縁～底部	120	69	23	淡黄色釉 蘭竹文	淡黄色釉	瀬戸産 削高台 口唇部欠損 17世紀中頃



No	出土地点	層位	銘文		外径 (mm)	穿孔 (mm)	外輪厚 (mm)	外輪幅 (mm)	重量 (g)	初鑄年代	特徴
			面	背							
30	調査区南側	地山面	寛永通寶	無背	22.1～22.4	6.5	1.2～1.3	2.0～2.2	1.2	1697年	新寛永
31	調査区南側	地山面	寛永通寶	文	25.5	5.5～5.6	2.3～2.4	2.4～2.7	3.4	1668年	文銭
32	調査区南側	地山面	寛永通寶	無背	24.0～24.2	5.4	1.1～1.2	2.1～2.3	3.7	1636年	古寛永

第100図 遺構外出土遺物 (3)

## 4. 木戸井内IV遺跡の自然科学分析



## 4. 木戸井内IV遺跡の自然科学分析

### ＜目次＞

はじめに	p. 118
1. 試料	p. 118
2. 分析方法	p. 118
3. 結果および考察	p. 118
(1) 墓坑2	p. 118
(2) 墓坑3	p. 124
(3) まとめ	p. 125
引用文献	p. 125

### ＜図表・図版一覧＞

表1. 骨同定結果
表2. 歯式および計測結果
表3. 頭骨形態小変異
表4. 頭蓋骨計測結果
表5. 四肢骨計測結果

### 図1. 人体骨格各部の名称

図版1 墓坑2出土人骨(1)
図版2 墓坑2出土人骨(2)
図版3 墓坑3出土人骨(1)
図版4 墓坑3出土人骨(2)

## はじめに

木戸井内、遺跡は、岩手県宮古市大字千徳第14地割字木戸井内に所在し、尾根の南斜面に位置する。当該地では、古代の建物跡が埋積した平坦面を利用して近世の墓域が作られている。これまでの発掘調査により、3基の墓(墓坑1-3)が確認されている。

今回の分析調査では、墓坑2および墓坑3から出土した人骨について、部位等を確認し、埋葬された個体に関する情報を得る。

### 1. 試料

試料は、墓坑2および墓坑3から出土した人骨である。各遺構とも、1体分の人骨が出土する。なお、墓坑2および墓坑3とも、早桶による埋葬と推定されている。また、副葬品は、墓坑2が煙管と寛永通宝、墓坑3が煙管、寛永通宝、縫針である。

### 2. 分析方法

骨に付着した土壌を乾いた筆、刷毛、竹串等を用いて除去する。また、一部の試料については、一般工作用接着剤を用いて接合する。出土骨を肉眼で観察し、部位を明らかにした後、形態学的特徴を調べる。計測は、骨の計測が馬場(1991)、顔面の平坦度計測がYamaguchi(1973)、歯牙の計測が藤田(1949)に従った。なお、同定および考察に関しては、奈良貴史先生の助言を頂いた。

### 3. 結果および考察

同定結果を表1に示す。また、歯式を表2に、頭蓋小変異を表3に、頭蓋の計測結果を表4に、四肢骨の計測結果を表5に示す。なお、人骨の年齢は、壮年が20-39歳、熟年が40-59歳程度を示す。また、人骨の各部位の名称等については、図1に示す。以下、墓坑ごとに結果を示す。

#### (1) 墓坑2

保存状態は良好で、ほぼ全身骨格が確認される。頭蓋では、頬骨弓と下顎骨の左右下顎頭が破損する程度で、ほぼ完存する。ただし、脳頭蓋の外側表面は、腐蝕し、剥離する面が多い。また、部分的に植物根による穿孔がみられる。特に、右眼窩から上顎にかけて植物根が貫き、植物根を取り除くことができない。体幹では、頸椎、胸椎、腰椎、仙骨、胸骨、肋骨が確認される。上肢骨は、左橈骨と左尺骨の破損が著しいが、左上腕骨と右側が良好に保存される。手の指骨は、基節骨が確認される程度で、中節骨、末節骨が確認されない。下肢骨では、膝蓋骨、中節骨、末節骨を除く部位が認められる。

##### 〈年齢〉

頭蓋の縫合は、内側が閉じている。外側は、一部表面が腐蝕し、剥離しているため、全面を観察することができないが、環状縫合やラムダ縫合を部分的に観察することができ、閉じていないことが確認される。僅かに植立する歯牙をみると咬耗が進んでおり、象牙質がほぼ全面に露出する。また、仙骨では、第一仙椎で加齢に伴う骨増殖がみられる。よって、熟年に達した個体と考えられる。

##### 〈性別〉

頭蓋の形状をみると、眉間や乳様突起の発達が弱く、外後頭隆起も突出しておらず、寛骨の大坐骨切痕が鈍角であり、耳状面にいわゆる妊娠痕が認められることから、本人骨は女性と思われる。

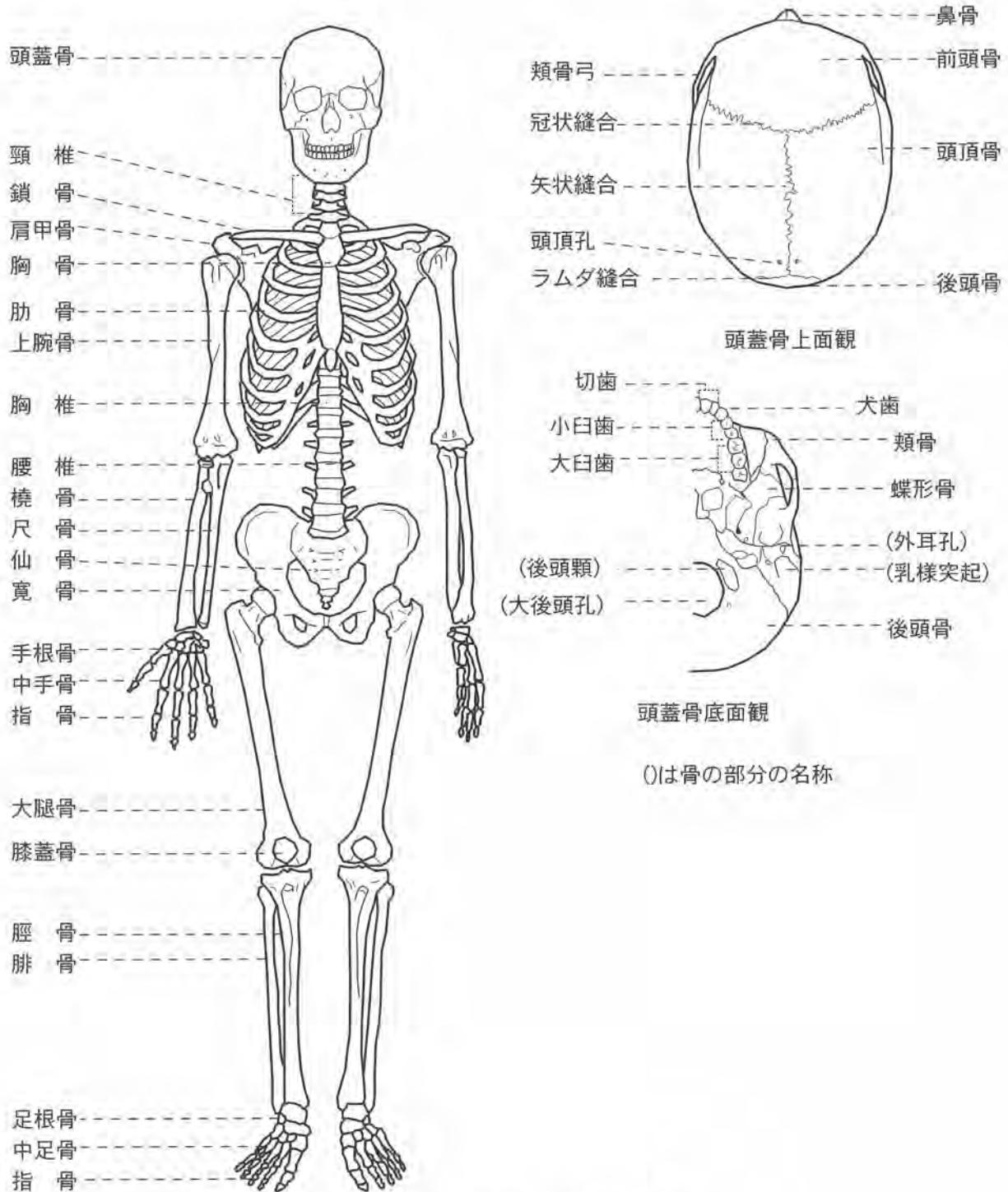


表1. 骨同定結果

出土遺構			墓坑2		墓坑3		
性別			女性		女性		
推定年齢			熟年		壮年後半・熟年前半		
部位			数量・状態		数量・状態		
			右	左	右	左	
頭蓋	脳頭蓋			1		1	
		破片		-		5	
		上顎骨		-		1	
	顔面頭蓋	下顎骨		1		1	
		舌骨		-		-	
体幹	脊柱	頸椎	第1	1		1	
		第2		1		1	
		椎体		3		1	
		破片		-		-	
		胸椎	椎体	8		2	
		破片		-		-	
		腰椎	椎体	-		3	
		破片		4		-	
		不明	椎体	2		4	
		破片		-		1	
	胸郭	仙骨		1		1	
		尾骨		-		-	
		胸骨	柄	-		-	
		体		1		-	
		第1	1	破片	1	破片	
上肢	腕部	肋骨	破片	-	1	胸骨端破損	
					37		
		鎖骨	1	ほぼ完存	1	ほぼ完存	
		肩甲骨	1	近心端部片	1	近心端部片	
		上腕骨	1	近位端破損	1	両端破損	
		橈骨	1	ほぼ完存	1	左両端破損	
		尺骨	1	ほぼ完存	1	左遠位端破損	
					1	近位端欠	
	手部	手根骨	舟状骨	-	1	ほぼ完存	
			月状骨	-	1	ほぼ完存	
			三角骨	1	ほぼ完存	-	
			豆状骨	-	-	-	
			大菱形骨	-	1	ほぼ完存	
			小菱形骨	1	ほぼ完存	-	
			有頭骨	1	破損	-	
			有鉤骨	1	破損	1	
			第1	1	破損	1	
			第2	1	左近位端欠	-	
	中手骨	第3	1	破損	-	1	
		第4	1	破損	1	遠位端欠	
		第5	1	破損	1	遠位端欠	
		第1基節骨	1	破損	1	ほぼ完存	
下肢	腿部	指骨	基節骨	5		1	
		中節骨		-		-	
		末節骨		-		-	
		寛骨	1	腸骨部破損	1	恥骨部分離	
		破片		-		1	
	足部	大腿骨	1	破損	1	破損	
		膝蓋骨	1	破損	-	-	
		脛骨	1	遠位端破損	1	ほぼ完存	
		腓骨	1	遠位端分離	1	両端欠	
	足部	距骨	1	ほぼ完存	1	ほぼ完存	
		踵骨	1	ほぼ完存	1	破損	
		足根骨	舟状骨	1	ほぼ完存	1	
			内側楔状骨	1	ほぼ完存	1	
			中間楔状骨	1	ほぼ完存	-	
			外側楔状骨	1	ほぼ完存	1	
		立方骨	1	ほぼ完存	1	ほぼ完存	
	足部	第1	1	ほぼ完存	1	ほぼ完存	
		第2	1	ほぼ完存	1	ほぼ完存	
		第3	1	ほぼ完存	1	ほぼ完存	
		第4	-	1	ほぼ完存	-	
		第5	1	遠位端欠	1	ほぼ完存	
	趾骨	第1基節骨	1	ほぼ完存	1	ほぼ完存	
		基節骨		1		-	
		中節骨		-		-	
		末節骨		-		-	
中手骨/中足骨			破片			1	
不明			破片			23	

表2. 歯式および計測結果

(単位:mm)

墓坑2		右												左												
上顎	永久歯	M'	M'	M	P	P'	C	F	I	F'	F	C	P'	P	M'	M'	M'									
		△	△	○	○	△	△	△	△	○	-	△	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-		
	齶歯			●	●																					
	歯冠幅				9.1±	5.9±						7.86													10.59	
	歯冠厚				10.02	8.40						6.79														9.0±
下顎	永久歯	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	C	I <sub>1</sub>	I <sub>2</sub>	I <sub>3</sub>	I <sub>4</sub>	C	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>									
		-	-	-	-	△	△	-	-	-	-	△	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	齶歯												●													
	歯冠幅														6.0±	6.68										
	歯冠厚														8.0±	8.28										
墓坑3		右												左												
上顎	永久歯	M'	M'	M'	P	P'	C	F	I	F'	F	C	P'	P	M'	M'	M'									
		-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	△	○	-	△	○	-	-	-	-		
	齶歯						●	●	●				●	●											●	
	歯冠幅					5.3±	5.6±	6.75	5.63	7.36	8.22	4.81	7.10	5.9±	6.57										8.76	
	歯冠厚					8.72	9.1±	7.90	6.45	6.55	6.51	6.15	7.83	9.43	8.85										8.61	
下顎	永久歯	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	C	I <sub>1</sub>	I <sub>2</sub>	I <sub>3</sub>	I <sub>4</sub>	C	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	M <sub>3</sub>									
		○	○	○	○	○	-	-	△	△	△	△	△	△	○	△	△	-	-	-	-	-	-	-	-	
	齶歯	●	●											●												
	歯冠幅	10.07	9.86	7.64	4.8±	6.10																				6.12
	歯冠厚	9.23	9.05	7.69	7.55	7.98																				7.48

凡例) ×:歯槽部破損 -:歯槽吸収 △:歯槽開放 ○:歯牙植立 ●:齶歯

表3. 頭骨形態小変異

項目	墓坑2												墓坑3													
	右						左						右						左							
1 前頭縫合													×													
2 眼窩上神経溝							×						×													
3 眼窩上孔							○						○													
4 ラムダ小骨													-													
5 横後頭縫合痕跡							×						×													
6 アステリオン骨							×						×													
7 後頭乳突縫合間骨							×						○													
8 頭頂切痕骨							×						×													
9 頸管開存							-						×													
10 頸前結節							×						×													
11 傍頸突起							-						-													
12 舌下神経管二分							×						×													
13 フシュケ孔							×						×			○										
14 卵円孔形成不全							×						×			×										
15 ベサリウス孔							×						×			×										
16 翼棘孔							-						-			-										
17 内側口蓋管							×						×			×										
18 頸骨横縫合残存							×						×			×										
19 床状突起間骨橋							-						-			×										
20 頸舌骨筋神経溝骨橋							×						×			×										
21 頸静脈孔二分							×						×			×										
22 上矢状静脈洞溝の左横洞への合流													×													

凡例) ○:有 ×:無 -:不明

表4. 頭蓋骨計測結果

Martin No.	計測項目	墓坑2	(単位:mm) 墓坑3
頭蓋骨			
1	脳頭蓋最大長	171	172
5	頭蓋底長	95	93
8	脳頭蓋最大幅	140	127
9	最小前頭幅	86	81
17	パジオン・プレグマ高	134	131
23	脳頭蓋水平周	487	-
24	横弧長	311	298
25	正中矢状弧長	110	-
40	顎長	99	-
45	頬骨弓幅	111	-
46	中顎幅	92	-
47	顎高	107	-
48	上顎高	61	-
51	眼窩幅(L)	39	41
52	眼窩高(L)	33	36
54	鼻幅	23	-
55	鼻高	44	-
66	下顎角幅	90	-
68	下顎骨長	66	66
69	オトガイ高	24	25
69 (3)	下顎体厚(L)	13	11
70	下顎枝高(R)	-	63
71	下顎枝幅(R)	34	29
8/1	頭蓋長幅示数	81.9	73.8
17/1	頭蓋長高示数	78.4	76.2
17/8	頭蓋幅高示数	95.7	-
47/45	コルマン顎示数	96.4	-
48/45	コルマン上顎示数	55.0	-
52/51	眼窩示数(L)	84.6	87.8
54/55	鼻示数	52.3	-
71/70	下顎枝示数(R)	-	46.0
顔面平坦度(Yamaguchi, 1973による)			
前頭骨弦		90.0	98.3
垂線高		8.0	11.6
平坦度示数		9.2	12.5
鼻骨弦		6.1	7.0
垂線高		0.9	0.8
平坦度示数		16.1	12.1
頬上顎弦		112.9	-
垂線高		23.4	-
平坦度示数		26.6	-

表5. 四肢骨計測結果

(単位:mm)

部位	Martin No.	計測項目	墓坑2		墓坑3	
			右	左	右	左
上腕骨	1	最大長	-	290	±	-
	2	全長	-	-	-	-
	3	上端幅	-	-	-	-
	4	下端幅	50	-	49	-
	5	中央最大径	-	18	-	-
	6	中央最少径	-	14	-	-
	7	骨体最小周	56	51	±	55
	7 a	中央周	-	-	-	-
	6/5	骨体断面示数	-	77.8	-	-
	7/1	長厚示数	-	17.6	±	-
橈骨	1	最大長	210	-	213	-
	2	機能長	202	-	204	-
	3	骨体最小周	36	-	36	-
	4	骨体横径	13	-	14	-
	5	骨体矢状径	11	-	10	-
	3/2	長厚示数	17.8	-	17.6	-
	5/4	体断面示数	84.6	-	71.4	-
尺骨	1	最大長	229	-	-	-
	2	機能長	204	-	-	-
	3	骨体最小周	34	-	34	-
	11	骨体矢状径	11	-	11	-
	12	骨体横径	18	-	15	-
	3/2	長厚示数	16.7	-	-	-
	1/2	長示数	112.3	-	-	-
	11/12	体断面示数	61.1	-	73.3	-
大腿骨	1	最大長	-	398	±	-
	2	全長	-	394	±	-
	6	骨体中央矢状径	24	25	-	-
	7	骨体中央横径	30	27	-	-
	8	骨体中央周	42	82	-	-
	9	骨体上横径	35	33	30	30
	10	骨体上矢状径	22	22	21	21
	13	上端長	-	-	-	-
	18	頭垂直径	41	-	-	-
	19	頭矢状径	41	-	-	-
	20	頭周	129	-	-	-
	21	上顆幅	-	62	-	-
	8/2	長厚示数	-	20.8	±	-
	6/7	骨体中央断面示数	80.0	92.6	-	-
脛骨	10/9	骨体上断面示数	62.9	66.7	70.0	70.0
	1	全長	326	332	-	-
	1 a	最大長	332	337	-	-
	8	骨体中央矢状径	24	23	-	-
	8 a	栄養孔位最大径	29	28	30	28
	9	中央横径	19	18	-	-
	9 a	栄養孔位横径	21	21	22	24
	10	骨体中央周	69	70	-	-
	10 a	栄養孔位周	79	79	83	74
	10 b	骨体最小周	62	62	66	-
	9/8	中央断面示数	79.2	78.3	-	-
	9a/8a	脛扁平示数	72.4	75.0	73.3	85.7
	10b/1	長厚示数	19.0	18.7	-	-
腓骨	4 a	最小周	30	-	30	-

注)数字の後ろの「±」表記は、推定値を示す。

### 〈身長〉

推定身長は、上腕骨、大腿骨、脛骨の計測値を、藤井の推定身長式にあてはめると151-153cm程度と考えられる。江戸時代の推定身長の平均値は、平本(1972)によると、男性が157.1cm、女性が145.6cmとされている。これと比較すると、本人骨の推定身長は、江戸時代女性の平均値145.6cmと比較して若干高い。

### 〈形態学的特徴〉

頭蓋は、小変異として眼窩上孔が左右ともに認められ、後頭乳突縫合間骨が左側にみられる。また、歯牙は、脱落したものが多く、歯槽が吸収している部位も確認される。

齲歯(いわゆる虫歯)は、上顎でみると、右第2小白歯近心側隣接咬耗面、右第1大臼歯の遠心側歯頸部にみられる。また、下顎では、左下顎第1小白歯の歯冠咬合面に歯髓まで達する齲歯が認められる。また、部分的にエナメル質が剥離する。

頭蓋の形状は、上面観が頭蓋長幅示数81.9で短頭、側面観が頭蓋長高示数78.4で高頭、後面観が頭蓋幅高示数95.7で中頭、コルマン顔示数が高顔(過狭顔)、コルマン上顔示数が高上顔(狭上顔)となる。鼻根部に関しては、鼻骨の正中部前方へ突出が弱く、全体的に平坦である(鼻根平坦示数16.1)。また、鼻示数は、52.3で広鼻型を示す。眼窩は、四角形を呈する。眼窩示数は、84.6と中眼窩型を示した。

### (2) 墓坑3

保存状態は、墓坑2に比べて悪く、破損が進む。頭骨は、上顎骨および篩骨部分の破損が著しい。体幹では、頸椎、胸椎、腰椎、仙骨がみられるが、いずれも破片である。上肢骨では、肩甲骨が確認されず、指骨も基節骨が見られる程度である。上腕骨、橈骨、尺骨は、骨端が破損する。下肢骨では、寛骨も破片となっており、中足骨や指骨もあまり検出されない。大腿骨、脛骨、腓骨も骨端が破損する。

### 〈年齢〉

頭蓋の縫合は、内側、外側ともに開いており、癒合が進んでいない。植立する歯牙をみると咬耗が進んでおり、象牙質がほぼ全面に露出する。これより、壮年後半-熟年前半頃と考えられる。

### 〈性別〉

頭蓋の形状をみると、眉間や乳様突起の発達が弱く、外後頭隆起も突出しておらず、寛骨耳状面にいわゆる妊娠痕が認められる。したがって、本人骨は女性と思われる。

### 〈身長〉

上腕骨、大腿骨、脛骨において最大長を計測できないため、推定身長を求めることができない。

### 〈形態学的特徴〉

頭蓋は、小変異として、顆管開存が左側にみられ、鼓室骨裂孔が左右に確認される。歯牙は、脱落した歯牙も認められ、特に上顎大臼歯が生前の脱落で歯槽が吸収する。なお、上記したように、象牙質がほぼ前面に露出するほど咬耗が進むが、左上顎中切歯は、近心側の咬耗が著しい。特異な咬耗が生じる習慣があったと考えられる。

齲歯は、上顎でみると、左第1小白歯の遠心側隣接咬耗面、左第2小白歯の遠心側歯頸部、左第3大臼歯の頬側歯頸部と近心側歯頸部、右中切歯の遠心側隣接咬耗面、右側切歯の近心側隣接咬耗面、右犬歯の近心側隣接咬耗面にみられる。下顎でみると、左第2小白歯の遠心側歯頸部、右第2大臼歯の遠心-頬側歯頸部、右第3大臼歯の頬側咬合面-歯頸部に見られる。

頭蓋の形状は、上面観が頭蓋長幅示数73.8で長頭、側面観が頭蓋長高示数76.2で高頭となる。また、鼻根部に関しては、鼻骨平坦示数12.1で、全体的に平坦であると言える。眼窩は、四角形を呈する。また、眼窓示数は、87.8と高眼窓型を示す。

### (3) まとめ

墓坑2および墓坑3から出土した人骨は、いずれも女性であると判断された。年齢的には、墓坑2出土人骨が熟年、墓坑3出土人骨が壮年後半-熟年前半頃とみられる。身長は、墓坑2のみ求めることができ、それによると江戸時代女性の平均身長と比較して若干高い。顔の特徴をみると、両人骨とも、平坦な顔つきであったとみられる。

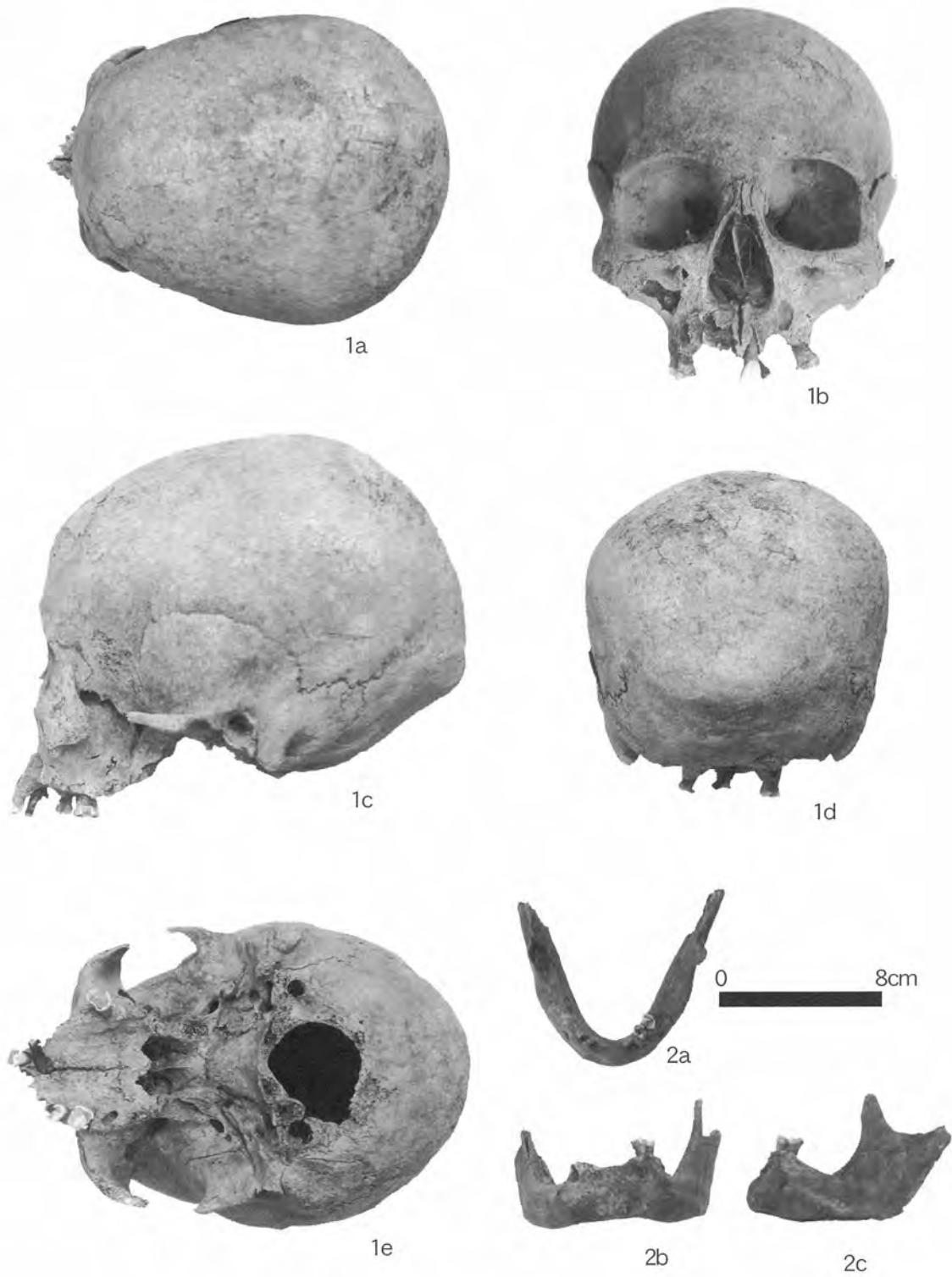
また、両人骨ともに齶歯が進んでおり、特に墓坑2出土人骨は、生前から歯牙が脱落し、歯槽が吸収していることから、まともな咬み合わせができない状態にあったとみられる。一方、墓坑3出土人骨は、特異な咬耗が生じるような習慣・習癖があったと考えられる。

### 引用文献

- 藤田 恒太郎,1949,歯の計測基準について.人類学雑誌,61,27-31.  
平本 嘉助,1972,縄文時代から現代にいたる関東地方人身長の時代的变化.人類学雑誌, 80,221-236.  
馬場 悠男,1991,人骨計測法.人類学講座別巻1 「人骨計測法.雄山閣出版株式会社,359p.  
Yamaguchi,B.,1973, Facial flatness measurements of the Ainu and Japanese crania. Bulletin of the National Science Museum Tokyo,16,161-171.



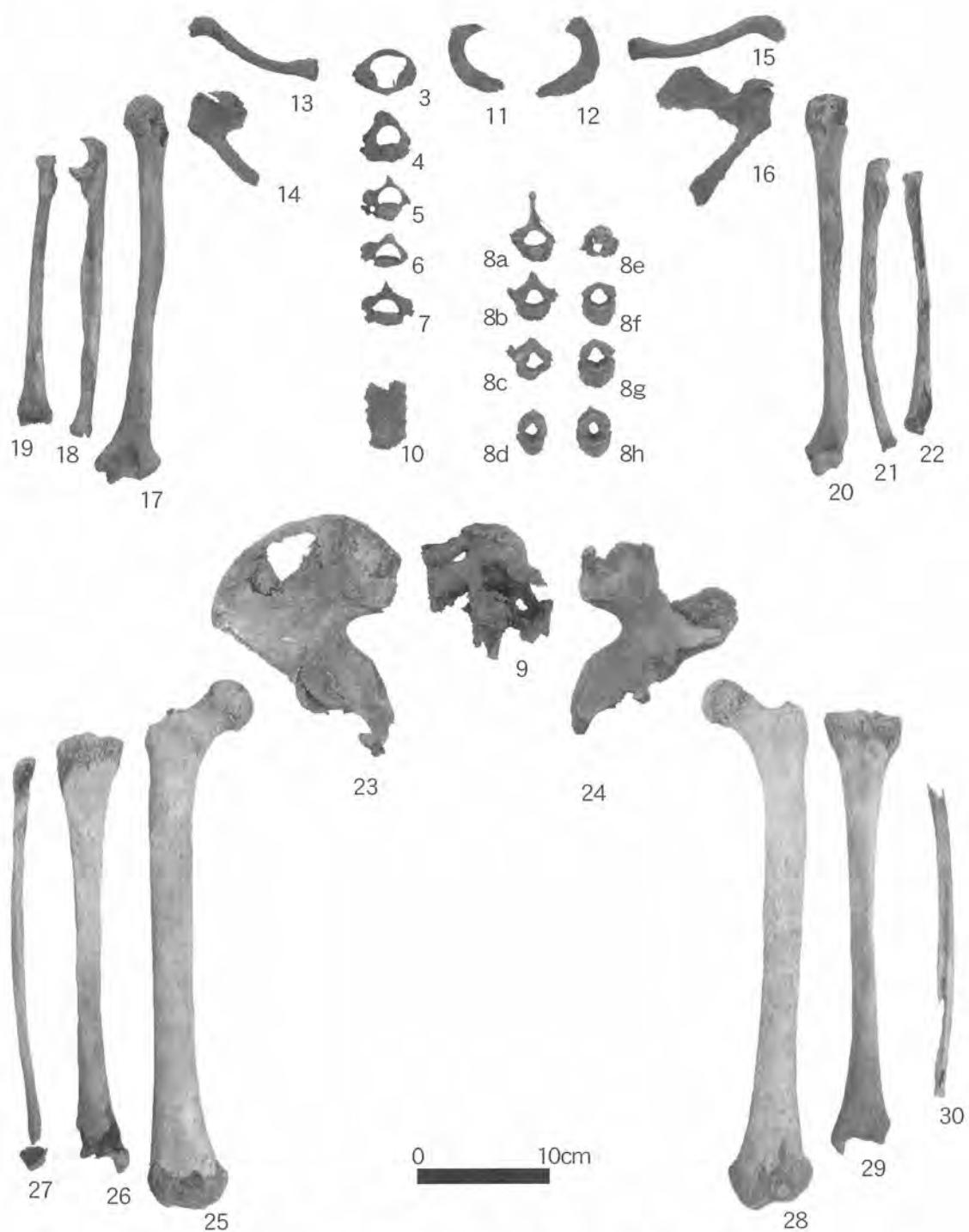
図版1 墓坑2出土人骨 (1)



1a 脳頭蓋上面觀  
1c 脳頭蓋左側面觀  
1e 脳頭蓋底面觀  
2b 下顎骨前面觀

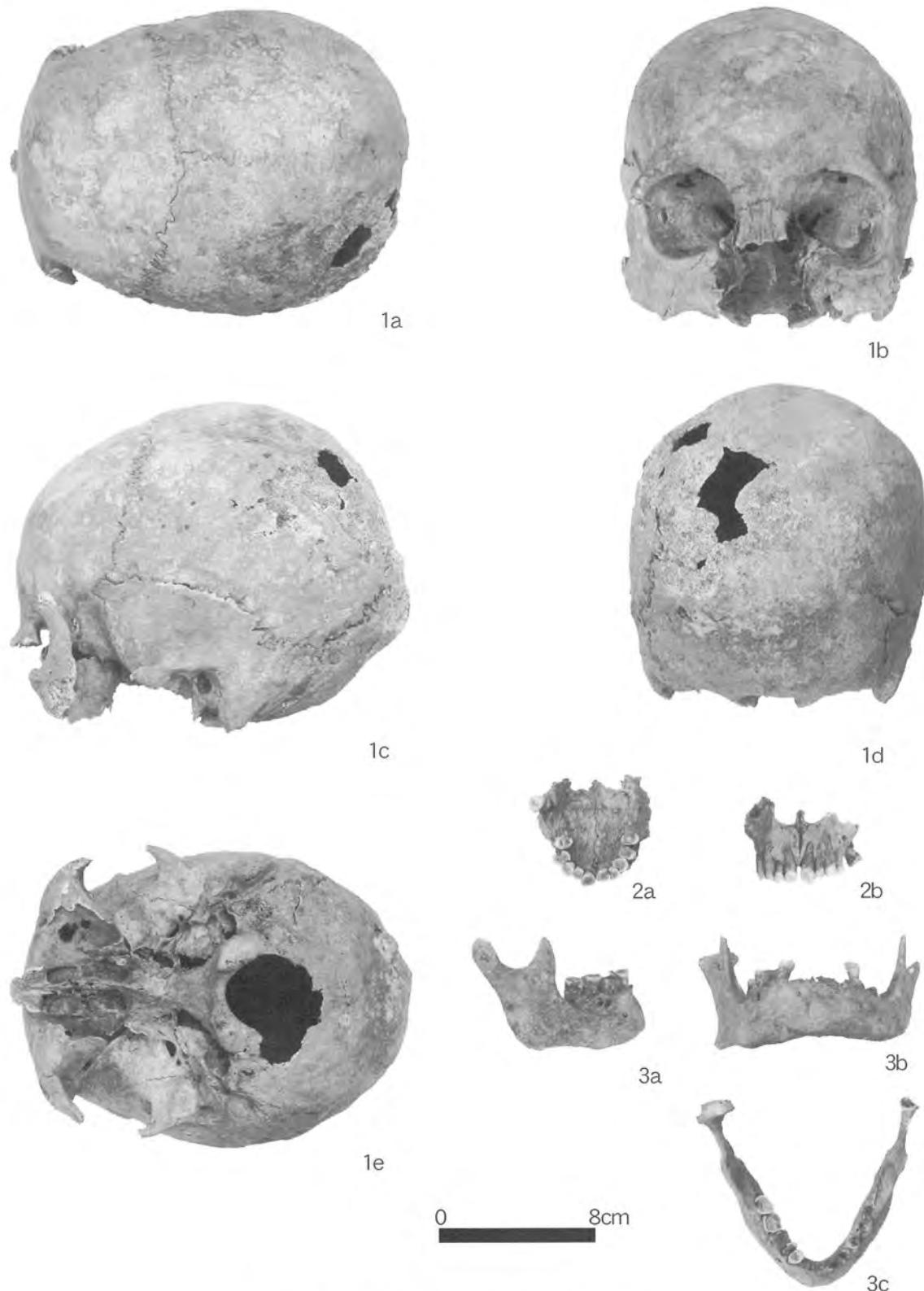
1b 脳頭蓋前面觀  
1d 脳頭蓋後面觀  
2a 下顎骨咬耗面  
2c 下顎骨左側面觀

図版2 墓坑2出土人骨 (2)



- |           |           |          |
|-----------|-----------|----------|
| 3. 第1頸椎   | 4. 第2頸椎   | 5-7. 頸椎  |
| 8. 胸椎     | 9. 仙骨     | 10. 胸骨   |
| 11. 右第1肋骨 | 12. 左第1肋骨 | 13. 右鎖骨  |
| 14. 右肩甲骨  | 15. 左第1鎖骨 | 16. 左肩甲骨 |
| 17. 右上腕骨  | 18. 右尺骨   | 19. 右橈骨  |
| 20. 左上腕骨  | 21. 左尺骨   | 22. 左橈骨  |
| 23. 右寛骨   | 24. 左寛骨   | 25. 右大腿骨 |
| 26. 右脛骨   | 27. 右腓骨   | 28. 左大腿骨 |
| 29. 左脛骨   | 30. 左腓骨   |          |

図版3 墓坑3出土人骨 (1)



- 1a. 脳頭蓋上面觀  
1c. 脳頭蓋左側面觀  
1e. 脳頭蓋底面觀  
2b. 上顎骨前面觀  
2b. 下顎骨前面觀  
1b. 脳頭蓋前面觀  
1d. 脳頭蓋後面觀  
2a. 上顎骨咬耗面  
3a. 下顎骨右側面觀  
2c. 下顎骨咬耗面

図版4 墓坑3出土人骨 (2)



## 5. 調査のまとめ

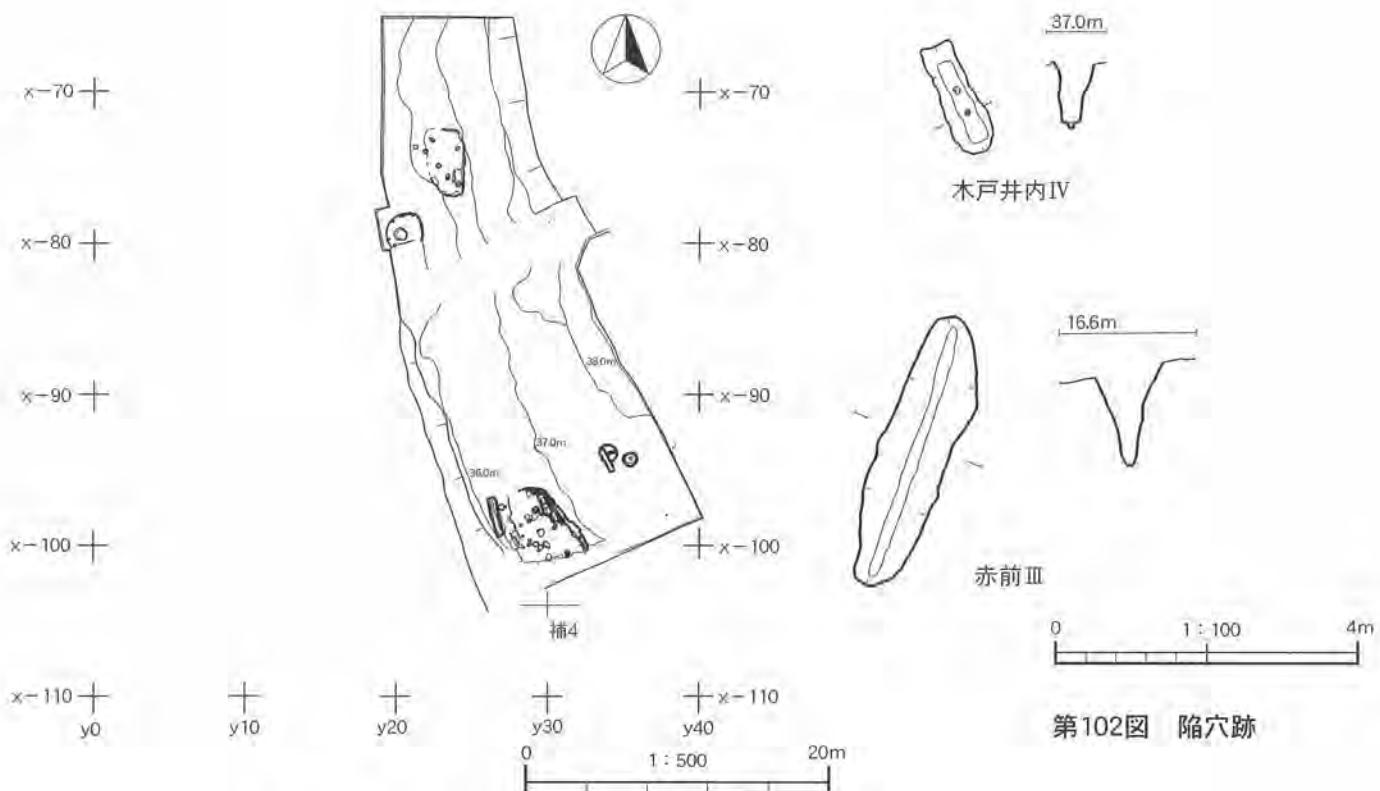
### 5-1 縄文時代の遺構（第101図）

南側尾根の先端部の緩斜面に集中する一群の遺構である。竪穴住居跡3棟（35、36、39）、陥穴跡3基（39、212、240）、土坑跡（151、161）などである。住居跡は、隅丸方形を呈する中規模の竪穴2棟（35、38）、円形の小規模な竪穴（36）1棟である。36号竪穴の床面の浅い土坑からは多量のチップが出土しており、石器の製作場所として使用されていたものと思われる。時期は住居跡、土坑跡は縄文時代前期に伴い、陥穴跡は縄文時代前期以前に伴う。

大木4式の土器を伴う住居跡は、市内では千鶴IV遺跡で報告されている。今回の住居の規模は、ロングハウスと呼ばれる千鶴IVのものに較べて小規模であるほかに、伴出した土器も器形、施文の配置もやや異なる。波状口縁をもつ胴張りの深鉢で、粘土紐による施文は口縁の突起部に集中する。大木5式に近いタイプと思われる。大木5式に伴う土器については、市内ではこれまで破片程度の報告しかなかったが、環状装飾を施された深鉢が土坑から出土したことは大きな成果である。

3基の陥穴は、規模はやや異なるが、いずれも長方形を呈し平行して並んでいることなどから同時期のものと考えられる。39号陥穴は、38号住居跡に切られており、住居跡より古い時期のものであることは分かったが、詳細な時期は不明である。

市内の陥穴の例は、長根I（5基）、青猿I（4基）、払川（8基）、天神山（2基）、赤前III（1基）などの遺跡からの報告されている。それらの例から二つのタイプがあることが確認できる。一つは、長方形に掘り込むやや規模の小さい箱型のタイプで、床面に小穴を持つものと持たないものがある。もう一つは、横長でV字状に掘り込むV字タイプである。箱型が木戸井内IV、箱型とV字型が混在する長根Iと払川I、その他はV字タイプである。この二つのタイプの違いが、時期的なものか、獲物によるものかなどが今後の検討課題である。



第101図 縄文時代の遺構

## 5-2 古代の遺構（第103図）

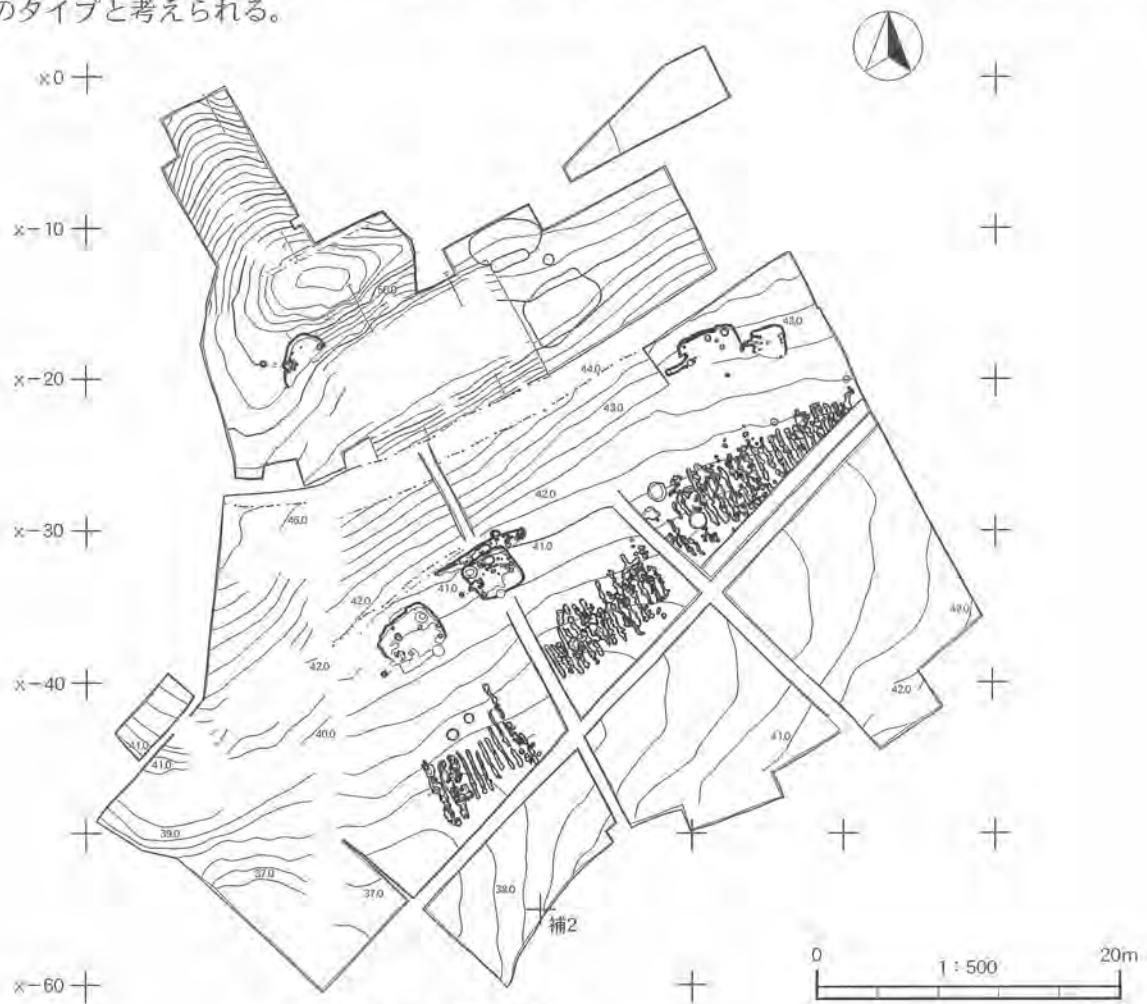
古代の遺構は、尾根と洞に展開している。尾根の鞍部の竪穴住居跡（7）、洞の北側の山裾に並ぶ5棟の竪穴跡（15、16、17、18、21）、中央部で畠の畝跡（31）などで構成される。

7号住居跡からは壺が4点、甕が1点のセットで出土している。壺は、いずれも内黒処理された丸底風の平底である。胴部から口縁部にかけては、やや内湾する1点を除いて、外傾し、外面に沈線あるいは段をもつ。甕は、口縁部と胴部の径がほぼ等しく、頸部の一部に明瞭な段をもつ。これらの土器群は鰐沢のII期、長根IのA-3類の壺、上村の壺I期に相当するものと思われ、8世紀半から後半に伴う。市内では、払川I、狐崎I、小堀内III、赤前八枚田IV、山口館などが併行する。

洞の北側に並ぶ竪穴跡はいずれも平安時代に伴う。18号住居、21号住居は、いずれも平面形は隅丸方形で、西側の壁にカマドを設けていることだけではなく、規模の点でも類似している。17号竪穴跡は、横長の削平面を求めて掘られたられようの竪穴であり、東端部に鍛冶炉と思われる炉を設けている。

上記3棟の竪穴から出土した甕については、口縁部は短くて外反し、底部は張出を持たないことが共通している。17号、21号はロクロ使用の壺を伴い、周辺部の遺構検出面からは再処理を施した壺が出土している。これらの土器群は、磯鶴館山のIII期、鰐沢のIV期が相当すると思われ、10世紀前半に伴う。17号と18号の切り合については、以上のことから大きな時期差はないと思われる。

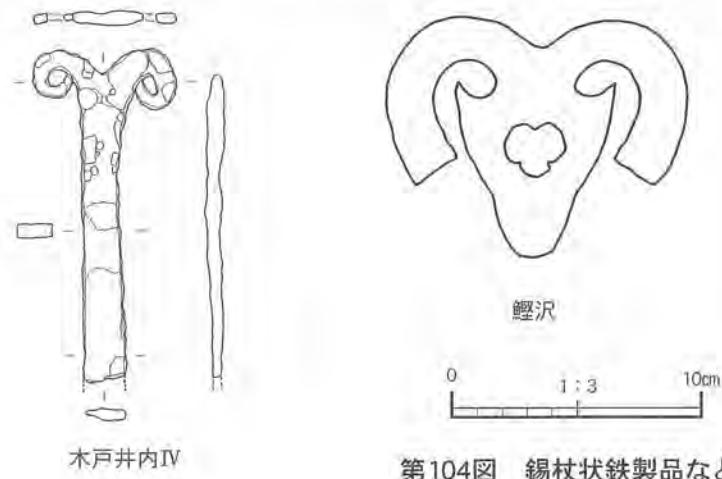
17号竪穴は、横長の特異な形態をもつ竪穴であるが、赤前IV八枚田遺跡からは、横長の斜面を削平して、床面に炉を設けた平安時代の竪穴跡（A-6号）が出土している。A-6号は製鉄関連の施設であり、17号竪穴跡との類似点が多い。これをもって製鉄工房の一般例とは言えないにしても、一つのタイプと考えられる。



第103図 古代の遺構

17号竪穴からいわゆる錫杖状鉄製品が出土している。これまで市内では長根I(1)、磯鷄館山(1)、赤前IV八枚田(1)、島田II(5)からの報告例があり、木戸井内IVの製品は9例目に当たる。また鰐沢(第1号炉跡)においても同じモチーフを用いた鉄製品が出土しており、いまだ用途は不明であるが、道具としての一般性は増してきたと思われる。用途としては祭具として使用などが考えられる。

市内でこれらの遺構と併行する遺跡としては、磯鷄館山遺跡、花輪鰐沢遺跡、赤前IV八枚田遺跡、赤前III遺跡などが挙げられる。



第104図 錫杖状鉄製品など

#### 4-3 近世の遺構(第105図)

北尾根、洞、南尾根先端の緩斜面部と調査区のほぼ全域に展開する。尾根の墓坑跡(1, 2, 3, 4)、掘立柱建物跡(5)、竪穴跡(6)、洞の畝跡(32)、南の緩斜面の掘立柱建物跡(106, 168)で構成される。

墓坑跡は、1号墓坑に伴う墓石の年号から18世紀初頭に伴うことが分かった。他の墓坑についても古寛永、新寛永が混在しており1697年以降に伴うことが分かった。また、掘込面が同じであること、切り合いのない位置関係などからほぼ同年代のものと思われる。

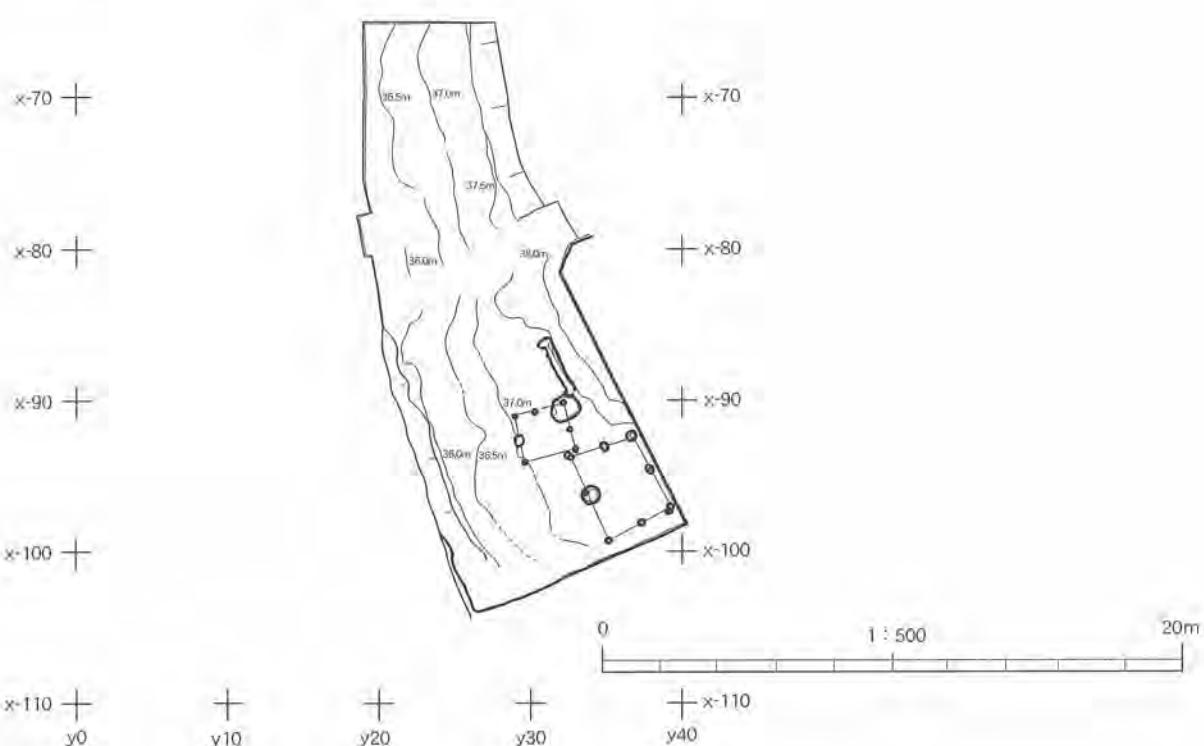
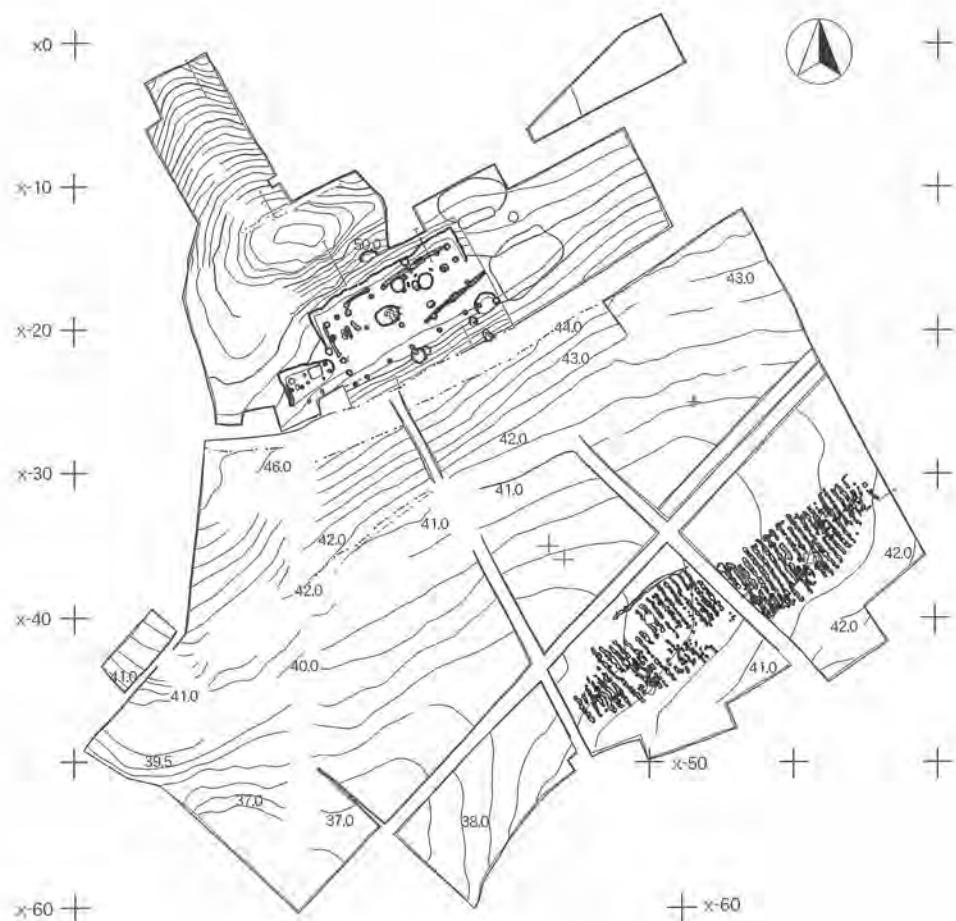
1号墓坑に伴って墓石が2基検出し、墓石には同じ年月日が刻まれていた。1号墓坑からは人骨が一体分だけ出土しており、1基は他所から運ばれてきて並べられたものである。

埋葬形態については、2号、3号墓坑は早桶を用いた座葬である。1号墓坑は規模も大きく、隅丸方形に掘り込まれている。人骨は、頭骨、大腿骨が横に長く並ぶ格好が確認できたので、当初箱式木棺を用いた埋葬と考えた。しかし頭骨が傾いた格好で検出したこと、木質、釘なども検出されないことなどから土坑への直葬が考えられる。1号墓坑と2、3号墓坑とでは、掘り方、人骨の遺存状況が著しく異なり、1号墓坑に伴う2基の墓石の1基が2号、3号のいずれかに伴う可能性は少ないとと思われる。

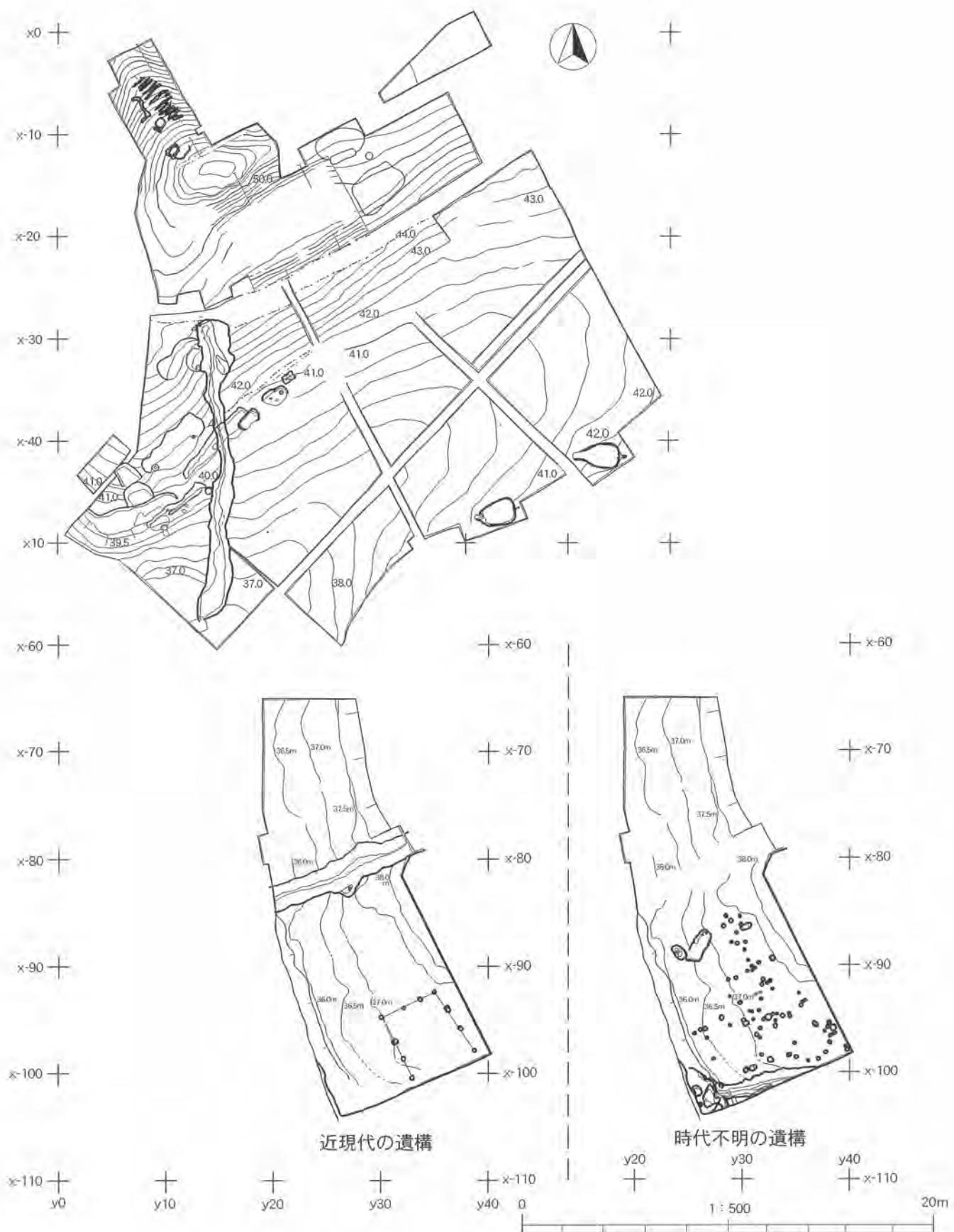
市内の近世墓坑跡は、『黒森I』、『沼里』、『払川館』などの報告例があるが、『払川館』では箱式木棺による埋葬例などが報告されている。

副葬品については、一般的な錢貨、煙管など他に市内での初出例として和鉄、縫針などが挙げられる。『黒森I』では菜切包丁の例なども報告されている。

5号掘立柱建物跡は規模の大きい建物跡である。これまで市内での近世に伴う掘立柱建物の例は、『トロノ木I』、『黒森I』、『下在家I』、『上根井沢I・沼里』などで報告されている。これらの建物の桁行柱間寸法を見てみると、『トロノ木I』では、1号建物が1.98-1.91-1.91-1.96m、『黒森I』では1号建物が約1.80-1.84-1.53m、2号建物が1.80-2.0-2.2m、『下在家I』では、1号a建物2.0-2.0-2.0-2.0m、4号a建物が2.5-2.5-2.5m、『上根井沢I』では、全掘していないが1号建物の規模の大きな柱穴間寸法が2.0-2.0mとなっており、おおむね2m前後の柱間寸法が多く採用されている。これらのことから、5号建物の桁行は、0.9-2.2-2.1-2.1-2.1-1.0mの値を示しており、近世に伴うものと思われる。



第105図 近世の遺構



第106図 近現代の遺構、時代不明の遺構

建物の性格については、斜面という配置、遺物がほとんど無く、カマド、炉跡なども出土していないことなどから「貯蔵」を目的とした建物が考えられる。

南緩斜面の掘立柱建物跡（106、168号）については、墓坑跡もしくは5号建物跡との明瞭な共伴関係は確認できなかったが、17世紀中頃の陶器が出土していること、磁器が出土していないこと、新、古寛永が混在していることなどから、尾根の墓坑跡と同じく18世紀前半に伴う可能性が大きい。尾根の墓所、洞の畠（32号）、水場に近い南の平坦地の掘立柱建物跡という配置が考えられる。

#### 5-4 近現代と時代不明の遺構（第106図）

洞の南側に並ぶ炭窯跡（33、34号）を始めとして、尾根斜面を中心と展開する遺構群である。遺構群は、竪穴状遺構（22、23、24、26、27、28、29、30、1002）、大、中規模の溝跡（25、37、1005）、土坑跡（10、19、南緩斜面の小土坑群）、畠跡（12）に分けられる。

炭窯については、土坑を利用して炭を焼く「伏焼き」で使われた窯跡の報告例は増えている（『萩沢Ⅱ』、『細越Ⅰ』『島田Ⅱ』、『木戸井内Ⅱ、Ⅲ』など）。Ⅰ区8号炭窯跡も、規模は小さいがその一つのタイプである。それに対して、天井と煙出しを備えた「築窯」による窯の市内での報告例はなく、今回が最初である。「築窯」による木炭の焼成は、古代に遡るが、窯の構造、焼成方法などについて詳細な記録が残るのは近世になってからである（『日本木炭史』）。今回出土した2基の炭窯は、天井は崩落していたが、焚口、燃焼室、煙出しで構成される窯型の構造である。これは『日本木炭史』の近世の窯の記述に一致するところでもあり、同時に近現代においても見受けられる構造でもあり、構造状の変化はさほどないのではないかと思われる。2基の炭窯は、周辺の遺物の出土状況から明治以降に伴う可能性が大きいと思われるが、「築窯」の構造、変遷などの詳細な検討を今後の課題したい。

尾根斜面の竪穴状遺構の床面では、焼土遺構などが確認されたものもあり（20、22、23、29、30）、付近の土坑（19）からは使用済みの多数の船釘が出土している。炭を利用して鍛冶仕事を行ったことも考えられる。

溝跡は、いずれも尾根とほぼ直交して、沢に向かって掘り込まれている。廃水路として利用されたことは考えられるが、周辺の炭窯、竪穴状遺構などとの関係は不明である。

- |                            |  |
|----------------------------|--|
| 宮古市教育委員会32                 | 1992 「黒森町Ⅰ遺跡－平成2年度発掘調査報告書－」  |
| " 34                       | 1992 「鰐沢遺跡群－平成2年度発掘調査報告書－」   |
| " 36                       | 1992 「細越Ⅰ遺跡・芋野Ⅱ遺跡-農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書-」                          |
| " 38                       | 1993 「萩沢Ⅱ遺跡－平成4年度発掘調査報告書－」   |
| " 43                       | 1995 「磯鶴館山遺跡発掘調査報告書」   |
| " 14                       | 1988 「青猿Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群(堀合館)」  |
| " 17                       | 1989 「トロノ木Ⅰ遺跡－第1～7次発掘調査報告書－」                                       |
| " 20                       | 1989 「狐崎Ⅱ遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－」  |
| " 51                       | 1998 「赤畠・天神山・山口館-北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書-」                         |
| " 19                       | 1990 「狐崎遺跡－平成元年度発掘調査報告書－」  |
| " 53                       | 1999 「赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ケ沢・小堀内Ⅲ遺跡-水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-」 |
| " 54                       | 1999 「千鶴Ⅳ遺跡-水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-」                      |
| " 27                       | 1991 「青猿Ⅰ・千徳城遺跡群-平成元年・2年度発掘調査報告書-」                                 |
| " 56                       | 2000 「木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡-特別高压送電線計工事宮古支線新設工事関係埋蔵文化財調査報告書-」           |
| " 29                       | 1991 「払川Ⅰ遺跡－平成2年度発掘調査報告書－」   |
| " 57                       | 2002 「山口館跡-北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書-」                               |
| " 60                       | 2003 「上根井沢Ⅰ遺跡・沼里遺跡-市内遺跡発掘調査報告書3-」                                  |
| 岩手県文化財振興事業団体埋蔵文化財センター第146集 | 「長根Ⅰ遺跡発掘調査報告書」   |
| "                          | 第158集「上村貝塚発掘調査報告書」   |
| "                          | 第368集「島田Ⅱ遺跡発掘調査報告書」  |
| "                          | 第450集「島田Ⅱ遺跡第2～4次発掘調査報告書」   |
| 岩手県立博物館 1982               | 「岩手の土器」  |
| 講談社学術文庫 1076               | 樋口清之「日本木炭史」1993  |

# 写 真 図 版





1. 調査地点 (西から)



2. 調査区遠景 (南から)

## 写真図版 2



3. 7号竪穴住居跡（東から）



4. 同左カマド（東から）



5. 同上カマド付近遺物出土状況



6. 6号竪穴跡（東から）



7. 1号墓坑出土状況（1）（南から）



8. 同左出土状況（2）



9. 2号、3号墓坑跡（南から）



10. 1号墓坑（南から）

## 写真図版 3



11. 5号掘立柱建物跡（東から）



12. 調査区尾根遠景（H16）（南から）



13. 5号建物跡埋設状況（東から）



14. 8号炭窯跡（東から）



15. I B区遺構出土状況（北から）

## 写真図版 4



16. 15号竪穴住居跡（東から）



17. 16号竪穴住居跡（南から）



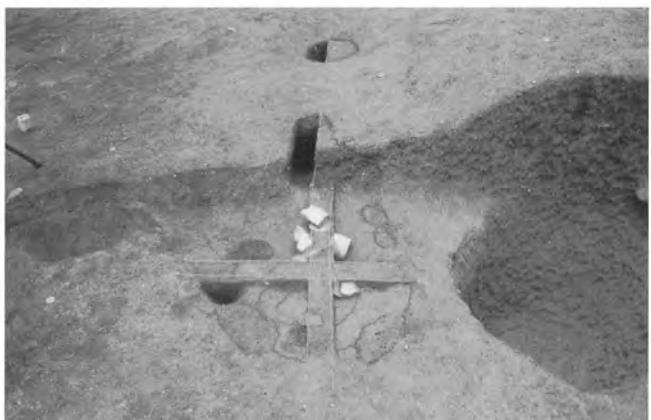
18. 17号竪穴跡（東から）



19. 同左炉跡（南から）



20. 18号竪穴住居跡（南から）



21. 同左カマド（東から）



22. 21号竪穴住居跡（南から）



23. 同左カマド（南から）

## 写真図版 5



24. 火跡（北から）



25. 尾根斜面の遺構群（南から）



26. 33号炭窯跡



27. 同左煙出し



28. 34号炭窯跡（西から）



29. 同左煙出し（西から）



30. 19号土坑跡（南から）



31. 22号竪穴跡（南から）

## 写真図版 6



32. III区全景（北から）



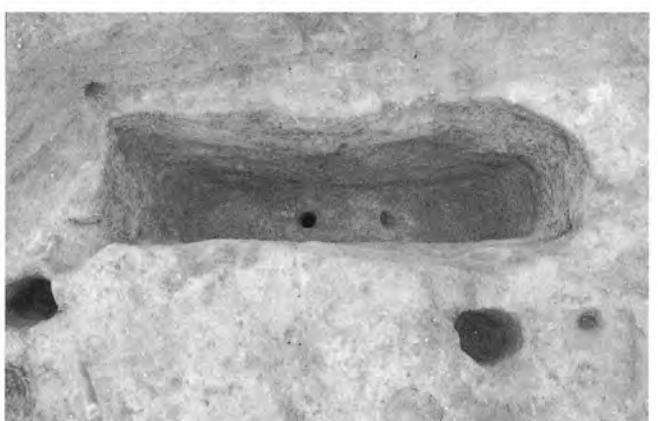
33. 35号竖穴住居跡（西から）



34. 36号竖穴住居跡（北から）



35. 38号竖穴住居跡（北から）



36. 39号陷穴（西から）



37. 106号掘立柱建物跡（西から）



38. Ⅲ区南側（北から）



39. 106号掘立柱建物跡遺物出土（西から）



40. 241号溝跡（北西から）



41. 241号溝跡人骨出土（南から）

## 写真図版 8



図23-5

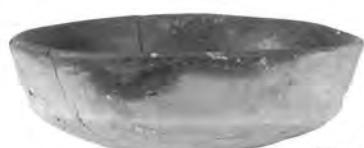


図23-2



図23-1



図23-3



図23-4



7号住居跡出土品



図17-1

図17-2



図9-1



図9-3



図9-4



図9-5



図9-6



図9-2

## 写真図版 9



図12-1



図12-3



図12-5



図12-4



図12-2



図13-1



図13-2



図13-4



図13-3



図13-9



図13-7



図13-8



図13-5



図13-6



図12-8



図12-7



図12-6



4号墓坑出土品

## 写真図版10



図36-16



図40-15



図57-43



図57-42



図54-20



図36-18

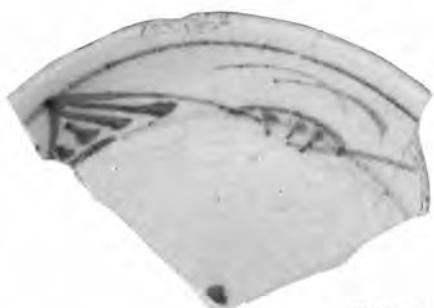


図61-12



図65-1



同左口縁部

写真図版11



図65-3

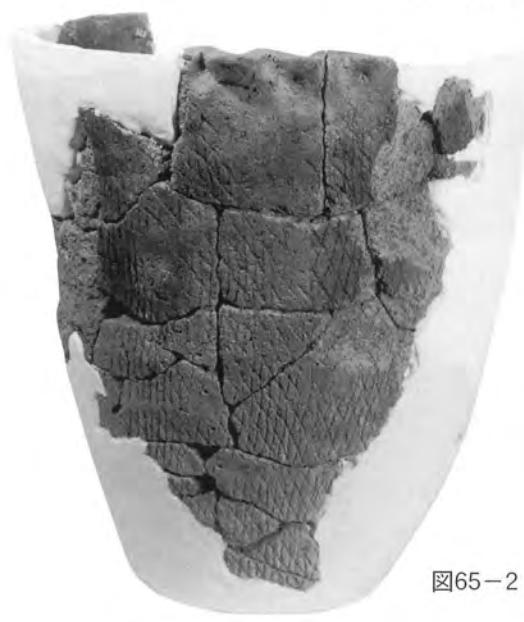


図65-2



図67-5



図71-11



図70-1



図71-12 149

## 写真図版12



図75-1



図75-2



図75-3



図75-4



図75-5



図75-6



図75-7



図75-8



図75-9



図75-10



図75-11



図75-12



図75-12



図80-1



図86-2



図89-2



図94-2



図96-1



図49-6



図49-10



図51-29

## 報告書抄録

ふりがな	きどいない いせき							
書名	木戸井内IV遺跡							
副書名	宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	68							
編著者名	阿部 豊 安原 誠							
編集機関	岩手県宮古市教育委員会							
所在地	〒027-8501 岩手県宮古市新川町2番1号 TEL.0193-62-2111 FAX.0193-63-9119							
発行年月日	平成18年3月25日 (2006.3.25)							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きどいない いせき 木戸井内IV遺跡	いわてけんみやこ し 岩手県宮古市 おおあざせんとくだい 大字千徳第14 ちわりあざき どいない 地割字木戸井内 ちない 地内	03202	LG33-2263	39°37'11"	141°55'56"	試掘調査 110920 ~111029 本調査 120403 ~121212 130410 ~130710 160405 ~160528	428m <sup>2</sup> 2,240m <sup>2</sup> 350m <sup>2</sup> 240m <sup>2</sup>	市営火葬場建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
木戸井内IV	集落	縄文時代前期 奈良、平安時代 江戸時代 近現代	竪穴住居跡、掘立柱 建物跡、墓坑跡、 畝跡、溝跡	縄文土器、石器 土師器、須恵器 鉄製品、銅製品 陶磁器、錢貨				

## 宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

- |  |  |
|--|--|
| 1 1979 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』                      | 37 1992 『崎山遺跡群VI－平成3年度発掘調査概報－』   |
| 2 1980 『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』                       | 38 1993 『萩沢Ⅱ遺跡－平成4年度発掘調査報告書－』  |
| 3 1983 『宮古市遺跡分布調査報告書1』                       | 39 1993 『早稲柄Ⅱ遺跡－第1次・第2次発掘調査報告書－』   |
| 4 1984 『宮古市遺跡分布調査報告書2』                       | 40 1993 『崎山遺跡群VII－平成4年度発掘調査概報－』  |
| 5 1984 『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』                 | 41 1994 『崎山遺跡群VIII－平成5年度発掘調査概報－』   |
| 6 1985 『宮古市遺跡分布調査報告書3』                       | 42 1995 『赤前Ⅰ牛子沢遺跡－平成4年度発掘調査報告書－』   |
| 7 1985 『金浜館跡発掘調査報告書』                         | 43 1995 『磯鶴館山遺跡発掘調査報告書』  |
| 8 1986 『宮古市遺跡分布調査報告書4』                       | 44 1995 『崎山貝塚－範囲確認調査報告書－』  |
| 9 1986 『宮古市遺跡分布図－昭和60年度版－』                   | 45 1995 『笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・堺/神遺跡－市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』                       |
| 10 1986 『中谷地・島田遺跡調査報告書』                      | 46 1995 『花原市遺跡－平成4年度発掘調査報告書－』  |
| 11 1987 『崎山貝塚・トロノ木IV遺跡調査報告書』                 | 47 1995 『宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲柄Ⅱ遺跡・崎山貝塚』  |
| 12 1987 『寒風・早稲柄IV遺跡調査報告書』                    | 48 1996 『大付遺跡－平成5年・6年度発掘調査報告書－』  |
| 13 1987 『崎山遺跡群I－昭和61年度発掘調査概報－』               | 49 1997 『花原市遺跡－平成8年度発掘調査報告書－』  |
| 14 1988 『青猿Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群(堀合館)』               | 50 1997 『白石遺跡－第6次発掘調査報告書－』   |
| 15 1988 『崎山遺跡群II－昭和62年度発掘調査概報－』              | 51 1998 『赤畠・天神山・山口館－北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書－』                              |
| 16 1989 『千鶴遺跡－昭和62年度発掘調査報告書－』                | 52 1998 『藤畠遺跡－平成9年度発掘調査報告書－』   |
| 17 1989 『トロノ木I遺跡－第1～7次発掘調査報告書－』              | 53 1999 『赤前Ⅲ・赤前IV・八枚田・赤前V・柳沢・赤前VI・釜屋ヶ沢・小堀内Ⅲ遺跡－水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』 |
| 18 1989 『崎山遺跡群III－昭和63年度発掘調査概報－』             | 54 1999 『千鶴IV遺跡－水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』                          |
| 19 1989 『高根遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』                | 55 1999 『崎山貝塚-第12次・13次内容確認調査概報』  |
| 20 1989 『狐崎Ⅱ遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』               | 56 2000 『木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡－特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財調査報告書－』               |
| 21 1989 『崎山トロノ木IV遺跡－昭和63年度調査報告書－』            | 57 2002 『山口館跡－北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書－』                                    |
| 22 1990 『孤崎遺跡－平成元年度発掘調査報告書－』                 | 58 2002 『小沢Ⅱ・大上遺跡－市内遺跡発掘調査報告書2－』   |
| 23 1990 『崎山遺跡群IV－平成元年度発掘調査概報－』               | 59 2003 『大又沢Ⅱ遺跡－東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書－』                                 |
| 24 1990 『磯鶴館山遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』              | 60 2003 『上根井沢Ⅰ遺跡・沼里遺跡－市内遺跡発掘調査報告書3－』                                       |
| 25 1990 『鎌ヶ崎館山貝塚－平成元年度発掘調査報告書－』              | 61 2003 『早稲柄Ⅱ遺跡第6次調査－市内遺跡発掘調査報告書3－』  |
| 26 1991 『崎山遺跡群V－平成2年度発掘調査概報－』                | 62 2003 『下在家Ⅰ遺跡－平成14年度発掘調査報告書－』  |
| 27 1991 『青猿Ⅰ・千徳城遺跡群－平成元年・2年度発掘調査報告書－』        | 63 2004 『大程Ⅱ遺跡・平浜遺跡－市道閉伊崎線改良工事関係発掘調査報告書－』                                  |
| 28 1990 『熊野町遺跡－昭和63年度発掘調査報告書－』               | 64 2005 『弘川館跡－瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書－』   |
| 29 1991 『弘川Ⅰ遺跡－平成2年度発掘調査報告書－』                | 65 2006 『高浜VI地神遺跡－高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書－』                                   |
| 30 1992 『金浜Ⅰ遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成2年度)発掘調査報告書』   | 66 2006 『崎山貝塚第20次調査・早稲柄遺跡第7次調査－市内遺跡発掘調査報告書5－』                              |
| 31 1992 『重茂館遺跡群－第1次調査報告書－』                   | 67 2006 『八木沢古墳・八木沢中田遺跡・八木沢駒込Ⅰ遺跡－市道岸ノ前ランクトノ沢線道路工事関係発掘調査報告書－』                |
| 32 1992 『黒森町Ⅰ遺跡－平成2年度発掘調査報告書－』               |  |
| 33 1992 『高根遺跡－平成3年度発掘調査報告書－』                 |  |
| 34 1992 『経沢遺跡群－平成2年度発掘調査報告書－』                |  |
| 35 1992 『大付遺跡－平成3年度発掘調査報告書－』                 |  |
| 36 1992 『細越Ⅰ遺跡・芋野Ⅱ遺跡－農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書－』 |  |

## 宮古市埋蔵文化財調査報告書68

### きどいない4いせき 木戸井内Ⅳ遺跡

－宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書－

2006.3

平成18年3月25日発行

編集発行 岩手県宮古市教育委員会

〒027-8501 宮古市新川町2番1号

TEL.0193-62-2111

印 刷 株式会社 文化印刷

〒027-0037 宮古市松山5-13-6

TEL.0193-62-4578





